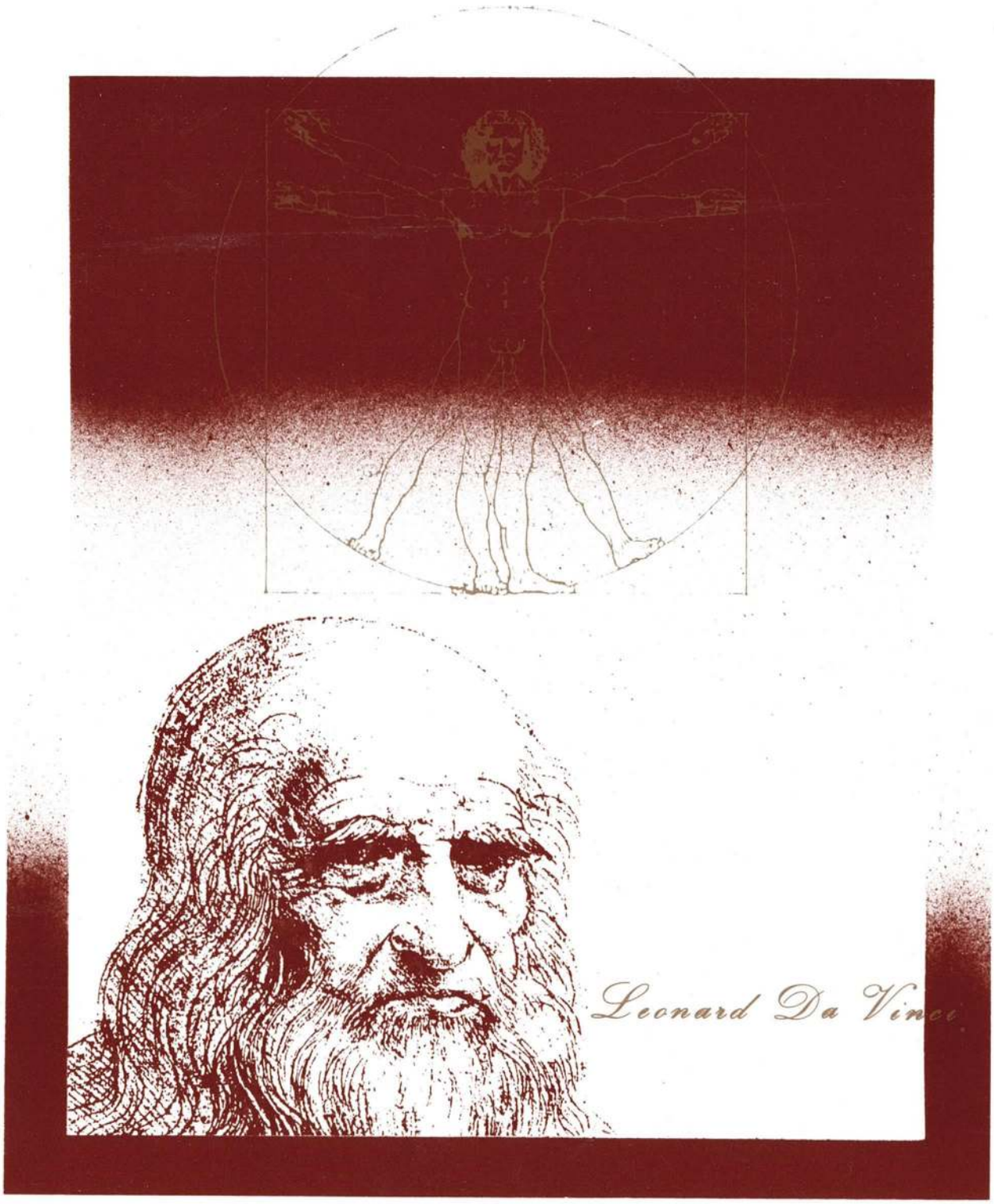
昭和55年1月25日発行　毎日1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建築と社会

1980
VOL.61
通巻694号
1

特集●80年代の都市と建築——まちづくりの歴史と展望



ARCHITECTURE AND SOCIETY

日本建築協会

語らいが生まれる、キッチン・ライフ。

新しい暮らしのリズムは、システムキッチンから…



大阪ガス住宅設備のシステムキッチンは
機能、インテリア、収納… すべてに
オーダーメード設計ですから、
あなたのプランを生かせます。
●ベースキャビネット、吊戸棚
などバリエーションが豊富です。
●バックガードと一体成型し
た豪華なふんい気のトップカウンター。
●キャビネットのひとつひとつに、
すぐれた機能性、
使いやすいアイデアがいっぱい。
●美しいインテリア感覚…個性的な
24種のカラーコーディネーションが楽しめます。
■システムキッチンのプランから施工まで、
お気軽にご相談ください。
■ヨーロッパ調キッチンショップ〈ハウゼコール〉では、
各タイプのシステムキッチンを展示、専門のリビング
コンサルタントがご相談を承っています。

システムキッチン

お問合わせは、
ハウゼコール

大阪店 〒541 大阪市東区平野町5丁目1 TEL 06 (202) 2221
京都店 〒604 京都市中京区烏丸通り御池角 TEL 075(231)8151

大阪ガス住宅設備

謹賀新年

1980

昭和55年を迎えて

社団法人 日本建築協会会長　塚本　猛次

明けましておめでとうございます。

本会会員の皆様、役員の方々、事務局の方々無事ご越年、およろび申し上げます。

昨年の秋には衆議院総選挙の結果、長い期間はかかりましたが大平内閣が誕生しました。大平首相は多くの新人を内閣に迎えましたが、国内的に不景気の物価高と言われる本年を迎えてどういう施策をほどこしてゆくか、われわれお互いの仕事や生活に大いにかかわりあいのあるところであります。

昨年も本会としては多くの事業を行って参りました。「建築と社会」誌の刊行、創立60周年記念出版としての建築技術選書の刊行につきましては、当該委員会のご尽力によるものであり、また原稿をよせていただきました執筆者の方々にも厚くお礼を申し上げます。また事業委員会、教育委員会においても、見学会、高校生の作品募集等会員のための諸活動を活発に行っていただきました。

本会は創立以来60有余年を経て今日に至りましたが、元来、東京の建築学会に対して関西にも学会的性格の団体が望まれるという考えから出発しましたが、学会が建築を主として設備等の関係は分離していったのに対して、本会はむしろ戦後、設備業界の方々を会員として迎えて建築界全体の総合された会となりました。異色のある関西らしい集まりであります。官庁、公団公社の方も学校の先生方も設計業界の方も請負業者、設備業者の方、建材関係の方も入っております。これだけの渾然とした会員の集まりです。何でも自由に語り合える場こそこの協会だと思います。

そこで、考えられることは、この集まりをいかに運営し、会員の期待に答える方策は如何ということです。これには会員諸兄の英知と提案をお願いしたいものです。

本会の運営には会員の会費と賛助会員の莫大な会費と刊行誌によせて下さる広告費等が大きな要素になっております。この集まった資金をいかに有効に活用するか、これは会員一人一人のお力添えによるわけです。どうか本年も従来に増して尚一層のご高配をお願いする次第であります。

会員各位のご健勝をお祈りして年頭のご挨拶といたします。

（昭和54. 11. 14記）

日本建築協会常設委員会・本年の抱負

協会に新たな活力を

事業委員長　三品哲夫

昨年の抱負でも触れたところであるが、わが建築協会において現在最も懸念されることは、石油ショック以来の建築界の沈滞ムードに加え、会員数の減少と構成年齢の高齢化傾向の中で、かつての高らかな理想と豊かな活力を失いつつあることである。事業委員会としては、このような状態の下にあって、会の活力復活のための新鮮でユニークな事業企画に努めてきたのであるが、本年もその方針を貫いていきたい。
最近、数多くの関係諸団体の事業活動が競合し、その効果を損ねている傾向が見られるので、本会ならではというような視野の広い企画に基づき、建築界全般の意欲を刺激するような新しい試みにも取り組んで、本会の新たな活力の呼び戻しに資したい。とくに青年層会員、委員各位のご助力を期待するものである。

建材委員会本年の抱負

建材委員長　山田幸一

昨年1年間に11回の委員会を開催し、10件のメインテーマについて討議し、12件の建材を本誌「新建材紹介コーナ」に採り上げた。メインテーマはその時点で建築界にとって重要な問題を含んでいる部門から選び、関係メーカーを委員会に招致しその説明を聞き、その中からとくに優れているものは「紹介コーナ」に載せることにしている。いわば一種の審査機関であるが、委員会の構成メンバーから推しても、この種の事業では少なくとも関西では最も権威ある存在になったと自負している。
このほか、他委員会との共同見学会、あるいは姉妹団体の日本建築材料協会との交流等も行いたいのであるが、何分多忙な委員を集めていることでもあり、昨年は果たせなかった。本年はそのような新しい分野も開拓したいと思っている。

住宅委員会本年の抱負

住宅委員長　小西　岬

住宅委員会の最大の行事である「よろず相談住宅展」は第16回を迎え、2月21日から26日まで、心斎橋大丸百貨店で開催の予定である。大阪建築防災センターとの共催で、「備えある住居」がテーマーである。住宅での電気、ガスあるいは失火に基づく事故が多い昨今、また冬に開催することは適当なる時期を得たこととなる。防災センターの協力を得て大いに成果を挙げたい。併せて永年に亘り熱意をもって作成した庭のスライドを会場で上映の予定である。
また、いつもながら前野慶太郎理事に、会場の確保で種々お世話になったことを感謝申し上げる次第である。

建築データシート委員会本年の抱負

建築データシート委員長　井上　滉

建築データシートハンドブックを会員諸兄のお手許へ届けて以来、その後の追跡調査、アフターサービスと企画・立案して検討していますが、諸般の事情で意のごとく事が進まず、ご迷惑をおかけして申し訳なく思っています。
今年は諸兄のご協力を得てぜひとも頑張りたいと思っています。
委員会宛に、いかなるご意見でも結構です。お寄せいただければ幸いです。

編集委員会本年の抱負

編集委員長　前川陽一

昨年度は国際、国内的に目まぐるしい変遷があり、それをうけて本年度は建築をとりまく諸要因が始動する年となることが予想されます。とくに本年は、建築界にとって多年の懸案であった「新耐震設計規定」の導入により、建築基準法の大幅な改訂が予定されており、もろもろの波紋が広がってゆくものと考えられます。
したがって「建築と社会」の内容も、それらを包含した時宜を得たユニークな企画が要望されるはずで、当委員会としても苦しいながらも、やりがいのある年となりましょう。「建築と社会」は経理的には独立採算制をとっていますので、充実した誌面作りには多くの経費を要し、いきおい関連企画の広告収入に頼らざるを得ない事情にあります。今後とも関係各位の温かいご協力、ご支援をお願いするとともに、会員からの忌憚ない要望を期待致しております。

「建築技術選書」の刊行

出版委員長　小林　清

わが建築協会創立60周年を記念して企画した本技術選書も、学芸出版社の好意によって、一昨年は、(1)「茶室の話」にはじまる計5冊を刊行して、順調なるすべり出しをなした。
さらに昨年は、(6)「コンクリート工事の管理」より、(13)「医院・診療所の計画と設計」にいたる計8冊を刊行して、その躍進めざましいものがある。これで総計13冊、相当なる質量となり、書棚を美しく飾るようになったことは、わがことのように喜ばしい次第である。
本年は「設計のコンピューター手法」「PC構造の話」「住宅設計とインテリア」など、豊富なる企画のもとにその刊行をすすめている。
最後に、教育委員会、あるいは協会各支部において、本書をテキストにした講習会を開催して、会員の啓蒙、技術の普及に、ご努力をおねがいしたいことである。

法規委員会本年の抱負

法規委員長　岡本行善

昨年実施しました“法令アンケート”の集約作業は、ようやく年末に終えましたが、ご協力いただいた皆様方にこの紙面をかりて厚く御礼申し上げます。申請等諸手続き、開発等環境問題、法令システム、法文の解釈に関すること等、いずれも真剣な声が多々集まっています。
本委員会としては、このアンケートをより発展させるため、“建築法令と行政”というようなテーマで「建築と社会」5月号に特集を計画しています。建築法令をより身近に、親しめるものにしたいとの念願から、関係各方面へ問題提起を行いたいというものです。何卒よろしくご協力いただきますようよろしくお願いします。

教育委員会本年の抱負

教育委員長　多胡　進

あけましておめでとうございます。
伝統ある教育委員会においては、全国工高生デザインコンクールや建築工事実務講習会、建築技術選書講座シリーズなどを、小委員会をはじめ会員の皆様のご協力により、実施してまいりましたが、80年代は、若い方々に確かで大きな構想力をもった技術を持ってもらうことが重要になるとともに、各種の技術の研修、生涯教育がますます重要性を増し、それらに対する整備が待たれていることは確かなようです。
建築協会の教育委員会は、とくにこのような状況に対して適当な場を提供すべく、さらに皆様とともに、想を練り、実行に移せればと心あらたにしております。
どうか、ご指導とご協力をさらにいただきますようお願い申し上げます。

建築と社会

©1917年創刊

通巻694号・第61集・1980

1

表紙の説明：楠田一夫（造型作家）
レオナルド・ダ・ヴィンチ
Leonardo da Vinci (1452—1519)
1519年5月2日、レオナルドは異国（フランス）の地で67才の偉大な生涯を閉じた。彼がこの世に残していった数多くの業績は万人の知るところであるが、表紙のダ・ヴィンチ自画像の上にある人体プロポーションについての考えも非常に興味深い。（人間のへそを中心にして円を描き、両手をひろげた幅と身長によって正方形を描く）

年頭のことば
本年の抱負
作品作風●
・新建築

特集予告
■2月号／今後の省エネルギの趨勢
銀行建築
■3月号／銀行特集
安井建築設計事務所作品集
■4月号／住宅の耐久性（仮称）

編集委員会（昭和54年度）

編集委員長	澤柳　健
前川　陽	中村　正三
編集理事	●施工材料分科会
前川　陽一	荒川　治徳
井上　滉	岡田　善弘
今西　祥郎	＊高木　嗣郎
窪田　祐	村上　元彦
小林　清	●法令分科会
松村　慶三	＊岡田　七郎
竹中　錬一	隠岐　一三
前野慶太郎	●作品編集小委員会
菅谷　健児	間野　洋三
松本　亮二	沢田　伸
渥辺　忠	高崎　尚昭
編集委員	田中　信重
○片倉　健雄	○寺井　信夫
●計画分科会	奈良　錂一
池端　猛	根来　淳一
稲垣　雅彦	山口　祥悟
河目　浩吉	●投稿欄小委員会
塩谷　寿翁	○木村　康彦
谷口　康彦	田中　直人
＊富樫　穎	竹中　啓介
中林　浩	橋本　憲夫
西村征一郎	●広告企画小委員会
山元　弘和	安芸　洋一
●構造分科会	岩橋　一豊
井上　一朗	岡本　弘之
＊北村　俊男	坂　啓智
坂　寿二	鳴　昭夫
棚橋　秀光	島田　民彦
谷尾　俊弘	西田　清
横井　元昭	平松　利一
●設備分科会	松本　亮二
梶井　宏宣	三原　清敦
蒲田　弘	山田　雄祐
＊河津　隆之	吉田　正三
佐藤　隆二	○渡辺　忠

○印副委員長　＊印幹事

編集人　松井昭光
印刷　昭和55年1月20日
発行　昭和55年1月25日
発行人　吉田悦二
発行所　（社）日本建築協会
大阪市東区北浜3—37
電　06—231—9648
振替口座　大阪39975
印刷所　株式会社研文社
電　06—314—0151
大信印刷株式会社
電　06—451—7631㈹
日本写植印刷株式会社
電　06—606—1111㈹
売価　650円（送料別）

デザインコンクール
スケッチブック
法令コーナー144
新建材紹介コーナー44
読者の頁
シリーズ
建築と社会ニュース
建築の眼
会告
特集●
第Ⅰ部
第Ⅱ部
第Ⅲ部
若い会員の集いレポート
中国を訪ねて(10)最終回
構造の頁66
設備の頁66
施工材料の頁65
月報

CONTENTS

JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

ARCHITECTURE AND SOCIETY

特集・80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望

SPECIAL FEATURES ON THE CITY & ARCHITECTURE IN THE 1980's

昭和55年を迎えて／日本建築協会会長・塚本猛次…1
日本建築協会常設委員会委員長…2
兵庫県立嬉野台生涯教育センター　設計：兵庫県都市住宅部営繕課……4
〈婦人研修館〉　施工：大橋・中村・高階建設共同企業体
〈青少年宿泊研修棟〉　施工：平尾・清水・和以貴建設共同企業体
ダイセル衣掛第1クラブ　設計施工：大林組……8
シティバンク、エヌ・エイ大阪支店　設計施工：大林組……10
兵庫県伊丹庁舎　設計：兵庫県都市住宅部営繕課……12
施工：浜田組
兵庫県老人休養ホーム「六甲保養荘」　設計：兵庫県都市住宅部繕課……14
施工：全建開発
イトーピア東陽町マンション　設計施工：不二建設……17
御影ガーデンハイツ　設計施工：長谷川工務店……18
四条高倉スカイハイツ　設計施工：長谷川工務店……22
新大阪共済会館　設計：東畑建築事務所……24
施工：三井建設
住友生命大分ビル　設計：日建設計……26
施工：鹿島・大林・竹中・大成　共同企業体
第25回工高生デザインコンクール入選作品：設計課題「児童図書館」…28
最近竣工した新建築9点（No.1423～1431）…31
避難器具の基準（その2）／松田　章…33
高性能固化剤『オートセット』／金田　宏…34
古代建築家の話あれこれ—その2／木村　伝…35
歴史的集落と街路景観—16—辻景観その5……38
ポートピア'81トピックス—その6パビリオン会場図。竹中工務店、建設業界初のデミング賞受賞。
1981年ワルシャワUIA第14回大会予定…37
室内環境の質論—第1話／中原信生　アーバンデザインとは／田村　明
三角の構造・四角の構造／高橋慶夫　コンピューターの利用／木田幸夫…40
1980年・新春放談—80年代に向けて建築を語る。明治の香りを残すまちづくりと古都のタウンハウス（北大路高野住宅）を見る。灘の清酒・菊正宗嘉宝蔵と記念館の見学。第16回「よろず相談住宅展」開催。ふるさとのすまい—日本の民家集—復刻版の刊行。建築技術選書第14号「設計のコンピューター手法」発刊。会員の受章。「太陽エネルギーの利用と光変換技術」…41

80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望

歴史に学ぶインタビュー—都市計画の先輩に聞く—
都市計画の理念—中澤誠一郎—……58
インタビュア　斎藤和夫／富樫　穎／赤崎弘平／稲垣雅彦／松井昭光
都市計画の技術と実践—玉置豊次郎—……63
インタビュア　寺内　信／赤崎弘平／富樫　穎／池端　猛／松井昭光
都市計画の歴史を追う　資料—図表と文献にみる
大阪の都市計画・年表（明治～終戦）……赤崎弘平…70
「建築と社会」誌にみる都市計画のあゆみ……中林　浩…72
まちづくりへの展望をさぐる　座談会—第一線のプランナーに聞く
80年代の都市と建築……77
樫座正信・近藤達夫・富安秀雄
片倉健雄／富樫　穎／池端　猛／松井昭光

●キャンパスを訪ねて—大阪芸術大学の建築群を見る／中川一・香西喜八郎・植松清志…86
●ディスカバー大阪・その5—川面からみた大阪のまち・橋—中之島・道頓堀を船で巡る／石古　香・松本敏廣…87
赤県扶桑一衣帯水／王　柏群…89
立体トラスの実用化の考え方（その1）力学的性質からのアプローチ／坂　壽二…91
集合住宅における電気温水器室の排水設備／渡辺　潔…92
ねじ鉄筋／永井義規…93
日本建築協会月間の動き（昭和54年11月分）…94

兵庫県立嬉野台生涯教育センター〈婦人研修館〉

施工　大橋・中村・高階 建設共同企業体



当センターは嬉野学園都市の文化教育施設として、播磨内陸部の加東郡社町に設置された。松林に囲まれた自然豊かな環境に調和する建築の機能と造形を求めることが設計のポイントであった。

自然と建築が調和するための要件として、

1．建物の高さをできるだけ低くおさえる。(樹間に見え隠れする建物群)

2．自然との積極的な対話の接点を求めるために、回廊を外部空間に設ける。

3．屋上のスカイラインは傾斜の線を一部に使って、堅い「建造物」の中にソフトさを強調する。

4．宿泊棟は伝統に育まれた旧嬉野公民研修所「八角堂」の形式、イメージをそのまま踏襲する。

以上を考慮しつつ、生涯教育の学習の場として、文化活動や野外活動に自然に親しみ、気軽るに利用できる施設を心がけた。

婦人研修館：S型瓦を葺いた桧皮色の屋根はスパニッシュ風に、壁面は曲線を利用したアーチ型の窓でコロニア風を生かして調和をはかった。また四面囲まれた中庭はクスの木広場として安すらぎのオアシスである。

青少年宿泊研修棟：八角型を近代風にアレンジし、地形を生かし、周囲の樹木との調和をはかり、屋外空間と内部空間の機能的な導線を考慮し、研修機能と宿泊機能が両立できるようにした。

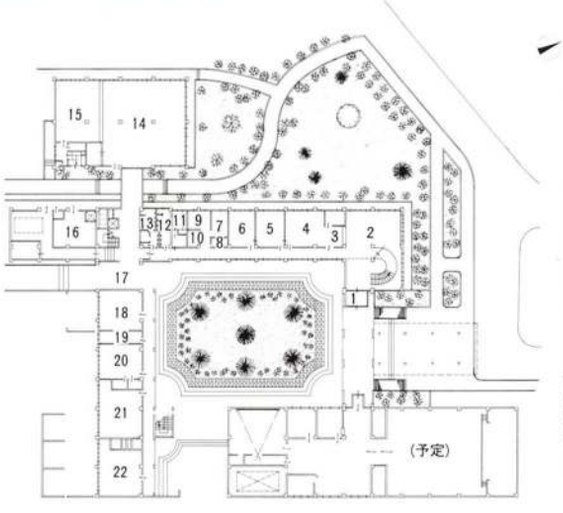
設　　計	兵庫県都市住宅部営繕課
所 在 地	兵庫県加東郡社町下久米字依藤野
敷地面積	92,000㎡
建築面積	1,930㎡
延床面積	2,745.5㎡
構造規模	ＲＣ、２Ｆ
工　　期	昭和53年９月～昭和54年５月







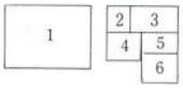




1．風除室
2．ホール
3．受付
4．事務室
5．館長室
6．応接室
7．相談室
8．倉庫
9．医務室
10．印刷
11．用務員室
12．女子便所
13．男子便所
14．食堂
15．厨房
16．機械室
17．ピロティ
18．幼児室
19．ロッカー室
20．木工室
21．陶芸室
22．染色室

1階平面図
1:1300





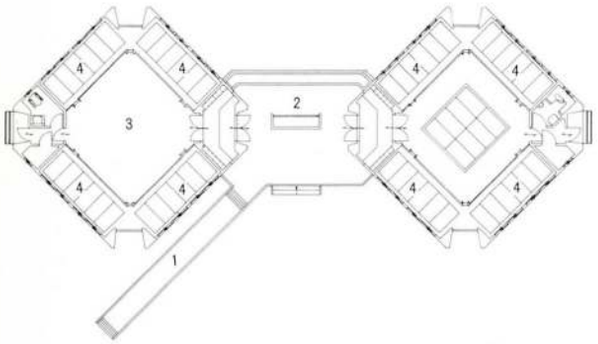
1．回廊より中庭をとおして本館棟をみる
2．教室棟回廊
3．北東より外観をみる
4．陶芸室
5．本館棟西側にある食堂棟
6．食堂内部

撮影　東出清彦

兵庫県嬉野台生涯教育センター〈青少年宿泊研修棟〉

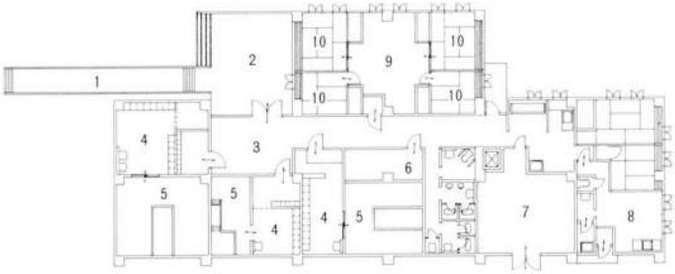
施工　平尾・清水・和以貴 建設共同企業体





1．スロープ
2．洗面所
3．研修室
4．宿泊室

宿泊研修棟　平面図　1:350



1．スロープ
2．エントランスホール
3．ロビー
4．脱衣室
5．浴室
6．リネン庫
7．機械室
8．用務員室
9．ミーティング室
10．リーダー室

リーダー管理・浴場棟　平面図　1:400

設　　計　兵庫県都市住宅部営繕課
所 在 地　兵庫県加東郡郡町下久米字依藤野
敷地面積　92,000㎡
建築面積　934.7㎡
延床面積　906.5㎡
構造規模　ＲＣ、平家建
工　　期　昭和53年12月～昭和54年６月









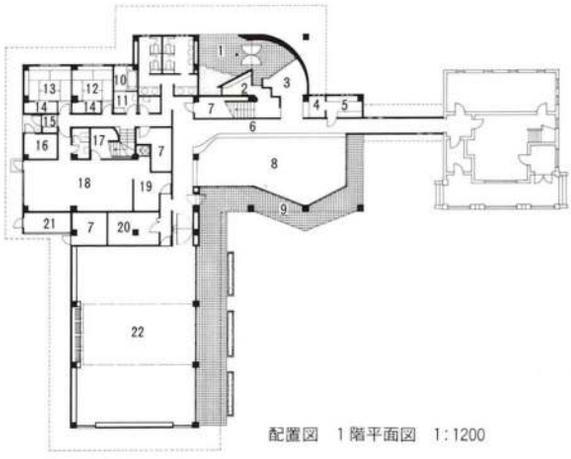
1．食堂棟よりのぞむ
2．宿泊棟夕景
3．リーダー管理棟と宿泊棟
4．宿泊研修室内部

ダイセル衣掛第1クラブ

設計施工　大林組







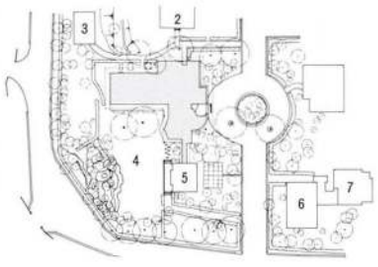
配置図　1階平面図　1:1200

1．ポーチ
2．下足室
3．ホール
4．受付
5．クローク
6．コリドール
7．機械室
8．ラウンジ
9．テラス
10．浴室
11．脱衣室
12．予備室
13．休憩室
14．押入
15．通用口
16．熱交換機室
17．食品庫
18．厨房
19．パントリー
20．家具庫
21．プロパン庫
22．レセプションルーム

所 在 地　兵庫県姫路市網干区新在家1239
敷地面積　26,555㎡
建築面積　628㎡
延床面積　829㎡
構造規模　ＲＣ、屋根Ｓ、２Ｆ
工　　期　昭和54年４月～昭和54年10月

このクラブハウスは、ダイセルの創立60周年を記念して建てられたもので、主に式典や催物を行う接客用の施設として計画された。敷地は網干工場の厚生施設群の中心にあり、昔、ドイツ人技師によって建てられたコロニアルスタイルのクラブや、姫路市の記念樹であるユーカリ、センダンの大木などに囲まれた緑深い静かな所にある。計画にあたっては、このクラブと記念樹を保存し、またプライベートな空間である庭を囲い込むようにして、周囲と隔絶した落ち着いた雰囲気を出すようにした。外観は入母屋造りの黒く大きな屋根と、深い庇、白い外壁の組み合わせで、景観に溶け込むような、モノクロームな構成として、外に閉ざされ、内に開かれた建物となっている。内部は１階にレセプションルーム、ラウンジなど接客施設を、２階には宴会室、宿泊室など従業員施設を設け、すべての視線が庭に注がれるようにし、玄関、ホール、ラウンジは膨張と収縮、光と影の対立するエレメントを使って、独得の躍動感と変化を与えており、外部の重苦しい雰囲気とは対照的な、自由で奔放な空間となっている。

（奈良鋏一、岩下博美／大林組）



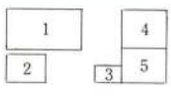
周辺配置図　1:2400







撮影　ナトリ工房



1．外観
2．正面外観
3．レセプションルーム
4．ラウンジ
5．ホール


CITIBANK

シティバンク, エヌ・エイ大阪支店

設計施工　大林組

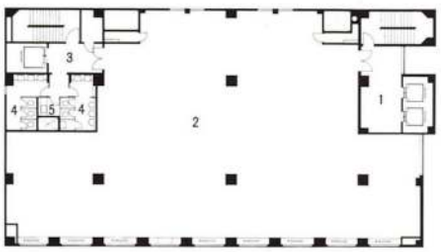
監　　理　日建設計
所 在 地　大阪市東区北浜5－35
敷地面積　797.52㎡
建築面積　672.92㎡
延床面積　5,075.69㎡
構造規模　ＳＲＣ、Ｂ１、８Ｆ
工　　期　昭和53年4月～昭和54年9月

ニューヨークに本店のあるシティバンク、エヌ・エイ大阪支店は、大正末期より住友銀行本店などがたち並ぶオフィス街の一画で営業されていたが、このたび旧ビルを解体し、新ビルの建設を計画された。

平面計画は、敷地南北端にコアを配置するダブルコアプランとし、下階の銀行、上階の事務室の各動線を機能的に処理した。立面計画は、斜線制限にそってマスを組合せ、鉛直線を強調した外観デザインで企業イメージを表現した。外装は、旧ビルの重厚なイメージの継承、周辺ビルとの調和を考え、赤褐色の花崗石貼とし、Ｊ＆Ｐ仕上の粗面をカーテンウォールのガラス面と対比させた。事務室階は、天井裏チャンバーの空調方式、吹出・吸込口を組み込んだアクリカバー付照明器具を採用して、シンプルな天井デザインとした。なお当工事は、㈱日建設計にＣＭ（コンストラクションマネージャー）として、種々御指導をいただいた。

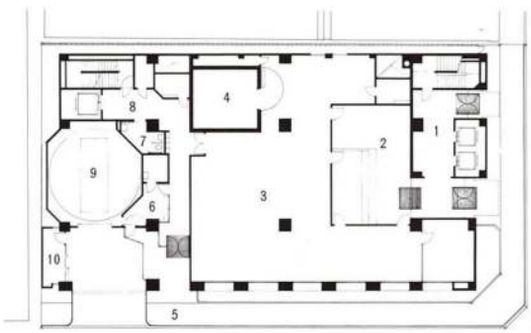
（田中弘成・船橋昭三／大林組）





1．乗用エレベーターホール
2．事務室
3．入荷用エレベーターホール
4．便所
5．湯沸室

基準階平面図　1:600



1．乗用エレベーターホール
2．バンキングホール
3．銀行事務室
4．金庫室
5．通用口
6．守衛室
7．身障者用便所
8．入荷用エレベーターホール
9．リフトターンテーブル
10．ゴミ集積所

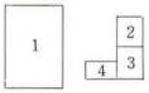
配置図・1階平面図
1:600







撮影　1.山本富実成
　　2.3.4.アンコール

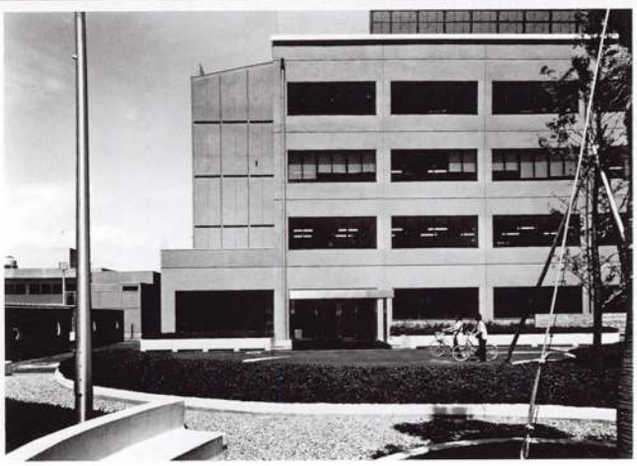


1．北東面外観
2．北面外観
3．1階エレベータホール
4．基準階事務室

兵庫県伊丹庁舎

施工　浜田組







1．県民ホール
2．検査室
3．指導室
4．診察室
5．測定室
6．保健所ホール
7．受付事務室
8．レントゲン室
9．処置室
10．事務室
11．エレベーターホール
12．書庫
13．駐車場
14．車庫
15．スロープ
16．自転車置場
17．犬舎

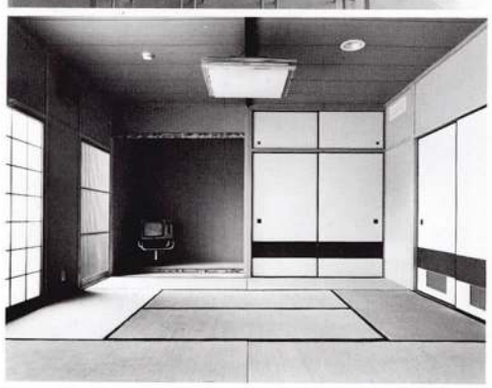
配置図・1階平面図 1:1500

設　　計　兵庫県都市住宅部営繕課
所 在 地　伊丹市千僧
敷地面積　6,350㎡
建築面積　1,290㎡
延床面積　3,854㎡
構造規模　ＲＣ、５Ｆ
工　　期　昭和53年７月～昭和54年６月





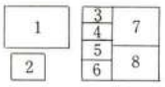








撮影　東出清彦



1．東北面外観
2．保健所アプローチ
3．保健所ホール
4．検査室
5．料理実習室
6．災害待機室
7．東側よりのぞむ
8．県民ホール

兵庫県老人休養ホーム「六甲保養荘」

施工　全建開発



六甲山麓に建つこの建物は、老人の〝保養と憩い〟のための宿泊施設であり、広い意味での福祉施設である。設計にあたっての主課題は、1）老人に親しまれる施設であること。2）六甲山麓の環境に調和すること。であり第2義的な問題としては、ⅰ）単に宿泊するだけでなくゆっくりと楽しめる場を設けるⅱ）傾斜地による特殊性を考慮すること　ⅲ）地域性を持つ施設であること　であろう。

このために配置計画については、造成、景観などを考慮して建物の主軸を、ＯＰ＋273Ｍのコンターラインに沿って配置し、その垂線上に地下部分を持つサービス部を配列させた、3ウィング配置形態を採用し、動線およびゾーニングの明確化を計っている。平面計画は前面ロータリーから建物2階へのアプローチを計り中央ホールを中心に、東ウィングに宿泊ゾーン、南へサービス、西へ管理部門を配列した。また中央ホールに接続させて囲炉裏のある談話室。隣接して4台半台目の茶室を設け老人に親しまれる空間を確保している。老人に最も好まれる大浴場は南ウィングの先端1階に位置し、100万ドル夜景を見ながらの入湯が楽しめるであろう。

デザインについては、環境との調和、風致地区内規制などを考慮して3ウィング共勾配屋根を採用。とくに勾配については東西方向3寸、南北4寸とし各々の地盤傾斜に合わせ調和を計った。また屋根形式は西宮に多い酒蔵のハカマ腰屋根をアレンジしたもので、軒と棟の直線を強調させている。



設　　計　兵庫県都市住宅部営繕課
所 在 地　西宮市越水字社家郷山１－95
敷地面積　15,858.98㎡
建築面積　1,167.05㎡
延床面積　2,873.28㎡
構造規模　ＲＣ、Ｂ１、５Ｆ
工　　期　昭和53年９月～昭和54年９月



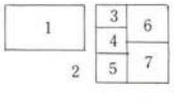








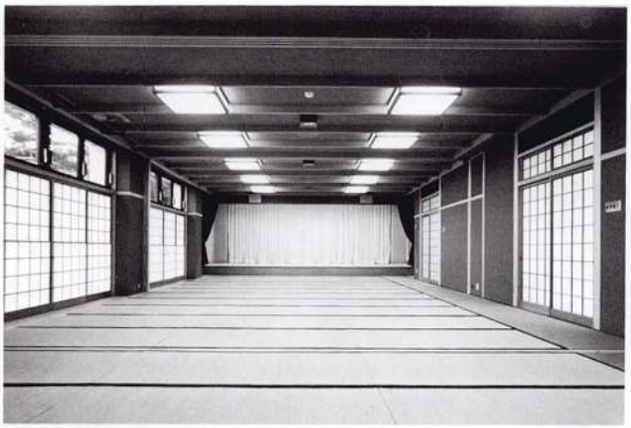
撮影　東出清彦

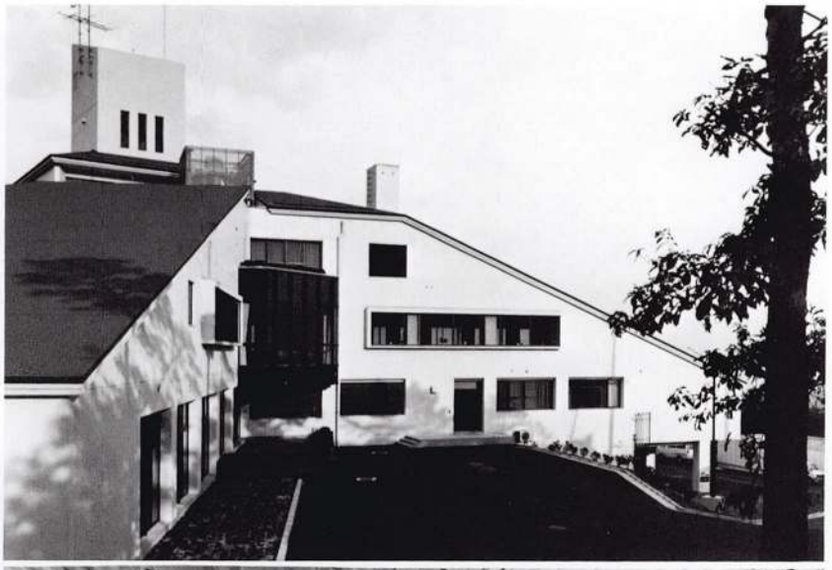


1．北西面外観
2．北側庭園をみる
3．２階談話室
4．２階茶室
5．茶室にじり口
6．南西遠望
7．２階玄関より大ホールをみる

1	3
2	4

1．西側よりみる
2．浴場
3．宴会場
4．宿泊室

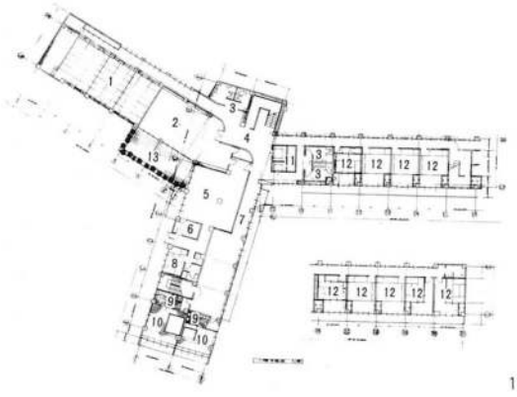






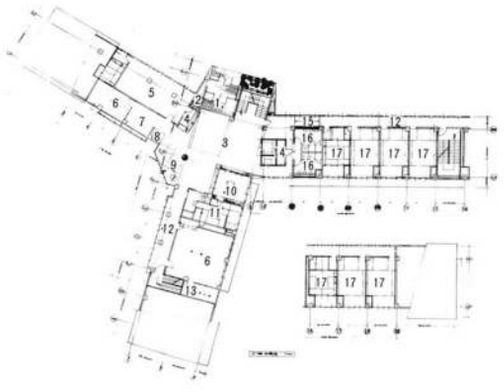


兵庫県老人休養ホーム「六甲保養荘」



1階平面図
1．宴会場
2．食堂
3．便所
4．ロビー
5．厨房
6．食品庫
7．廊下
8．休憩室
9．脱衣室
10．浴室
11．エレベーター
12．宿泊室
13．ベランダ

1階平面図



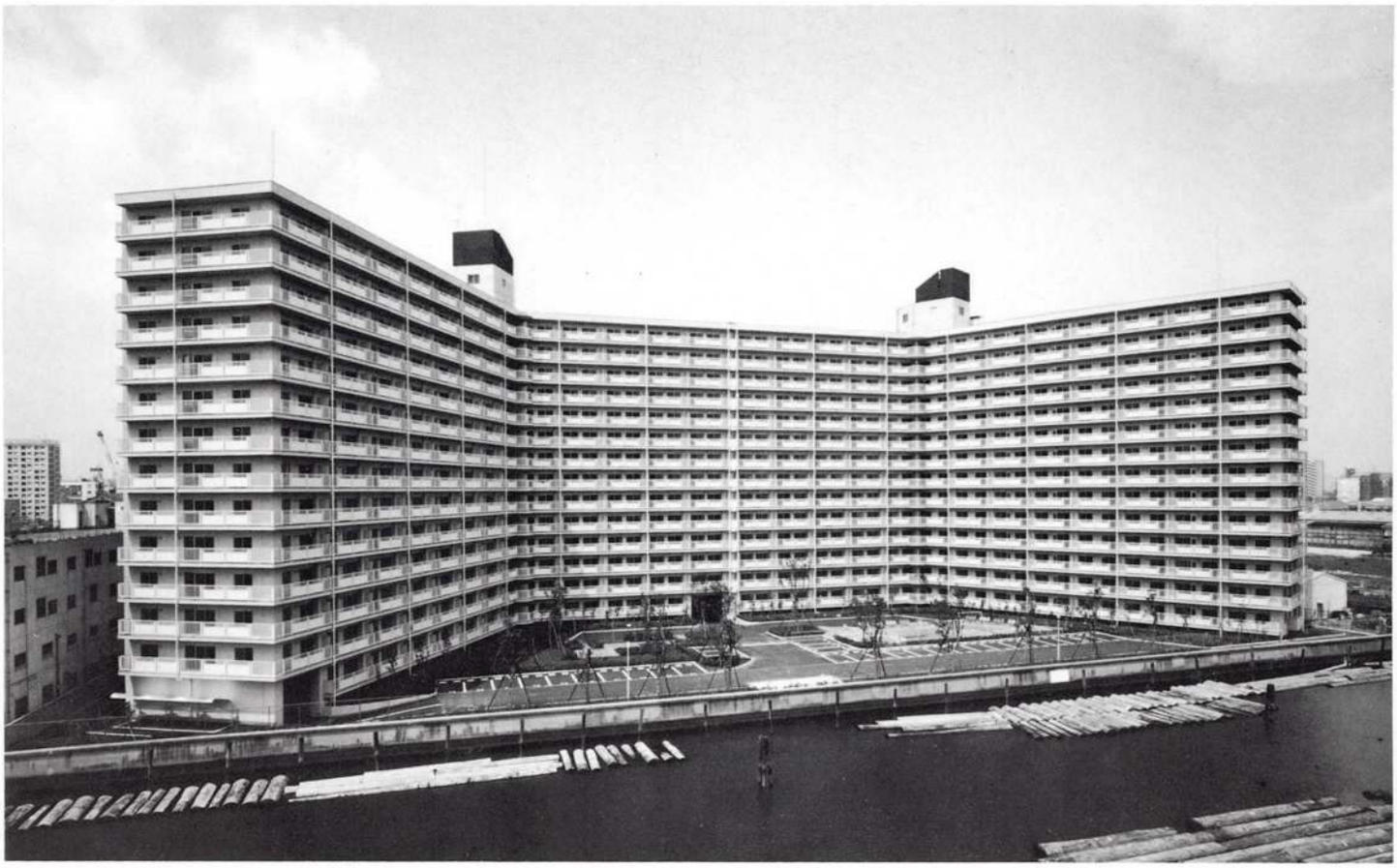
1．玄関
2．下足室
3．大ホール
4．フロント
5．事務室
6．会議室
7．売店
8．喫茶
9．ロビー
10．談話室
11．茶室
12．廊下
13．図書資料室
14．エレベーター
15．スロープ
16．便所
17．宿泊室

2階平面図

イトーピア東陽町マンション

設計施工　不二建設

所 在 地　東京都江東区東陽２丁目２番44
敷地面積　12,302.94㎡
建築面積　 3,484.10㎡
延床面積　36,395.49㎡
構造規模　ＳＲＣ、14Ｆ、Ｐ１
工　　期　昭和52年９月～昭和54年７月

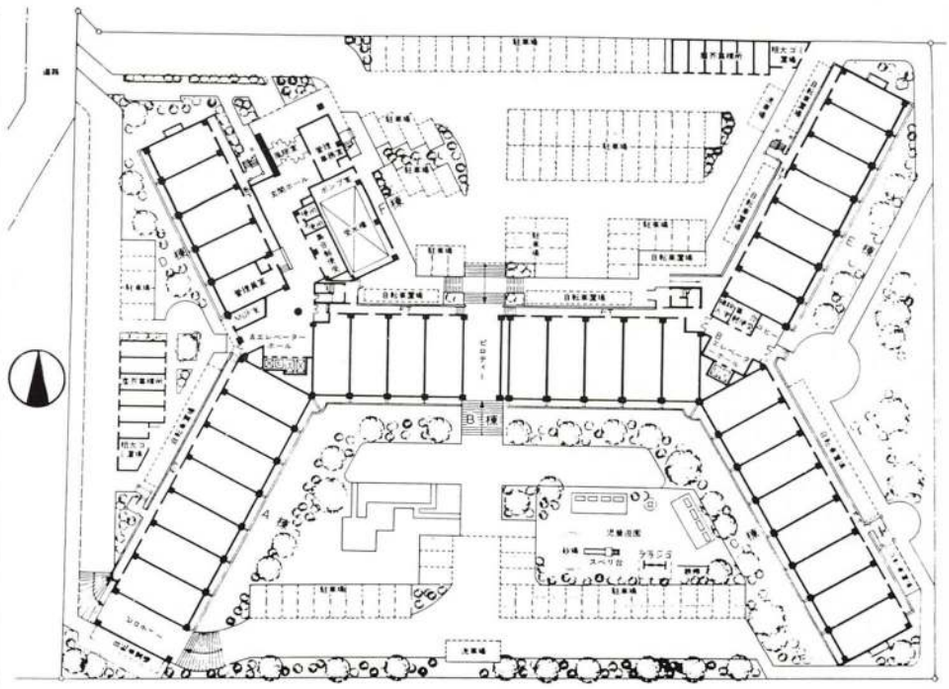


当敷地は都心より至近にある準工業地にあり、当建物を含めて附近の環境整備を念頭において計画したものである。

各住戸(約 500戸)の日照、通風およびプライバシイの確保はもちろんのこと、敷地内にまとまった緑地、公園および隣接地間との空地の確保と共に画一的なアパート群の連立を避けるためＹ字型を２棟連続させた配置を採用している。また当敷地は軟弱地盤(支持層まで約50Ｍ)にあるため構造的安定性も考慮して計画したものである。なお２ヶ所のＹ字の中心部分をコアーにすることにより動線の明確化も合わせて考慮した。

この配置によって南側に開かれた空地を公園および緑地とし居住者の憩の場と子供達の遊び場として開放している。また北側の空地は駐車場および自転車置場として利用し用途の分離を計っている。なお、工事に当っては工期短縮と仕上精度の向上のため大型パネルによる水平面と垂直面の分離打工法を採用している。

（辻　伸碩／不二建設）



配置図・１階平面図

御影ガーデンハイツ

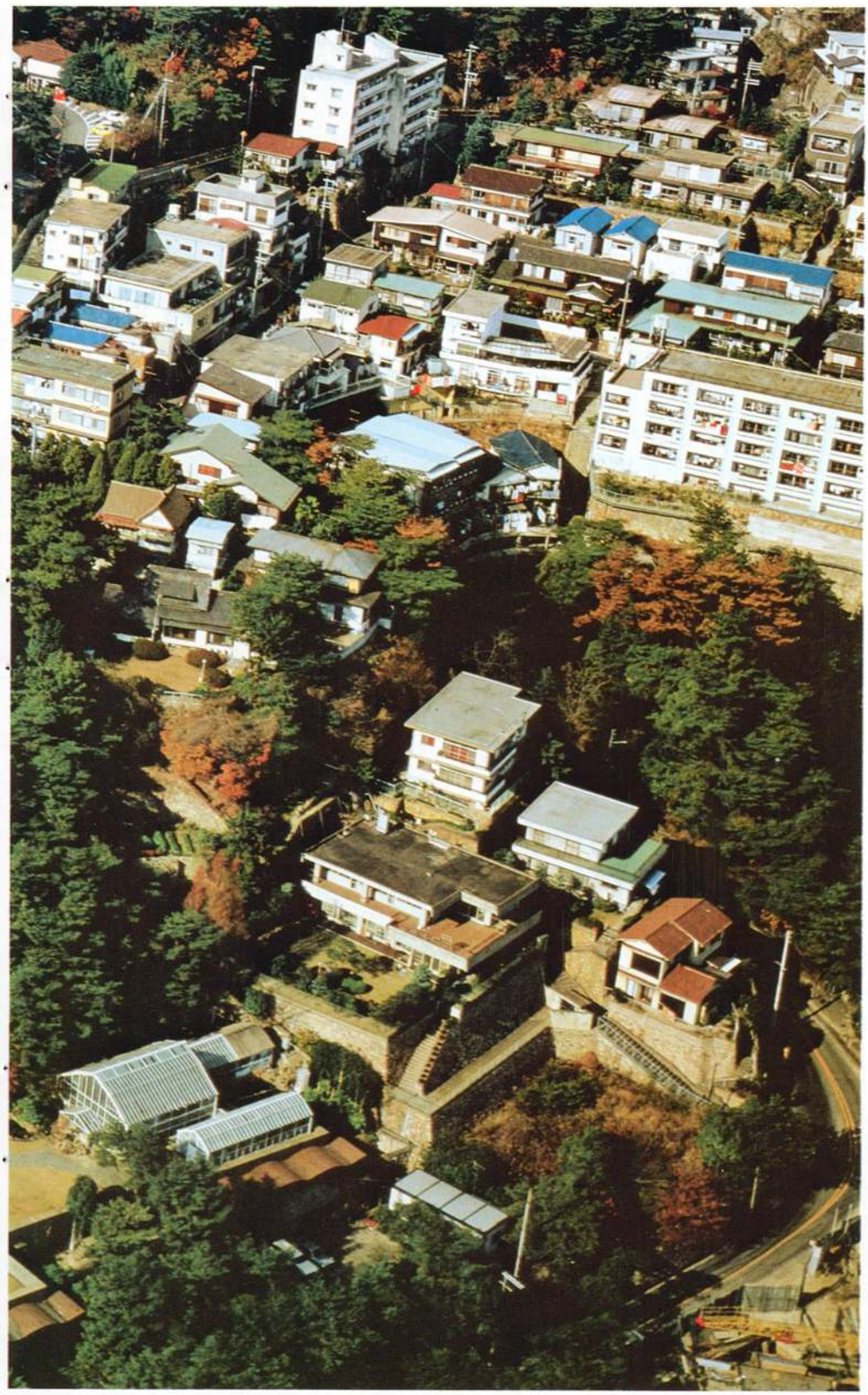
設計施工　長谷川工務店



所 在 地　神戸市東灘区鴨子ヶ原１丁目４番15
敷地面積　9,145.05㎡
建築面積　2,634.15㎡
延床面積　6,423.90㎡
構造規模　ＲＣ、３Ｆ
工　　期　昭和50年６月～昭和54年３月

京阪神間に数ある高級住宅地の中でも、深い木立につつまれた風格のある家並が続く「御影」、その昔（ちぬの浦）といわれた大阪湾、遠くは和歌山、淡路島まで望める山の手鴨子ヶ原に、周囲の環境……阪急御影駅から深田池公園に沿って小原流芸術参考館を通り抜け、石畳の路を登って行くと、白く映えるテラスハウスの「御影ガーデンハイツ」がある……。自然に恵まれた風致地区、小原流茶室跡地の植栽を数多く残し、住戸間日影・見晴らし・動線等種々の点を考慮し、南斜面を巧みに生かした全戸２面採光、広いテラスのある気品と風格のある邸宅感覚のテラスハウスを７棟配置致しました。

間取りも「御影」を意識して、ワンフロアーにゆったりとレイアウト、余裕とくつろぎが生まれるライフスペースを念頭に、バラエティーある17タイプ……。各戸のプライバシーを尊重する立場から、住まいの顔ともいえる玄関をアプローチ、一見無駄とも思えるスペースが、一戸一戸のプライバシーを確立し、ゆとりある〈邸宅〉と呼ぶにふさわしい気品あるアウト・ドア。個性豊かな玄関、ゆとりあるリビングルーム、（暮しの中の本当のゆとりを大切にする為に、各部屋は勿論のこと、特にリビングルームとテラスを広々と設計しました。今までのマンションライフでは見つけることのできなかった大きなくつろぎが発見できます。明るくモダンなセンスに落ちついたクラッシック調にと、インテリアに夢を広げていただけます。）また日本情緒を大切にした気品ある和室、（南向きのテラスに面した明るい和室、しぼり丸太柱の本格的な床の間を設け、床は本畳、壁はジュラククロス貼、そして天井は杉柾ベニアで仕上げました。障子から差し込む柔らかな光が、和やかにお部屋をつつみます。）ガーデンライフが楽しめる広々としたテラス、（当計画のひときわ際立った印象を与えているのが、この広々としたテラス。本格的なガーデンライフが楽しめる充分なスペースです。ガーデンパーティや四季の草花を楽しむガーデンテラスとしてご利用いただけます。）等を設けたテラスハウスとした。（中馬博良、戸田富久／長谷川工務店）



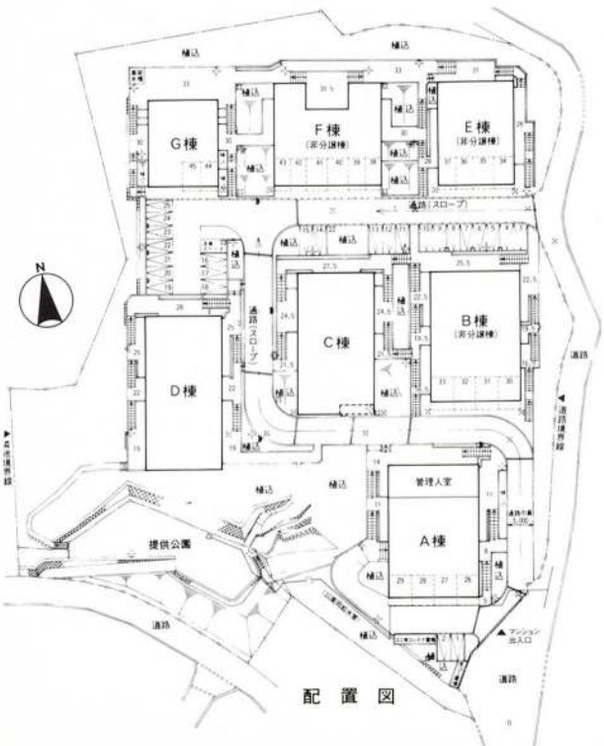


1
2

1．航空写真
2．玄関およびアプローチ

御影ガーデンハイツ

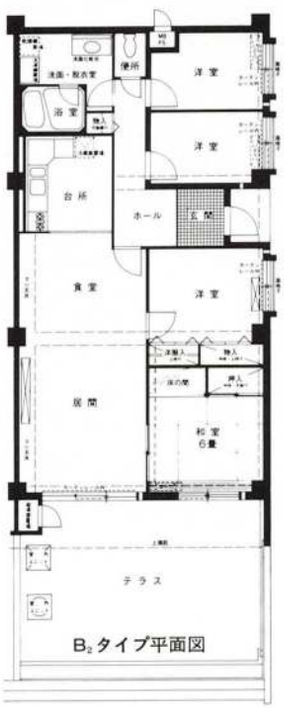




配 置 図



Fタイプ平面図



B_2タイプ平面図

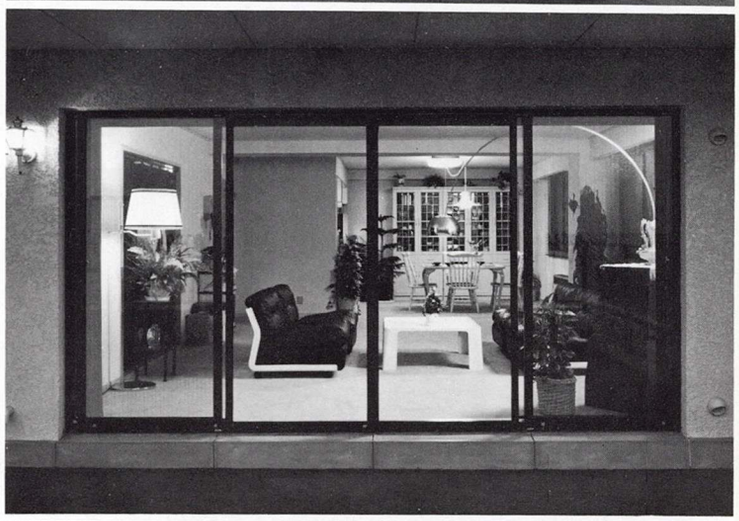


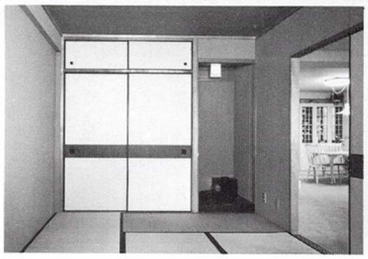
3．玄関およびアプローチ
4．玄関およびホール
5．リビングルームからテラスをみる
6．テラスからリビングルーム・ダイニングルームをみる
7．和室
8．リビングルームからダイニングルームをみる

撮影　つねなりすたじお（1を除く）

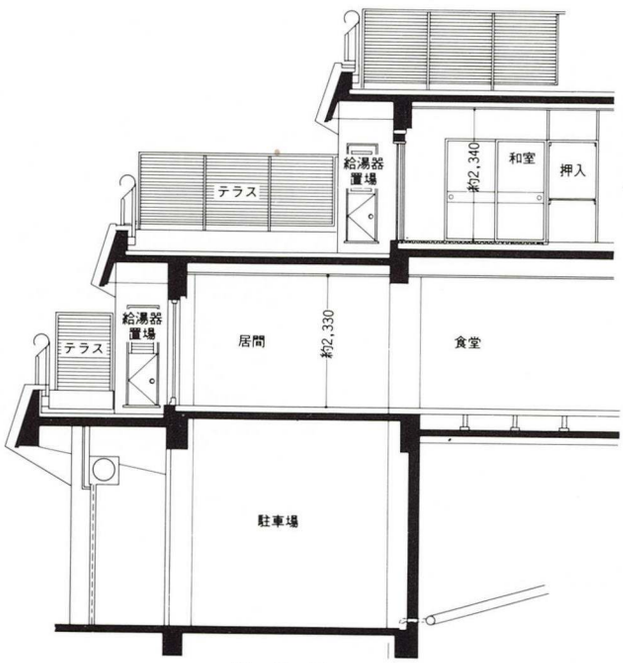












矩 計 図

(50音順)

内装	エルエ DIVISION OF OMIKENSHI	大阪市東区備後町4 −32− 1 (船場鴻池ビル) TEL 06−271−0195・03−545−3851
アルミルーバ	込山製作所	堺市錦綾町3丁目4 −15 TEL 0722−28−2500
木製建具 収納ユニット	中村建具	奈良県吉野郡大淀町桧垣本 TEL 07475− 2 −0814
洗面化粧台	日本楽器製造	大阪市浪速区敷津町1 − 7 TEL 06−647−1171
造作工事 建具・家具	富士室内装備	神戸市葺合区二宮町 1 丁目314 TEL 078−241−1155
襖	細井永昌堂	西宮市六湛寺町 9 −12 TEL 0798−34−1111
塗装	松浦塗装工業	尼崎市七松町 1 −20−17 TEL 06−416−4341
厨房設備 キッチンユニット(UU型)	松下電器産業 近畿電設営業所	大阪市東区高麗橋 1 −12和幸ビル 4 階 TEL 06−201−1421
給排水衛生設備	山本設備機工	神戸市葺合区坂口通 7 丁目 2 −21 TEL 078−241 −0127
クロセットドアー レバーハンドル	ユニオン	大阪市西区南堀江 2 −13−22 TEL 06−532−3731

四条高倉スカイハイツ

設計施工　長谷川工務店

所 在 地　京都市中京区高倉通り錦小路上ル貝屋町565－1
敷地面積　2,232.51㎡
建築面積　1,134.60㎡
延床面積　8,601.35㎡
構造規模　ＲＣ、11Ｆ、Ｐ2
工　　期　昭和53年10月～昭和54年11月

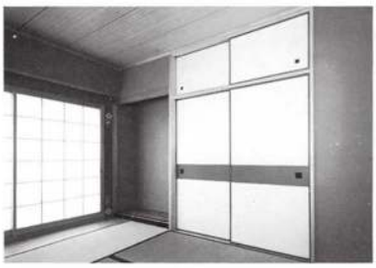


京都の繁華街、四条通りから、大丸デパート横の高倉通りを少し上った所の、商業地域とは言え、低層家屋が密集する、都市再開発が望まれる環境の中に位置するこのマンションは、まず第一に、住んでみたくなるような雰囲気の持つ、京の街に合った格式美を念頭に計画をすすめた。ブロック形態としては、立地性より、中廊下をアクセスとし、東西に住戸を配した、11階建とし、間取りも周囲の環境に照らし合わせながら、１ＬＤＫ～４ＬＤＫと各階層毎にバラエティを持たせるよう考慮した。主玄関アプローチに関しては、前面道路よりの狭い進入幅の中で、救急、避難を兼ねた車路とを分離するため、デッキ状として、両側には植栽等を施し、立ち上り壁をマンション外壁と同じとし、一体感をねらい、潤いのあるアプローチとなるよう考慮した。また、デッキの下部には、コンテナ（ゴミ）置場、駐車場、自転車置場という具合に、空間の有効利用を計り、自然な動線計画となる様努めた。外観は、しっとりと落ち着きを持たせるため、黒みがかかったタイル貼を基調に、全体をアンバー系の色で、まとめてみた。

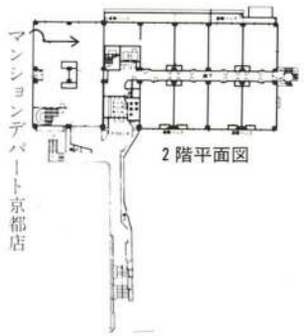
（中山孝人）

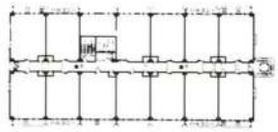


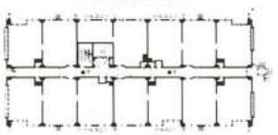




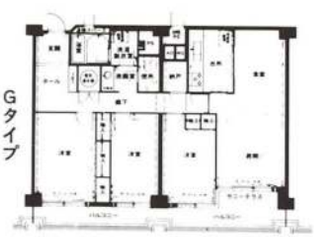








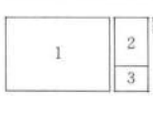






（50音順）

警備保障 美装	アサヒ商会	京都市右京区西大路四条下ル右京住宅ビル４階 TEL 075－313－3307
内外壁タイル (伊奈，志野)	天井タイル	東大阪市御厨1048　ＴＥＬ 06－788－8055
電気設備	イグロ電気	大阪市東区平野町５－40　長谷川第11ビル ＴＥＬ 06－201－5621
アルミ手摺 面格子 鉄骨階段	込山製作所	堺市錦綾町3丁目4－15　TEL 0722－28－2500
造園	尊農社緑地	大阪市東区谷町1丁目30－1(双馬ビル) TEL 06-945-0208
内装	帝人商事	大阪市東区南本町1丁目13　TEL 06－252－1241
屋上アスファルト防水他 サッシュ廻り コーキング	東亜ルトアスファルト工業所 大阪営業所	大阪市西区西本町1丁目5－9(産双ビル４階) ＴＥＬ 06－541－7583
木製建具 収納ユニット	中村建具	奈良県吉野郡大淀町桧垣本　TEL 07475－2－0814
鋼製建具	不二サッシ販売 大阪支店	大阪市東区本町4丁目4－1　TEL 06－262－2541
給排水衛生 消火栓設備	三光設備工業	大阪市都島区内代町1丁目5－6　TEL 06－953－0265
クロセットドアー レバーハンドル	ユニオン	大阪市西区南堀江2－13－22　TEL 06－532－3731



1．外観
2．アプローチデッキからエントランスをみる
3．キッチンルーム・ダイニングルーム・リビングルーム
4．リビングルームから洋室をみる
5．和室

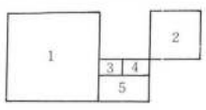
撮影　つねなりすたじお

共済会館新大阪

設　　計　東畑建築事務所

施　　工　三井建設





1．北面外観
2．和室より中庭をみる
3．アスレチックフロアー
4．大会議場
5．1階ロビー

撮影　株式会社ＳＳ

施　　主　大阪府市町村職員共済組合
所 在 地　大阪市淀川区宮原４丁目５
敷地面積　3,506.43㎡
建築面積　2,712.91㎡
延床面積　17,509.17㎡
構造規模　ＳＲＣ、Ｂ２、12Ｆ
工　　期　昭和52年７月～昭和54年１月

国鉄新大阪駅の北方約 800ｍの地にこのほどオープンした本建物は、大阪府下市町村職員の福利厚生活動の拠点として建設されたものであるが、同時に一般利用者にも開放される都市型ホテルとしての機能も兼ね備えており、且つ周辺地域に広く利用されるコミュニティ施設としての性格も併せもっている。

建物は客室 266室からなる高層部と、各種施設を備えた低層部より成っており、施設は(1)宴会・会議部門、(2)温水プール・アスレチック部門、(3)各種教室部門、(4)ロビー、レストラン、プラザ等のパブリック部門の４つに分けられる。敷地が大阪国際空港の着陸経路下にあることも踏まえて、建物は高層部、低層部共に開口部寸法を極力押えたデザインとして騒音の影響を避け、中庭によって内部の雰囲気づくりを行った。また１階に半屋外空間であるプラザを設けて、建物内外のクッション空間を形成しながら地域に開放されたスペースとして、時には各種のイベントや展示等の行える場を設けた。

施工にあたっては、18ヶ月という短い工期の中で、(1)地下比率の高いこと、(2)低層部外壁にレンガタイルの特殊張り工法をとったこと、(3)開口部に高い遮音性能が要求されたこと、(4)複雑な諸施設に対応して仕上工事が多岐に亘ったこと、等が施工者側で特に苦心された点であろう。

竣工後９ヶ月を経た現在、建物は各施設も順調に運営され、敷地の緑も根づいて、会館建築として、また都市ホテルとしての歩みを始めたようである。

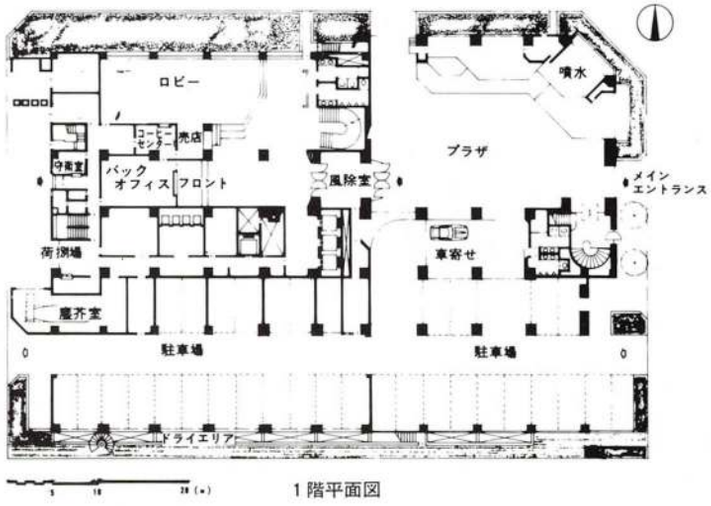
（東畑建築事務所）











1階平面図



基準階平面図


住友生命ビル
ヤクルト生命
豊和相互銀行

住友生命大分ビル

設計監理　日建設計／大阪

施　　工　鹿島建設・大林組・竹中工務店
　　大成建設共同企業体
所 在 地　大分市都町１－１－23
敷地面積　1,896.52㎡
建築面積　1,357.52㎡
延床面積　10,809.01㎡
構造規模　ＳＲＣ、15Ｆ、Ｂ１、Ｐ１
工　　期　昭和53年３月～昭和54年９月

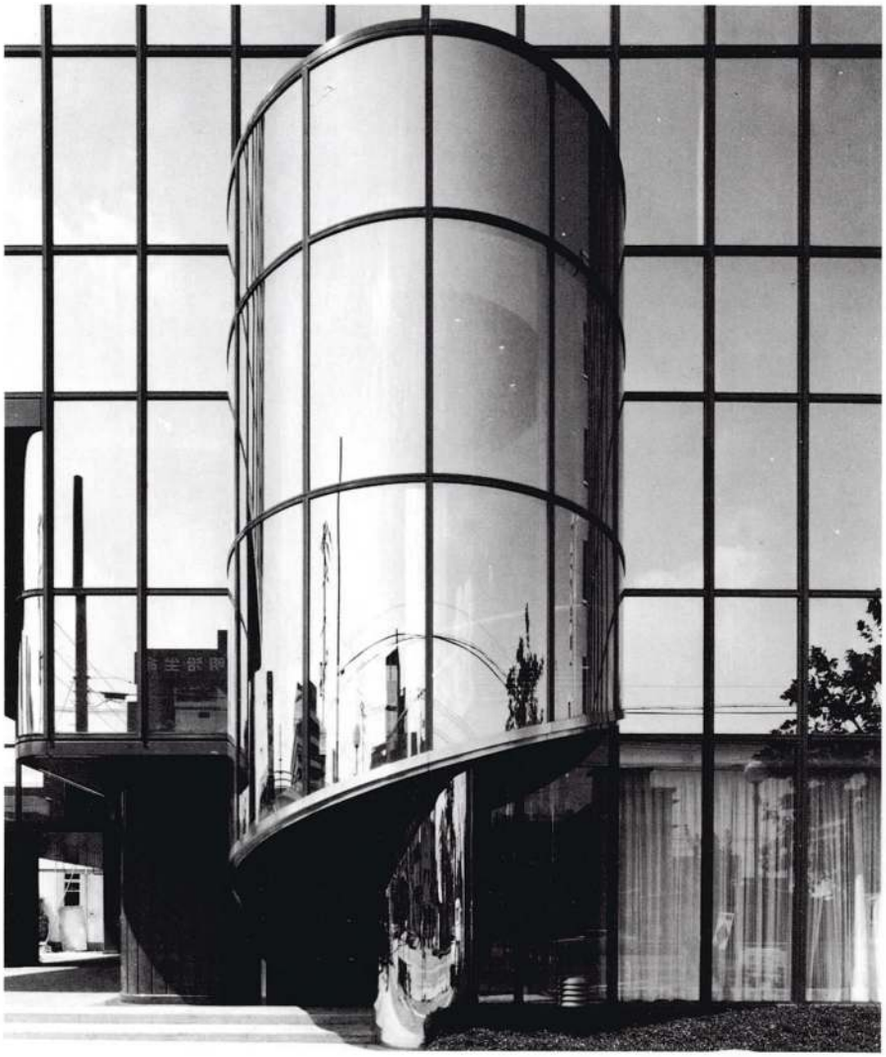
住友生命大分ビルは、54年秋、大分市の目抜通りに面して、県下随一の高さを誇る貸事務所ビルとして完成した。建築主は、当初もっと商業色の濃いビルとして計画されていたが、結局１・２階のみ銀行・店舗がテナントとして入る貸事務所主体のビルとして実現をみたものである。従って、外観は全面カーテンウォールの採用により、事務所ビルとしての表情を求めた。外観について最も意を用いたのは、カーテンウォールの方立と横桟のピッチおよびその寸法であった。ミラーガラスは反射性能を有するという特性上、普通ガラスの持つ透明性による脆さ、ひ弱さとは反対の非常に強い材質感を持つものだと考えられる。つまり、日中は非常に強い壁面性を備えた材料だと考えてよいのではなかろうか。

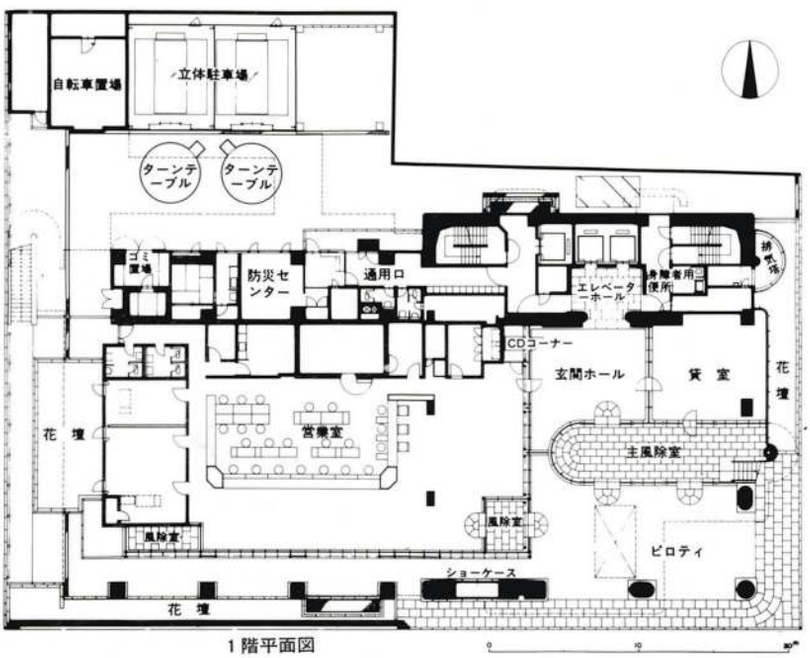
ミラーガラスを使用する場合は、ガラスを小さく、サッシュ部材は太く、色は白っぽいものよりは黒…というのが、かねてから考えていた必須条件であった。

当ビルでは、室内からの窓際の不安感を避けるためにも、方立は両手を軽く拡げて持てる寸法、即ち１ｍピッチとし、ガラス廻りにコーキングを使用しない等圧方式によるサッシュ・ディテールの採用によって、完全な空気の遮断と、入ってきた水の合理的な排水の仕方に無理がかからないようサッシュ部材に充分な寸法をとって、いたずらに細く見せるということはしなかった。

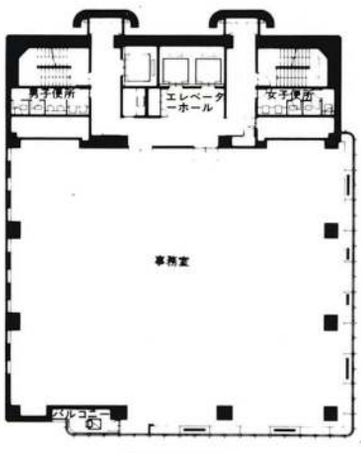
しかし、建物隅部には、丸面ガラスを用いて、カーテンウォール建築にありがちな冷たさを避け、全体として、シンプルで端正な建物を…という所期の目的は、ほぼ達せられたと考えている。

なお、２階部分への客の誘導を容易にするために、円型階段の半分を飛び出させ、階段に沿って作られる斜線の下半分を切断して、その部分を右へ移動し、排気塔の造型とした。これは、ともすれば固くなりがちな事務所ビルの立面に、低層階の店舗の華やかな魅力を附加せんがためであった。　（日建設計）





1階平面図



基準階平面図

第25回工高生デザインコンクール入選作品

設計課題：「児童図書館」

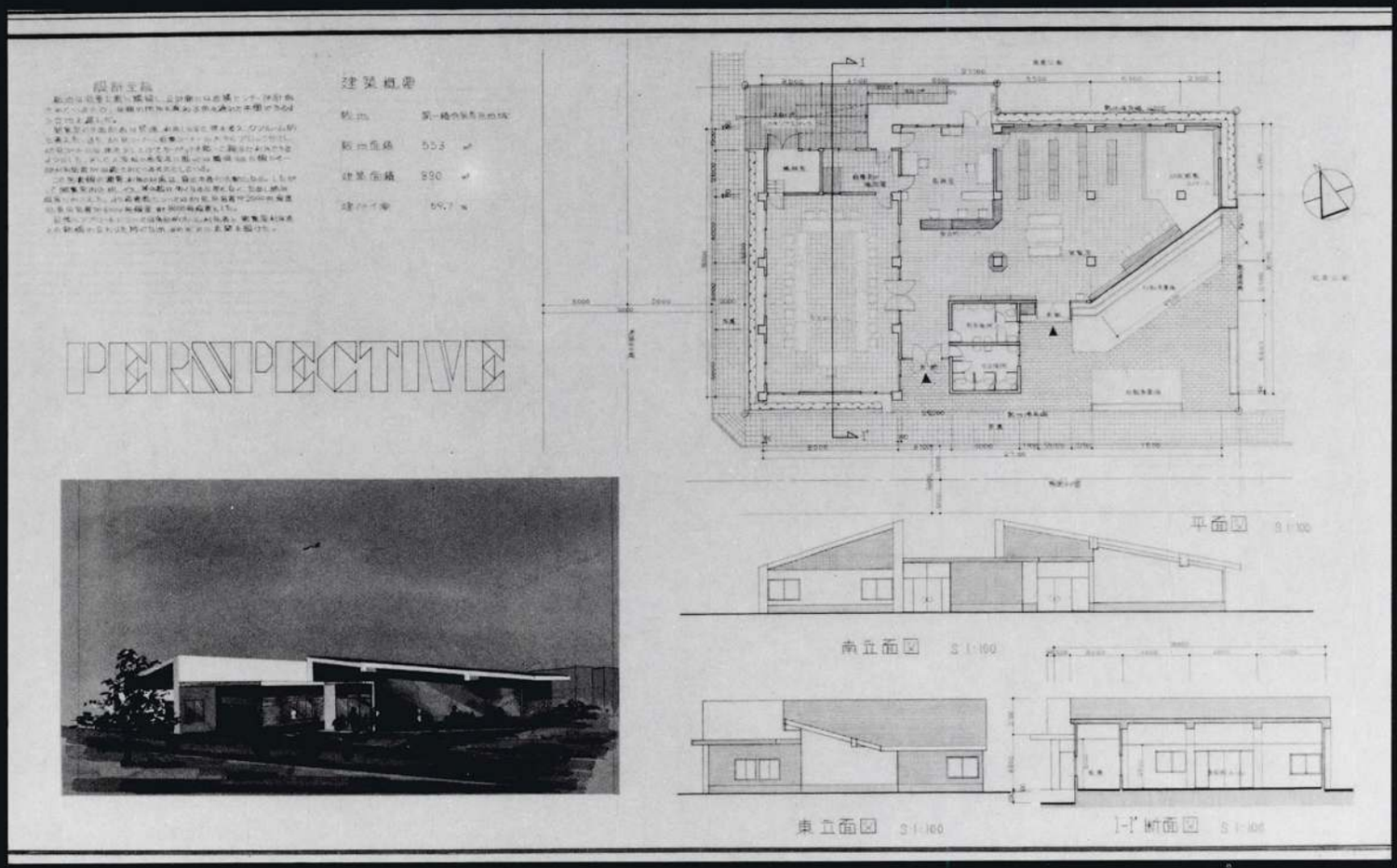
主　　催：日本建築協会

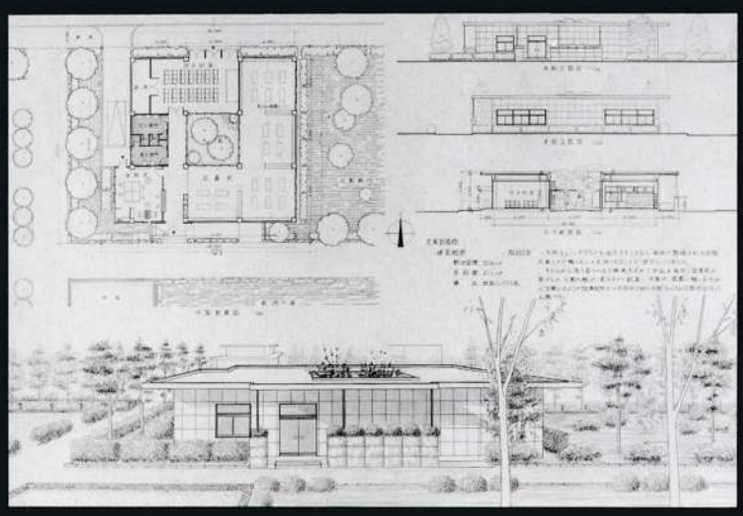
応募作品97点のうち、予備選考、第１次から第３次までの本審査を経て、入選作品10点を決定し、うち最優秀作品１点を選定した。

応募校　18校　　応募点数　97点
締切日　昭和54年９月20日　審査会　昭和54年11月24日

審査委員長／鳴田勝次
審査委員／片倉健雄／小角　亨／篠塚宏三／鳴村隆次／杉山茂一／辰巳義幸／千葉和成／土肥耕一／中川洋一／永田祐三／舟橋國男／松林祐爾／森　耕一／柳　眞也／若野暢三　　（50音順・敬称略）

〔掲載50音順〕





△入選・最優秀賞　馬場智士

（大阪市立都島工業高等学校・３年）

ぼく等の町には子供のための図書館とか、気の利いた施設もない。だからこの課題にはとても興味をもった。
子供達だけが、また子供と母親がつれだって、気軽に楽しく語る場が展開して、静かに本を読む情景を考えてプランを練ったが、こじんまりしすぎたのは残念でした。

◁入選　覚前　啓

（大阪府立西野田工業高等学校・３年）

プランの基本になったのは住宅のコートハウスの形で、それをそのまま図書館に置換えてみた。私達のまわりにはかなりの騒音がある。それは公園の中でも考えねばならぬことで、よい雰囲気を作るには遮音に工夫することと考えて、計画をすすめた。入選を期待していました。

審査総評

児童図書館というテーマは、今年が国際児童年であり、新しい図書館の概念が定着して来た時にも当っていたので、興味深いものであったと共に、むつかしい問題をはらんでいた。豊富な内容をもつ今回のコンクールは例年より多数の応募作品が集まり（提出数97点、応募校18校、内定時制１校、群馬より岡山までにわたる）、バラエティのある計画案が多く寄せられた。

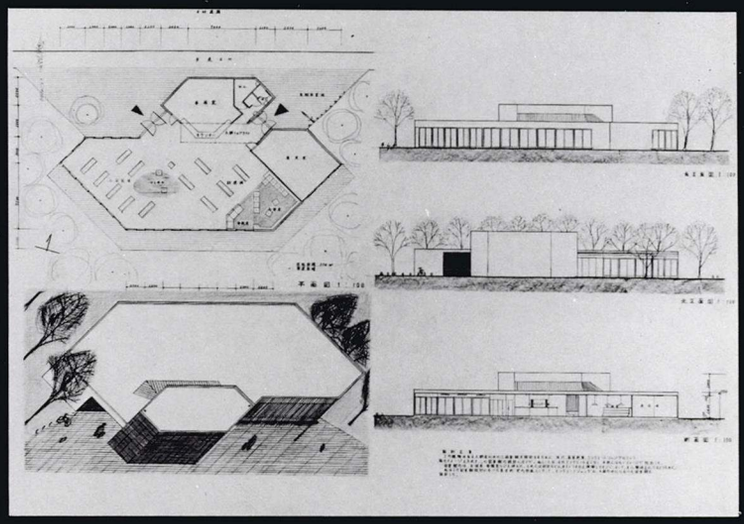
建築家だけでない多彩な顔触れによる審査会は、まことに熱のこもった討議がつづいた。議論の主要点は、利用者や管理運営側からの機能面の追求と、一般の建築計画やデザイン能力への期待との、審査員の見方のくいちがいであった。激論は数時間かかったが、その中から優秀作品を選定出来たのは、まことに喜ばしい。

最優秀作品の馬場智士君の案は、課題をよく消化し、デザインも達者で、図面の表現力もすぐれていた。他の入選作品は、それぞれユニークなアイデアから堅実なプランまでいろいろな解決策が提案され、見るべきものがあったが、中には収納スペースの少なさ、アプローチの長さ、家具配置のまずさ、こじつけられた立面などが、若干見られた。

なお、児童図書館の目的をとりちがえたため、建築的力量を十分もちながら、入選に至らなかったものがあったことを付け加えておきたい。

このコンクールを機会に、皆さんは一層の研鑽を積まれ、建築家として大きく羽ばたかれることをお祈り致します。

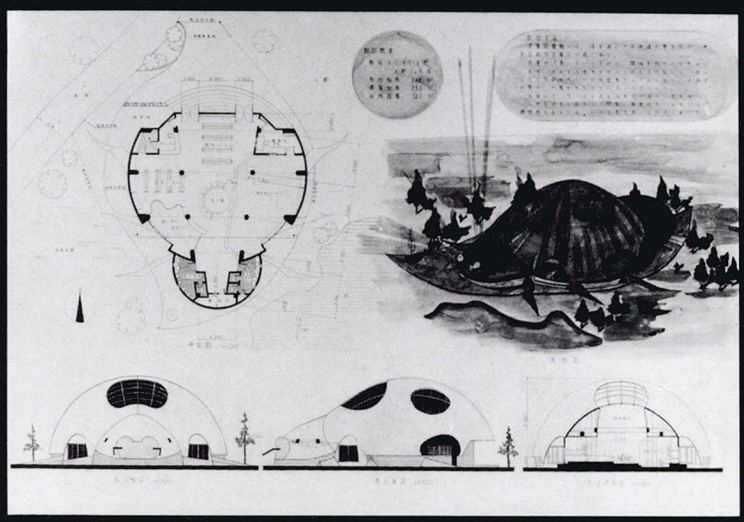
（嶋田勝次）



△入選　川島政治

（横浜市立鶴見工業高等学校・３年）

図書館という遊び場の中で、本への興味から、そこにメルヘンのイメージをもたそうと考えた。遊び場の子供達の動きの流れの中に、図書館という島があり、水を飲みに、トイレに立寄っていく流れに秩序をつくりながら、いつか夢の国に入ってくる情景を考えて計画しました。



△入選　立見公志

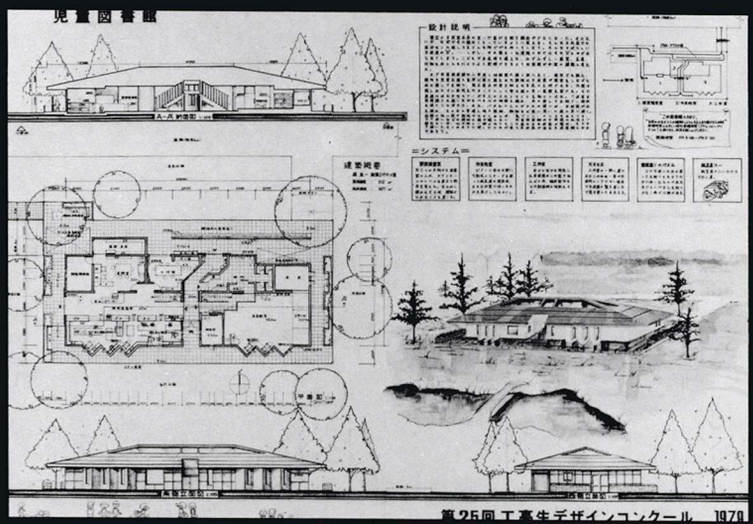
（大阪市立工芸高等学校・３年）

子供達の夢があるような建物を考え、「てんとう虫」をモデルとした外観を作ってみました。プランは閲覧と多目的ホールを間仕切りせず、レベル差で区切り、開放感を作って、自由に遊びまわる子供達が想像力を豊にして、考える能力を身につけていくようにと計画してみました。

▽入選　小山将史

（群馬県立桐生工業高等学校・３年）

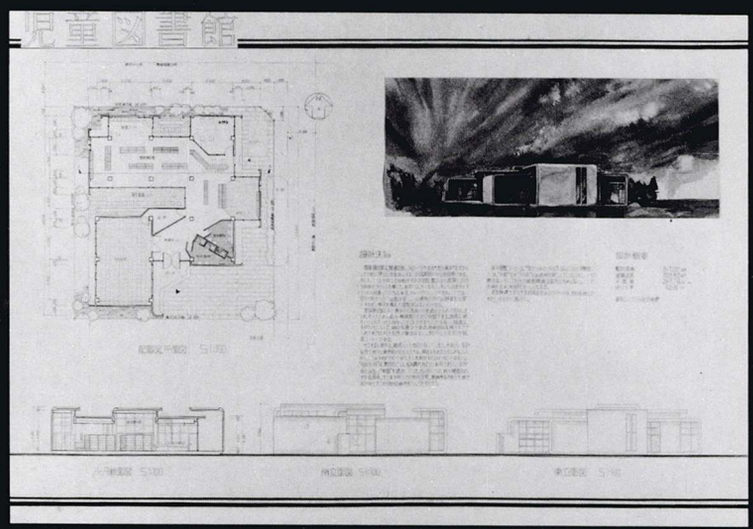
自分が幼かった頃、よく遊んだ小学校の通り道にあった図書館でのこと。ごく普通の住宅とかわらない建物で、全体が遊び場になっていて、遊びながら本の楽しさを知り、また工作室で、親と一諸に世界に一冊しかない本を作った想い出が、この課題を計画する要素となりました。



▽入選　東野敏行

（大阪市立都島工業高等学校・３年）

子供にとっての読書は遊びである。子供は図書の中の主人公に容易にとけ込み、本の中の情景になじんでいく。こんな子供達の想像的空間をつくれたらと思って、プランに取組んでみました。とても信じられない、途方もない拡がりの子供の領域を考えながら、計画してみました。



募集の趣旨

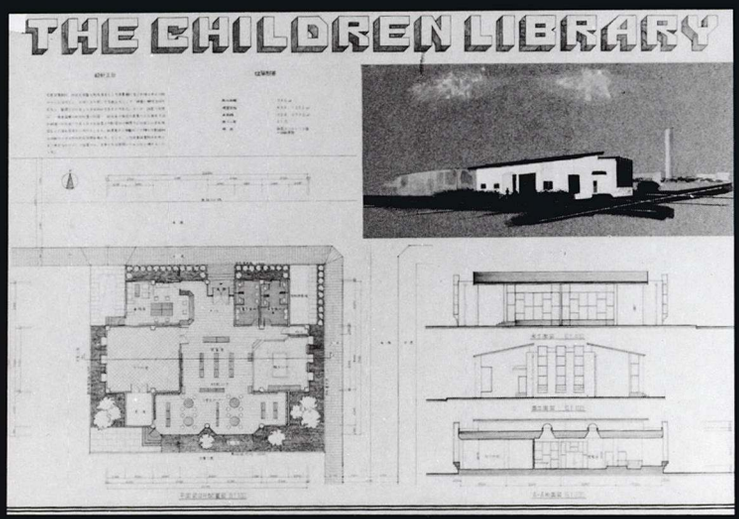
今年は国際児童年にあたる。児童の健全な発育をねがって、国際間協力のもとに、種々の企画や研究などが実行に移されている。

課題の「児童図書館」は、子供と本の結びつきを深め、子供に本の楽しさを知らせ、読書の興味を持続させ、習慣化させることをめざすものであり、まず、古い図書館のイメージからの脱却をはかりたい。ここでは貸出しが主体で、母親も共に利用し、読書につながる集まりも行なわれる。

小学校区ごとに1か所ずつ設け、幼児と児童の利用を主とした図書館分館として計画するものとし、それにふさわしい豊かな空間と環境を十分に考慮した、若々しい提案を期待する。

設計条件

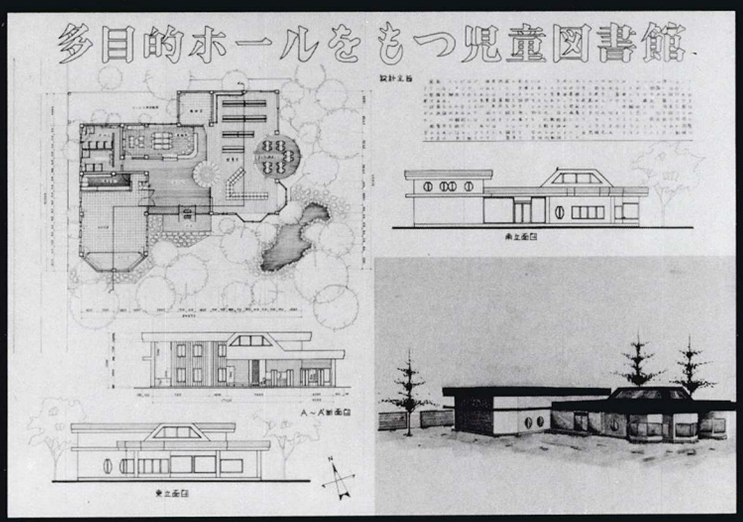
1．位　置：児童公園に隣接する500㎡程度の敷地を想定する。
2．規　模：平家建の独立した建築物とし、床面積は 300㎡程度とする。
3．構　造：自由とする。
4．所要室：開架図書室――収容冊数は 8,000冊程度。すべて開架で、閲覧はためし読みのスペースだけでよい。貸出しカウンター、母と子の読書コーナーなどを設ける。
多目的室――お話し会、紙芝居、人形劇、スライド・映画の映写やオーディオ・ルームなどとして、多目的に利用する。集会人数は40人程度とする。
その他――事務室、倉庫、便所、手洗いなど。
敷地へは、サービス用自動車が出入りできること。



△入選　福岡俊雄

（大阪市立都島工業高等学校・3年）

この課題は子供にとって、大切な遊びの中での行動と知識の空間をつくることである。子供と本の結びつきは、空想の世界を跳びはねる情景を身近に考えさせる。身構えた図書館でなく、本の中の世界がそのまま庭に広がっていくような、楽しい場を考えてプランをねってみました。



△入選　前原　誠

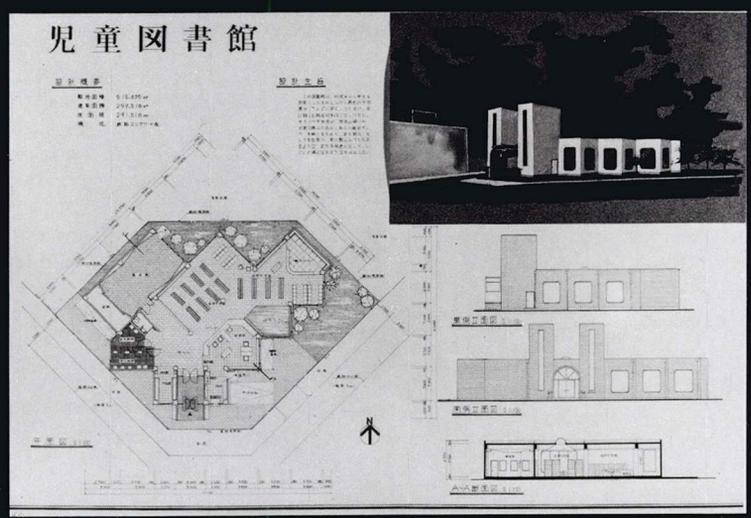
（群馬県立桐生工業高等学校・3年）

最近の子供達は、塾通いや習いごとに追われる毎日であり、創造的な能力を養うための読書などが乏しいと思う。そこで、子供達に合った環境をつくり、ここで読書を楽しむよい習慣を育てて、それによって生れてくる、人間性や創造力を養える身近な図書館を計画してみました。

▽入選　藤原英高

（大阪市立都島工業高等学校・3年）

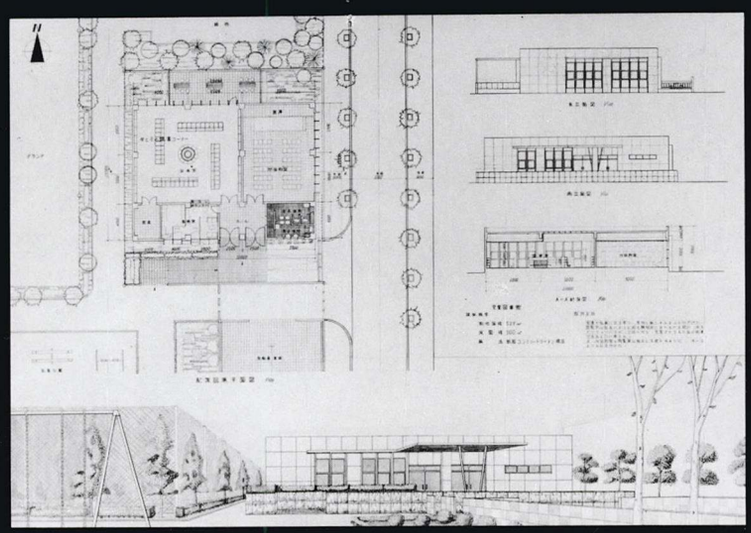
子供のための、子供の夢を拡げる楽しい施設を考えることに、つよい興味をもった。テレビから離れた子供達が広場で遊びまわって、汗ばんだ陽気な顔を輝かせながら集ってきて、本を読みながらいつしか皆が居眠りをしてしまう。そんな愉快な情景を考えながらまとめてみました。



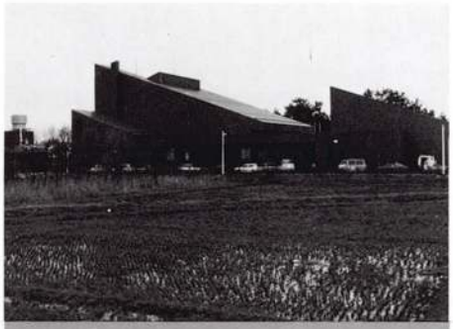
▽入選　横山秀文

（大阪府立西野田工業高等学校・3年）

小学校区ごとの図書館分館という趣旨から、いつ見てもあきのこない外観をもつ建物をと考えた。内部は、一定した照度が保てるよう、北面採光と天窓とし、夏の西日を防ぐようにした。さらに管理を容易にし、図書室もゆったりとスペースをとれるよう、事務室の機能を考えた。



上記入選者の感想文は、誌面の関係上委員会にて要約の上掲載いたしました。（文責・上野賢三）



1423 滋賀県湖西文化芸術会館

設計：日建設計
施工：駒音建設
a．滋賀県高島郡安曇川町上小川
b．8,700.85㎡
c．2,447.497㎡
d．2,323.053㎡
e．RC，2F
f．昭和53年4月～昭和54年4月



1424 中津文化会館

設計：日建設計
施工：佐藤組
a．中津市豊田町14－38
b．8,042㎡
c．2,898.96㎡
d．4,167.89㎡
e．RC，BI，5F
f．昭和52年12月～昭和54年3月



1425 奈良県立三室病院

設計：内藤建築事務所
施工：村本建設
a．奈良県生駒郡三郷町大字三室531
b．21,752.55㎡
c．本館，2,330.21㎡
d．〃 11,718.84㎡
e．RC，BI，6F，PI
f．昭和52年6月～昭和54年1月



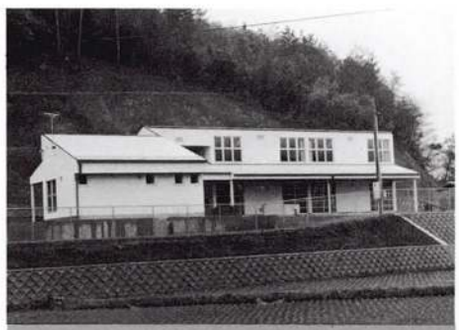
1426 高齢者世話ホーム 宝塚エデンの園

設計：設計事務所 ゲンプラン
施工：大林組
a．宝塚市小林字西山20－10
b．48,792㎡
c．5,047㎡
d．17,574㎡
e．RC，BI，4F
f．昭和53年4月～昭和54年3月



1427 特別養護老人ホーム 宝塚栄光園

設計：設計事務所 ゲンプラン
施工：大林組
a．宝塚市小林字西山20－10
b．48,792㎡
c．932㎡
d．1,770㎡
e．RC，BI，2F
f．昭和53年4月～昭和54年3月



1428 綾部市立西八田幼稚園

設計：設計事務所 ゲンプラン
施工：坂根組 物部工務店
a．綾部市岡安町田中
b．2,918㎡
c．246㎡
d．180㎡
e．S，1F
f．昭和53年10月～昭和54年3月



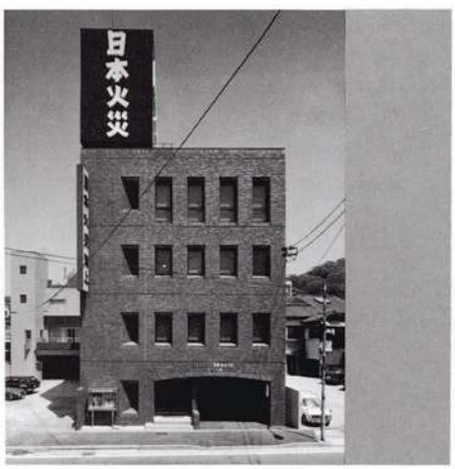
1429 京都市下京区総合庁舎

設計：東畑建築事務所
施工：辰己建設
a．京都市下京区西洞院通塩小路上ル東塩小路町608の5
b．5,710.136㎡
c．1,805.37㎡
d．7,404.01㎡
e．SRC，一部RC，BI，5F
f．昭和53年6月～昭和54年8月



1430 吉田屋旅館本館

設計：東畑建築事務所
施工：竹中工務店
a．奈良市高畑町1122の14
b．1,420.88㎡
c．875.95㎡
d．2,757.30㎡
RC，BI，4F，PI
f．昭和53年11月～昭和54年9月

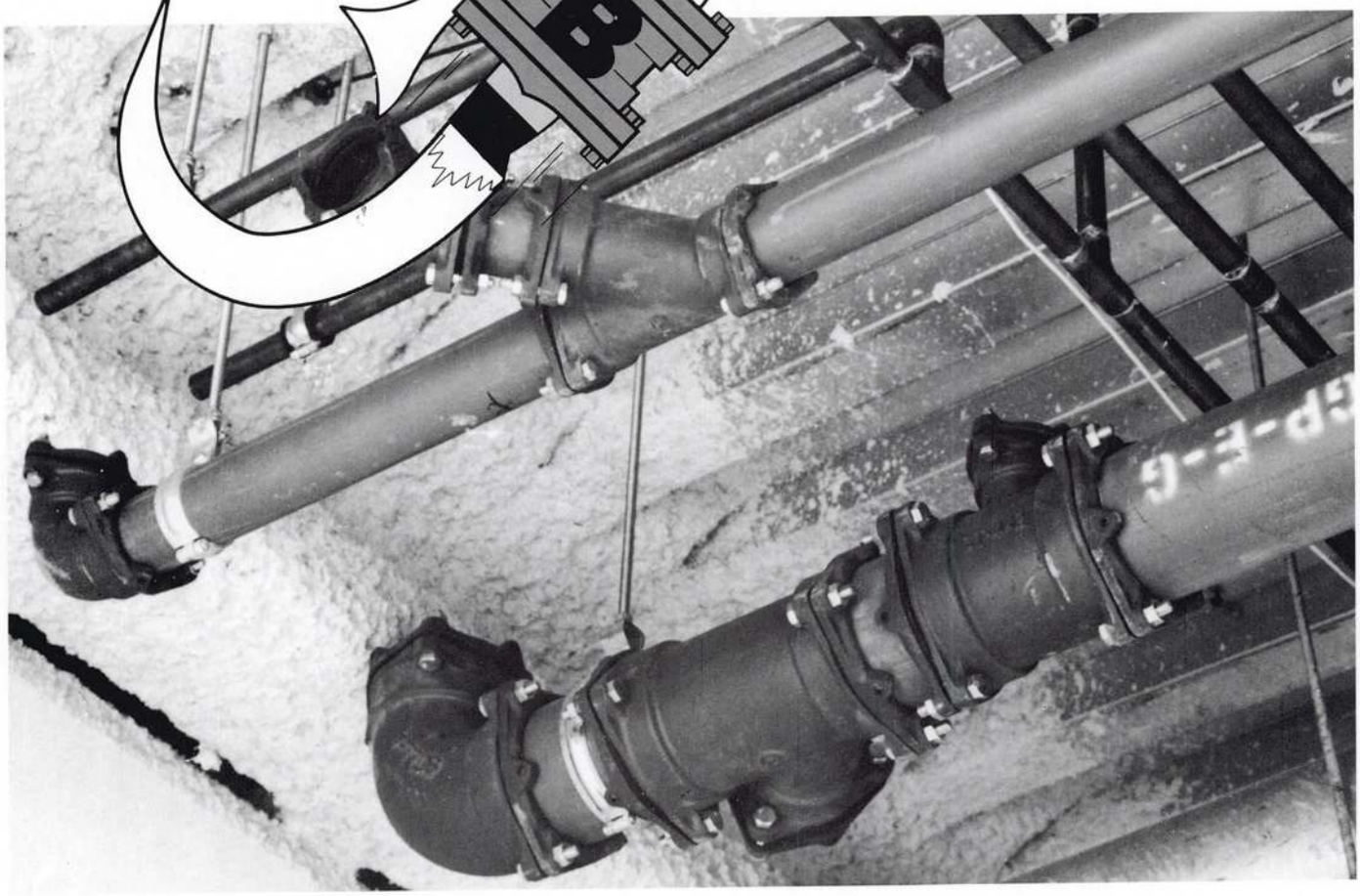


1431 日本火災海上保険株式会社長崎営業所

設計：小西設計
施工：大成建設
a．長崎市勝山町38－4－5 39仆(ロ)
b．368.37㎡
c．187.63㎡
d．773.82㎡
e．RC，4F，PI
f．昭和53年10月～昭和54年4月

Ⓗは信頼のブランド

可とう継手、実績15年。
そして今、《ワンマンB®》



昭和40年、日本住宅公団の市街地再開発により幕開けた高層住宅時代。

長谷川鋳工所は、日本で初めての排水管用可とう継手ーワンマン継手でこれに対応、その完璧な機能で絶賛を浴びてまいりました。この多くの実績・経験をベースに、経済性・作業性など、数々のニーズに応えて今、新可とう継手《ワンマンB》の 誕生です。



90°LL



S



ST

- **画期的な価格ダウン！**
- **作業を大巾スピードアップ！**
- **抜群の可とう性能！**
- **安心できる実績と信頼性！**
- **防錆効果に優れたⒽコート採用！**



Ⓗ 株式會社 長谷川鋳工所

本社/東京都千代田区神田淡路町1－2　☎(03)255-4051(代)
大阪営業所☎(06)315-8900(代)/横浜営業所☎(0467)78-3235
工場　☎(0482)22-5175(代)

日本建築協会法規委員会

法令コーナー

質疑などの投稿をお待ちしております。

144

避難器具の基準（その2）

12月号の本コーナーで「避難器具の基準(その1)」として、避難はしごおよびすべり台について述べたところであるが、引き続いてすべり棒、避難ロープ、避難用タラップおよび避難橋に関する基準の概要について述べる。

3　すべり棒

すべり棒とは、**図7**に示すように垂直に固定した棒につかまり、摩擦抵抗によって地上にすべり降りるもので、これらの構造、材質および強度は、つぎの事項に適合するものでなければならない。



図7　すべり棒

(1)　構造

すべり棒は安全、確実かつ容易に使用される構造のものであり、棒の外径は35～60ミリメートルの円柱状のもので、かつ、表面は平滑なものであること。

(2)　材質

棒は、鋼材またはこれと同等以上の耐久性を有するものであること。

(3)　強度

棒は、一定の条件で試験を行い、強度上安全なものであること。

(4)　表示

避難はしごと同様な趣旨から、一定の表示をすること。

4　避難ロープ

避難ロープとは、**図8**に示すように上端部を固定し、つり下げたロープを使用して降下するものをいい、これらの構造、材質および強度は、つぎの事項に適合するものでなければならない。



図8　避難ロープ

(1)　構造

避難ロープは、太さ直径12ミリメートル以上のものであり、使用の際、急激な降下を防止するため、一定の間隔ごとにこぶし状のもの、あるいは足掛けを設けるなどの措置を講じたものであること。

(2)　材質

ロープは、耐久性に富んだ繊維製のものであること。

(3)　強度

ロープおよびつり下げ具に対して一定の条件で試験を行い、強度上安全なものであること。

(4)　表示

避難はしごと同様な趣旨から、一定の表示をすること。

5　避難用タラップ

避難用タラップとは、**図9**に示すように階段状のものであり、これらの構造、材質および強度は、つぎの事項に適合するものでなければならない。

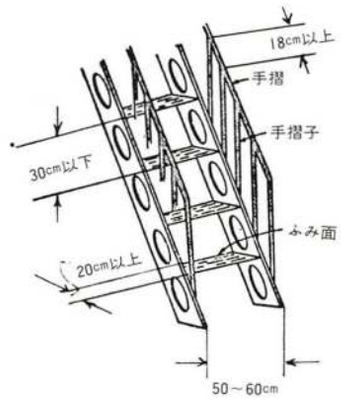


図9　避難用タラップ

(1)　構造

ア．避難用タラップは、踏板、手すり等により構成されたものであること。

イ．手すりの有効幅は、50～60センチメートル、踏面の寸法は20センチメートル以上、けあげの寸法は30センチメートル以下、手すりの高さは70センチメートル以上、手すり子の間隔は18センチメートル以下とすること。

ウ．避難用タラップの高さが4メートルを超えるものにあっては、高さ4メートルごとに踊場を設け、踊場の踏幅は 1.2メートル以上とすること。

(2)　材質

踏板、手すり、手すり子および支持部は、鋼材、アルミニウム材またはこれらと同等以上の耐久性を有するものであること。

(3)　強度

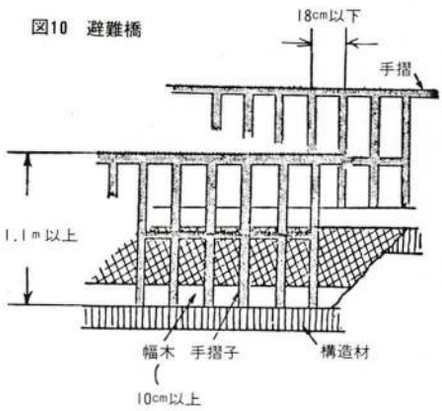
避難用タラップは、踏板および支持部に作用する自重、積載荷重、風圧、地震力等に対して構造耐力上安全なものであること。

(4)　表示

避難はしごと同様な趣旨から、一定の表示をすること。

6　避難橋

図10　避難橋



避難橋とは、**図10**に示すように建築物の屋上または外壁に設けられた開口部を連絡し、それぞれの箇所から相互に避難することができるものであり、これらの構造、材質および強度は、つぎの事項に適合するものでなければならない。

(1)　構造

ア．避難橋は、橋げた、床板および手すり等から構成されたものであり、固定式または移動式のものであること。

イ．床面の勾配は、階段式のものを除き、5分の1未満とし、手すりの高さは 1.1メートル以上、手すり子の間隔は18センチメートル以下、幅木の高さは10センチメートル以上とすること。

(2)　材質

構造耐力上主要な部分は不燃性のものとし、橋げた、床板、幅木および手すりは、鋼材、アルミニウム材またはこれと同等以上の耐久性を有するものであること。

(3)　強度

橋げた、床板および手すり等に作用する自重、積載荷重、風圧、地震力等に対して構造耐力上安全なものであること。

(4)　表示

避難はしごと同様の趣旨から、一定の表示をすること。

（大阪市消防局予防部設備課　松田　章）

「地区建設計画制度」答申

建築審議会（会長＝稗田治日本建築センター理事長）は11月28日、総会を開き、「市街地環境の整備の促進のための方策」について、渡辺建設相に答申した。今回の答申は49年1月に次いで、同方策についての第2次答申で、「地区建設計画制度等について」と題し、①一定水準の環境を備えた市街地づくりを進めるため、地区内の公共施設の配置、建築物の形態などを定めた地区建設計画制度の導入を図り、建築、開発行為についても心要な誘導、規制を行う、②地区建設計画の策定区域内で都市防災上必要と認められる地域については市町村が最小敷地規模を定め、無秩序な宅地開発などを規制する――ことを柱としている。都市計画中央審議会でも12月5日に同様の答申を出した。建設省ではこれらを受けて、次の通常国会に「地区建設計画法案」（仮称）など関連法案を提出する方針。

日本建築協会建材委員会

新建材紹介コーナー

《新建材紹介 No.66》

高性能固化剤『オートセット』

株式会社 タクマ
本　社 〒530 大阪市北区堂島浜1丁目3番23号
TEL 06-346-5161
東京支社 〒103 東京都中央区日本橋1丁目2番5号 栄太楼ビル
TEL 03-271-2111

ヘドロを固化するオートセット

産業廃棄物の中でも、汚泥ならびに海域・河川・湖・沼に堆積するヘドロは、その処分・処理が不適正であれば環境汚染を引き起こすこととなる。

産業廃棄物処理に対する関心はますます高くなる様相を見せており、先に「廃棄物の処理および清掃に関する法律」が施行され、その取締りの強化と同時に、企業責任の追求が厳しくなった。

例えば、下水汚泥発生量を取り上げると、年率20%台の伸びで増加が予想され、55年末には、1日当りの発生量は、ダンプカーで4600台分となると言われている。

一般的に汚泥の処理としては、(1)脱水減量して、運搬可能な状態にする、(2)乾燥 (3)焼却して灰化する、(4)セメントを使用して固化する、などの方法があるが、再泥化する、固化に時間がかゝること、また、固化物から有害物質が溶出するなど決定的な処理とは言いがたい。

このような問題点をふまえて、経済的な処理工法として、ヘドロを凝結し、物理的・化学的に安定させる固化剤「オートセット Aught set 」が開発された。

■ オートセットの構成

オートセットは高含水のヘドロにおいても、この水分を多量に取り込み、針状結晶で粒子間をブリッジする機能を持ったカルシウム・サルフォ・アルミネート水和物を多量に生成するように構成されている。またこの他に、カルシウム・シリケート水和物をも生成し固化機能を果すが、この時遊離される$Ca(OH)_2$は、ヘドロ粒子中の鉱物組成と反応しヘドロ構成粒子自身も固結反応に寄与される等の作用を有している。

■ 特長

1．高含水率の汚泥でも短時間に固化出来る。

例えば、含水率92～98%の下水汚泥の場合、固化剤の混合比を汚泥の20%とした場合、混練開始後約3分でトラックによる搬出が可能となる。

2．有害物質の溶出を防止する。

重金属類などの有害物質は完全に吸着および封じ込めができ、再溶出が防止され2次公害の心配がない。

3．所要の強度が得られる。

一般のセメントと同様の固化性能も兼ね備えているので、添加率を変えることにより圧縮強度をコントロールすることができる。

4．脱臭効果がある。

悪臭を発するさまざまのヘドロも、固化さすことにより、脱臭または減臭さすことができる。

5．経済的である。

処理にあたっては、対象汚泥の物性を調査し、固化処理後の要求物性を満足さす合理的な配合を選定することが可能で、また、処理設備には特殊な機械を必要としない。

■ 種類と用途

一般に汚泥と言ってもその生成条件により千差万別でその汚泥に対応してオートセットには10種類の品種がある。下記にその中での代表的な種類と用途を示す。

#2000シリーズ　地盤安定処理用

一般の石灰系または、セメント系地盤安定処理剤と同様に使用出来、道路々床の改良、公園歩道・広場などの表面固化処理を行う。

#3000シリーズ　超軟弱地盤、有機質ヘドロ改良用

高含水浚渫ヘドロ、有機質を含んだヘドロなど、従来セメント系の場合では固化困難な汚泥に有効である。

#4000シリーズ　一般汚泥処理用

一般ヘドロ、産廃汚泥など利用範囲の広い固化剤。

#6000シリーズ　有機物質含有汚泥用

メッキスラッジ、皮革汚泥など有害重金属を含むヘドロの、溶出防止処理が必要な場合に使える。

■ 使用例とデータ

図－1は、路床改良にオートセット#4000を使用した例である。#4000は汚泥用に開発されているため、#2000より固化速度が早い。

図－2は、川底のヘドロに対する添加率と一軸圧縮試験強度を示したものである。

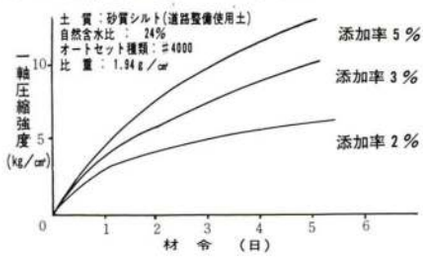
また、図－3は、道路々床改良による採用例で、従来法によるしゃ断現地盤CBR※＝2.0%をオートセット5%添加で、CBR＝69.2%に改良され、路盤の厚みを薄くして施工したものである。表－1は、CBR試験データの例である。

このように、オートセットはヘドロの固化、地盤の安定に非常に有効な固化剤であるが、その使用に当っては所定の試験をメーカーである株式会社タクマに依頼し、要望の諸条件にマッチした品種の選定が大切である。

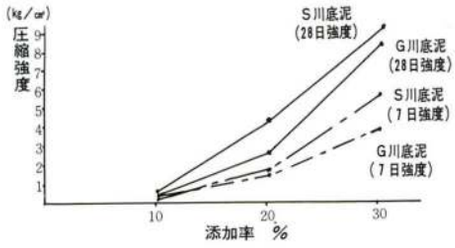
※CBR：路床上あるいは路盤材料の支持力指数を決定するための試験で、舗装の厚さの決定、路盤材料の適否の判定に用いる。

$$CBR=\frac{荷\quad 重}{標準荷重}\times 100\ (\%)$$

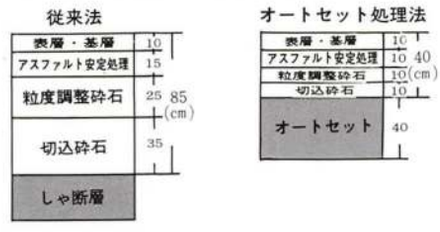
図－1　路床改良土固化データ例(一軸圧縮強度ー添加率)



図－2　川底ヘドロの改良



図－3　道路々床改良の設計例(交通量区分C)



表－1　CBR試験(JIS A1211)データの例

添加率 (%)	含水比 (%)	湿潤密度 (g/cm³)	乾燥密度 (g/cm³)	CBR値 (%)
0	24.04	2.026	1.634	1.8
5	22.27	2.028	1.659	30.1
7	21.36	2.037	1.678	53.0

注）1．オートセット種類は#2000。
2．添加率0%とは改良前の現路床の値を示す。

建材委員／金田　宏　（大林組工務部工務課長）

読者の頁

古代建築家の話あれこれ

その2

木村　伝／奈良女子大学事務局

■　建物造営関係は組織においても時代の最先端を行き、建築技術者も珍重がられた話

飛鳥時代の寺院は1部の官寺を除いては，豪族の氏寺としての役目と，権力の象徴としての役割を持っていましたので，東漢直氏が予測したことが適中し，急激に建設需要が起こり，　624年には寺の大小はあるにしても，46寺を数えられたとあります。これらは畿内中心であったとしても，当時の交通事情を考えると，多くの現場監督を兼ねることは出来ないでしょうし，従って，建築技術者は引っ張りだこで，どうしようもない状態であったことでしょう。

このことから，飛鳥時代の朝廷制度においても，他の生産部門よりいち早く，技術世襲制（伴造－品部）から脱却して，進歩的組織（師－生）の性格を持つようになり，さらに引続いて他の官営工房に先がけて，先進国（中国）の営繕組織に習い「将作監」制度へと進展して行ったわけです。

ここで，建築技術者の希少価値を裏書する話がありますので紹介しますと，　650年に前記の，荒田井比羅夫が将作大匠として，難波長柄豊崎宮造営に従事した時，自分達の東漢直氏一族の意向もあり，故意に土木工事で失敗し，大失費により難波宮への遷都を断念させようとした事件があり，発覚したのです。ところが，将作監制度では，技術家である将作大匠に権力と共に，責任も集中していたにもかかわらず，その責任を問い失脚させると，都合が悪いので，その後も相変らず任務について活躍していたことです。

このことで，如何に高級技術者が不足していたか，また，必要としていたかが想像出来ますね。しかしこの事件で，最高指導技術者のみに独占的権限を持たせない機構である次の「木工寮」組織（宮内省に所属し，現在の建設省によく似た立場。　700年頃より。）が生まれるきっかけを与えたと考えられています。

■　建築技術者であれば，貴族にもなれた話

いよいよ話は，白鳳－天平と仏教文化の華開く時代へと，移って行くことになります。

御承知のように，律令国家においては，仏教が国家鎮護の役目を持ち，萬民豊楽のために欠くべからざるものとなりましたね。必然的に国立寺院が続出し，やがては全国に，国分寺，国分尼寺が次々と造営されることになりました。しかし，この時代の社会構造からすれば，高級技術者はそんなに一朝一夕には出来ませんよね。

この技術者の需要が加速される一方の状況に対応して，貴族中心政治であった律令国家も，思い切った措置を講ずることになります。

「令集解」によれば，「不限貴賤，知工人充得考」となります。当時は貴族以外で出世するには僧界だけでしたが，建築界も，大英断で，氏姓にとらわれない登龍門が開かれたわけです。

この門戸開放を，大和民族で優秀な人びとは，見のがすはずはありません。現代も最優秀な人びとが建築界に身を投じていますから，歴史は繰り返すものですかね。（ちょっと一言多かったかな？。）

やがて，これらのエリート族は官営工房で研修され，選抜登用の結果，最高出世頭組は貴族にまでも列せられることになります。

かつての豪族の子孫も，造宮省の物部多芸連建麻呂（美濃国出身か，）に代表されるように，栄誉ある建築技術者をめざし，最高の大工（知事クラスの待遇）の地位を獲得しています。ましてや，卑姓階級や農民層のなかの有能者は，我も我もと，あこがれの建築界に活躍の場を求めることになり，越前の国から出たといわれている益田連繩手（造東大寺司，従五位，大工）のように，優秀技術者が各方面から続出し，また，技術者の中味も，大工，少工，長上工，番上工と，巾も出来，勤務態様も広くなり，これら技術官の大活躍により，我国が世界に誇る，日本固有の天平建築文化へと昇華するわけですね。

奈良で1,200年後の現在までも奇蹟的に残っている，あの簡素で，壮大で，かつ，和様構造美の極致が追求された，天平時代を中心とした，てらでらの建物は，こうした大和国家の中から選ばれた優秀な技術者たちにより，始めて成し得た，かけがえの無い遺構ですね。法隆寺，薬師寺から唐招提寺と時代を追って，技術進歩の跡を見るも良く，個別的にテーマを持ち，見るも良し，いずれにしても，古代先輩の苦労や活躍を含めた大ロマンを思い巡らしながら，誇りを持って仰ぎ見ることが出来るわれわれ建築家は，しあわせであるし，



天平技術者の卒業作品的存在　　唐招提寺　金堂　筆者画



天平技術者の卒業作品的存在　　唐招提寺　金堂　筆者画

また，業蹟をしのぶことを有意義に感ずるのは小生だけでないだろうと思います。

どうか，まだ十分御覧になっていない方は，奈良に是非お越しいただき……。（なんだか奈良観光のＰＲをしている感じになりましたね。）

以上，建築歴史は素人なるが故に，盲，蛇におじずで大胆に，また，学者でない故に無責任にしゃべったわけですが，思わず長くなりました。おあとがよろしいようですから，下手な話はこれぐらいで止めて置きます。

◇　　◇

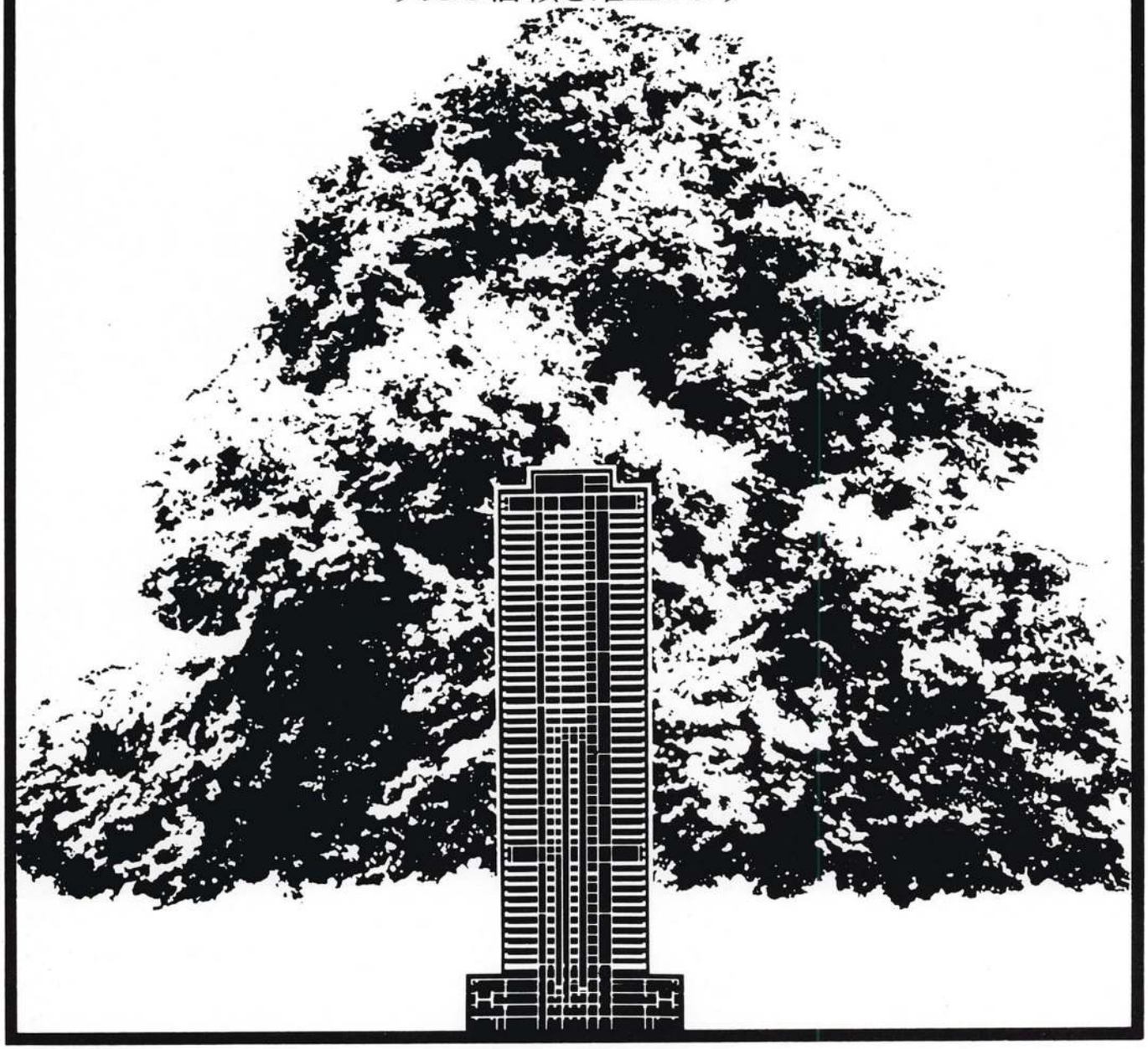
古代技術者のことについて研究されている，浅香年木，遠藤元男，太田博太郎，田辺泰，渡辺保忠，国立奈良文化財研究所の諸先生方の業蹟（文献）に対して，非常に感謝している今日，比頃です。

なお，貴重な紙面を借りて恐縮ですが，話の途中で簡単に出ました飛鳥時代の 588年から　624年，さらに 650年頃までの技術者のことについて，詳しいことを御存知か，その事に関する文献を知っている読者の方がありましたら，御教示下さるよう，よろしくお願い致します。　（おわり）

近畿電氣工事株式會社

信頼の大きさ…近電工の技術です。

脈動し 呼吸し 成長する都市…
その生命のシステムを支え構築する近電工
きたえあげた技術と組織を集中し
緻密さとパワーで
快適と安全と能率の
大きな信頼を確立します



電気・計装・空調・防災・土木

システムの信頼を高める
近電工

●取締役会長　岡本 繁一
●取締役社長　武田 恭一

大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号〒531☎06(375)6000

北海道・東北・東京・名古屋・滋賀・京都・奈良・和歌山・大阪・神戸・姫路・広島・四国・九州・沖縄

建築と社会 ニュース

ニュース原稿をお送りください。

海のまち 新しい世界——
ポートピア'81
1981年春開催 神戸ポートアイランド博覧会

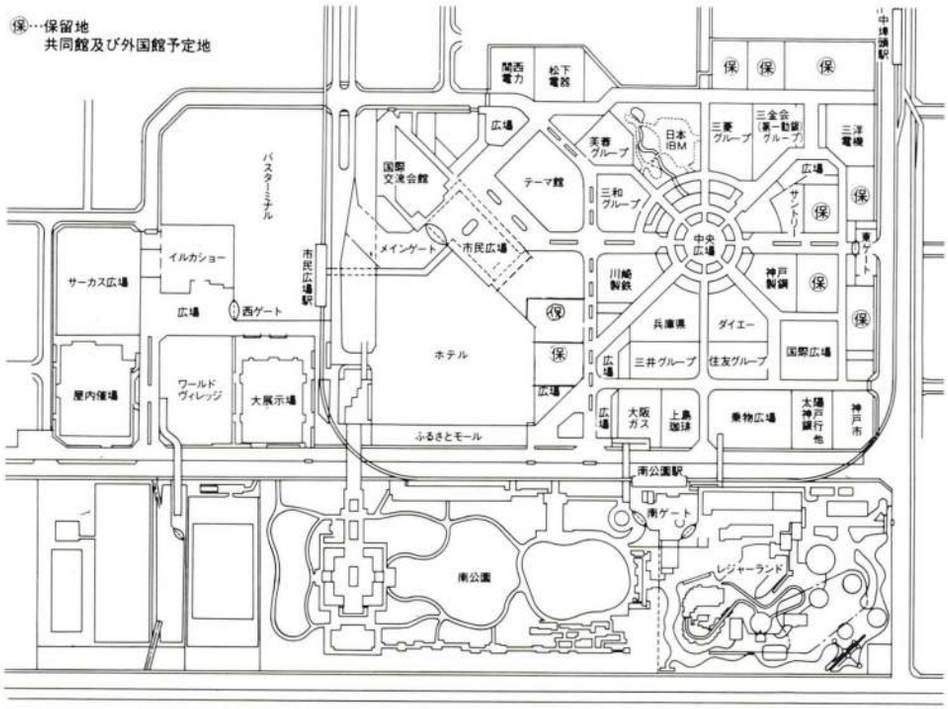
トピックス その6
パビリオン会場図

田中直人／㈶神戸ポートアイランド博覧会協会事務局

甲子園球場の 120倍。神戸港沖に浮かぶ巨大な人工島「ポートアイランド」の完成を記念して〝ポートピア '81〟が開催される。

〝ポートピア '81〟の目玉は，なんといっても，最新の技術と最高のアイデアを競うパビリオン群であろう。テーマ館，特別館，企業パビリオン，共同館，外国館と多彩に展開されるパビリオンの計画には，各出展企業やグループの英知と情熱が感じられるものばかりである。

博覧会会場図



出展参加者一覧表

	出展者名	展示内容	割当敷地面積
テーマ館	神戸ポートアイランド博覧会協会	ハイ・オービス劇場	㎡ 6,360
特別館	兵庫県	ひょうごの歴史を中心とし、風土と文化を紹介するべく検討中	3,240
	神戸市	"ヒューマンシティKOBE" 「緑と心のふれあいと生きがいのまちこうべ」	2,740
特設館	川崎製鉄	「新しい地球を考える」をテーマとした映像館	3,070
	神戸製鋼所	ホートラマ館 "海と空と生命" をテーマに半球スクリーンを使用した映像館	2,540
	サントリー	「水の遊び」を中心に水の持つ涼感、楽しさ、神秘性を表現する	2,930
	三和グループ	"海底へのいざない" をテーマ「ポートピアみどり館」	2,790
	太陽神戸銀行他	神戸プラネタリウムシアター	2,490
	ダイエー	ダイエー 180日間世界一周 "World 180"	3,030
	住友グループ	白水会21社を中心にグループで出展	2,510
	三菱グループ	三菱館（仮称）金曜会28社を中心にグループで出展	3,550
	日本IBM	"文明への情熱"をテーマとした日本アイ・ビー・エム館(仮称)	1,400
	三洋電機	"サンヨー館"	3,270
	関西電力	"これからの代替エネルギー" をテーマとした出展	2,610
	大阪ガス	未定	2,510
	上島珈琲	"UCCコーヒー館" ―"グッドデイ ナイス フレンド" をテーマに出展	2,510
	笑蒜グループ	未定	2,550
特設館	三金会(第一勧銀グループ)	ハート館（仮称）	2,920
	三井グループ	未定	2,910
	松下電器産業	松下館（仮称）	3,240
			申込敷地面積
共同館	万年社企画	フレッシュライフ'81 海を越えて結ぶよりよいくらし	2,000
	大広企画	ポートピア スポーツ スタジアム	3,000
	神戸新聞事業社企画	神戸ファッションシアター 宝石とファッションの出逢い	2,000
大展示場	1階	地方自治体出展について協議中	10,000
	2階	公社関係による出展について協議中	

㊟ 本資料は昭和54年11月1日現在のものである。

飛弾高山の民家と車田（飛弾の里）



竹中工務店、建設業界初のデミング賞受賞

㈱竹中工務店では，昭和51年、業界に先駆けて全社的品質管理（ＴＱＣ－Total Quality Control ）を導入し、今日まで約４年間強力に推進をはかってきた。この間ＴＱＣの実践により、建築作品の品質をはじめ、業務の質、企業体質の改善にかなりの成果が得られたところから、昭和54年夏、デミング賞に応募し、２ヵ月にわたり、全国７支店と本社機構の実情について詳細な審査を受けてきたが、去る10月17日、㈶日本科学技術連盟（会長　土光敏夫）より、〝デミング賞実施賞〟を受賞された。建設業でのデミング賞の受賞は、47万社におよぶ業界の中で当社が初めてのことである。

デミング賞とは：

1950年、米国の品質管理学会の第一人者であった、Ｗ．Ｅ．デミング博士は日本科学技術連盟の招きにより来日し、我が国での品質管理の普及に熱心な指導を行った。デミング賞は、この博士の業績と友情を記念して、日本の品質管理の一層の発展をはかるため、1951年、日本科学技術連盟により創設されたもの。

なお、積水化学工業も同じくデミング賞を受賞された。

1981年ワルシャワでＵＩＡ第14回大会予定

1978年、メキシコでの第13期ＩＵＡ国際会議（ＵＩＡ）において、第14回会議が加盟国ポーランドのワルシャワにおいて開催されることに決った。

議題は、「建築－人－環境」で、期間は1981年６月15日～21日である。招待客は、建築家および同伴者、および会議の内容に興味のある人になっている。

歴史的集落と街路景観—16—

辻景観　その5

紙野桂人（大阪大学助教授）
長瀬信義（大阪大学大学院卒）
渡辺豪秀（大阪大学大学院生）
三木　亨（大阪大学学生）

旧集落には，三叉路と四つ辻が圧倒的に多く見られるが、時々五叉路に出会うことがある。五本の道がひとつの辻に寄り集まってくるため，村人たちの出会いの場となる可能性が高い。四つ辻などに比べて方向性を見失いやすく、エトランゼにとっては地理がつかみにくくなるように思える。しかし、目につきやすい要素や空間的なふくらみがあって、辻そのものとして変化のある眺めとなり、単に道の接点としてよりも、視覚的に印象深い空間となってくる。

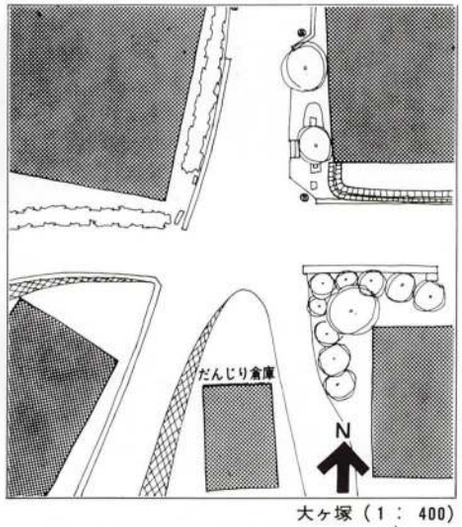
今回は、辻の現状を示す平面図（縮尺１： 400）と、辻空間のもともとの様子を附近の要素から想像し再構成してみた図（縮尺１： 300）とを掲載し、辻ほんらいの空間的魅力の一端を伝えることにする。



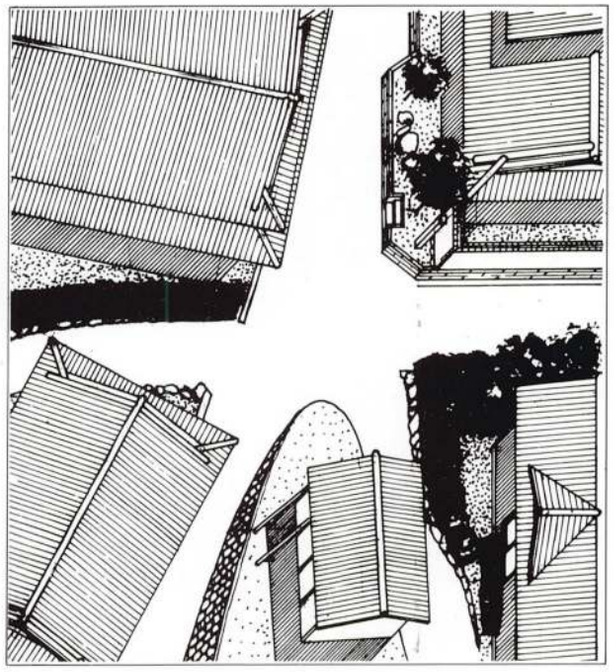


五本の道が一点に寄り集まった典型的な大の字型の五叉路である。辻の南側の股部にあるだんじり倉庫がこの辻の核になっていて、その妻面が視線をとらえる。





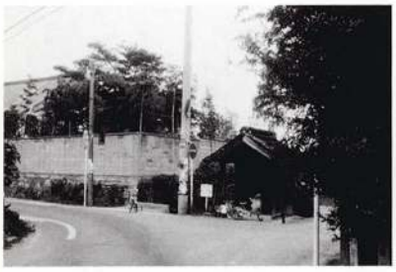
大ヶ塚（１： 400）

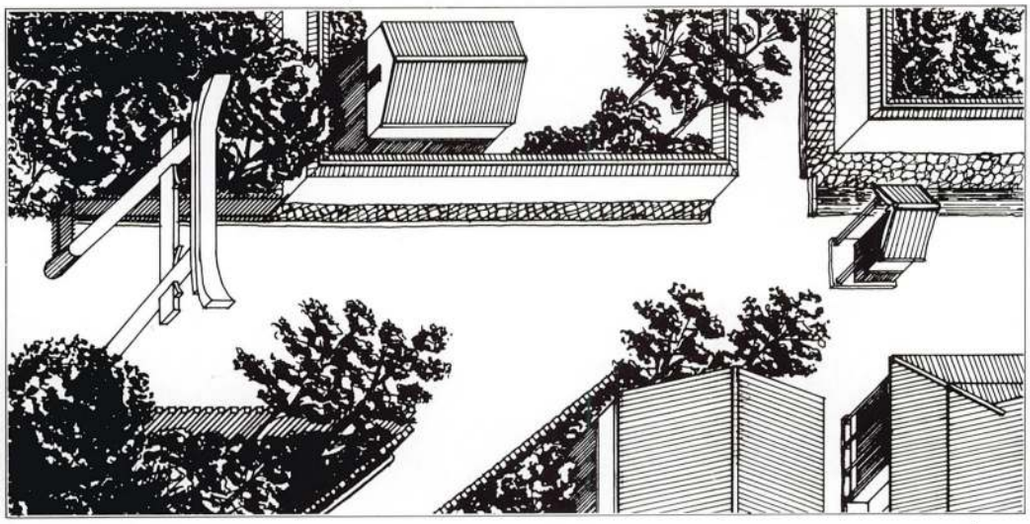


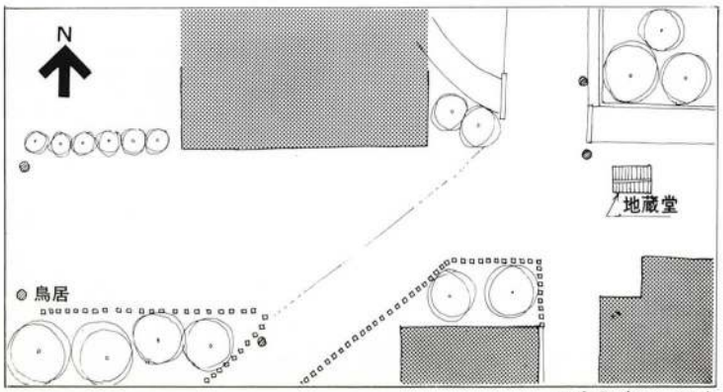




寺内町久宝寺の南端に位置する許麻神社の鳥居前の広場である。東西両側の鳥居と地蔵堂が向い合って、辻の要となり、比較的広く開放性の高い空間に小広場とも言えるまとまりを与えている。







久宝寺（１： 400）

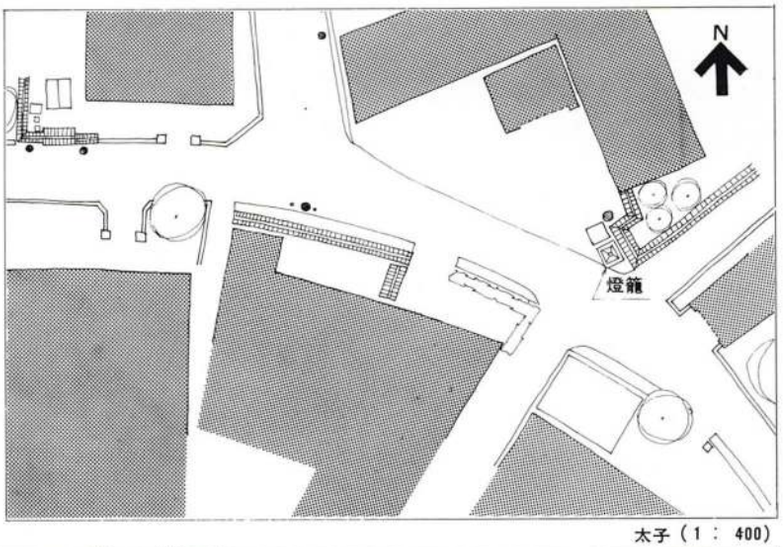






民家の土蔵によって囲まれた入隅が、三角形の小広場となり、それが媒介して三叉路と四つ辻をひとつに結び、全体として五叉路の辻となっている。常夜燈が目を引き、空間を引き締めている。時には、農作業の場となって活き活きとした様相を呈することもあろう。

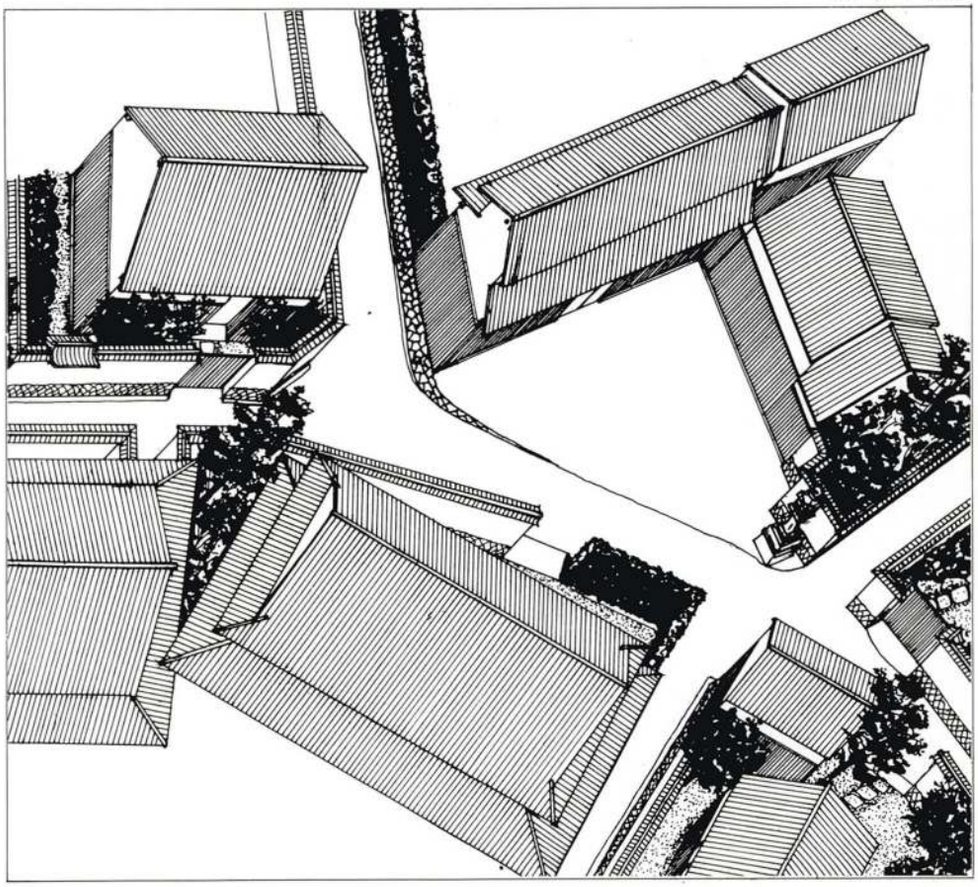




太子（1： 400）





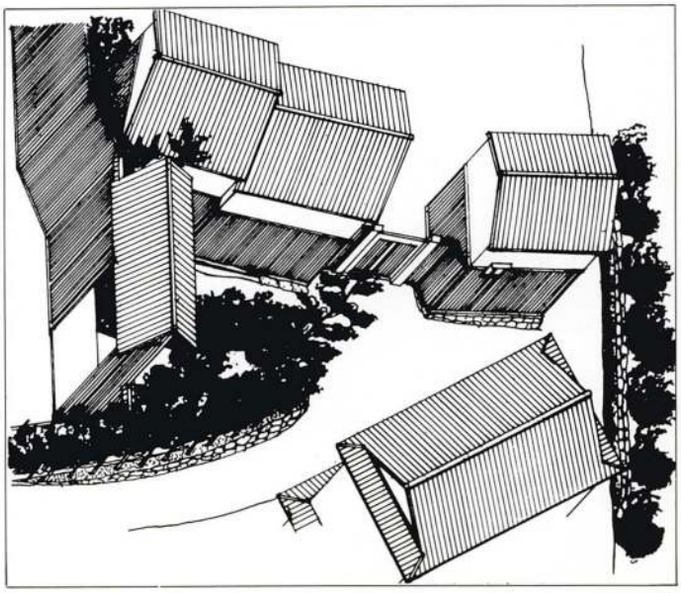


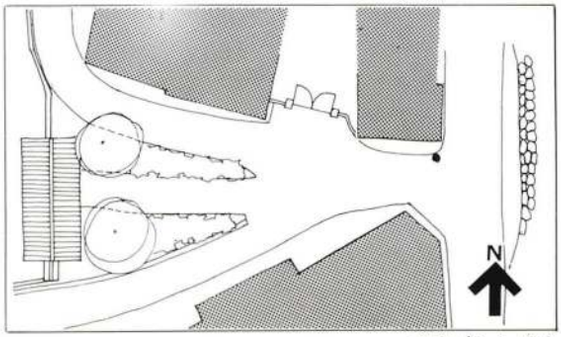






特殊な五叉路であるが、そのうち1本（道(3)）は家に入る通路である。また道(2)、(3)、(4)が同じような角度で辻につながっているため、T字路に似た様子となっている。民家への通路の両側を囲む植栽がこの辻の空間をひとつに結びつけている。





招提（1： 400）

建築の眼

中原信生
名古屋大学教授

田村明
横浜市役所技監

高橋慶夫
高橋上田設計事務所
取締役社長

木田幸夫
大林組東京本社設計管理部長

1月号から6月号まで
上記4氏が担当



室内環境の質論 第1話

省エネルギーのためには勿論のことであるが、人体の健康保持を前提としての快適性を求める保健空調のための室内環境条件の現状は是非とも見直さねばならない。いささかなりとも問題の解決に近づき得るように一昨年末筆者は建築学会大会に小論を提起しており、また具体的な空調装置設計のための室内環境条件設定を、空気調和衛生工学会省エネルギ小委員会でまとめた非住宅建物の省エネルギー設計技術指針(1979.10)で提案した。議論を喚起し、全体的合意に到達することが一つの目的であるが、18℃では寒い、とか、CO_2 濃度1000ppmの線は崩せない、とかいう答しか帰って来ない。提案した値は製造設計用であると控え目に唱えてはいるが、たとえそれを運転条件としても、寒さに順応しているはずの人体に対する冬期の室内環境条件として低すぎて仕事にならない、ということは絶対に無い。服装でカバーできるからである。そして着すぎて汗をかくような冬の室内環境の方がよほど健康上問題である。筆者がこの議論で最も問題としたいのは、①過度の冷暖房状況をなぜ質の良い環境と定義せねばならないのか、②誰もが判り切っている喫煙の及ぼす室内環境への悪影響をなぜ徹底的に追及しようとしないのか、である。

(N・N)

アーバンデザインとは

もう一昔か二昔前、アーバンデザインはずい分と建築ジャーナリズムをにぎわしたものである。ところがその後、声はひそまり、実際面でのアーバンデザインは不毛、不発に終ってしまった。

アーバンデザインとは、ひとりの設計者が都市全部の設計をする「都市設計」ではない。一個の建築物だけでない団地、キャンパス、再開発などの設計は、都市の部分についての地区設計、あるいは複合施設設計である。ところが、都市とは、このように一つの事業体が、一定の期間内に完結させるものではない。都市は公共、民間をとわず数多くの主体が、多様な目的と価値観をもってつくりあげているものである。しかも、都市づくりは都市がある限り終りはない。したがって多くの時代のものが重層的に積み上がって形成されてゆくものである。

この複雑な都市環境は、都市ごとには多様だが、その都市にとってはひとつしかない。とすると、多くの主体は必然的にひとつの都市づくりに参加しているのである。それをばらばらのものとせず、共同して総合的な環境としての都市空間にまとめ、誘導し、演出し、完行してゆく手法がアーバンデザインなのである。

(T・A)

三角の構造・四角の構造

曲げに抵抗できる材料で家を造るとなると四角の構造となり、曲げに抵抗できない材料で造る場合は三角の構造となるようである。前者はラーメン構造となり、後者は壁の構造からアーチの構造となり、やがてシェルにまで発展する。

建築の構造は重力に耐える他に水平の力にも耐えなければならないが三角の構造は自重が大きいので重力の方に問題が大きく、地震や風に対しての配慮はあまりなされなかった。経験が少ないこともその理由のひとつであったかも知れない。高く高くとする中世ヨーロッパキリスト教大会堂のドームが一夜にして崩れ去ったことから、「アーチは眠らず」として重力の脅威をおそれたのもヨーロッパの人々であった。鋼が生産されるようになるとヨーロッパに四角の構造が始まる。鉄筋コンクリートのラーメン構造もそれであり、やがて日本にも輸入される。

日本は四角の構造では先輩ではあるが、三角の効用を知らぬ訳ではなかった。日本人の好みとして三角が目立つことを嫌ったから使わなかったに過ぎなかったのである。鉄筋コンクリートの四角の構造がはいるとこれに壁という三角の要素を組み入れて地震に対しても安全なものとして使ってきた。耐震壁と呼ばれるものである。

(T・Y)

コンピュータの利用

設計計算に電算機を利用するのは日常茶飯のこととなったが、このプログラム作りに手数のかかるのが悩みである。省力化をうたいながら、一方で相当な人手をかけている。トータルでの効率はどちらがよいのか分からないことがある。

最近、日本建築センターに電算プログラムの評定委員会が作られ、鉄筋コンクリートの一貫設計プログラムなどが評定されている。これなどは、細部でのプログラムテクニックで多少の差はあるとしても、学会規準をその通り忠実にコーディングしているのであるから本質的に差のある筈がない。こんな同じものを作るために、それぞれの会社で大きな労力を費やしている。また評定委員会の御苦労も大変なものである。一つの良いプログラムがあれば、それを皆で利用すればよいのではないか。

わが国の建築設計界で、電算プログラムを流通できるような経路はほとんどないといってよい。この流通市場が形成されることが大変望ましいと思う。建築協会あたりで中心となって進めて頂けないであろうか。

(K・Y)

— 1980年・新春放談 —

◀80年代に向けて……建築を語る

万国博とともに幕をあけた70年代は、大型公共建築、超高層建築の林立、環境問題、保存問題、あるいは省エネルギーについての多くの問題提起、また一方で〝空間〟の意味性を表現する観念的建築（コンセプチュアル）の輩出……といったさまざまな位相を含み、複雑な様相を呈したまま80年代へ移行しようとしています。

とくに60年代後半から70年代にかけて展開された近代建築の再考、変換、解体、複合化といわれる建築の潮流は、内外を問わず大きな影響を与えましたが、それでは、80年代の建築文化はどのような方向に向かい、いかなる質を獲得するのかをあらためて問うことが、私たちにとっても重要ではないかと思われます。

そこで今回は、80年代の初回を飾る企画として、石井和紘、石山修武、木島安史、渡辺豊和の４氏をお招きし、80年代の展望、抱負などを大いに語っていただくことにしました。

４氏は、雑誌などで知られているように、極めて個性的建築のデザイナーであると同時に、独自の建築論で絶えず状況に問題提起をされており、80年代においても少なからず影響力を持つ建築家だと思います。

もちまえの毒気に満ちたアイロニーと香り高きエスプリをまじえつつ語られる中に、独自のユニークな審美学と深い洞察力がうかがえるかと期待しております。多数、ふるってご参加下さい。

日　　時　昭和55年1月26日(土)　開場 13:00　開会 13:30→閉会 16:30

会　　場　森ノ宮ピロティ小ホール
（大阪市東区森ノ宮中央１－17－５・TEL. 06-944-1151）
ただし、大阪・国鉄環状線または地下鉄中央線「森ノ宮」駅より西へ徒歩５分(日生球場の東隣り)

ゲ ス ト　石井　和紘氏（石井和紘建築研究所　所　長）
石山　修武氏（ダムダン空間工作所　所　長）
木島　安史氏（熊本大学工学部　助教授）
渡辺　豊和氏（渡辺豊和建築工房　主　宰）

定　　員　２００名

参加会費　会　員　1,000円
会員外　1,300円
} 当日参加証とともに受付へご提出下さい。

●なお、当日は定員数に余裕があれば受付けますが、会費は会員・外を問わず1,500円申し受けます。

申込方法、参加証について

１月18日(金)までにハガキに(官、私製を問わず)、氏名・年令・勤務先名または在校名・参加証送付先住所・郵便番号・連絡電話番号・会員、会員外の区別を明確に記入の上、「1980年・新春放談参加申込」として日本建築協会事業課(大阪市東区北浜３－37)へご送付願います。

ただし、定員を超過した時は、会員優先の上、抽せんで決定し、１月23日(水)までに参加証をお送りします。



石井和紘氏

1944年　２月生
1967年　東京大学工学部建築学科卒業
1975年　同大学院博士課程終了
同　　イエール大学建築学科修士課程終了
現　在　石井和紘建築研究所 所長
●主な作品及著書
・54の窓
・直島文教地区
・54の屋根
・「イエール・建築・通勤留学」(鹿島出版会)



石山修武氏

1944年　４月生
1967年　早稲田大学理工学部修士課程卒業
現　在　ダムダン空間工作所 所長
早稲田大学 講師
●主な作品
・幻庵
・開拓の家
・エッグドーム



木島安史氏

1937年　５月生
1962年　早稲田大学理工学部卒業
1962～64年　トロハ研究所留学
1964～66年　早稲田大学吉阪研究室
現　在　熊本大学工学部助教授
●主な作品及著書
・上無田神社
・「地中海建築」(日本学術振興会)



渡辺豊和氏

1938年　８月生
1961年　福井大学工学部建築学科卒業
1964～70年　ＲＩＡ建築総合研究所
1970～72年　都市問題経営研究所
現　在　渡辺豊和建築工房主宰
●主な作品
・中内邸
・吉岡邸１号
・テラスロマネスク桃山台

都市住宅を考える(4)

◀明治の香りを残すまちづくりと古都のタウンハウス(北大路高野住宅)を見る

都市住宅を考えるシリーズとして今回は、京都洛北の既存の市街地に歴史的環境と〝まち並み〟との調和を考慮して建設中の高野団地を見学することにいたします。

高野団地は旧鐘紡京都工場跡地に計画されたもので、第一、第二団地に分かれ、第一団地は京都のメインストリートの一つである東大路通に面して、中高層住棟を配置しています。この鐘紡京都工場は、明治40年創業の古い紡績工場であり、工場史上特筆すべき建物です。この古い赤煉瓦造の一部を保全し、団地の集会室として再利用するとともに、レンガ造りの雰囲気を団地全体のデザインポリシーとして計画されております。

また、第二団地は少し北寄りの風致地区に指定されている鴨東地区内にあり、西側に鴨川の支流である高野川の流れ、東山・北山の眺望も展け、極めて風趣に富んだところに位置し、この環境に調和させるために建物はRC造2階建のタウンハウスで、ファサードには格子を設け、屋根は黒色のシングル葺きとし、京の町家を現代風にアレンジしたものです。

今回はこの二つの団地を見学し、この計画に直接担当された公団・設計第1課長の高木登氏に講師をお願いし、先ごろ話題になった東京・多摩ニュータウンのタウンハウスなどのスライドもまじえて、これからの公団住宅の設計のあり方などについてお話を伺います。多数のご参加をお待ちします。

日　時　2月2日(土)　集合14：00→解散17：00

集合場所　京都市バス「赤ノ宮」停留所前付近・(京都市左京区高野上竹屋町)・目標会旗

〔参考〕　集合所までの交通費は各自ご負担願います。
京都より……京阪電車三条駅前より→南出口前バスターミナルより13：38発「小出石町」行(14)または(15)番バスに乗車→赤ノ宮、下車(所要約20分、バス運賃 110円)

講　師　高木　登氏(日本住宅公団関西支社設計部・設計第一課長)

定　員　30名

参加会費　会　員　600円
会員外　900円　(資料・飲物代、その他)当日徴収

スケジュール

14:00→15:00　見学と説明(第1、第2団地見学)
15:30→16:30　講演とスライド(於 第1団地の赤レンガの集会所)
16:30→16:45　質疑応答、その他……　解散(現地)

申　込　往復はがきに限ります。1名に1枚限りとし、氏名・勤務先名・所属部課名・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入し、「都市住宅を考える(4)」と明記の上、1月25日(金)までに日本建築協会事業課へ。



第二団地のタウンハウス



鐘紡京都工場の一部を再利用した第一団地集会室

◀灘の清酒・菊正宗嘉宝蔵と記念館の見学

恒例の酒蔵見学は、灘の生一本〝辛口ひとすじ〟としても有名な「菊正宗」の嘉宝蔵を訪ねることにしました。

清酒「菊正宗」の歴史は古く、310余年前の万治2年(1659年)に本嘉納家が、神戸・御影の地にて醸造を始めてより、代々治郎右衛門を襲名して今日に至っております。

今回は、日本酒のふるさと、灘五郷の魚崎郷において菊正宗の独特の手法に最新の技術をいかして近代的設備を整えた四季醸造酒の菊栄工場を見学し、ついで菊正宗酒造記念館において創業時よりの酒造用具などをじっくりと拝見いたしたいと思います。
多数ご参加をお待ちします。

なお、この企画に際して、菊正宗酒造株式会社の特別のご厚意と㈱大林組のご斡旋とご協力をいただきました。

日　時　2月13日(水)　集合13：40→解散16：00(現地)

集合場所　阪神電鉄・神戸線「魚崎」駅・地下改札出口前・目標会旗

〔参考〕　集合所までの交通費は各自ご負担願います。
大阪より……阪神電車、神戸方面行特急乗車→西宮で普通に乗り替え→「魚崎」駅下車(運賃片道 150円、阪神特急は毎時0分より12分間隔で発車、所要約25分)

定　員　30名

参加会費　会　員　500円
会員外　700円　(当日いただきます)

申　込　往復はがきに限ります。1名1枚限りとし、氏名・勤務先名・所在地・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入し、「酒蔵・菊正宗の見学」と明記の上、1月 31 日(木)までに建築協会事業課へ。

◎菊正宗酒造記念館について

同記念館は、1659年、本嘉納家が酒造りを創めたときに建造された酒蔵で、数ある菊正宗の酒蔵のなかでも特に品質の優良な清酒の醸造に使われた内蔵とか本店蔵と呼ばれている由緒あるもので、昭和33年に第2阪神国道の建設計画により、現在地に移築、原型保存をされて記念館として新しく生まれかわった建物で、解体から再建作業に1年半を要し、昔のままの組立式で、カンナや釘、カスガイなどを一切使用せずに復原された野趣に富んだ小屋組の手法が保存されております。

また、内部には昔から伝わる酒造りの用器具、小道具などを多数収集、展示し、酒造りの歴史を一目に伝え、国の重要有形民俗文化財に指定されており、建築学上貴重な建物として広く知られております。

大丸百貨店における

◀第16回「よろず相談住宅展」開催

本会では毎年好評を博しております「よろず相談住宅展」を、本年は会場を大丸百貨店にかえて、下記のとおり開催することになりました。

今回は“わが家のそなえ”をサブテーマに開催いたします。

記

会　　期　昭和55年2月21日(木)～26日(火)……6日間
会　　場　大丸百貨店南館7階催会場
主　　催　社団法人 日本建築協会、財団法人 大阪建築防災センター
後　　援　大阪府・大阪市・住宅金融公庫・日本住宅公団・朝日新聞社
展覧会内容
1. 大手分譲住宅会社(含マンション)及びプレハブメーカーの相談コーナー
1. 住まいに関する建材・設備などの展示コーナー
1. 住宅よろず相談コーナー
1. インテリア及び設備工事などの相談コーナー
1. 住宅に関する資料及び模型の展示
1. テレビ受信相談、防犯コーナー

毎日出版文化賞受賞

◀ふるさとのすまい―日本民家集―復刻版残部僅少

本会の創立45周年を記念して昭和37年に出版された上記図書の復刻版の残部が少しありますので、ご希望の方は早急に本会（大阪市東区北浜3－37、電話06－231－9648）までお申込み下さい。

A5変形判（18.5cm×17.5cm）上製函入270頁

定価5,700円のところ会員特価5000円（送料 250円）

建築技術選書第14号

◀「設計のコンピューター手法」発刊

建築技術選書の第14号として、1月中旬に、「設計のコンピューター手法」―建築とコンピューター(2)―が発刊されます。

著者の飯塚英雄氏は、日建設計において長くこの手法の開発に取り組んでこられたベテランであります。最近のコンピューター援用設計（CAD）を学ぶ上にも最適の書と信じます。

本書の内容は、つぎのとおりです。

第1章　建築計画とコンピューター
第2章　図形の数値化と数値の図形化
第3章　図形を計算する
第4章　自動車の回転スペース
第5章　昼光照度の計算と照度分布図
第6章　建築日影図の作成
第7章　コンピューター透視図
第8章　自動製図
第9章　シミュレーション
第10章　実際のプログラム例

定価は￥1000で、全国主要書店でお買い求めになれますが、本会事務局までお求めにこられた方には￥900で頒布いたしております。送付希望の方は送料（1冊につき約160円）をご負担下さい。

なお、1号より13号までの選書名は、P56を参照下さい。

◀会員の受章

このたび下記会員の方々が、叙勲並びに褒章受章の栄に浴せられました。

ここに誌してその栄誉をお慶び申し上げます。

記

秋の叙勲

勲一等瑞宝章　西山　磐氏(元大阪瓦斯社長)
勲三等旭日中綬章　稗田　治氏(元建設省住宅局長)
勲四等旭日小綬章　水野金市氏(中部工業大学教授)
〃　瑞宝章　島田孝治氏(片山鉄工所会長)
勲五等双光旭日章　横田辰三氏(マンテン社長)

褒　章

藍綬褒章　石橋信夫氏(大和ハウス工業社長)
〃　庄野勝氏(不動建設社長)
〃　細野松雄氏(三友工業常務取締役)
黄綬褒章　小川利光氏(愛知県建築士会会長)

第13回光学五学会関西支部連合講演会ご案内

◀「太陽エネルギーの利用と光変換技術」(再掲)

省エネルギー問題が大きくクローズアップされ、新しいエネルギー資源の開発とエネルギーの有効利用について、積極的な取り組みがなされています。光学五学会では、特に太陽エネルギーの利用にスポットを当てるとともに、技術革新の著しい光センサーに関する最新の研究と応用について、標記講演会を開きます。多数ご来聴くださいますようご案内申しあげます。

日　　時　昭和55年1月25日(金)　9：30～17：05
会　　場　阪急ターミナルビル14階　島津ホール
大阪市北区芝田1－1－4（電話06－373－6522）
主　　催　日本写真学会西部支部　日本分光学会関西支部
日本色彩学会関西支部　照明学会関西支部
応用物理学会光学懇話会
協　　賛　空気調和衛生工学会近畿支部　日本建築協会
講演テーマ
●午前中
光エネルギーの化学的変換／羽田　宏(京大工)
光電変換素子の最近の動向／鈴木　佐喜雄(浜松テレビ)
●午　後
赤外センサー／宮尾　亘(東芝総研)
トピックス講演：ソーラハウスについて／内山　武夫(新日本空調)
昼光の利用／伊藤　克三(阪大工)
太陽熱発電システムの現状と将来への展望／谷　辰夫(電総研)
●参加申込みについて
参加費　五学会員及び協賛学会員：4000円(会社一般)、2,500円(学校、国公立研究所)　学会員外：5,000円、学生：1,000円(いずれも予稿集代を含む)　予稿集のみ希望の場合：1,000円＋送料200円(講演会終了後郵送)
申込み締切　昭和55年1月16日(水)必着
申込み場所　大阪市北区堂島浜2－1－25　関西電気協会内
照明学会関西支部　中村重次（電話 06－345－6351）
申込み方法の詳細は、お問い合わせ下さい。

謹賀新年

昭和55年元旦

(50音順)

阿部暢

東洋土建株式会社 取締役社長
〒546 大阪市東住吉区田辺東ノ町6丁目33 電話06(692)1331～5
〒546 自宅・大阪市東住吉区田辺東ノ町5丁目24
電話06(629)1008

淺沼猪之吉

株式会社 淺沼組 取締役会長
〒543 大阪市天王寺区東高津町8番地の1 電話06(768)5222

安部恒夫

安部建設株式会社 取締役社長
〒559 大阪市住之江区西住之江2丁目7番5号 電話06(678)3212代
〒559 自宅・大阪市住之江区西住之江2丁目7番5号
電話06(671)7774

名誉正会員

青盛繁男

青盛建材株式会社 取締役会長
〒733 広島市舟入幸町19－10 電話0822(92)3200
〒734 自宅・広島市翠町1507の10 電話0822(51)6730

淺沼茂夫

株式会社 淺沼組 取締役社長
〒543 大阪市天王寺区東高津町8番地の1 電話06(768)5222

諫早信夫

フドウ建研株式会社 相談役
〒110 東京都台東区台東1—2—1 日本地所第二ビル
電話03(835)2661
〒157 東京都世田谷区南烏山2—18—4 電話03(300)3705

青山幸夫

株式会社 青山建築積算事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1-10-19江南ビル 電話06(443)0430
〒610-11 自宅・京都市西京区大原野上里勝山町14—6
電話075(331)8082

淺沼誠夫

株式会社 淺沼組 専務取締役
〒543 大阪市天王寺区東高津町8番地の1 電話06(768)5222

井上秋次

井上窯業株式会社 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区生玉町40番地 電話06(771)2825
〒659 自宅・芦屋市川西町4番23号 電話0797(22)5930

赤松修

株式会社 赤松菅野建築設計事務所 代表取締役
〒530 大阪市北区西天満6丁目1-12 瑞穂ビル
電話06(364)5651
〒560 自宅・豊中市千里園2丁目2－33 電話06(852)4622

浅海正雄

浅海電気株式会社 取締役社長
〒530 大阪市北区西天満3丁目7番4号 電話06(362)8701～8
〒665 自宅・宝塚市御殿山2丁目31-50-109号
電話0797(85)0745

井上正一

名古屋建築設計事務所 所長
〒453 名古屋市中村区椿町20の15 国鉄会館内
電話052(451)2025直通
〒464 自宅・名古屋市千種区下方町4の30 電話052(711)9400

名誉正会員

安藝元清

株式会社 日建設計 取締役社長
〒541 大阪市東区横堀2丁目38番地 電話06(203)2361

新昭一

株式会社 新工務所 取締役社長
〒530 大阪市北区曽根崎2丁目8番7号 電話06(313)1331

井上福蔵

株式会社 井上組 代表取締役
〒534 大阪市都島区網島町6番25号 電話06(352)4031～4
電話06(351)0530
〒577 自宅・東大阪市東石切町6丁目4番4号 電話0729(81)2526

浅井泰

株式会社 笠谷工務店 専務取締役
〒659 芦屋市業平町4－1 電話0797(22)0703
〒659 自宅・芦屋市翠ヶ丘町13－5 電話0797(22)5291

新下帝次郎

株式会社 新下工業 取締役社長
〒612 京都市伏見区桃山福島太夫西町6番地
電話075(611)2275代

井上達明

株式会社 井上達明建築事務所 代表取締役
〒530 大阪市北区鶴野町1番3号 安田ビル 電話06(372)2821代
〒555 自宅・大阪市西淀川区竹島3丁目7の4電話06(473)1069

浅野真澄

株式会社 浅野建築設計事務所 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区城南寺町9－27 電話06(768)0201
〒572 自宅・寝屋川市成田西町4－21 電話0720(31)1750

姉川正男

東光電気工事株式会社大阪支社 常務取締役支社長
〒541 大阪市東区高麗橋5丁目28番地 電話06(202)0325
〒565 自宅・吹田市藤白台4の30の12 電話06(872)3214

石渡年雄

株式会社 石渡康三郎塗装店 取締役社長
〒545 大阪市阿倍野区播磨町2丁目6-1 電話06(693)2031代
〒545 自宅・大阪市阿倍野区帝塚山1丁目5-8
電話06(621)8110

謹賀新年

昭和55年元旦

(50音順)

礒岩　武

大機建材工業株式会社　専務取締役

〒561 豊中市庄内栄町5丁目5番16号　電話06(333)2137
〒665 自宅・宝塚市中山台2－18－9　電話0797(88)3698

伊地知堅一

大鉄工業株式会社　取締役社長

〒532 大阪市淀川区宮原4丁目4番44号　電話06(394)1281大代
〒661 自宅・尼崎市南武庫之荘5丁目13番15号
電話06(438)2148

伊藤喜三郎

株式会社伊藤喜三郎建築研究所　代表取締役社長

〒102 本社・東京都千代田区紀尾井町3番23号　文芸春秋ビル
電話03(263)1481代～7
支所　神戸・福岡・仙台

伊藤三郎

大栄電気株式会社大阪支店　取締役副社長　大阪支店長

〒550 大阪市西区京町堀1－12－14　電話06(443)0631
〒560 自宅・豊中市北桜塚3－8－7　電話06(854)7747

伊藤智康

東陶機器株式会社大阪支社　取締役支社長

〒530 大阪市北区曽根崎2丁目3番7号
梅新第一生命ビル東館　電話06(364)1181

飯田精次郎

共同設計株式会社　代表取締役社長

〒530 大阪市北区西天満5丁目10番14号　電話06(364)5836
〒105 東京事務所・東京都渋谷区渋谷1-10-1 八千代ビル内
電話03(407)0912　03(409)1837
〒733 広島事務所・広島市堺町2－3－17　電話0822(94)1828
〒520 大津事務所・大津市浜大津4-4-4　電話0775(23)0388
〒620 福知山事務所・京都府福知山市末広町6丁目4番地 福電ビル
電話0773(23)5208

生島道春

社団法人　日本建築積算協会関西支部　支部長

〒542 大阪市南区鰻谷中之町62番地　市川ビル2F
電話06(245)6645
〒573-01 自宅・枚方市大字長尾586-50　電話0720(51)5633

生田重政

日本建設株式会社　取締役社長

〒541 大阪市東区安土町4丁目5番地　電話06(261)7591～8
〒659 自宅・芦屋市朝日ケ丘22番11号　電話0797(23)0657

石川武男

関東電気工事株式会社関西支店　支店長

〒541 大阪市東区南久宝寺町3丁目41番地　電話06(253)0291

石川良興

日本冷熱工産株式会社　代表取締役社長

〒564 吹田市豊津町40番38号　電話06(384)1201代
〒560 自宅・豊中市蛍池東町4丁目7番12号
電話06(841)0032

泉沢哲史

株式会社　泉沢建築設計事務所　代表取締役

〒530 大阪市北区西天満4丁目12番2号　オオシマビル
電話06(364)9071代

一宮能和

日泉化学工業株式会社　取締役副社長

〒550 大阪市西区土佐堀通1丁目1番9号　タケウチビル
電話06(443)2261代
〒657 自宅・神戸市灘区篠原南町2-3-24　電話078(871)3479

市川繁雄

日本管工業株式会社　取締役社長

〒601 京都市南区西九条豊田町20　電話075(681)5101～5
〒606 自宅・京都市左京区下鴨芝本町37　電話075(781)0289

市川　宏

株式会社　東畑建築事務所　専務取締役

〒541 大阪市東区伏見町5－19　電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4丁目4－32
電話078(811)0216

今井忠臣

イマヰ建設工業株式会社　代表取締役社長

〒547 大阪市平野区平野北2－9－15　電話06(792)4425
〒547 自宅・大阪市平野区平野北2－9－15　電話06(792)4404

今西茂雄

株式会社 今西建築デザインルーム　代表取締役

〒550 大阪市西区南堀江1丁目22番17号　電話06(541)3051～2

今村　騰

取締役会長

平木　寛

取締役社長

中央電気工業株式会社

〒530 大阪市北区西天満6丁目9番8号
電話06(312)8881大代

今元康彦

近畿電気工事株式会社　取締役名誉会長

〒531 大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号　電話06(375)6000
〒560 自宅・豊中市北桜塚4丁目5番5号　電話06(852)5887

稲畠和治

三機工業株式会社大阪支店　支店長

〒541 大阪市東区北浜2丁目22番地　電話(06)202-3051代
3071代
〒662 自宅・西宮市松園町3番11号　電話0798(33)0405

名誉正会員

岩佐信也

〒630 自宅・奈良市法蓮町南2丁目1079の1
電話0742(23)2890

名誉正会員

岩崎甚太郎

〒666 自宅・兵庫県川西市花屋敷1丁目32の11
電話0727(59)9317

謹賀新年

昭和55年元旦

(50音順)

岩崎　徹

株式会社 岩崎建築設計事務所 代表取締役

〒630 本社・奈良市大森町57の3 農協会館内
電話0742(22)2283代
〒631 自宅・奈良市学園北1丁目5－11 電話0742(47)2210

岩崎　弘

専務取締役

寺西礼一

常務取締役所長

株式会社 教育施設研究所 大阪事務所

〒550 大阪市西区立売堀1丁目13番1号 大信ビル 電話 06(531)0913
電話 06(541)7301
〒630 自宅・奈良市法蓮立花町1046 電話0742(22)2217
〒661 自宅・尼崎市常吉字赤田9の5 電話 06(431)2101

岩崎久雄

高千穂電機株式会社 取締役社長

〒534 大阪市都島区中野町4丁目8番10号 電話06(358)1171
〒565 自宅・豊中市新千里南町3丁目34番7号
電話06(831)5118

岩崎善雄

建築用吹付材・壁塗料・土木材料の総合メーカー

恒和化学工業株式会社 代表取締役社長

〒561 豊中市豊南町南6丁目3－13 電話06(332)5721
〒143 自宅・東京都大田区山王2－30－10 電話03(777)7001

岩本義心

野村建設工業株式会社 取締役社長

〒541 大阪市東区高麗橋2丁目9番地 電話06(202)1791代
〒581 自宅八尾市山本町4丁目5-7 電話0729(22)2908

上田宇三

株式会社 日匠設計 代表取締役

〒580 本社・大阪事務所・大阪府松原市西大塚1－5－6
電話0723(31)3857代
〒520－32 滋賀事務所・滋賀県甲賀郡甲西町大字平松
電話07487(2)1114
〒580 自宅・大阪府松原市西大塚1－5－6 電話0723(31)1554

上西圭治

株式会社 大気社 取締役社長

〒530 大阪市北区中之島3－2－18 住友中之島ビル7階
電話06(448)5871
〒659 自宅・兵庫県芦屋市浜町12－14電話0797(22)5949

植野寿雄

株式会社 寿建築積算事務所 所長

〒542 大阪市南区東清水町48つるのすビル 電話06(244)1561
〒588 自宅・堺市大美野5－9 電話0722(37)1162

打浪政信

株式会社 新興建材工業所 常務取締役

〒550 大阪市西区南堀江4丁目32番11号 電話06(538)2951代
〒564 自宅・吹田市吹東町43－3 電話06(383)0217

江川好己

株式会社 江川神津設計事務所 大阪事務所 代表取締役所長

〒532 大阪市淀川区西中島4-10-2 ピラ新大阪
電話06(304)7439
〒659 自宅・芦屋市三條町288 電話0797(22)9269

小川　正

株式会社 竹中工務店顧問

〒541 大阪市東区本町4－27 電話06(252)1201

小河吉之助

財団法人 大阪建築防災センター 理事長

〒541 大阪市東区博労町2丁目41番地 中博ビル3階
電話06(261)0212
〒573 自宅・枚方市香里ケ丘12丁目22番37号
電話0720(54)0690

尾亀清四郎

株式会社 三晃空調 取締役会長

〒530 大阪市北区西天満3丁目13番20号 電話06(363)1371
〒573 自宅・枚方市岡山手町15－4 電話0720(41)3427

大井弘治郎

株式会社 大井建築設計事務所 代表取締役

〒550 大阪市西区京町堀1丁目10－8 福岡ビル
電話06(441)4521～2
〒562 自宅・箕面市百楽荘4丁目4－11 電話0727(21)4113

名誉正会員

大倉三郎

〒606 自宅・京都市左京区下鴨北園町33 電話075(781)0636

岡澤　勇

岡澤建築設計事務所 所長

〒567 大阪府茨木市藤の里2丁目16番6号
電話0726(43)8953・5230
〒530 大阪事務所・大阪市北区梅ケ枝町146 梅ケ枝ビル2階
電話06(362)6082代

名誉正会員

岡田孝男

帝塚山学院大学 教授

〒589 大阪府南河内郡狭山町 電話0723(65)0865
〒565 自宅・吹田市千里山西5丁目40－4 電話06 (384)3019

岡橋作太郎

株式会社 錢高組 技術顧問

〒550 大阪市西区西本町2－2－11 電話06(531)6431
〒659 自宅・芦屋市打出春日町156－1 電話0797(22)4500

岡本繁一

近畿電気工事株式会社 取締役会長

〒531 大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号 電話06(375)6000
〒640 自宅・和歌山市三木町南ノ丁18番地 電話0734(23)0308

名誉正会員

岡本茂樹

〒657 自宅・神戸市灘区楠丘町6－2－9 電話078(851)2020

名誉正会員

岡本　弘

〒573 自宅・枚方市東香里2-7-20 電話0720(54)4123

謹賀新年

昭和55年元旦

(50音順)

岡本行善

株式会社 昭和設計 代表取締役社長

〒550 大阪市西区新町1丁目5番7号 四ツ橋ビル
電話06(532)3421代

〒659 自宅・芦屋市岩園町35－7 電話0797(31)3201

岡本全男

篤組建設株式会社 代表取締役社長

〒543 大阪市天王寺区東高津町14－5 電話06(768)1515代

営業所：名古屋・和歌山・春日出（大阪） 工場：豊明(愛知)

〒557 自宅・大阪市西成区玉出東1丁目6番15号
電話06(661)3317

岡山竹雄

株式会社 岡山建築事務所一級建築士事務所 代表取締役

〒604 京都市中京区烏丸通錦小路角
京都フクトクビル7F 電話075(255)0537～8

〒612 自宅・京都市伏見区深草平田町18 電話075(641)0536

奥野晴弘

株式会社 和光建築設計事務所 代表取締役社長

〒550 大阪市西区北堀江2丁目9番15号
電話06(531)4488代

〒550 自宅・大阪市西区北堀江2丁目9番10号
電話06(541)0261

奥村紘行

奥村重兵衛株式会社 取締役社長

〒530 大阪市北区西天満5丁目3番7号 電話06(312)4131代

〒620 自宅・西宮市南郷町14番34号 電話0798(71)0011

奥村安太郎

奥村組土木興業株式会社 代表取締役社長

〒552 大阪市港区市岡3丁目5番18号 電話06(572)5301

〒552 自宅・大阪市港区市岡3丁目8番3号 電話06(571)0571

音羽倫宏

株式会社 第一サービス 代表取締役

〒556 大阪市浪速区戎本町1丁目3番地 電話06(649)5301

〒584 自宅・富田林市高辺台3丁4番54－202号
電話07212(9)9737

加藤忠三郎

株式会社 平田タイル 代表取締役社長

〒550 大阪市西区阿波座1丁目1番10号
電話06(532)1231代

〒601 自宅・京都市南区東九条北烏丸町24電話075(691)1334

嘉納伝三

三宝電機株式会社 取締役社長

〒530 大阪市北区西天満2－6－8 堂ビル 電話06(364)1471

〒659 自宅・芦屋市岩園町25番22号 電話0797(22)2191

垣内務

株式会社 団地サービス大阪支社 取締役 大阪支社長

〒536 大阪市城東区森之宮2丁目9番201号 電話06(969)1001

数井利美

株式会社 西村建築事務所 取締役社長

〒652 神戸市兵庫区荒田町2丁目1番地 旭ビル
電話078(521)0205～0207

〒654 自宅・神戸市須磨区白川台2丁目39－13
電話078(792)5862

兼高勇

有限会社 兼高設計事務所 代表取締役

〒590 堺市北花田1町3丁1番15号東洋ビル 電話0722(22)1643 1648

〒590 自宅・堺市三国ヶ丘御幸通81－2 電話0722(32)1603

鎌谷秀男

修成建設専門学校 校長

〒555 大阪市西淀川区大和田5丁目19－30 電話06(474)1644

〒665 自宅・宝塚市千種4丁目3番3号電話0797(72)1380

神崎文一郎

株式会社 神崎組 取締役社長

〒670 姫路市北条口86の3 電話0792(23)2021代

〒670 自宅・姫路市北条口60 電話0792(23)3591

亀井晃治

一級建築士事務所 株式会社 A.R.I.(あり)建築事務所 代表取締役社長

〒542 本社事務所・大阪市南区谷町7丁目12番地の1 新谷町第3ビル2F
電話06(768)1771代

〒104 東京事務所・東京都中央区月島4丁目13-3秀和月島レジデンス108
電話03(531)3954

〒631 自宅・奈良市中町1番地の479 電話0742(43)1226

亀田六夫

株式会社 増島製作所 大阪出張所 所長

〒530 大阪市北区西天満3－13－18 島根ビル 電話06(364)1951

〒560 自宅・豊中市刀根山元町8－12 電話06(855)5356

柄谷順一郎

株式会社 柄谷工務店 取締役社長

〒660 尼崎市玄番南之町4 電話06(411)1451

〒663 自宅・西宮市甲子園浦風町9－14 電話0798(41)0700

川岸繁夫

株式会社 川岸窯業商店 代表取締役社長

〒550 大阪市西区西本町1丁目13－33 電話06(532)0461代

〒563 自宅・池田市天神1丁目10－10 電話0727(61)8598

川崎敬三

株式会社 近畿建設 代表取締役

〒550 大阪市西区江之子島1丁目2番2号 電話06(448)5601

〒556 自宅・大阪市浪速区新川2丁目666 電話06(632)7369

川瀬啓一郎

扶桑管工業株式会社 代表取締役

〒616 京都市右京区太秦和泉式部町12番地電話075(861)1157
大阪支店 電話06(353)0222 東京支店 電話03(263)0501

〒616 自宅・京都市右京区太秦安井車道町21
電話075(811)1509

河裾和夫

蛍光産業株式会社 代表取締役

〒531 大阪市大淀区本庄東1丁目9番9号 電話06(371)5146

謹賀新年

昭和55年元旦

(50音順)

木下國男

内外パーキング施設株式会社　取締役社長

〒550 大阪市西区京町堀1丁目4番8号 電話06(441)0477代

〒665 自宅・宝塚市逆瀬台6丁目15番11号 電話0797(73)3228

名誉正会員

城戸武男

株式会社 城戸武男建築事務所　代表取締役

〒460 名古屋市中区栄1－22－27 電話052(231)5451代

〒460 自宅・名古屋市中区栄1－22－27 電話052(201)4061

木下みどり

株式会社 ナイガイ　代表取締役社長

〒530 大阪市北区堂島2丁目1番18号　電話06(345)9055

〒550 自宅・大阪市西区京町堀1丁目15番18号 電話06(441)2503

汲川圭司

泉工業株式会社　会長

〒558 大阪市住吉区長居町東4丁目35-1 電話06(696)6961代

〒594 自宅・大阪府和泉市太町41－27　電話0725(43)1670

桑田正造

桑田硝子株式会社　取締役社長

〒650 神戸市生田区多聞通4－9　電話078(371)1861代

〒653 自宅・神戸市長田区五位ノ池町3丁目1-1 電話078(621)3807

小阪永一

大信印刷株式会社 代表取締役

〒531 大阪市大淀区大淀中4丁目13－11　電話06(451)7631

〒553 大阪市福島区福島6丁目20－10　電話06(451)5346

小坂忠勝

株式会社 東海設計　取締役社長

〒460 本社・名古屋市中区栄3－7－1　電話052(261)2651代

〒104 東京事務所・東京都中央区京橋1－14－4 電話03(561)0815代

〒467 自宅・名古屋市瑞穂区岳見町4-20-2 電話052(831)4459

小崎勇

株式会社 ミラノ工務店 取締役社長

〒604 京都市中京区夷川通河原町東入鉾田町310 電話075(231)0177代

〒606 自宅・京都市左京区下鴨北園町63番地 電話075(781)0676

小菅滋夫

株式会社 日建設計　常務取締役 大阪本社代表

〒541 大阪市東区横堀2丁目38番地　電話06(203)2361

小島勝巳

有限会社 小島勝巳建築事務所 代表取締役

〒541 大阪本社・大阪市東区南本町4丁目41番地 イヨビル8階　電話06(252)8088代

〒103 東京本社・東京都中央区日本橋本町4丁目14番地 山本ビル7階　電話03(661)0768代

〒166 自宅・東京都杉並区成田西1丁目16－17 電話03(315)5435

小谷大作

株式会社 田渕建築設計事務所 代表取締役

〒640 和歌山市下町19番地 電話0734(31)0261～2

〒641 自宅・和歌山市堀止西1丁目10－5 電話0734(24)9563

小西信一郎

コニシ株式会社　代表取締役社長

〒541 大阪市東区道修町2丁目6番地　電話06(228)2811代

〒565 吹田市古江台1丁目15番5号　電話06(831)8455

小西岬

株式会社 小西設計　取締役社長

〒550 大阪市西区立売堀1丁目12－16　電話06(532)4051

〒546 自宅・大阪市東住吉区今川3丁目6－6 電話06(701)0297

名誉正会員

小早川美武

美工装飾株式会社　取締役社長

〒557 大阪市西成区玉出東2丁目9－41　電話06(651)0105

〒557 自宅・大阪市西成区玉出東2丁目10－17 電話06(653)0023

小林一夫

甲南建材興業株式会社　取締役 相談役

〒532 大阪市淀川区十三本町2－4－28　電話06(309)0841

〒665 自宅・宝塚市御殿山2－3－16　電話0797(86)7228

小林清

株式会社 新住宅社　代表取締役

〒530 大阪市北区中之島4丁目3番25号 電話06(443)6641代

〒545 自宅・大阪市阿倍野区北畠3丁目1番7号 電話06(654)0584

小林三甫朗

小林住宅産業株式会社　代表取締役

〒541 大阪市東区南久宝寺町5－18　電話06(245)2181

小林四郎

太陽工藤工事株式会社　取締役社長

〒553 大阪市福島区福島7丁目22番8号 電話06(452)1151大代

小林得志

株式会社 小林得志建築事務所 代表取締役所長

〒530 大阪市北区堂島 2-4-17 藤田ビル 電話06(341)5658代

〒662 自宅・西宮市丸橋町6－16　電話0798(66)2394

河内義就

有限会社 河内義就設計事務所 代表取締役

〒730 広島市上幟町2番37号 電話0822(28)2271代

〒739-17自宅・広島市高陽町字翠光台1-237　電話08284(2)4141

鴻池藤一

株式会社 鴻池組　取締役社長

〒541 大阪市東区北久宝寺町4丁目27番地 ダイヤルイン電話06(244)3500(受付台)

〒603 自宅・京都市北区平野鳥居前町86　電話075(461)1526

謹賀新年

昭和55年元旦

(50音順)

後藤　静

社団法人 大阪府測量業協会　会長

〒530 大阪市北区東天満2丁目6-7高橋ビル東8号館
電話06(354)0740

佐々木　群

株式会社 佐藤武夫設計事務所 代表取締役社長

〒105 東京都港区新橋4丁目6番15号　電話03(436)3511代
〒272 自宅・市川市国府台1－5－2　電話0473(71)5162

佐野正一

株式会社 安井建築設計事務所 代表取締役社長

〒540 大阪市東区島町2丁目7番地　電話06(943)1371代
〒662 自宅・西宮市雲井町4の9　電話0798(72)1569

佐野春吉

森井電業株式会社　取締役副社長

〒530 大阪市北区中之島5丁目3番101号 正宗中之島ビル
電話06(443)8381代
〒661 自宅・尼崎市東園田町3丁目85番地－11
電話06(491)9402

斉藤國義

株式会社 斉藤工業所 代表取締役

〒557 大阪市西成区岸里2丁目6番5号　電話06(661)3325代
〒557 自宅・大阪市西成区岸里東1丁目21番3号
電話06(652)0208

雑賀幸夫

株式会社 大阪雑賀建築事務所 代表取締役

〒543 大阪市天王寺区東平野町5丁目9番地　吉盛ビル
電話06(772)4426・4436
〒573 自宅・枚方市香里ケ丘7丁目11－16電話0720(54)0004

四方靖郎

四方設計工務株式会社
一級建築士事務所　代表取締役社長

〒612 京都市伏見区深草関屋敷町32-2電話075(641)6091～2 6324
〒851-33 長崎出張所・長崎県西彼杵郡西彼町大谷脇1684
電話09592(7)0172
〒183 東京出張所・東京都府中市白糸台6丁目53－31
電話0423(67)0480・0424(84)0236
〒612 自宅・京都市伏見区深草関屋敷町32－2

渋谷幸雄

渋谷金属産業株式会社　取締役社長

〒542 大阪市南区鍛冶屋町52　電話06(211)7333
〒581 自宅・八尾市二俣252－7　電話0729(22)8644

島田孝治

株式会社 片山鉄工所 代表取締役会長

〒551 大阪市大正区南恩加島6丁目2番21号
電話06(552)1231大代
〒661 自宅・兵庫県尼崎市武庫之荘3丁目1－1－308
電話06(432)7387

名誉正会員

島村佐次郎

株式会社 島村建築事務所

〒640 和歌山市四番丁4　電話0734(22)3338・4335
〒640 自宅・和歌山市四番丁4　電話0734(22)3338・4335

島村忠男

西日本建設業保証株式会社 取締役社長

〒540 大阪市東区上町5番地　電話06(764)1122

名誉正会員

白石登喜男

株式会社 藤木工務店　常務理事

〒540 大阪市東区両替町1丁目13番地　電話06(942)1461
〒558 自宅・大阪市住吉区墨江中1の68　電話06(671)3792

城口庸平

株式会社 大阪城口研究所 取締役社長

〒530 大阪市北区角田町2番15号　電話06(372)7151代

須賀孝

須賀工業株式会社　取締役社長

〒550 大阪市西区土佐堀1丁目2番30号　電話06(441)5171
〒662 自宅・西宮市雲井町6番14号　電話0798(72)0269

須賀好富

近畿大学理工学部建築学科 助教授

〒577 東大阪市小若江3－4－1　電話06(721)2332
内線271
〒577 自宅・東大阪市下小阪172－2
近鉄グランドマンションB－911 電話06(789)8114

菅良春

日本住宅パネル工業協同組合 近畿四国地区担当理事

〒530 大阪市北区西天満5丁目6番10号　電話06(313)3321
〒636-11 自宅・奈良県大和郡山市南井町19－60
電話07435(6)3665

菅谷健児

大阪電気暖房株式会社 代表取締役社長

〒550 大阪市西区江戸堀1丁目10番17号　電話06(441)8231
〒158 自宅・東京都世田谷区等々力6丁目24－6
電話03(701)3535

杉田新三郎

シールテックス工業株式会社 代表取締役
(建築総合防水材)

〒640 和歌山市橋丁11　電話0734(32)2581代

杉村正三郎

阪急電気工事株式会社　取締役社長

〒532 大阪市淀川区新北野1丁目4番21号 電話06(302)0231代
〒665 自宅・宝塚市栄町3丁目9番20号　電話0797(86)3623

鈴木毅

株式会社 松田平田坂本設計事務所大阪事務所 所長

〒530 大阪市北区堂島2－2－25　電話06(344)7821
〒185 自宅・東京都国分寺市富士本1-31-15
電話0425(75)1581

相臺淳吉

日新工業株式会社　専務取締役

〒120 東京都足立区千住東2丁目23番4号電話03(882)2424
〒271 自宅・松戸市松戸3の7の3　電話0473(62)9314

謹賀新年

昭和55年元旦

(50音順)

仙田四郎

株式会社 カンダン 取締役社長

〒558 大阪市住吉区万代東6丁目3番地 電話06(672)1281大代
〒588 自宅・堺市大美野76番地の6 電話0722(37)6513

立野一郎

株式会社 ユニオン 代表取締役

〒550 大阪市西区南堀江2丁目13番22号
電話06(532)3731 代

寺田徳重

大成建設株式会社 常任顧問

〒541 大阪市東区本町4丁目27 電話06(262)1131
〒562 自宅・大阪府箕面市桜井2丁目4—39 電話0727(21)4641

田村巍

東洋リノリユーム株式会社 取締役社長

〒664 兵庫県伊丹市東有岡5—125 電話06(492)1331

名誉正会員

玉置豊次郎

大阪工業大学 教授
財大阪住宅センター 理事長

〒557 自宅・大阪市西成区天神森1-19-15 電話06(661)7680

傳馬正明

ムツミ産業株式会社 代表取締役

〒550 大阪市西区靭本町1丁目17番15号
電話06(441)0378大代

取締役社長 **高橋慶夫**
専務取締役 **上田宏二**

株式会社 高橋上田設計事務所

〒550 大阪市西区新町1-4-21大幸ビル 電話06(533)0971～3

谷川丈夫

株式会社 西原衛生工業所大阪店 代表取締役専務

〒531 大阪市大淀区中津6丁目8番4号 電話06(458)3531代

森隆雄

株式会社 間組 大阪支店 取締役大阪支店長

〒541 大阪市東区瓦町5—20—1 電話 06(201)2751
〒562 自宅・箕面市西小路3—17—24 電話0727(22)1601

名誉会長・名誉正会員

竹腰健造

〒662 自宅・西宮市松園町7番22号 電話0798(34)2650

知見義夫

春日設備工業株式会社 取締役社長

〒601 京都市南区西九条春日町48番地
電話075(681)6455・(691)9228
〒601 自宅・京都市南区西九条春日町48 電話075(691)3860

名誉会長・名誉正会員

東畑謙三

株式会社東畑建築事務所代表取締役

〒541 大阪市東区伏見町5—19 電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4-4-35電話078(851)5043

竹村通世

近畿電気工事株式会社 広島支社 支社長

〒730 広島市稲荷町4番1号 住友生命広島ビル
電話0822(62)1471
〒733 自宅・広島市南観音7丁目16番34号 南高雅荘
電話0822(93)3293

塚本猛次

株式会社 日建設計 相談役

〒541 大阪市東区横堀2丁目38番地電話06(203)2361
〒665 自宅・宝塚市清荒神2—6—27 電話0797(87)1940

栂野正春

株式会社栂野建築事務所 一級建築士代表取締役社長

〒640 和歌山市五番丁4番地 電話0734(22)2826

橘泰治

東邦パーライト株式会社 取締役社長

〒540 大阪市東区森ノ宮中央2丁目7番15号 電話06(941)9445～9
〒590-01 自宅・堺市若松台3丁26番3号電話0722(91)2267

辻本豊

株式会社 辻本豊一級建築設計事務所 代表取締役

〒640 和歌山市東長町中の丁12—3 電話0734(24)6346代
〒640 自宅・和歌山市東長町中の丁12—3 電話0734(24)6346

時岡保雄

株式会社 三和地質 代表取締役

〒550 大阪市西区靭本町3丁目8番6号
電話06(445)2521代～5

立田清

有限会社 柳々堂 (建築専門書店)

〒550 大阪市西区京町堀1—12—3 電話06(443)0167～8
営業所：鴻池ビル 電話06(251)8233

津村健児

オリエンタルメタル製造株式会社 代表取締役

〒660 尼崎市昭和南通3丁目26番地 電話06(412)5131代
〒662 自宅・西宮市神垣町5番8号電話0798(74)5591

時山龍太郎

時山設計事務所

〒530 大阪市北区曽根崎2丁目2番2号 美都ビル
電話06(361)6248
〒532 自宅・大阪市淀川区三国本町2丁目13番23-501号
三国本町スカイハイツ
電話06(393)9557

謹賀新年

昭和55年元旦

(50音順)

富家宏泰

株式会社富家建築事務所　代表取締役

〒604 京都市中京区押小路通東洞院西入ル
電話075(231)6357代

〒603 自宅・京都市北区平野八丁柳町68−1−704号
電話 075(463)0050

内藤正克

株式会社 内藤建築設計事務所 代表取締役所長

〒675-13 兵庫県小野市上本町240小野ビル電話07946(2)4757代

〒675-13 自宅・兵庫県小野市久保木町1063電話07946(2)4668

中川匠

中川匠建築設計事務所　所長

〒530 大阪市北区浪花町1−19 新興ビル 電話06(371)3651

〒665 自宅・宝塚市売布4丁目15−18 電話0797(86)2391

中田勝

日新工業株式会社 大阪支店　支店長代理

〒533 大阪市東淀川区瑞光通4丁目30番地の2
電話06(329)7737代

〒663 自宅・西宮市高木西町89 電話0798(67)1833

中村正一

中村タイル株式会社　代表取締役

〒550 大阪市西区南堀江1丁目11番5号　電話06(531)7263

〒590-01自宅・堺市若松台3丁17番9号　電話0722(91)5592

中原茂

株式会社 中原茂建築事務所 代表取締役

〒550 大阪市西区靭本町2丁目9番11号　岡崎橋ビル
電話06(445)0039

中原英雄

株式会社　創美設計　代表取締役

〒530 大阪市北区末広町3番21号　星和地所扇町ビル6階
電話06(312)3587代

〒659 自宅・芦屋市打出小槌町1番地

永井賢城

株式会社 久米建築事務所 取締役社長

〒106 東京都港区西麻布1丁目13番11号電話03(403)0251大代

〒251 自宅・藤沢市鵠沼海岸2丁目8の26 電話0466(36)7706

西嶋徳太郎

取締役会長

石中達夫

取締役社長

株式会社　大建企画設計

本社・〒550 大阪市西区京町堀1丁目13−20
電話06(443)8261

東京事務所・〒162 東京都新宿区下宮比町15番地
飯田橋ハイタウン333号　電話03(267)4711

西村淀

株式会社 大鳥居工業所 取締役社長

〒615 京都市右京区西院西田町30 電話075(313)2191

〒616 自宅・京都市右京区宇多野御池町40−10
電話075(463)2784

野中駒市

野中建産株式会社　代表取締役

〒550 大阪市西区靭本町1丁目13番19号電話06(441)6631

〒590 自宅・堺市大浜北町3丁10−21　電話0722(32)2992

橋詰一雄

株式会社 橋詰工務店 取締役社長

〒604 京都市中京区猪熊通三条上ル姉猪熊町326番地
電話075(801)2356代

〒604 自宅・京都市中京区猪熊通三条上ル姉猪熊町326番地
電話075(841)2803

橋本晃芳

株式会社　鴻池組　常務取締役

〒541 大阪市東区北久宝寺町4丁目27番地 電話06(244)3538

〒659 芦屋市精道町4−1 電話0797(31)6766

長谷川武彦

株式会社　長谷川工務店代表取締役会長

〒107 東京都港区赤坂3丁目21番20号 電話03(586)5451

名誉正会員

浜口幹三郎

株式会社　淺沼組　相談役

〒543 大阪市天王寺区東高津町8の1　電話06(768)5222

〒631 自宅・奈良市二名町南登美ヶ丘3336−7
電話0742(43)1091

林唯夫

株式会社 昭和設計 代表取締役副社長

〒550 大阪市西区新町1丁目5番7号　四ッ橋ビル
電話06(532)3421

〒565 自宅・吹田市青山台3丁目41−11　電話06(872)3608

林昭八郎

菱和調温工業株式会社　大阪支店　支店長

〒530 大阪市北区天満2丁目7番3号　電話06(352) 4881

〒663 自宅・西宮市高木東町19番14号　電話0798(64)0324

原正太郎

アスニュー工業株式会社　取締役会長

〒532 大阪市淀川区西中島1丁目8番29号
電話06(301)9081〜4

原精一

甲南建設工業株式会社　代表取締役

〒532 大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号電話06(308)1551

〒662 自宅・西宮市名次町12番9号 電話0798(22)1504

原田重信

代表取締役会長

原田孝太郎

代表取締役社長

原田セメント化工株式会社

〒554 大阪市此花区西九条4丁目3−34電話06(465)1212代

〒661 自宅・尼崎市塚口町3丁目41−8　電話06(421)4518

名誉正会員

坂静雄

財団法人 日本建築総合試験所 理事長

〒565 本所・大阪府吹田市藤白台5−125 電話06(872)0391

〒531 大淀分室・大阪市大淀区長柄西通2−35電話06(351)7217

〒592 堺分室・大阪府堺市浜寺石津町西2丁1番34号
電話0722(44)3912

謹賀新年

昭和55年元旦

(50音順)

伴　一郎

株式会社 西原衛生工業所大阪店 代表取締役社長
〒531 大阪市大淀区中津6丁目8番4号電話06(458)3531代

伴仲信次

春日建設株式会社 代表取締役社長
春日建設一級建築士事務所
〒102 東京都千代田区飯田橋2丁目9番3号
〒160 自宅・東京都新宿区西早稲田3-31-5かすが701号
電話03(264)4011代
電話03(202)2411

飛弾祐三

株式会社 大気社 常務取締役支店長
〒530 大阪市北区中之島3丁目2-18 住友中之島ビル7F
電話06(448)5871(代)

平城　勧

株式会社 朝日工業所 大阪支社 常務取締役 大阪支社長
〒532 大阪市淀川区加島1丁目58番59号 電話06(302)2271~9
〒665 自宅・宝塚市中山桜台4－15－4 電話0797(89)3884

福田朝生

株式会社 双星設計 代表取締役社長
〒530 大阪市北区茶屋町18－21 豊崎ビル 電話06(373)2281
〒677 自宅・西宮市甲子園砂田町2番8号 電話0798(48)0989

福中定三郎

社団法人 日本建築協会参与
〒541 大阪市東区北浜3－37 電話06(231)9648代
〒573 自宅・枚方市香里園町26－68 電話0720(31)0549

福永　薫

株式会社 建設技術センター 代表取締役社長
〒530 大阪市北区東天満2丁目5番20号 古林ビル5階
電話06(353)0651
〒542 自宅・大阪市南区順慶町通4-61電話06(251)3102・5189

久田良吉

株式会社 東洋建築設計事務所 代表取締役
〒542 大阪市南区上本町4－610 昭和ビル3F
電話06(768)2029直通
2020直通
〒581 自宅・八尾市山本町南4－10－14 電話0729(22)3095

藤井　稔

阪神不動産株式会社 常務取締役
〒530 大阪市北区梅田2丁目2番25号 電話 06 (346) 1171

藤川忠成

株式会社 創構造建築事務所 代表取締役
〒733 広島市舟入町2-20 第2和興ビル6F 電話0822(91)4495

藤木鐵三

株式会社 藤木工務店 取締役社長
〒540 大阪市東区両替町1－13 電話06(942)1461代

藤田邦昭

株式会社 都市問題経営研究所 代表取締役所長
〒530 大阪市北区堂山町3番3号 日本生命梅田ビル
電話06(315)8455代
〒658 自宅・神戸市東灘区岡本8丁目10番1－605
電話078(411)3989

淵上保夫

三井プレコン株式会社大阪支店 取締役支店長
〒530 大阪市北区中之島3丁目3番3号 三井ビル新館221号
電話06(444)4231代
〒595 自宅・大阪府泉大津市虫取51-1 くすの木団地2-311

取締役会長 星　廣文
代表取締役所長 星　利安

株式会社 星建築設計事務所
〒537 大阪市東成区東中本1丁目15番25号地下鉄緑東緑ビル
電話06(972)9265
〒571 自宅・門真市城垣町7－6 電話0720(81)1318
〒571 自宅・門真市城垣町7－9 電話0720(81)0667

堀内史郎

第一工業株式会社大阪支店 取締役支店長
〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号 電話06(364)6661代
〒573 自宅・大阪府枚方市朝日丘町12-18 電話0720(41)5396

堀　元也

神戸材料株式会社 取締役社長
〒651 神戸市葺合区熊内町2丁目1－37 電話078(222)2251
〒657 自宅・神戸市灘区篠原北町2丁目1－9
電話078(882)0755

前野慶太郎

株式会社 あめりか屋 取締役社長
〒530 大阪市北区中之島4丁目3番25号 電話06(444)1501
〒659 自宅・芦屋市翠ヶ丘町4番18号 電話0797(22)2005

前田平一郎

ゼネラル事務機株式会社 社長
〒550 大阪市西区靱本町3丁目2番7号第1横井ビル
電話06(441)1462代
〒560 自宅・豊中市上野東1丁目16－21 電話06(849)5764

牧田顯治

大建建設工業株式会社 専務取締役
〒564 摂津市千里丘東4丁目9番13号 電話06(381)2421
〒546 自宅・大阪市東住吉区田辺本町2丁目26番地
電話06(713)1469

松浦潤一郎

株式会社 松浦構造設計事務所 代表取締役
〒657 神戸市灘区八幡町4丁目9－27 六甲ビル
電話 078(861)3304
(881)3302

松永嘉一郎

株式会社 梅彦 取締役社長
〒530 大阪市北区中崎西2丁目1番3号電話06(312)6171代
〒659 自宅・芦屋市山手町15－25 電話 0797(22)4761

謹賀新年

昭和55年元旦

(50音順)

松丸哲也

豊國建設株式会社 代表取締役社長

〒530 大阪市北区天満橋2丁目3番1号 電話06(353) 1001

〒663 自宅・西宮市甲子園口北町20—21 電話0798(67) 2787

代表取締役社長 齋藤久典

常務取締役大阪支社長 黒澤太作

相談役 南長吉

斎久工業株式会社

〒100 東京本社・東京都千代田区大手町2-6-2(日本ビル) 電話03(200)7411代

〒530 大阪支社・大阪市北区中之島4—2—38 電話06(443)5041代

室谷山水

室谷商事株式会社 取締役社長

〒650 神戸市生田区北長狭通4丁目1 英和ビル 電話078(331)0881

〒650 自宅・神戸市生田区山本通4丁目108の37 電話078(221)5050

松本亮二

株式会社 清水工業所 代表取締役

〒531 大阪市大淀区豊崎1丁目11番19号 電話06(372)2851代

〒530 自宅・大阪市北区鶴野町1-5 メタボ阪急14F 電話06(372)8027

水野喜一郎

社団法人 日本建築協会京都支部 支部長

〒604 京都市中京区押小路通柳馬場東入建設会館分室 電話075(211)2857・2877

〒600 京都市下京区西七条市部町77 水野建設株式会社 電話075(312)0431

森忠一

村野,森建築事務所

〒545 大阪市阿倍野区阿倍野筋2-3-8 電話 06(624)0926

〒665 自宅・宝塚市武庫山1丁目10-8 電話0797(72)4461

名誉正会員

松本与作

第一生命保険相互会社 顧問技師

〒100 東京都千代田区有楽町1—13—1 電話03(216)1211

〒145 自宅・東京都大田区田園調布3-17-3 電話03(721)4723

水間義雄

株式会社 水間組 代表取締役社長

〒534 大阪市都島区東野田町1丁目1番4号 電話06(352)3121代

〒538 自宅・大阪市鶴見区今津南4-10-15 電話06(961)0785

八木喜美蔵

八木惣株式会社 代表取締役社長

〒593 堺市津久野町3丁2071番地 電話0722(63)4115

〒593 自宅・堺市津久野町3丁2071番地 電話0722(62)0722

松本六郎

松本金物株式会社 取締役社長

〒543-91 大阪市天王寺区上綿屋町6 電話06(774)2200 受付案内台

〒580 自宅・松原市北新町2丁目3—7 電話0723(31)0158

宮崎辰敬

宮崎辰五郎建築事務所 所長

〒466 名古屋市昭和区折戸町5丁目13 電話052(751)3096

〒466 自宅・名古屋市昭和区折戸町5丁目13 電話052(751)3096

八十島健二

株式会社 竹中工務店 専務取締役

〒541 大阪市東区本町4—27 電話06(252)1201

〒663 自宅・西宮市甲子園二番町5—30 電話0798(41)0598

丸山信

株式会社 丸山建築事務所 代表取締役

〒107 東京都港区北青山3丁目5番25号 電話03(401)2287

出張所：横浜市・松本市

村石全

浪速合板株式会社 代表取締役社長

〒556 大阪市浪速区幸町3丁目2番地1 電話06(561)2201代

〒659 自宅・芦屋市岩園町25番15号 電話0797(34) 0835

安井忠生

株式会社 安井建築設計室 代表取締役

〒550 大阪市西区靭本町1丁目9—18 電話06(448)2765～6

〒558 自宅・大阪市住之江区粉浜3丁目13-15 ハイツ西興502号 電話06(673)5254

三谷忠義

株式会社 三谷設計 代表取締役

〒694 島根県大田市久手町波根西777の1 電話08548(2)8121代

〒694 自宅・島根県大田市久手町波根西225の2 電話08548(5)8320

村上二郎

サンエス石膏株式会社 代表取締役社長

〒530 大阪市北区堂島2丁目4番17号 藤田ビル本館 電話06(344)6526～9

〒565 自宅・吹田市千里山西3丁目7番5号 電話06(384)1002

安田誠一

安田株式会社 会長

(建築金物・アルミ型材製造)

〒542 大阪市南区末吉橋通1丁目17 電話06(251)7091代

名誉正会員

三輪泰司

株式会社 地域計画建築研究所 代表取締役

〒600 京都市下京区四条通り高倉西入ル 電話075(221)5132代

〒612 自宅・京都市伏見区桃山南大島町95—45 電話075(601)3962

村野藤吾

村野,森建築事務所

〒545 大阪市阿倍野区阿倍野筋2-3-8 電話 06(624)0926

〒665 自宅・宝塚市清荒神2丁目18—27 電話0797(86)2559

籔本弦三

株式会社 笹川組 取締役社長

〒520 大津市打出浜13—15 電話0775(23)2314

〒520-21 自宅・大津市一里山5—9—11 電話0775(45)3966

謹賀新年

昭和55年元旦

(50音順)

山口吾郎

不二建設株式会社 取締役社長

〒550 大阪市西区西本町3丁目1番9号 電話06(541)5534代
9301代

〒665 自宅・宝塚市雲雀ケ丘1丁目13番25号 電話0727(59)2018

山崎敏明

辰巳興業株式会社 取締役社長

〒650 神戸市生田区栄町2丁目21 電話078(321)0655代

〒662 自宅・西宮市五月ケ丘5の7 電話0798(71)9763

山田保

株式会社 山田保建築設計事務所 代表取締役

〒730 広島市紙屋町2丁目3番1号 革屋町ビル4階
電話0822(48)2562代

山田恒治

株式会社 山田工務店 取締役社長

〒651 神戸市葺合区雲井通4丁目7番の8
電話078(232)1800代

〒651-12 自宅・神戸市北区山田町上谷上古々山29
電話078(581)2055

名誉正会員

山田文次

山田工業株式会社 取締役会長

〒550 大阪市西区京町堀1丁目6番8号 電話06(443)8161大代

〒665 自宅・宝塚市南口1丁目2番2号 電話0797(72)2511

山田義行

株式会社 竹中工務店 顧問

〒541 大阪市東区本町4－27 電話06(252)1201大代

〒665 自宅・宝塚市寿楽荘14－11 電話0797(72)5858

山本永造

ヤマト電気エンジニアリング株式会社 取締役社長

〒530 大阪市北区西天満5丁目1番3号 電話06(364)3056代

〒562 自宅・箕面市桜ケ丘3丁目13－6 電話0727(23)5176

山本哲夫

昭和鉄工株式会社 取締役社長

〒812 福岡市東区箱崎5丁目11番93号 電話092(651)2931

〒810 自宅・福岡市中央区薬院2丁目11番4号
電話092(741)5095

山本博三

朝陽電気株式会社 代表取締役

〒530 大阪市北区中之島3丁目2番4号 朝日ビル内
電話06(385)1361代

〒565 自宅・吹田市藤白台4丁目23番8号 電話06(831)6100

山形幸一

社団法人 大阪建設業協会 事務局長

〒540 大阪市東区京橋3丁目70 電話06(941)3651

名誉正会員

吉田光太郎

〒156 自宅・東京都世田谷区桜丘2－7－18 電話03(420)6476

吉田廣助

株式会社ナニワ 代表取締役

〒543 大阪市天王寺区烏ケ辻町61番地 電話06(771)9123

〒662 自宅・西宮市樋之池町14－14 電話0798(74)0845

吉岡源治郎

高砂熱学工業株式会社大阪支店 常務取締役 大阪支店長

〒530 大阪市北区芝田1丁目4番8号 北阪急ビル
電話06(372)2511

〒560 自宅・豊中市上野西2－20－36－302 電話06(849)6491

米倉豊夫

日本住宅パネル工業協同組合 理事長

〒113 東京都文京区本駒込6丁目15番7号
電話03(945)2311大代

和田眞一

株式会社 東和組 代表取締役

〒530 大阪市北区西天満4丁目5番14号 電話06(363)4051

〒659 自宅・芦屋市公光町3番8 電話0797(22)3282

名誉正会員

若林繁吉

二葉屋装備工業株式会社 会長

〒564 摂津市東別府3丁目7番8号 電話06(349)9193代

〒605 自宅・京都市東山区清水2丁目232 電話075(561)6283

名誉正会員

若林季雄

鹿島建設株式会社大阪支店

〒542 大阪市南区鰻谷西之町6三栄ビル 電話06(245)2311大代

〒636 奈良県生駒郡三郷町信貴ケ丘211 電話0745(72)4121

若山繁

近畿電気工事株式会社 取締役副社長

〒531 大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号 電話06(375)6000

〒661 自宅・兵庫県尼崎市武庫之荘2丁目25番11号
電話06(436)1381

渡辺恵

東洋シヤッター株式会社 取締役会長

〒540 大阪市東区両替町1－12日生ビル 電話06(943)6571代

〒560 自宅・豊中市緑丘3丁目21番8号 電話06(856)0983

事務局一同

社団法人 日本建築協会

フリントコート®
マスチックフローリング
無公害な弾性床材



東京シューズ足立流通センター
設計監理：㈱ＫＯＡ設計事務所　施工：前田建設工業㈱
使用場所：床　仕様番号：Ｆ－９

特　長

1　耐久性：耐久性にすぐれている。
2　耐摩性：摩耗の度合が低く、ホコリなど生じない。
3　すべり抵抗性：すべり抵抗性にすぐれている。
4　弾力性：弾性があり、万一亀裂ができても使用している間に復元する。
5　粘着性：多少湿っていても、コンクリート、金属、木など、どんな面にもよく粘着する。
6　不燃性：引火のおそれがなく、ガス工場、爆薬工場の床に使用されている。
7　無毒無臭：完全無毒で各種食品工場、貯蔵庫に多く使用されている。

フリントコートについてのお問合せは下記へ

FLINTKOTE®

株式会社シエル石油大阪発売所
フリントコート部

大阪本部　〒530 大阪市北区堂島浜１丁目２の６(新大ビル９Ｆ)☎(06)343－0441
東　　京　〒104 東京都中央区京橋２丁目９の２(第一ぬり彦ビル)☎(03)562－4676
福　　岡　〒810 福岡市中央区舞鶴町１－１－５(舞鶴ビル３Ｆ)☎(092)771-1961

よりぬかれたテーマとユニークな解説

建築技術選書

企画：日本建築協会　編集・発行：学芸出版社
A5判，136～160頁，1～14　1000円　15～16〈近刊〉

1 茶　室　の　話

畳の敷き方や炉の切り方など，茶室の設計に関する様々の約束事を，お茶の心得がなくとも理解できるように，豊富な写真と平面図を用いて解説する．　帝塚山学院大学教授　岡田孝男著

2 ビルの省エネルギー

ビルの空調システムの基盤であるヒートポンプ，これをさらに省エネルギー的に再開発した＜複合ヒートポンプ＞について，建築技術者を対象に平易に解説する．　竹中工務店　中村猛著

3 建築とコンピューター1

新耐震などコンピューターがますます必要とされてきた今，小さな設計事務所でも十分ペイする利用法を公開する．マイコン・ミニコンによる構造設計の全て．　C＆C事務所　魚木晴夫著

4 都市の下水処理

ビルや住宅の排水が，ますます厳しく規制されるようになった現代において，建築関係者が最低知っておくべき下水処理の原理としくみを多数の図で示す．　大阪市下水道局　松永一成著

5 すまいの語録

住宅計画の始まりから完成までを，400の名言と諺を用いて綴る住まいのユニークなチェックポイント．楽しく読みながら先人の知恵や工夫が学べる好著．　東京工大教授　茶谷正洋著

6 コンクリート工事の管理

完成してからではやり直しのきかないコンクリート工事．その要となる工事監理者・施工管理者のために各工程の管理の注意事項を簡潔に記載した．　日本建築総合試験所　奥島正一編著

7 構造計画とやさしい力学1

はり・柱編　構造が苦手なデザイナーや学生のために，構造計画の考え方や「工夫」を，身近な事例を素材にして，多数の図を駆使しやさしく興味深く説く．　近畿大学助教授　須賀好富著

8 建具の知識と意匠

現代に生きる，伝統ある建具の全てを図解する．今まで設計者が1人悩んできた事柄が，これ1冊で解決できる≪大棟梁の秘伝の書≫．主要寸法記載．　山片一級建築事務所　山片三郎著

9 エレベータ・エスカレータ・立体駐車場

エレベーター界の第一人者である著者が，すぐれたスタッフを総動員してまとめた，これだけは是非知っておいていただきたい，昇降機のエッセンス．　元三菱電機昇降機部　木村利雄著

10 構造計画とやさしい力学2

屋根・架構・その他構造編　前巻に引きつづき，構造計画の基本的な考え方と「工夫」を，数式を極力省き，部位別に図解する．構造が苦手な人にこそ読んでいただきたい名著．　須賀好富著

11 建築と設備の接点1

技術の進歩と専門化によって，それぞれの専門家間に生じる接点領域対策が，よい建物をつくるための要となっている．その盲点と解決法をずばり示す．　日建設計監理部「接点」研究会著

12 ソーラーハウス

ソーラーハウスの本格的普及のために，どうしたら確実で損のないソーラーハウスをつくれるかをずばり示す．建築関係者とユーザーのための実践的手引き．　新日本空調　内山武夫著

13 医院・診療所の計画と設計

多くの事例の検討と，診療行為の解析，調査をもとにして，診療所の平面計画を考える．設計者，施工者，建築主への実際的な手引き書．　京都工芸繊維大学　池田有隣・船越暉由共著

14 設計とコンピューター

日影図・透視図・照度分布図など，めんどうな作業をコンピューターに代行させ，省力化をはかるためのマニュアル．図形処理の基礎から応用までを網羅する．　日建設計　飯塚英雄著

15 ＰＣ構造の話

ひびわれがなく，大スパンが架け渡せるＰＣ構造を生かした各種の構造方式を，図・写真を駆使して紹介する．施工上の注意，生産方式なども記載．　MAI建築構造研究所　下伊豆隆三著

16 住宅設計とインテリア

生活様式の多様化に伴い，考え直されなければならないインテリアを，楽しく易しく説き明かす．第一線の設計家による現代のインテリア．　福岡喜久雄デザイン事務所　福岡喜久雄著

学芸出版社　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入　☎075－343－0811

1970年代は万博に始まり、石油不足でその幕を閉じた。経済は高度成長から低成長へと様変わりし、わが建築界もかつてない構造不況を体験した。そして、その中でわれわれの建築活動は大きく転換を求められた。建築を社会の発展の中でとらえることの重要性はますます強まり、住み手や使用者の立場に立ち、地域に根ざしたいい建築とまちをつくるための意識的な努力がますます重要になってきた。もはや資源浪費型の建築をつくることは許されないし、地域を無視した建築活動は成立しない。従来の建築活動をその根本から転換させない限り、われわれの職能は確立しないばかりか、存在そのものが問われるという段階を迎えた。一方、まちづくりについてみるならば、国土の荒廃と生活環境の破壊が社会問題化したことを背景に、従来の都市計画はその内容を大きく問われた。短期・大規模を特徴とするニュータウン建設と、スクラップ・アンド・ビルドをくり返す再開発事業は、低成長への移行とともに大きくスローダウンし、他方でミニ開発問題が大きな社会的関心を呼んだ。その中で、従来の大型プロジェクト方式に抗するかのように、地区やそれ以下の圏域を単位にした住民参加方式によるまちづくりの実践的な模索が始まり、計画的小集団開発や地区詳細計画の論議が始まりつつある。そして、今、1980年。激動の時代を経たわれわれは、70年代後半の課題をひきつぎながら、今、この80年代をどう展望するか。地区詳細計画を詰めていく中で、乖離しすぎた都市と建築のギャップを埋めることができるのかどうか。その実践的な模索が80年代に本格的に行われるとすれば、そのスタートを切る1980年はまさに歴史的な年になろう。否、われわれ自身がそういう状況をつくりだしていかねばなるまい。その年頭にあたり、歴史に学びつつ、80年代の都市と建築のあるべき方向を展望し、われわれの課題を明らかにしてみたい。

（富樫 記）



写真：大阪市提供

特集
80年代の都市と建築
—まちづくりの歴史と展望—

第Ⅰ部

歴史に学ぶ　インタビュー——都市計画の先輩に聞く

都市計画の理念—中澤誠一郎—

都市計画の技術と実践—玉置豊次郎—

第Ⅱ部

都市計画の歴史を追う　資料—図表と文献にみる

大阪の都市計画・年表（明治～終戦）

「建築と社会」誌にみる都市計画のあゆみ

第Ⅲ部

まちづくりへの展望をさぐる　座談会—第一線のプランナーに聞く

80年代の都市と建築

椚座正信・近藤達夫・富安秀雄

本号特集編集幹事：斎藤和夫・寺内信・赤崎弘平・池端猛・稲垣雅彦・片倉健雄・富樫穎・中林浩

第Ⅰ部
歴史に学ぶ

インタビュー―都市計画の先輩に聞く

都市計画の理念
―中澤誠一郎―



学校を出たころ
戦前の都市と建築
都市の理念とは
総合計画とは
都市美
80年代に若手にのぞむ

とき　昭和54年9月21日(金)
ところ　中澤誠一郎氏宅（大阪府守口市）
インタビュア　斎藤　和夫（大阪市立大学工学部）
赤崎　弘平（大阪市立大学工学部）
稲垣　雅彦（フジタ工業設計部）
富樫　　穎（大阪市立大学生活科学部）
松井　昭光（日本建築協会）

この記録は、2時間半にわたるインタビューを稲垣雅彦氏がまとめたものです。

学校を出たころ

――今年は1980年というわけで、いわゆる80年代といわれる時代の幕あけにあたるわけです。そこで歴史に学び、80年代を見通したいと思い、先生にいろいろと、お話をおうかがいに参りました。
まず先生が東京帝大をご卒業になり、内務省にお入りになったころの様子、入省の動機などについて、お話をうかがえないでしょうか。

中澤　僕が学校を出たのは、大正9年7月、大正デモクラシーの華やかな頃で、卒業式の日の門前には、資本論やらクロポトキンなどの立看板がズラリと並んでいた。僕らも河上肇とかエンゲルスの住宅問題入門などは一応読んでいました。学生時代、僕は余り体が丈夫ではなく、出席率もそんなによくなかった。製図も上手ではなかった。卒業のとき、当時、建築行政は警察部がやっていましたが、東京と大阪で一人ずつ、合計二人の予算がつき、一人は森田慶一君が決まり、もう一人が決まらなかった。ちょうど、病気で学校を休んでいて、出ていったら、学校にいるのと同じくらいいろんな資料があり、勉強できるところだといって、内務省を内田先生にすすめられた。これは面白いと思って、内務省に決めた。そして森田君が東京に残り、僕は大阪の警察部にふ任した。
ちょうどそのころ、都市計画法が公布になり、市街地建築物法も公布になり大阪市において適用されることになり、僕が担当として大阪へ来たわけなんです。
当時大阪では、池田実さんという人が建築課長をしていた。池田さんは、明治37年東大を出て、すぐ大阪の保安課へ来た。そこで建築取締規則が必要だというんで、いろいろと自ら草案を練られた。そこへ明治42年に北の大火がおこり、これがきっかけで、大阪府令として、建築取締規則が発令施行された。
池田課長は、その建築取締規則施行の中心人物なんです。そこへ、市街地建築物法が公布され、取締規則は施行規則にとり入れられた。だから大阪の人にとって、物法は余り苦になってなかったようです。取締規則では、一尺五寸壁面線を下げ、そこに雨水溝をとったことが大阪のまちづくりにとって有効だったんだが、物法ではその必然性が認められず、東京と同じように町がガタガタになってしまった。

――そのへん、住民はどうとらえていたんでしょうか。

中澤　住民は規則でそうなっているから、やっているだけのことで、それがいいからやっているわけではないんだ。だから住民参加という場合といっしょで、啓蒙しなければいけない、放ったらかしておいては、住民は事なかれ主義、どちらかといえば、金がいらなきゃいいんだから。

――ところで、勉強はどうでした。

中澤　内田さんは、学校にいるのと同じように勉強ができると言っていたけれど、それほど勉強しなかった。若いときから原稿も書いたことがなかった。最初に書いたのは、昭和5年ぐらいだったかな、名古屋で建築課長をしている時代に、防火地区が出来たんだ。この防火地区について書いてくれといわれて「建築と社会」にいやいや書いたことが唯一なのだ。[*1] その後、昭和7年に大阪へ来て、昭和9年9月21日室戸台風に見舞われた。その報告書を書かされ、「建築雑誌」に掲載した。[*2] その後、昭和11年に関さんの論文が出て、それを一生懸命に読んだ。そしてそれに刺げきされていろいろと書きはじめたような次第なんです。

編集部注　＊1『名古屋都市計画防火地区』「建築と社会」第13集（昭和5年）9号
＊2『大阪府下における風水害被害報告』「建築雑誌」第48輯第592号（昭和9年）

戦前の都市と建築

——戦前の文献をみますと、建築家がいろいろと都市のことを語っているんですが……。

中澤　いや、戦前の建築家は、都市計画のことは、全然考えていないですよ、もちろん一般の人は都市計画になんの興味も示さないんですよ。当時の建築家は物法のあることはよく知っていましたよ、どうしたらその建築物法に適合するかを、一生懸命にやっていた。建築家というのはそんな程度で、建築から一歩離れて、都市計画的なことをやろうというようなことは誰も考えていなかった。だから建築家というものは、実に見解の狭いものでした。佐野さんだって、内田さんだって、市街地建築物法だけは知っているという状態だったんです。そのころの建築学会の論文をみてごらんなさい。都市計画に関するもの、ないでしょ。

——内務省の中では都市計画、とくに建築屋さんの立場は、どうでしたか。

中澤　都市計画法が通ったとき、その所管は内務省大臣官房都市計画課だったんです。外局でもない小さなもんだったんです。そのとき、都市問題をやっていたのは、地方課、今の自治省だった。地方課の勢力が一番あり、都市計画課というものの存在自体が非常に低かったんです。そして法律がとおり、初代の課長に池田宏さん、そのつぎに前田多門、そのつぎが山県治郎でした。山県のときに、都市計画というものを大いに宣伝して、都市計画局にしてしまった。局になってどういう課が出来たかというと、都市計画課、第一技術課、第二技術課の三つしかなかった。第一技術課は土木で、課長は樋木寛、第二技術課は建築で、課長は野田俊彦でした。野田は僕より5年先輩です。その下に、柳澤彰、中村寛、それから後で大蔵省へ行った伊部貞吉、これだけしか技師はいなかった。それがまた後で都市計画局が、都市計画課に逆戻りした。このときの課長が飯沼さん。戦争がはじまって、昭和14年、松村さんのとき、もう一ぺん計画局が出来た、そして防空研究所が出来た。そして今度の計画局も、前と同じように都市計画課、第一技術課、そして第二技術課で、第二技術課に僕がいた。そして僕のところにいたのが、石井桂、小林隆徳、伊東五郎、これだけなんだ。まだ内務省の中で都市計画というものは、小さなもんだし、局になったって三つの課しかなかった。その三つのひとつが建築で、それは4人ほどの技師しかいなかった。ですから、ほんとに少数派なんですよ。建築界からいって、ほんとに異端者だったんです。

——すると都市と建築のかかわり合い、というようなことが考えられるのはずっと後のことなんですね。

中澤　そう、戦争の最中、昭和19年ごろに、田辺平学が鉄筋住宅を提唱した。東京の真中は鉄筋住宅、その周囲が今の防火建築、その外が普通の木造住宅という、非常に勇敢な提案だった。それから戦後、伊東五郎、伊藤滋、それに僕らが都市の不燃化をやっていたんだが、伊東五郎が住宅局長になり、学校の鉄筋化、引きつづいて鉄筋住宅、いわゆる壁式をやった。それから団地が始まったんだ。ところが、住宅団地をやりだしたら、鉄筋が田舎にドンドンできて、バージェスの同心円とか、田辺平学のいうようにはならなく、バラバラになってしまった。

——先生は、今の建築基準法の前身、市街地建築物法とともに社会に出られ、物法とともに歩んでこられたわけですが、今の法はどうでしょうか。

中澤　現在の建築基準法は細かすぎるんです。私は内務省時代、物法を解消しようと思ったんです。ちょうど戦争が終わる直前でしたが…。物法を解消して、勅令以下の部分を準則、場合によっては今医者がやっているように学会の研究報告にまかせようと思ったことがあるんです。ところが、戦後建築基準法は、もっともっと細かくなり、どんどんきつくなってしまっている。こういうことを言うとかんと、家がひっくりかえると思って、どんどん細かくなっている。法律に書いとっても地震で家がひっくりかえる。そしたら家がひっくりかえったと言わないで、地盤のせいにする。家がこわれなければよい、建築とは、そんなものではないと思うんです。建築の中で安心して生活ができるということが、必要条件で、家がこわれるとか、こわれないとかは、別のことと思うんですが。

都市の理念とは

——ちょっと、話のテーマを変えて、先生の都市論をおうかがいしたいんですが、まず都市と農村の関係についてのお話から……。

中澤　都市と農村というものは、生活の場であるということにおいては同じなんです。そして生活の様式、生活の仕方が違うために、施設も違い、考え方も違うんです。同じ施設であっても、その使い方が違うということなんです。これを、私は文化的でなく、文明史論的違いだと思うんです。文化というものを、私は、生産の方法だとか、火を発見するとか、あるいはいろんな技術革新、科学の発達といった人間の内部的な発明、発想、これが文化だと思うんです。つまり機械文明とか、情報文明とかは人間自身が作ったもので、人間自身が変化を受けていく、これが文明だと思うんです。この外部から人間が変化をこうむる状態が、都市と農村で違いが生じ、都市と農村に境目はないんです。農村が都市化するということは、自然に文化が人間に作用していき、純農村が、純農村でなくなってくる。昔の農村は血縁関係が集まって協同して、生産をし、生活をしていた。今では、農作業が、機械化し、親類の協業が不必要になってきている。文明史論的に言えば、生活様式が変わっているのであり、それがいわゆる都市化であるわけなんです。だから、都市のだれかが、農村を侵略するんでもなんでもないんです。したがって都市と農村を対立的に考えることは、おかしいんではないか、やはり連続的に考えなければいけないと思うんです。また都市自体においても、小さい都市、大きい都市があります。これらにも都市と農村と同じように違いがあるはずです。したがって、大小まとめて都市、その都市と農村という考え方はおかしいと思うんです。

——つぎに、都市計画の理念とか、都市の理念ということは、いろいろ幅の広い解釈があるようですが……。

中澤　都市の理念だとか、都市計画の理念だとか言ったときの理念は、こうすべきだという形の問題ではなく、考え方の問題ではないかと思うんです。つまり、世論の支持を受けて、都市計画を実現するためには、どんな方法がよいか、どんなことを考えなければならないか、いわば思想ですね。こういう思想の系統とか、哲学的考え方といったものが理念に当たるんではないかという気がするんです。



そういう意味で、最近、私の書いた中で、まちづくりの基本理念は、これまでの天下り的計画というものでは、出来ない。出来ないということは成田空港の場合で、十分わかっているんだがねえ、例のＴＶＡが出来たとき、リリエンソールが戦後すぐ出した本で、「開発はその土地と、その資源と、住民とのものである。そのための開発なのだ」と強く言った。私はそれを使って、よく言ったものなんです。大阪には電力が足りない、熊野の開発をして、熊野で電力を作って、大阪へ持ってくるわけです。それがおかしいといって、建設局の連中といろいろと議論をしたもんです。やがて、只見川の開発のとき、只見の発電全部を東京へ持っていこうとした。ところが、なぜ新潟へ落とさないかということが、新潟県からクレームがつけられ、結局、新潟県へ落とすことになった。つまり資源はその土地の住民のものなんだ、つまりこういったような考え方が、理念といった言葉に当たるんではないかと思うんです。

1924年にアムステルダムにおいて都市計画会議が開かれ、衛星都市論が議論された。「大都市とそれから、離れた衛星都市とが一体となって地方計画をつくろうではないか、その中間に農地を残存しなければいけない」といったようなものがある。これは形態にも関係してくるが、やや方針とか理念的なものだと思うんです。このようなものを、都市計画の理念だと思うんです。

――その開発の理念と言いますか、都市計画の理念というものと、最近よく言われています、地方の時代という言葉は、密接な関係にあると思われるんですが…。

中澤　今地方の時代と言っている、地方分権ということを言ってますね。広島県の知事が、いろんな事項を広島市へ権限委譲をしたり、静岡県もやろうとしていますね。要するに、中央集権的な、天下りがこれまでの日本の大勢だったんです。これに対して、古くから、これにやかましくいっていたのが、関さんなんだ。関さんの都市制度論を見ると、これは都市計画ではないんですが、都市制度というものに対して、天下りはいけない。現実というものを何も知らないで、中央のエリートが、取り越し苦労、つまり親切心でやってくれる。これが中央集権で、悪くなれといっているのではなく、地方はよくなれと思ってやってくれてるんです。決して悪意があってやってるわけではないんです。むしろ善意なんです。しかし、自分がえらいと思っているから、実情もなにも知らないで、法律を作ればよいと、法令を次から次へ作って、パッパッと、やってくる。明治22年の市制、町村制以来、中央官庁がずっとやってきた方法なんです。これに対して、関さんが、くらいついた。結局、もう少し本当の意味の地方分権をしなければならない。つまりこういう事業をするから、補助金をくださいという今の格好でなく、地方に自主財源を与えて、この金で、なにをやるかを自分で考えて、自分で選択してやる。これが本当の地方自治だ、これから都市計画が出来るんだ、こういう考えなんです。

今、都市計画をやろうとすれば、案をつくって、とにかく建設省へ行かなければならない。建設省は、地方の知事にみな権限を委譲したかといえば、10年前に都市計画法が変わった後においても、委譲はしてないんです。結局むこうへ行って、大臣の認可を受けなければならないんです。その前に、建設省へ行って、局の係と打ち合わせるんです。ここで打ち合わせをしておかなければ、補助金がもらえない、補助金がもらえないと事業ができない。だから、新都市計画法が、知事に権限を委譲したといっても、なんにもならないんだ。中央集権は、ちっとも変わっていないんだ。地方は財源がないから、財源をもたして、都市が自発的に自分の考えたことをやる、これが必要なんだ。自分はこれだけ、お金がある。これで何をやろうかという選択が、市町村にまかせられなくては、本当の権限委譲ではないし、地方の時代とも言えないんじゃないかな。結局、広島県知事がやっている権限委譲は、必要な金をつけてやっただけの話で、根本的には、何も変わらないと思うんだ。

――では、本当の地方の時代を迎えるには、住民の側にもいろいろと準備がいるし、訓練を経なければいけないと思うんですが……。

中澤　都市計画は、さっき言ったように、地方、市町村に金をくれておいて、その市町村のやりたいように、やらせることが必要なんです。そのためには、住民に対して訓練が十分できてなければいけないんです。建築協定ですら、実例が少ないでしょ。建築協定は、自分達のまちの生活環境を守るという法律行為なんです。しかし例が少ないということは、いかに一般の人が訓練されていないか、ということと言えるでしょう。もっと建築協定がやれるように、関係者が啓蒙する必要があると思うんです。そして、もっともっと住民が訓練され、住民参加をつづけなければならないと思うんです。

総合計画とは

――先生は、高知市の総合計画をおやりになったりされましたが、総合とはなにかということについて、ずいぶん研究をなさり、そして結論を明快にお出しになっているとうかがいましたが……。

中澤　私は、昭和32年に、高知市の総合調査をやった。それ以後、総合調査とは何かということに、皆がこだわって、あの時分、いろんなことを書いているんです。その時分、一番熱心に総合とは何かと、掘り下げていこうとしたのが、奥井復太郎さんなんです。奥井さんは、総合とは何かと非常に悩まれた。結局、都市というものには、いろんな科学が集まっている。そういう科学の都市に対する結論を総合しようとした。これは無理なんだ。科学とは別々の方法論でやっているでしょ、こいつをいっしょにしようとしてもできないんだ。これは、あたりまえのことなんだ。〝都市とは何か〟といったときにこれは返事はいくらでもある。何千、何万、何億でもある。これはスズメは何かといったとき、何千、何万の答えを集めても、スズメは何もわからない。つまりそういうものをいくら集めたところで、本質はわかるもんではないんです。経験科学というものは、いくら集めても総合にはならないんです。つまり都市をなんぞやというより、人間に対して、都市とは何かという具合に、都市の中で見方を変えることによって、答えは出てくるんです。決定しようとすると、それらの答えの中で何かを選択をしなければ、ならない、そのときに総合というものがあるんだ、と奥井さんは北九州の長期総合計画の中で言っている。住民参加を得て、意見をいろんな角度から出してもらう。その中には、反対するもの、対立するもの、矛盾するものがある。これらを皆たてようとするのではなく、どちらかを選択すること、これが総合だと、奥井さんは言っている。

経験科学だけを、いくら並べても、総合にはならないんです。その中で対立したとき、その対立を、どう解決するか、ということではじめて総合化ができるんです。だから私は、価値観の相克、あるいは意見の対立のどちらをとるかの選択方法の理論を知りたいと思っているんです。簡単な方法は多数決という方法があります。ギリシャの民主主義といっても、あれは特定の民主主義、貴族の民主主義だから、一般の民主主義ではないんです。今日、日本の問題では、多数決だけでよいのか、よいとなると、多数決をとるために、いろんな方法が講じられる。金権、なきおとし、その他いろいろな邪道がはやる。そうすると多数決は意味を持たないんです。今、国会で、

議会民主主義が疑問をもたれているのは、その点なんです。
多数決は、全体、意見が対立したとき、その解決方法としていいと言えるのかどうか、私の総合論の最後は、ここへ到達してしまい、まだ結論を出し得ないでいるんです。これが私の長生きしているひけつの一つでもあるわけなんです。

都市美

——また、都市と建築の話になるのですが、20年ほど前に、先生が「都市美とデザイン」という講演をされました。そのとき、「いろんな計画があるのに、どうして建築がバラバラであるのか」という鋭い質問が出て、先生お困りになったというお話をお聞きしたんですが……。

中澤　昭和33年に大阪府教養講座というのが、中之島図書館であったんだ。そのとき「都市美とデザイン」というテーマで講演をやった。僕はマジメに、都市発展の一般形式、工場の分散、近代都市の特色、機能の分化とか、CIAMのやった都市機能の4分類とか、都市計画がどうだとか、都市機能の細分化、純化なんかについて話をしたんだ。そしたら、最後に『計画線があるのに建物の高さが違ったり、壁面の位置が違ったりして、建築がバラバラなのは、なぜか。またこれらをそろえるのが、広い意味での都市計画のひとつの仕事だとすると、それはそれでよいのか』というような質問だった。僕はえらい質問をされたと思った。
大阪の町は、デコボコしたところが美しくないんだ。これを美しいという人は、あまりいないと思うんだ。しかしスカイラインの変化そのものが美しいという人と、スカイラインがそろっているから美しいという人と二つの種類があるんだ。これまでヨーロッパの都市がよいというのに、この二つの場合があるんだ。ドイツの中世都市なんかに魅力を感じるのは、尖塔、教会の塔、お城の塔があって、スカイラインの変化があるんだ。また逆にフランスなんかへ行くと、非常に軒がそろっていてスカイラインがそろっている。結局、宗教的な力か、時の権力があって、権力のもとにひとつの統制ができるとき、このような町が出来るんだ。日本の城下町がやっぱり、こうなんだ。江戸時代には、格式によって家の構えが決まっていた。こういう身分以下の人は玄関をつけてはいけないとか、だから、大体町並みがそろっている。それからまた高山とか永平寺のような、昔から大工、棟梁のしっかりした人がいて、自己顕示欲の旺盛な人がいないときは、高山の格子づくりの町並みのように、ずっとそろってくるんだ。このように、なんらかの意味において、そろったという感じがないのが、大阪の町といってよいだろう。自由奔放、自由というものが、外国で考えられている以上に自由になってしまった、今の日本においては、たとえば、自己顕示欲の非常に強い、自分が一歩先に出なくては、めだたなくてはというときには、町並みは、マチマチになるのは、当然なんだ。しかし、どちらが良いかとなると、ちょっと批判できないと思うんだ。しかし質問に対して、原因としてそういうことは数えられたんだけど、そのとき、あんまり言えなかったような気がする。なんせ20年前のことだからね。
自己顕示欲が出てくるのは、商業建築には限らず、すべての建築に言えると思うんだ。人より変わったことをやりたいという風潮になってるでしょ。だからこれを、本当に統制した方がよいかというと、これは問題だと思うんです。超高層建築が出来るように、例の容積制になったとき、デザイナーの人達は、これで自由にデザインが出来るといって喜んだものなんです。つまり自由、なんでも自由があればよいという風潮ですから、これ自体が考え直さなきゃいかん、テーマのひとつだと思うんです。

80年代に若手にのぞむ

——ところで、われわれ80年代を迎えたわけですが、80年代につみ残された問題が数多くあると思うんです。その中からいくつかの問題をご指摘いただき、われわれ若手の人がどう解決の手法をみいだすべきか、ご教示いただきたいのですが……。

中澤　若い皆さんに、今都市において、なにがおこっているかという現象をもっとつきつめて、その中で、いいと思われる現象、悪いと思われる現象とを区別してそれぞれの対象で、何がおこっているか、この現象を、若い人がもっとせんさくをしていただいて、問題をつかまえてもらわなくちゃあいけない。
これが、経験科学というやつです。まず「ある」ということのせんさくをして、それがそうでないためには、どうするかということは、イカン、イカンと言っても、しようがない。そこで若い人は、こうすればいいということを、仮説として出してほしいのです。この仮説の出し方が、ややもすると、仮説として出さないで、断定してくる。これが危ないんです。つまりとっかかりは、悪い現象をみたから、なんとかしなければならないという発想はいいんです。それをひとつの方法として、こうしたらいいんじゃないかと考えつくことは、その人自身の仮説なんです。もしこうなれば、こうなりうる可能性を示しているわけです。これは悪いという価値判断がひとつあるんです。つ　り「ヨダン」でやってもらっては、いけないんです。客観的に見なければ、いけない。客観的に結論を出すにはどうするかというと、他にもいろいろと科学がありますね。それらの科学からその問題をせんさくして、仮説を持ち寄って、さらにそこに住んでいる人が、どういう生活の変化を受けるかということを含めて、これらを総合したところで、方法論を決定しなければならないんです。
つまりはじめ、実態調査をし、悪い点をはっきりさせておき、それに対応した仮説を持ち寄って、総合の場に持ちだすという二段がまえの段取りが要る。私のような年寄りは、仮説を出してやるということは、とても出来ませんから、むしろこういうことをやるにはどんな方法がよいかということを一生懸命に考えているわけないんです。そして若い人が、どんどん大たんに意見を出していただきたいと思うんです。今、その大たんさがないんじゃないかと思うんです。こうすれば、これが本当に実現するかどうかわからんとか、ずいぶん先のことまで考えて、たじろぎ、勇気をそがれているんではないかと思うんです。若い人は、もっとどんどん仮説を発表していただき、総合の場に発言するということをやっていただきたい。
今、都市計画に関して、いろんな論文を見るんですが、これは、大体実態調査だけなんです。医者でいえば、診断ばかりしていて、処方箋がないんだ。だから若い人たちは、勇気を持って、都市の診断に対して処方箋を書いて発表すべきなんだ。ただ、他の仮説を無視して、これが通らなければ駄目だという態度ではなく、謙虚な気持ちで勇敢に、提案として発表していただきたい。
このことが若い人に欠けているような気がするんです。だから今やっているのは、経験科学だということを忘れずに、これをすぐ規範科学になるんではなく、そのためには、こういう案があるんだと案だけを提案する。これを皆でひとつ考えてくださいというような、謙虚な気持ちで、勇敢に出していただくということが望ましいと思うんです。

——われわれ若いものが、もっと若さを持って、謙虚に事にあたるとい

う非常に耳の痛い話だと思うんです。そして、今の都市問題の中で、重要な問題、若手にチャレンジして欲しいテーマなどについてご指摘いただけないでしょうか。ミニ開発、これなんかも大問題と思われますが…。

中澤　持家政策、これがいけないんです。日本の政策は、終戦直後から、ずっと今日まで持家政策でいっているでしょ。あれがいろんな罪悪をつくっている。ローンが払えなくて、死んでいる人、だいぶあるでしょ。それから死なないまでも、ローンの支払いがとどこおってこげつき、銀行が困っている。持家、持家といって甘い言葉で誘惑し、仮需要を作ってしまう。これで一番大きいのが土地の値上がりなんです。もしこの持家政策を、こんなに宣伝しないで、もっとイギリスのように賃貸住宅を主に考えて、それを日本政府がどんどんやっていき、大きいのから小さいのまでいろんな大きさの家をつくり空家率を相当もって、お互いにジュンカンさせれば住宅公団が今困っているように、何万戸も住宅が空いているというような、ブザマなことはないはずです。建設省の宅地審議会でも、えらい人が集まっていろいろと議論しているらしいが、持家政策、あたりまえのことと思っているのだなァ。

エンゲルスが労働運動のためには、借家住まいでなければいかんと言っているが、持家政策はちょうどエンゲルスの理論に対する対抗措置のように思えるんだ。だいたい30になるかならんで、家を買い、自分で買えなかったら、親父に出してもらい家を買う。そして払えなくなるようなローンで、首をくくるか、支払いにこげつくか、まさに鎖でつながれたドレイといっしょですよ、そのためにミニ開発というのが成り立っている。

この持家政策は戦後30年間言いつづけ、甘やかしてきたんだ。今の若い人なんか、持家がなきゃバスに乗りおくれるという感がある。学校を出たら、すぐ家を持とうとしている。こういう風潮に乗っているのが、不動産業者ですよ。あれ不自然ですよ。

それから市街化区域の中の宅地課税、わたしは賛成できないんだ。宅地並み課税というと、その根拠は、課税バランスだけなんだ。市街化区域内宅地並み課税をやって、それを売り出したら、ミニ開発しかできない。課税バランスから言えば、宅地並み課税はすべきなんだ。しかし住宅政策がまちがっている以上、私は賛成できない。私は市街化区域、市街化調整区域という線引制度、これは考え方はいいと思うんだ。しかし土地問題に対する手当てしなきゃ、土地投機が行われるに決まっていますよ。そこへ持って来て、田中角栄が列島改造論をやったでしょ、あれで今日の土地が、バァッと上がっちゃった。これは、諸悪の根元ですよ。これで税制をゆるめると、土地成金がふえるだけですよ。土地に対して土地成金ばかりがついてくる。線引きが悪いことじゃないにもかかわらず、結果は悪くなっている。日本に土地政策はないと言われたけれども、今日ほどないときはないんだ。何か言ったら土地政策にひっかかってくる。土地政策は都市計画の中の重要な問題だ。都市計画の論文の中には、土地政策に関する論文、ひとつもありゃせん。これじゃいかんですよ。都市計画では、土地問題をもう少し慎重に考えて、これをすぐに国有化するというふうに簡単にやっては、意味をなさない。都市計画は、物的施設だ。これさえやってたらよいという甘い考えではだめだ。

――職住近接とか、職住分離という問題も、現代の都市問題として解決しなければいけない問題ですね。

中澤　そう、職住分離の問題ねえ、昔はそんな問題、問題にもならなかった。関さんがこっちへこられたのが大正3年ですから、60年あまり前に、ちょうど職住分離がはじまりかけたときなんだ。それまでは問題はなかった。今なにが起こっているかということをせんさくしてもらううちの、重要な問題のひとつだと思うね。ただ唯一の問題だと数えるのは、問題だと思うが、職住分離、職住近接、この問題は石川栄耀君が、戦後東京の計画をやるとき、通勤のない都市をつくるというようなことを言った。しかし前の都市計画法が出来た大正9、10年ごろ職住分離ははじまりかけており、昭和20年ごろには、完全に職住分離は出来ていました。このときに、通勤のない都市をつくるということを言ったわけなんです。しかし現実には、住宅公団がいろんなところへ家を作り、ますます職住分離に拍車をかけた。せっかく重要な問題だと思い、着眼しておきながら、実際それが行われていないというわけです。

それからモータリゼーション、今非常に困っている。30年まえに配慮が出来たか、今考えてみる必要があるんではなかろうか、そして今だったらどうなるか。仮に都市の中へ入ってくる車を止めてしまう。止めてしまうとどうなるか、止めるためにはどのようなことをしなければならないか、どのような経済関係がおきるか、一般の人には、どうなるかというようなことをいっぺん考えて、仮説を出して考えていただきたい。

このモータリゼーションに対しては、もう必需品だと、どうにもならんというふうにあきらめてしまい、ふれようとしない。これは非常におかしいと思うんだ。

勇敢にやってくれということは、それが出来る出来んということは考えないで、こうすればこうなるということを若いエネルギーで、ひとつ仮説を出してもらいたいと思うんだ。

法律屋にまかせても駄目なんだ、法律でなんでも出来ると思っている。だから自由に考えうるのは、建築屋だと思うんだ。土木屋とはちょっとちがうんだ。夢にみたアイデアではなく、論理的根拠をもったアイディアを大たんに出してもらう。それが80年代の黎明になる、そんな気がするんです。

――どうも長時間にわたり、貴重なお話、ありがとうございました。80年代を迎えて、われわれ若いものは、先生のご指摘になったような問題に一つ一つ、勇敢に、チャレンジしていきたいと思います。

工学博士　**中澤誠一郎**氏略歴

大正5年　第三高等学校卒業
大正9年　東京帝国大学工学部建築学科卒業
大正9年　内務大臣官房都市計画課雇
大正10年　大阪府技師
大正13年　愛知県警察部建築課長
昭和7年　大阪府警察部建築課長
昭和14年　内務技師、計画局第2技術課長ほか
昭和20年　内務省国土局勤務内務技師
昭和24年　大阪市立大学理工学部教授（31年まで）、以降講師
昭和32年　中澤建築事務所開設（51年まで）
ほかに大阪市総合計画審議会委員ほか多数の名誉職につく。



左より富樫氏、稲垣氏、赤崎氏



左より斎藤氏、中澤氏

第Ⅰ部
歴史に学ぶ

インタビュー ―都市計画の先輩に聞く

都市計画の技術と実践
―玉置豊次郎―



建築線指定の効果
区画整理の実施
都市の防災化対策
民間の力を利用したまちづくり
今後の計画的なまちづくり
今日の都市計画にのぞむこと

と　き　昭和54年９月25日(火)
ところ　大阪住宅センター（大阪市北区）
インタビュア　寺内　信（大阪工業大学）
赤崎　弘平（大阪市立大学工学部）
池端　猛（環境整備センター）
富樫　穎（大阪市立大学生活科学部）
松井　昭光（日本建築協会）

この記録は、２時間にわたるインタビューを池端　猛氏がまとめたものです。

玉置豊次郎氏の都市計画専攻の動機と背景

東京市区改正条例の大阪への準用が大正７年、旧都市計画法と市街地建築物法の施行が大正８年に行われました。当時玉置豊次郎氏は、金沢の四高の学生でした。四高の図書館には、片岡安氏が寄贈された「建築と社会」があり、片岡氏自身が執筆されたものや、旧内務省の都市計画関連資料が多く掲載されていました。それらに大いに啓発され、大学に入ったら都市計画を専攻しようとの決心を固められ、その後、大正９年に東京帝大建築学科に入学されました。

当時世の中も都市計画への期待で沸き、関心も大きかったそうです。しかし都市計画関係の資料は外国文献に頼るしかなく、文献を通じて知る欧米の都市と日本のまちとは格段の差を感じられたそうです。その資料についても大正９年に第１回の国勢調査があり、人口についての資料がやっとできた段階で、都市についての資料は皆無に近い状態でした。氏のエピソードの一つとして、大学１年の春休みに銀座等の交通量調査を単身で実行されました。朝８時から夕方５時まで６日間にわたって、通行人、馬車、電車数などを現地調査をやられたとのことで、当時の東京朝日新聞でも、この様子を記事にとりあげたそうです。

大正12年に内務省都市計画局に就職され、その年の９月に関東大震災に遭遇され、帝都復興院に配属後、帝都復興計画の立案を担当。大正14年に大阪府建築課建築監督官として帰阪され、その後、約17年間に大阪府で活躍されました。（編集幹事会）

建築線指定の効果

玉置　大正14年に大阪に帰ってきて、建築監督官をやらしてもらうことになりました。当時、外国の資料で一番多いのはイギリスのもので、その関係上、一番親しみました。

最初に出てくるのが1848年のPublic Health Act からで、住宅のためにはイギリスは非常に長い間困ったわけで、半世紀から困るんだが、うまくいかなかった。ところが、1909年のHousing & Town Planning Act という法律が出来て、初めて軌道に乗るようになるんですね。それはドイツの建築線指定や土地区画整理を取り入れたことによって、片がついたんです。だから住宅問題の片をつけるには、都市の整備でないと絶対にできないという確信を得ました。その時分、イギリスの本をいろいろ読んで分かってきたことの中に、不良住宅というのは発生するものか成長するものかという議論がずい分ありました。

当時の大阪のまちの状況は、ロンドンで騒いでいる以上に悪かった。大阪のまちの周りには小さい工場が出来てるんですよ。築港から難波、生野から鶴橋、天満から福島にかけて、大阪のぐるりは小さい工場で取り囲まれていました。工場の煙突からは石炭の黒い煙が出てひどいものです。そのそばに工場労務者が住むわけです。イギリスの不良住宅の情報がいろいろ入り、日本でも社会問題になりまして、結局住宅改良へと進んでいくわけです。不良住宅の改良は結構ですが、不良住宅が出来ないようにすることがもっと大事じゃないか。一方で不良住宅を改良していき、こっちで不良住宅がどんどん出来ていくというのはイタチゴッコで何もならん。それでまず周囲をおさえることの方が先じゃないか。それをやろうと思えば、イタリアで始まった建築線を、これを利用するしかない。今からみたらイタリアで110～20年前になりますかな、世界で最初にはじまったわけですが、それをプロシヤが真似したんですが、全部スプロール防止が目的です。これしか手がないと、課長に頼んで建築線係をつくらせてもらいたいと申しました。当時の建築法規に建築線制度がありました。津田課長さんは、それはやれということで始めたわけです。今まで空いたところへバラバラ建てていたが、それからはきれいな道をつけないと家を建てたらいけないとのことで、いかにも

負担になるように思えますが、出来たら非常に家が良く見えるわけです。皆も悪いことないなあというわけです。皆よく言うことを聞いてくれました。今開発指導課がやってますが、あれの先鞭を50年前にやったわけで、毎日午後になると現場へ検査に行きました。

区画整理の実施

玉置　ところが現場へ行くまでの公道がぐにゃぐにゃし、それを拡げても9尺しかならない、昔の法律では。
めいめいやるところは3間にしたり、場合によっては5間にしたりしているわけですが、肝腎の公道は9尺しか広くならないという馬鹿げたことで……急ぐのはこの方じゃないかということで、これはほったらかしといてはいかん、これをやれるのは役所しかない、個人では出来やせん、区画整理でしか出来ないというので。当時私のところで、どこで建築をしているという話が全部よく分かって、区画整理やるのは都市計画課でして私の方の係ではありません。が私の方で今生野の方で何程が建っているとか、今十三で何程が建っていることが分かるので、都市計画の方に、そこの区画整理の図面をかいてくれと頼みます。そしたらその図面にもとづいて、家を建てる人に、どうぞこの通りやってくださいと一人ずつお願いしたわけです。建て主にしたら大変迷惑な話ですが、たとえば「ここに道をつけますから協力して下さい。そのかわりやればすっかり良くなるんですから。この半端なところは、隣にもらうように換地しますから」と説得し、いっしょに区画整理の同意書に判を押してもらいました。そうしたら、家一軒建つたびに同意書が1枚ずつ来ました。家を建てる人ばっかりだったら良いが、そういうわけにいかないでしょう。そんな人々は警察に集まってもらい、それで、こういうふうにきっちりしたらよくなるのだから、と説明すると、ともかく近所みたら無茶苦茶なスラムがいっぱいあり、ああなったら困るからと説明し、皆もよくなるんだからと反対する人はなく、ベタベタと同意書に判を押してくれました。それを府の都市計画課に送りました。区画整理の書類を役所で作成していました。そして空いたところは全部区画整理をやって、出来やすいところだけをやるんじゃなくて。まあそれでうまくいきましたな、とくに反対する人もなく。

――区画整理をやりやすいところだけではなく、全部やることの意義を、当時、皆そういう認識を持っていたのか、先生がそうじゃなければならないという、外国から得られた教訓からなのでしょうか。

玉置　それはそういう話をしました。外国でこうしているとか、いろいろと話をするんだな。そうしたら乗ってきてくれて…。やったらどうなるかという前例の話をしたり、外国では3割5分も4割も減歩するが、うちではそんなことはしないとか。

――それはある程度規模の大きな土地を持った地主さんでないと話が通じないということだったんでしょうか。

玉置　区画整理以前には耕地整理をやっていたんだが、これが始末が悪いんだ。道幅が狭く、道路と道路の間隔が60間で、そこへ小さい家を建てようと思っても建てられない。それを区画整理並みに直す必要があり、それを建築線で全部に直したんです。耕地整理の道路を拡げ、道が足らないんで、建築線を指定して新たに道路を作ったんですよ。家を建てる場合は、そこをよけて建てて下さいと言います。それから西大阪全部は土地会社なんだな。「大阪人」にも書いたように西大阪全部は新田でしょ。あの新田全部が土地会社になって大地主ですよ。東京にだってあんな大地主はいないよ。ここではその土地会社とだけ相談したらいいんです。そこは全部建築線でやったんや。だから耕地整理のところと土地会社のところは私一人でやれたんや。ところが他のところは、小さい地主がたんとおるでしょ。こいつは組合にしないとできません。これは区画整理やないとできません。だから建築線でやれるところは私一人でやる。小さい地主さんが集まっているところは区画整理組合でやる。そういう使い分けですわ。

――小さい地主さんの場合だと、減歩でかなり厳しくなると、かなり反対もあると考えられるんですが、その反対はなかったんでしょうか。

玉置　反対は何もなかった。次から次、次から次へと出来たよ。結局つまるところ信用してくれてましたね。玉置の言うこと聞いて絶対、損しないと。「大阪人」にも書いといたけど、守口へ行く市電の話やら、影山さんのお嬢さんが死なはった話が出てたでしょ。ともかく、信用してくれてましたね。たてつく人は誰もいなかったな。

都市の防災化対策

――区画整理の話の中で、実際には民間の力がそういうまちをつくってきた、そういう力をいかにうまく活用するかという話をおうかがいしてきましたが、それとともに、もう一つは防災、都市の災害対策ということで、先生の、非常に有名な話としてはＯＰ9尺をおやりになりましたが、防災問題、先生のお書きになっているものの背景として、当時の防災のようなものがバックボーンになっていると思うんですが、なぜ防災問題にとりくまれたかということをお聞きしたいと思うんですが。

玉置　火災の話について、当時アメリカの保険会社が、統計を出してくれてました。アメリカはヨーロッパに比べて非常に火事が多い。それでアメリカの保険会社が、ヨーロッパがアメリカに比べて非常に火事が少ないが、ヨーロッパの火災状況はどんなんであるかという、調査をしているんですよ。それの報告書が出てるんですよ。それを私がみた。そうすると、ヨーロッパでは延焼というのがほとんどない。この頃のように石油を使って爆発するということはなかったしね。火災の統計をみると、火の出た部屋だけとか、火の出た階だけしか燃えていないとか、たかだか火の出た家だけしか燃えていないとか、延焼というのはほとんどないですね。そうしたところが日本はね、まあ即時消火という例はありますが、相当延焼しとるんやね。
その前にね私の歴史の先生で、伊東忠太先生、これはまた面白い講義で、一生懸命聞いていました。王朝時代、今の岡崎公園のあたりに六勝寺という豪壮な寺がどんどん建ちますわね、それは平泉の金色堂の何十倍という立派なものが建っていましたが、焼けてしまってあらへん。それから家康が江戸へ行って、参観交代で各大名を集めるでしょ。そのときの建築状況というのは大変なものですよ。桃山建築を京都でつくっていた彫刻家や狩野派の画家が、全部江戸へかり出されるんですよ。初期の江戸というのは、京都の桃山文化以上のものができるんだな。それが明暦3年の火事で全部焼けてしまうんですよ。これは惜しいもんですよ。これが残っていたらたいしたもんです。
だから日本に火事がなかったら、ヨーロッパどころでなく、どんなにいい文化が残り得たか。だから日本で何とか火事を防ぐ方法はないやろうかということですが…。
そういうことで火災の歴史はずっと前から調べました。そうしたら地震の歴史も一緒に入ってくる、台風の歴史も入ってくるで。だか

ら台風の記録や、地震の記録や火災の記録は、学生時代のときからその記録を集めていました。大阪でどんな津波があったかということも、だから昭和９年の高潮が初めてでないということで、また来るに違いないと思ってました。台風が来ると下水の泥が全部あがるでしょ。まわり全部工場で、機械油でしょ、化学工場でしょ、原料が流れてくる、製品が流れてくる、染料工場から青い水が流れてくる、赤い水が流れてくるで、あのときの水害というのは、よその水害とまるで違う、大阪独特の水害ですよ。こんなことがまたあったら大変やと、それでどうするか。徳川時代にまちをつくるときは、まず地あげをさせる、それまでは家を建てさせない。昔の人はちゃんと地あげをしていたと。今はせえへんと。こんなことがあるかと。これからも建てるときは、低いところはかならずわれわれの先祖がやっていたのと同じように地あげすることが当たり前やということで、地あげしようということですよ。これは区画整理やることと比べたらそれは大変ですよ。それもまあまあよく言うことを聞いてくれましたよ。大阪の三分の一に当たる西大阪を平均５尺あげました。

――そういう意味で、室戸台風のあとＯＰ９尺をお決めになったということを、私なりに考えてみますと、台風で皆大きい経験をやったと、皆これじゃこのままいったんじゃ大変だと、皆臨海地帯に住んでおられた方々はお感じになったと思うのです。そのときこれこれに地あげをしないという制度ができ、いろいろとお聞きして、大変な事業ですから苦労があったと思うのです。たとえば台風があってそういう経験があったから、地あげというものを出したときに、皆がよく理解してくれた、協力してくれたという解釈でいいんでしょうか。

玉置　そらね、新田というのは海の底ですわね。海の底を堤防でかこっただけで、水が入って来ないということで、水は入って来ないけどもともと海の底で、海抜０メートル以下ですね。そこへ初めから、ちょこっとだけ土を盛って、周囲より、田んぼの水が入って来ないだけで、建てているんですよ。だからもともと不良住宅なんですよ。だからそのままいてくれたら困るんだな。だから土地会社とは、しょっちゅう相談していました。建築線を指定しますわね。膨大な区域だから、一つの土地会社いっぺんに指定したんではなく、やっぱり部分的、部分的にやっていきました。そのときからあげてくれ、あげてくれということでした。最初から建築線指定のときに。土地会社も自分の土地のことですからやってくれてはおったんですが、それが低かったんや。不十分だったんですよ。それを今度は徹底的にやろうということになったんです。

――それに関連してですが、「大阪人」にもちょっと書かれていたんですが、たとえば地震を含めて、今の防災対策ですが、もうひとつ、たとえば避難の場所を決めてもあまり効果がないということを書かれてたと思うんですが。今の都市の防災対策というものに対して先生なりのご注文は……。

玉置　関東大震災のあとで、警察署なんかも全部木造で焼け、警視庁自身も焼けてしまうんですが、その両国橋を渡ったところに、相生署という警察署がありまして、警察署長が行方不明になり、どうなったんか分からんと言うんですよ。ところが被服廠のあとで、たくさんの人が積み重なって死んでいるんですが、その中から署長のサーベルが出てきたんです。火の手が四方から上がってきたとき、これは大変だというので、署長さんが警察官を集めて、管内の人はみな被服廠あとへ逃げるよう命令を出しました。それで巡査が管内へふれて廻りました。それで住民は、被服廠あとへ逃げました。署長はもちろん巡査も逃げました。そのとき深川で空いている広場は被服廠あとだけですよ。３万坪ぐらいありましたかな。そこへ集めておいて皆焼き殺してしまったことになったんです。そこへ集まらなかったら適当に焼けてない方へ逃げて、死なずにすんだんです。震災のあといろいろな調査をやりまして、以前から火事には関心を持ってましたから、火元がどこで、どういう方向に燃えていったかという延焼地図を、亀井幸次郎君の協力で、つくりました。見ましたら、一番えらいいきおいで、これは飛び火もありますが、１時間に延焼速度で800メートル、これは例外ですわ。普通は200メートルから 300メートルで燃えたら早い方ですわ。一番速いところで 800メートル。これはどんなに足の遅い人でも１時間に 2,000メートルは行けますわな、炎が人間を追いかけることはありません。炎の方が人間の足よりも速かったら、やられますよ。それよりも人間の足の方が速いですよ。ただ炎に囲まれたらあかんわな。囲まれるということは、よっぽどしてからのことやから。だから燃えてへん方へ先行ったらええんであって、ぜひどこそこへ逃げんならんということはないんで、火事をよけるんが目的なら燃えてへん方へ行ったらええんで、なぜ避難地へ行かんならんか、避難地へ行って、そこで炎に囲まれたら被服廠の二の舞だ。だから人を集めるということは絶対にいかん。災害がおさまって救援物資を配ったりするときは、バラバラにおられたら困るんで、どこどこへ集まってもらってたら、ラチが早いかも知れないから、それもええんかもしれんが……。

――そうするとまず不燃化が、防災対策にとって大事だということですか。

玉置　関東大震災のときの火元は、47ヵ所、48ヵ所と言います。これは、わたしらも皆調べたんですが、まあだいたいこういう数字です。ところが安政２年に大地震があり、江戸で火事が出ているんです。そのときの記録がありますが、80数ヵ所から火が出てますよ。それは瓦版にも出ており、私もそれを２枚持ってますが、その火事をあくる朝にみな消しているんです。

それで今とね、安政２年とどう違うか。徳川時代の火事というのは総がかりで消したんやな。町の人がみんな寄って消しているんですよ。それで第一、は組や、め組というのは、町の人間やわな。近所の人はみんな屋根へあがって水をかけて消しているんです。戦争のときにバケツリレーをして消しましたよ、ああいうようなことを徳川時代にみなやっているんです。ところがね、今日そうやないんやね。火事場へ来てくれると困るんやね、野次馬やね。火事場へ来る奴は、みんな追い散らすんだな。火事が起こったら、みんなが消すという関心がないんだな。これが私は一番おそろしいことと思うね。また対策を考えておく必要のあることとして、子供は学校へ行ってるでしょ、おやじは事務所へ行ってるでしょ、家は焼かれるでしょ、戻ってきたら家はあらへんし、だからみなどこへ行ったか分からへんから、それを探すのがえらいことですよ、ちりぢりバラバラで。

それで関東大震災後は、東京市内ビラいっぱい貼ったんだね。私の家族どこへ行ったか、知っている人いませんかということで、いたるところ貼り紙がいっぱいで、西郷さんの銅像もビラいっぱいで、そんな写真を見たことあるでしょ、そらえらいことですよ。役所はその世話をしてあげないといけませんな。

民間の力を利用したまちづくり

――防災対策についても、臨海部の土地会社にお願いし、機会をみて実際に地盤のかさあげされたり、区画整理の場合も、建築の届けが出てきて、その人達を説得しながらその輪を広げていくという一つのやり方をしておられ、その中でそれにもれる人達には話をされ、警察の場所を利用してお話をおやりなったということですが。
当時は建築は警察の管轄だったわけですが、警察の方へ人を集めるとい

うことで、ある程度強権的に出来たんじゃないかと理解される可能性があるんですが。大きくは建築線とか、区画整理とか、地盤の地あげとかをおやりになり、そのほかにも船場の軒切りというか建築線とかをおやりになり、先生はみんなに信用していただいたから出来たんだというお話でしたが、そのへんもう少し前後の状況のお話をしていただきたいんですが。

玉置　警察利用したというのは、私がたまたま警察部の人間やったということで場所代いらへんということで、警察を使っただけで、署長さんが毎日訓示された、そういう場所があり、借りたというだけで、警察の力とは全然関係ありません。お医者さんの家でやったこともありますしね、区役所にあいた部屋があったらそこでやったこともありますしね。結局、そのときの都合で、われわれとして、都合がつきやすかったのが、警察であって、警察の力とは関係ありません。ただ人によっては警察へ行くのとよそへ行くのとは、皆多少感じが違ったかもしれません。

――バックに警察があるから文句を言わさんということではなかったんですね。

玉置　そんなことは全然……。ともかくなんですね、これ1年や2年でできたもんではありませんで、10数年かかってますわな。それで今の公務員やなくて私らは官吏でして、官吏は電報一本で飛ばされるんですよ。それで前は三月ぐらいの知事さんがおった。私も官吏でしたから本来ならどこそこへ行けと言われたら、行かないかんねん。ところが、東京を棒に振って大阪へ戻ってきたんで、自分かってな都合ですがね、愛知県行けとか、神奈川県へ行けとかいう話を、全部ことわったんですよ。10数年おいてもらったんでやれたが、2年おきにあっちへポン、こっちへポンとやられたんでは、私は出来なかったと思うね。今府庁でもバンバン変えよる。有能な人や、それに適する人というのは、私はそこへじっと置いといたらええと思うが。その人にふんだんに仕事をさしてやった方がなんぼか能率が上がると思うんですけれどね。

――地元、大阪のいろいろな人達と接触をお持ちになり、制度を運用していく上でよかったわけですね。

玉置　そうそう。なじみになってね。人が変わりましたらね、それがええことばっかしじゃなく悪いこともあったと思いますが。

――そのへんで、たとえば建築線の場合でも、市街地建築物法第7条ですか、但し書きで都道府県で運用をまかされる。但し書きですから、やらなくても良いとか、積極的でないところと、積極的なところがありますね。大阪の場合、積極的な芽をみつけ出して、それを民間の方と話しあいにもっていってやられたわけですが。そのへんで当時の雰囲気はどうだったんですか。

玉置　六大都市の中で、建築線係をつくったんは大阪だけです、よそはあらへん。私がつくってくれ、私にやらしてくれということで、やったん大阪だけですからね。よそはおやりになってなかったようですね。

――先生はそういう方面で知識を持っておられ、建築線を利用して、まちをそろえていくということが、実際良い方法だと、法律の中にも運用をまかされたものがある、それをひとつ拡大して大阪で適用してみようという、そういう取り組み方になるわけですか。

玉置　ともかくね、よく言うんですよ。役所の費用で外国へやらしてもらったりしているでしょ。外国から戻って来ますわね。お前、戻ってきてすぐ、これを大阪でやったらええなと見たことはどんなことや、と聞くんですよ。そのね、これはよかった、ぜひ大阪でもやらんといかん、それでボャーと行って戻って来たんでは何にもならんので、これはええなと思うたことはやらんと行った甲斐があらへんやないかと言うんです。私はね、本読んどってええなあと思ったら、かならず大阪でそれを実行しようと。そうやないと読んだ意味があらへん。だから役所の人にしっかりしてもらうのと、そうやないのとでは、えらい違いですよ。

――縦割りの制度というのが、ずい分複雑になってきてますね。昔よりも、その数は増えてますが、組織の硬直化と言いますか、やる気があっても何々やれないという状況があるとは思われますが、そのへんどうでしょうか。

玉置　私は関係ないと思いますがね。法律を改正するのにどうとか、こうとか言いますが、私がよく言うのですが、法律にはいろいろありますよ、いろいろな規制をするための法律だとか、予算をつくるための法律だとか、その組織をつくるための法律とかいろいろありますよ。予算や組織をつくるための法律は別としまして、普通の法律というか、行為を制限するという法律は、そういう法律の前に私は、道徳律というものがあり、道徳律は法律に優先すると思います。人を殺したらいかんという道徳律があって、それがきちんと守られておったら、刑法はいらん。人の物をとったらいかんという道徳律が、きっちり守られておったら刑法はいらんのですよ。だから今こういうふうにやりましょうということを、みんなが了解してくれるのだったら、都市計画法も区画整理法もいらんと。みんながそれで了解したらええじゃないか。だから法律の前に了解があると、私はそういう考え方です。乱暴なことをやりよったということになるかも知れませんが、みんなの了解を得さえすれば、法律なしでもやれると、私はそう思てますがね。まあしかし、どんなええことでも、さっきの話やないが、反対する人はおるからな。そういう人のためには、ある程度拘束せなあかんでしょうな。だから制度はいらんとは言いませんが、原則はやっぱし、そういうところから出発する方が、おだやかでええでしょうな。そんなような気がしますな。

今後の計画的なまちづくり

――そのへんのところで、どちらかというと今、組織で仕事をやっていかないかんという時代で、戦前はたとえば、官制といいますか、先生が先ほど官吏と言われましたが、そういったもので仕事を組みたてて、出来たんでしょうけれども、今はなかなかそうはいかないんで、結局は今の制度でいこうとすれば、なにかうまい方法はないでしょうか。

玉置　大阪府が、この細街路をつくったら補助金を出すということで、茨木市が図面をつくったんですが、これからやる人は、この通りやって下さいということで、細街路網を決めたんですよ。すなわち建築基準法をこえる超過負担分をするときは、平米あたり26,000円、その補助をしようという案をだしたわけです。そうしたところ、茨木だけではなしに、豊中もみな、なにがしかのことはやっているんです。こういう細街路網までつくったんは、茨木市だけです。
それで、これに応じてくれる人と、応じてくれない人がいるわけで。そんなところ、これが昔のような建築線であったら、否でも応でもなしにこれに従わざるを得ないわけで、「建築線を突出することを得ず」ということで、建築線を指定することができるという法律があったんですよ。それが今出来ないもんだから。それがちんばになっているんで。まあ言わば法律的欠陥ですわね。昔のやつでいきますと、市内の土地会社はみんな建築線で出来たんや、それから耕地整理も建築線で出来たんですよ。それからつぎが、区画整理も区画整理組合が出来たら都市計画で制限できますけれどね、出来るまでは区画整理設計通り建築線で制限していたんだな。
だからそのときまで建築線をどんどん指示するねん。そうしたらその通りついていくわけですわ。前はそういう制度があったわけですわ。まあ法律なしでも、出来たらええが、出来ん場合もありますし、

そういう場合は法律も要ります。私は建築線制度を復活してくれたらいいと思うんですが。いまは建築線という名前でなしにやろうとしてますわな。

――建築線制度は今はなくなって、技術的には、考え方としては、完全にもとへ戻ることはできないでしょうが。一番いいのは区画整理ですが、それに至らない中間段階で、面的につなげていくにはどうしたらよいかということで、かなり建築線制度に考え方として学ぶところが大きいと思うわけです。考え方としてはあるが、制度としては至っていない状況だと思うんですが。

玉置　今度、建築審査会長会議があるんで、私は、これを出すつもりにしています。私は審査会長会議で、昔の建築線制度を復活してくれと、言いたいつもりでおるんです。この建築審査会長会議でも、郊外規制をどうしようかという話が、今まで重要なのにもかかわらず、出たことがないんですよ。それで、これから毎年審議してもらいたい、まあまあ一番重要なとこです。

建築線に関して、アメリカの現況についてはみな問題にしてないんやな。実際問題として、ヨーロッパの各国では、本もでているし、ええ雑誌もあるしね、それが参考になるんで、みな見ているわけですね。ところがアメリカでそれを問題にした本が出ていないことを、みんななぜ問題にしないかと思うんです。これは重要な問題ですよ。アメリカはみな片がついているんです、ヨーロッパと違って。したがって問題にならへんのです。だから私は日本の都市計画を研究している人は、まわれ右をしてアメリカの研究をやってもらいたいね。それはどういうことかと言いますと、アメリカの全都市と言ってもいいんじゃないかと思いますが、市域については道路網をみんな決めてしまっているんですよ。私、大分地図を持っていますが、ニューヨークの市域全部に細街路網をちゃんとかいてありますわ。ロスアンゼルスでもね市域全体について道路網の地図がちゃんと出来ていますよ。それ以外は一切建てさせへんのや。

アメリカの都市は州によりますが、建築線法という名前でやっているところと、総合計画法というのでやっているところと、二つありますわ。最近はみな総合計画法でやっているところが多いと思うが。それでまち全体の道路網をつくってんねん。それ以外には一切建てさせへんのです。それだから問題あらへん。日本もそれやったらええんですよ。そうしたら全部問題の片がつくんですよ。

今日の都市計画にのぞむこと

――最後に今日の都市計画に何を望むかというお話をおうかがいしたいと思います。
区画整理の場合なんか、都市化がまだしていないところでは、区画整理をやるといったってそう条件は成り立たないわけで、ある程度、核となるような市街地が、だんだん発展してきまして、そうしてその周辺がこのまま放置しておけば、スプロールして無秩序な市街地になる、だから機をみて、やるということが大事じゃないか、と思うのですが。

玉置　私が役所におったときに、建物を建てるという書類が全部私のところへ来ますねん。初めにお話したように、このへんにようけ建ちよるということがわかったんで、機をのがさずに出来たんですねん。当時守口は都市計画区域に入っていたんですが、門真は都市計画区域に入ってなかったんですよ。それで守口は、耕地整理がありまして、それを建築線で直して、そうでないところは区画整理をやったんですが、門真はその区域に入ってなくて、やってへんねん。そうしたらね、今、門真な無茶苦茶なんだよ。それで門真市の市の予算と守口の市の予算とを比べると、門真市の土木関係の予算がどっさり要るんですよ。だからもう区画整理やったら、将来にいかに助かるか、あれはいい例ですよ。

それからね守口は、水がつかる心配がないんですよ。ところが門真は水がつかるんですよ。でね水つからんようにするにはどうしようかと言うてね。だからいかに区画整理をやるというのが、将来にわたって肝要かということは、二つのまちを比較したらいっぺんに出てくるわけですよ。

――機をみるに敏と言いますが、ここはかならず市街化するという見きわめというか、そこは大変むずかしい点だと思うんですが……。先ほどの守口と門真の例にもありましたが、あるいは庄内の場合があったり、あとからみたら入れとけばよかったというようなことがありました。そのへんの見きわめはどうするんでしょうか。

玉置　庄内はあのように低いところですから、阪急電車は無視しておったんやね。だから十三から服部まで駅がなかったんですよ。終戦後つくりよったんや。それであんなことになったんや。今は豊中市は、あれを何億とかかけて再開発やるとかいうことですが、私はあれ何億かけて再開発やるんやったら、ああいうのが周囲に出来んように、周囲のその整備を急いだ方が、なんぼお金が生きるか分からへんと思うんやけどな。最近になって皆さんがワアワアおっしゃるんで、庄内がえらい表へ出てきましたが、私はごく初期に、誰に頼まれたんか忘れたけど、庄内をいっぺん見てきて感想文をかいてくれということで、見に行ったことがあります。ほんの初期のころです。まだあんなにぎっしりいっぱい建っていなかったときでしたがね。マッチ箱みたいな家が建っているんやな。区画整理をやったところは、だいたい奥行10間あるねん、だから庄内のようにはなりません。庄内では小さい家が建っているんや。それで住んでいる人に、私聞いたんですよ。「住みごこちどうですか」と。みんな喜んでるんですよ。びっくりしちゃった。今までに4畳半に3人おったとか、6畳に3人におったとかというような人が、向こうへ行ったんです。それから比べたら、ほんとにええところ来たと、みんな喜んでるんですよ。だから第三者が考えることと、向こうで住んでいる人の考え方は、まるで違うんですよ。そのとき、ピンからキリまであるんで、ある階級を標準にしてね、物を考えたらそらいけませんな。だから私は向こうの人はあれで満足しているのと違うんかな。現にいかんと思うて、お金のある人は、どんどん出ていってますよ。

今ね、阪急沿線で一番物価の安いのんは、庄内や。それでみんな岡町や豊中の人が、向こうへ買物に来るんや。ということは、住みやすいということですよ。

私は、都市条件で最も重要なこと何やと言うたらね、まあ月給とりが多いからな、月給取りを標準にして考えましたら、オヤジが通勤しやすいということと、細君が買物しやすいということで、これが都市条件で一番肝腎なことです。そういう意味では、庄内はええとこですよ。考え方というのは、いろいろあるからな。だからこういう人にはこういうのが向くとか、こういう人々はこういうのが向くとかね、自分の物差しでね、すべてを判断するということは、私は間違っていると思うな。むしろ庄内はあのままでおいといて、再び豊中の他の区域に、庄内のようなところが出来ないような予防措置を講ずるということの方が、急務だと思います。私が、区面整理をどんどんやれたと言いますのは、そのへんに貧民窟がいっぱいあってね、そのおかげや。

――戦後の都市のとりくみ方について、先生から何か、ご注文がありましたらお聞かせ下さい。

玉置　ともかく、区画整理ができましたら、設計次第ですが、よい設計ができたら問題はすべて片がつくんだ……。下水もうまくい

きますしね、上水もうまくいきますし、電気をひくにしても、ガスをひくにしても、それできっちりいきます。それでないと小区域にガス管をひくんだからといって、初め細いやつやっておいて、家が増えるたびに、太いのととりかえ、水道の線でも初めのこんな細いやつを、だんだん太く変えたりしてますが、初めから、これだけの家が建ちますということになれば、そう無駄もなしに全部片がつきますから。とにかく、区画整理をやるということは、すべての問題の片をつける手法と思いますからね。これを出来やすいようにするというのが、都市計画の上で、一番重要なことだと思います。

――都市の再開発ということで、計画的につくらなかったまちを、計画的につくり直そうとしているわけですが、先生は、都市の再開発についてどのようにお考えでしょうか。

玉置　ヨーロッパのまちと日本のまちと比較しまして、非常な差がありますが、その差はいったいどこから出てきたかということですか？古いパリの地図をみますと、そら細い道路がぐしゃらぐしゃらぐしゃらしとってね。ともかく、城壁の中は道らしい道はあらへんねん。ヨーロッパには、中世そのままのまちが山の上に残ってますね。自動車も通れん道ばっかしなんや。昔みなあれだったのですよ。昔はねヨーロッパのまちは、日本から比べたらはるかに環境が悪いんだな。それが今日ヨーロッパのまちと日本のまちに非常な大きな差ができたということは、ヨーロッパのまちはルネッサンス運動で大改造をやったということなんや。それでルネッサンス運動は、通常絵画や彫刻だけやと思っておりますが、ルネッサンス運動の一番大きな成果は、まちの改造ですよ。これは絵をかいたり、彫刻したりするのと違って、うんとこさお金がかかって、うんとこさええもんが出来とんねん。

今日のヨーロッパ、パリにしても、ロンドンにしても、ベルリンにしましても、どこでも広い道ができ、広場ができているのは、全部ルネサンス運動でできたんや。ところが日本の都市には、不幸にしてルネッサンス運動がないんだよ。むこうは隣どうしやから、はじめローマがやったら、パリがイタリーの技師をひっぱってきて、ルーブル宮殿のぐるりから始めて、だんだん進めて、エトワールまでごそっととってしまいますね。あれが朱雀大路ですよ。あれがあんた家がいっぱい建っとたんや。あれはルネッサンス運動でやったんですよ。ロンドンでもそうだし、ベルリンのウンテルデンリンデンでもそうだし、モスコーでもペテルグラードでも全部、ルネッサンス運動であああいうふうに立派にしたんやね。ヨーロッパと日本と離れとったんがいかんねん。あれが日本にうつってこなかった。徳川時代に、各大名がいたときに、あういうものが入ってきたら、大名はこぞってやったと思うねん。ところが鎖国でそういうことを知らなかったもんだから、まあ明治５年の銀座の大火のあとで、やっとやることになるわけですが。ヨーロッパの都市と比較して、日本の都市にもルネッサンス運動がほしいということですね。それが再開発というより、その方がもうひとつ大じかけですよ。私はそれがひとつ欲しいと思いますね。あれでどんどん、どんどん広場をつくりまして、今日皆人が集まれる場所をつくるんですよ。また日を決めて、市をやってますわね。飛騨の高山や高知へ行きますと、朝市やってますわね。私は大阪のあっちでもこっちでも、市ができるような広場があってさ、岡山の農協あたりがやってきて、ざあと店をやったり、滋賀の農協あたりがきて、ざあとやってくれたりして、そんなことができたら楽しいと思いますが。だからもう再開発をのりこえて、日本の都市に文芸復興運動をおこすと……。もっと大じかけなことを考えるな。

――長い間どうもありがとうございました。

工学博士**玉置豊次郎**氏略歴

大正９年	第四高等学校卒業
大正12年	東京帝国大学工学部建築学科卒業
大正12年	帝都復興院技師
大正14年	大阪府建築課大阪府建築監督官
昭和17年	愛知県警察部建築課長
昭和21年	愛知県建築部長兼戦災復興院愛知出張所長
昭和31年	大阪工業大学教授
昭和54年	大阪工業大学名誉教授
現	大阪府建築審査会長
	大阪府二級建築士試験委員長
	大阪住宅センター理事長
	大阪賃貸建物経営者協同組合理事長



左より赤崎氏、寺内氏、富樫氏、池端氏、背を向けているのが玉置氏

第II部
都市計画の歴史を追う

資料―図表と文献にみる

大阪の都市計画・年表（明治～終戦）
「建築と社会」誌にみる都市計画のあゆみ



「大阪市改正街路図」―「建築と社会」大正７年５月号口絵おりこみ

大正７年５月号の口絵。この図の説明が「大阪市改良計画調査会は昨年早春成立以来鋭意調査研究を進め，現時の大阪市に於て実行に可能なる街路改正仮定案を決定し、各方面の施設の基礎案とし、以て改良計画の第一歩を運はんとするもの、如し、本図は本会が特に許可を得て茲に掲げたるものにして世上識者の留意すべきものたるは勿論、読者の参考資料たるべきことを深く信じて疑はず」とある。

大阪の都市計画・年表
(明治～終戦)

赤崎　弘平

わが国の近代都市計画は明治維新に始まるが、ここでは東京市区改正条例に関連して明治17年から年表を整理した。特集の参考資料として大阪の都市計画に関連する事項を中心にまとめてあるが、もとより紙幅に限りがあることもあってすべてを網羅しているわけではない。しかし、都市計画および建築に関係する制度の変遷、市街地形成に関係する各種事業、都市計画思潮や技術に影響をおよぼした文献、雑誌発刊などは留意して記載してある。

年	大阪関連事項	国内・外国関連事項
明治17 1884		芳川顯正東京府知事市区改正之儀上申
明治18 1885	6.17 淀川決壊 12.29 阪堺鉄道（難波～大和川）開通	1.－ 東京市区改正審査委員会設置
明治19 1886	12.10 亀岡大阪府区部会議長、大阪府知事に大阪市区改正を建議	12.12 滋賀県令「家屋建築規則」公布
明治20 1887	1. 6 大阪府知事、大阪市区改正方案取調委員任命 3.16 大阪市区道路改正案	
明治21 1888	3.－ 関西鉄道会社設立（難波～）大和川～堺アズマ橋開通	4.25 市制町村制公布 **8.16 東京市区改正条例公布**
明治22 1889	4. 1 大阪に市制特例施行（東京、京都とともに）　10. 1 大阪市役所、4区役所開庁 5.14 大阪鉄道（湊町～柏原）開通	2.11 大日本帝国憲法発布　7. 1 東海道線（新橋～神戸）開通 5.20 東京市区改正設計告示
明治23 1890		－.－ 英国、労働者住宅法
明治24 1891	12.－ 中之島公園開設	
明治25 1892	8.－ 大阪市第1期水道工事起工	
明治26 1893	3.－ 大阪市内に電話開通	
明治27 1894	3.－ 大阪市下水道改良事業に着手	7.25 日清戦争起こる
明治28 1895	5.28 大鉄（天王寺～玉造）開通　10.17 大鉄（梅田～天王寺）開通 8.22 浪速鉄道（片町～四条畷）開通　11.－ 大阪市上水道通水	
明治29 1896	7.10 大阪市第1次市域拡張	4.－ 河川法、民法公布
明治30 1897	10. 7 大阪港起工	－.－ 造家学会、建築学会と改称
明治31 1898	4. 5 西成鉄道（梅田～安治川）開通　10.－ 南海鉄道（難波～和歌山）開通 10. 1 阿陽鉄道（柏原～富田林）開通　11.－ 関西鉄道（網島～寝屋川）開通	E.ハワード「明日－真の改革にいたる平和な道」出版 （後に「明日の田園都市」と改題）
明治32 1899	4. 7 山口半六博士「大阪市道路新設市街設計書」市会に報告	－.－ 英国、田園都市協会設立
明治33 1900	3.20 大阪市区整理委員会設置　9.20 大阪馬車鉄道(天王寺西門前～東天下茶屋)開通 8.30 高野鉄道（汐見橋～堺東）	－.－ 耕地整理法施行 3. 7 下水道法公布
明治34 1901	－.－ 大阪旧市域で下水道改良事業完了 6.21 市区整理委員会廃止	
明治35 1902		E.ハワード「明日の田園都市」 －.－ 独（フランクフルト）アディケス法
明治36 1903	2.－ 新淀川の開さく　9.12 大阪市電（花園橋～築港）開通 3. 1 第5回内国勧業博覧会開催（～7.31）	－.－ 英国、田園都市株式会社設立　Letchworth建設
明治37 1904	8.16 大阪市新編入市街割設計、市会で可決 12.－ 大阪市人口 100万人越える	2. 6 日露戦争起こる
明治38 1905	4.12 阪神電鉄（出入橋～岩屋）開通　10.－ 大阪市内に初めてガス供給 8.－ 大阪築港竣工	
明治39 1906	12.21 阪神電鉄（出入橋～梅田）開通	
明治40 1907	8.－ 毛馬閘門開通	内務省有志「田園都市」編纂（明治41.5.1発行）
明治41 1908	8. 1 大阪市電東西線（九条中通1丁目～四ツ橋）、同南北線（梅田～恵美須町）開通	
明治42 1909	7.31 大阪市北区で大火（キタの大火）　10.－ 箕面有馬電気軌道「池田新市街」経営、初めての郊外住宅地 **8.18 大阪府建築取締規則公布**	4.13 耕地整理法改正 －.－ 英、住宅、都市計画法
明治43 1910	3.10 箕面有馬電気軌道（梅田～宝塚、石橋～箕面）開通 4.10 京阪電車（天満橋～五条）開通	
明治44 1911		4. 7 市制、町村制改正 10. 1 改正市町村制実施
明治45 大正1 1912	1.16 大阪市南区で大火（ミナミの大火） 12. 1 阪堺軌道電気（恵美須町～浜寺）開通	
大正2 1913		－.－ I.F.H.P.(国際田園都市及都市計画連盟として）創立
大正3 1914	4.26 阪堺電鉄（今池～平野）開通　7.－ 関一大阪市助役に就任 4.30 大阪電気鉄道（上六～奈良）開通　8.19 阪神電鉄北大阪支線開通	7.28 第1次世界大戦勃発

戦前の都市計画を知るには、内務省、大阪市役所等の官庁資料が重要であり、池田宏、前田多門、飯沼一省、堀切善一郎、関一をはじめ、日本建築協会と「建築と社会」に大きく関わっていた片岡安、さらには佐野利器、内田祥三、笠原敏郎、伊部貞吉、菱田厚介といった建築出身の人たち、また武居高四郎、石川栄耀といった土木出身の人たちの多くの著作と論文を参照する必要がある。もちろん、中澤、玉置両先生の著作は大阪の都市計画を知る上で欠かせないものである。

一方、最近大阪市や大阪府においても大阪の都市計画に関係する多くの資料を編集している。たとえば「大阪の地域制（1971年）」「大阪の都市計画公園（1975年）」「大阪の都市計画道路（1976年）」（以上、大阪市）や「大阪府都市計画地域地区（1979年）」（大阪府）などである。また、大阪市総合計画局都市計画部による「大阪都市計画関係資料一覧（1978.3）」は年表が記載され、年度ごとの資料名など詳しいので大いに参考になる。この年表を整理する際もこれを参照しながら行った。(大阪市立大学工学部建築学科)

年	大阪関連事項	国内・外国関連事項
大正4 1915		P.ゲデス「進化する都市」(Cities in Evolution)
大正5 1916	3.－ 木津川運河竣工 －.－ 大阪市人口 150万人	片岡安「現代都市の研究」 米（ニューヨーク市）、総合用途地域制施行
大正6 1917	4.11 大阪都市改良計画調査会設置　**－・－「建築と社会」発刊** 5.－ 天保運河竣工	建築学会建築法規の研究を続け、このころから内務大臣へ陳情開始。　－.－ 都市研究会創立
大正7 1918	4. 1 大阪市市区改正部設置 5.28 東京市区改正条例等、京都、大阪市へ準用規程公布	5.－ 内務省に都市計画課設置 都市計画調査官制公布　**－.－「都市公論」発刊**
大正8 1919	**12.23 大阪市区改正設計、内閣認可**	**4. 5 都市計画法、市街地建築物法公布** 英、住宅法
大正9 1920	4. 2 大阪市、都市計画部、土木部設置　10. 1 第1回国勢調査、大阪市人口 125万人 7.16 阪急（梅田～上筒井）開通	1. 1 都市計画法施行（6大都市に適用） 12. 1 市街地建築物法施行
大正10 1921	5. 1 大阪市庁舎、北区中之島に移転	
大正11 1922	**4.24 大阪都市計画区域決定、内閣認可**	2.－ 東京市政調査会創設 ル・コルビジェ「300万人の都市」案発表
大正12 1923	4.13 大阪鉄道（阿部野橋～道明寺）開通　関一「住宅問題と都市計画」 11.－ 関一大阪市長に就任	7.－ 都市計画法6大都市以外の25市に適用 9. 1 関東大震災　**－.－ 特別都市計画法制定**
大正13 1924	**1.21 大阪初の区画整理組合として阪南土地区画整理組合設立** 11.29 大阪都市計画、第1次都市計画事業、内閣認可	2.25 復興局設置　－.－ I.F.H.P.「アムステルダム決議」 5.－ 同潤会発足
大正14 1925	**3.27 大阪都市計画用途地域認可**　10.15 新京阪（淡路～天神橋）開通 4. 1 大阪市第2次市域拡張　**「大大阪」発刊**、田中清「大阪の都市計画」	10. 1 第2回国勢調査（大阪市人口 211万人で全国1位） **－.－「都市問題」発刊**
大正15 昭和1 1926	6.10 大阪府知事執行10大放射路線認可 10.11 都市計画街路御堂筋線着工	7.22 不良住宅改良事業開始 米、用途地域制合憲判決（ユークリッド訴訟）
昭和2 1927	5.18 阪神国道開通 7. 1 阪神国道電車（西野田～東神戸）開通	5.－ 第1回都市問題会議（大阪）開催 飯沼一省「都市計画の理論と法制」
昭和3 1928	**5. 2 大阪駅附近整理都市計画事業認可**　11.－ 新京阪電鉄（大阪～西院）開通 5.29 綜合大阪都市計画認可	－.－ 第1回CIAM会議 米、ラドバーンでスーパーブロック、クルドサック方式採用
昭和4 1929	7.18 阪和電気鉄道（天王寺～和泉府中）開通	C.A.ペリー「ニューヨーク大都市圏調査報告7巻」で近隣住区単位概念を明らかにする
昭和5 1930	1.29 地下鉄（梅田～心斎橋）着工 6.16 阪和電気鉄道（和泉府中～東和歌山）開通	－.－ 帝都復興事業ほぼ完了
昭和6 1931	1.19 第4期大阪都市計画下水処理事業認可（2,409ha） 3.17 参宮急行電鉄（上本町～宇治山田）開通	**市建法施行令改正（用途制限の見直し、高さ、空地に関する制度など）**
昭和7 1932	10. 1 大阪市分区し15区になる 10.28 第2次大阪都市計画事業認可	－.－ 第3回全国都市問題会議 英、都市、地方計画法
昭和8 1933	5.20 地下鉄（梅田～心斎橋）開通	**都市計画法改正（町村にも適用）** －.－ 第4回CIAM会議で「アテネ憲章」発表
昭和9 1934	9.21 第一次室戸台風（大阪臨海部被害甚大） **12. 7 大阪都市計画美観地区認可**	**市建法改正(接道義務の明確化)** 奥井復太郎「現代大都市論」
昭和10 1935	1.26 関一市長死去　10.30 地下鉄（心斎橋～難波）開通 10. 1 第4回国勢調査、大阪市人口 299万人	片岡安、吉田信武「都市計画」
昭和11 1936	**1.13 大阪駅前建築物高さの最低限度区域に関する大阪府令公布** 4. 1 阪急（梅田～三宮）全通　5. 1 大阪市立美術館開館	－.－ 第5回全国都市問題会議　英、住宅法 高山英華他「外国における敷地割類例集」
昭和12 1937	5.11 御堂筋線竣工 －.－ 大阪市役所「本市に於ける不良住宅地区調査」	7. 5 建築線指定標準（通達）
昭和13 1938	4.20 地下鉄（難波～天王寺）開通　7.－ 松屋町筋線竣工 6.26 関西急行電鉄（上本町～名古屋）全通	**市建法改正（専用地区制度の導入、高度地区、空地地区の明確化、道路幅員9尺から4ｍへなど）**
昭和14 1939	**1.－ 大阪市船場地区に後退建築線指定**	2.17 防空建築規則発布 9. 3 第2次欧州大戦起こる
昭和15 1940	3.30 大阪駅前土地区画整理事業竣工　12. 7 城北運河完成 10. 1 第5回国勢調査、大阪市人口 325万人	神宮関係特別都市計画法制定、都計法改正（1条目的に防空追加、防空緑地事業追加など）
昭和16 1941	5. 1 国電（大阪～桜島）開通 **11.－ 大阪都市計画緑地（鶴見、服部、久宝寺、大泉）決定**	3.－ 住宅営団設立（同潤会解散） 12. 8 太平洋戦争起こる　石川栄耀「都市計画及地方計画」
昭和17 1942	5.10 地下鉄（大国町～花園町）開通	3.－ 企画院、大東亜国土計画大綱草案
昭和18 1943	4. 1 大阪市22区に増区 －.－ 地方疎開始まる	2.27 都計法及同施行令臨時特例公布 菱田厚介「新都市の構成」
昭和19 1944		
昭和20 1945	1. 3 大阪最初の空襲をうける。その後大空襲をうける －.－ 大阪市人口 107万人に減少	8.15 太平洋戦争終結

（注）太字は特に建築、都市計画に関連ある事項

『建築と社会』誌にみる都市計画のあゆみ

中林　浩

はじめに

本稿は、大正6(1917)年9月に『建築と社会』が創刊されてから60余年間に掲載された都市計画にかかわる論文・論説・資料を概観することをねらいとしている。これによって、日本における都市計画の理念が現実の事業や制度とかかわって、どのように展開されてきたかをみることができると考えている。そのため、できるだけ論文名・特集名・引用文を多くいれ、五つの時期に区分して考察した。

なお、戦前の関西を中心とする都市計画の動向については『建築と社会』600号記念号である昭和47(1972)年の2月号にある三輪嘉男「大正・昭和前期の都市問題」、安田丑作ほか「大正・昭和前期関西都市計画年表」に詳しいので参照されたい。

1．大正期

大正期の都市計画に関する論評はきわめて多く、紙面の半分をしめているといっても過言ではない。これには海外先進諸国の都市計画の紹介と、日本の都市計画にかかわるものの二つがある。

海外事例の紹介をおこなっているものからみてみよう。当時イギリスは19世紀の後半からおこった田園都市運動とその精神を受けつぐ住居および都市計画法（1909）の制定を経験したばかりであった。一方、アメリカでも1893年のシカゴ博覧会や1909年の都市計画全国会議の開催をへて都市計画運動のさかんな時期にあたっている。そのため、この二つの国の経験と理念の紹介がめだって多い。もちろんオスマンのパリ計画、フランクフルトのアディケス法などにも随所でふれられていることは当然である。伊東真雄は、「英国に於ける住居及都市計画法令」（大7・3、4、5）と「英国の都市計画法」（大8・1、2）で、1909年法の内容を紹介した。法制化の意図を国会議事録等でしめし、条文でその解説をほどこしている。また池田宏「都市計画に関する法制」（大8・8、9、10）では、日本で制定されたばかりの都市計画法の基本理念を、イギリス・アメリカ・フランス・ドイツの都市計画文献を駆使して説明しており、同法が海外の都市計画をどのように吸収しているかを示しているものといえよう。

田園都市については、このことばがいろいろな意味で解釈されたようであるが、つぎの関一「田園都市」（大11・11）のなかのことばが正論であったろう。「仍で、狭い意味に於ける田園都市と云ふものは、容易に実現も出来得ないものであり、又今日の都市の弊害を救ふと云ふことには、余りに気の長い運動である、とも観られる。併し乍ら、是から起って来た所の『ガーデン、ヴィレージ』『ガーデン、サバーブ』の二つを大に研究して、従来の都市を如何にするか、少くとも郊外を怎う云ふ風にやって行くか、又工場のデセントラリゼーション、或は住宅のデセントラリゼーションを如何にするか、と云ふことに就いて、非常に重要なる考を起さしめた運動であると考へられる」。

そのほか翻訳ものとしては、ネルソン・リュイス「都市計画」（大7・1、2、3）、ＺＹ生訳・ウォールター・ディ・ムウディ「亜米利加の都市計画」（大11・1～7）など、アメリカのものを中心に掲載された。

『建築と社会』は、日本の都市計画法制定に関与した片岡安を創刊者としているため、法制定前後の貴重な論文をかず多く集録している。その筆者たちの顔ぶれをみるに、片岡安はもとより、当時内務省都市計画課長を



大阪市街系統改正

都市計畫の急要は近時漸く輿論の認むる處となり、吾人年來の希望は法律の發布と共に最近に實現されんとするに至る。我大阪市は主として其輿論の先驅となり、市理事者の間には其調査會を設け、外部には各種の言論機關ありて其急要を唱へたるは、全く大阪市の最近の經濟力增進に伴ふ自覺ならずとせんや。今や中央政府に大阪市區改正委員會の成立を告げ、市政機關の內に其常設委員會を組織せり、元祿年間より傳襲し來れる中古式の市街系統に大改修を加へ、以て之を現代文明に副ふべき科學的の組織に改正せんこと、是れ委員會の負ふべき責務にして、其計畫の良否、緩急或は規模の大小等一に懸つて我大阪市將來の發展に影響するや甚大なるべし。吾人は兩委員會の責任重大なるを以ての故に其計畫の萎縮姑息に陷り易きを寬假するものにあらず。宜しく積極的に永遠の畫策を樹て、最善最美の大計畫を編成し、以て吾人將來の發展を幸福ならしむべし。



都市の大改造始まる

本會が、創立以來最大の努力を盡して宣傳を怠らざりし我國大都市の改造は、愈本年度より一齊に開始さるゝことになつたのは、國家の爲めに又都市發展の爲めに同慶の至りに禁へぬ次第である。我大阪市が、其百年の長計として、先づ以て幹線街路の系統を確立し、全國の都市に其範を示したのは、寔に痛快に勝へぬ明斷であつた。神戸市が縱貫鐵道の高架化を決定し、京都市が郊外地の街路系統を決定したのも、亦近き將來に於ける大改造の發端であると見られる。乍併、都市の改造は、唯其幹線街路の確立によつて解決さるゝものではなく、之を以て其下水道の完成を期し、給水を充分にし、高速交通機關の創設と路面軌道の整備を圖り、以て、首尾一貫せる文化的組織の骨骼を形成せねばならぬのである。而して其組織の完成と共に、內容實質の完備せる建築によりて始めて都市民の經濟的活動と、衞生的生活の向上を期待し得るのである。吾人は漸く其改造の第一步に蹈込みたる我大都市の前途を祝福すると同時に　其困難なる事業の遂行に對して市民の一大決心を慫慂せざるを得ない

都市計画法制定前後の巻頭　——大正7年6月号「大阪市街系統改正」
——大正9年2月号「都市の大改造始まる」

大正7(1918)年6月号と大正9(1920)年2月号の巻頭。このころは毎号のように都市計画運動の気運を示すことばが巻頭を飾った。

つとめた池田宏、大阪都市協会を設立し大阪市長もつとめた関一、東京市政に貢献したC・A・ビアードと、日本の都市計画に重要な役割を演じた人たちが登場する。本誌は法制定の2年前から『関西建築協会雑誌』として創刊されており、法制化を促す論評を記録している点において貴重な存在である。毎号のようにキャンペーンがはられ、たとえば大正7（1918）年の2月号巻頭の「都市改良之機運熟成」では、「都市改良計画は近代文明の齎したる一大潮流にして、之を人類の生存より見れば、偉大なる福音として歓迎すべく、之を国家の発展より計るに、又必然的積極画策たるを失はざるべし」と気を吐いている。

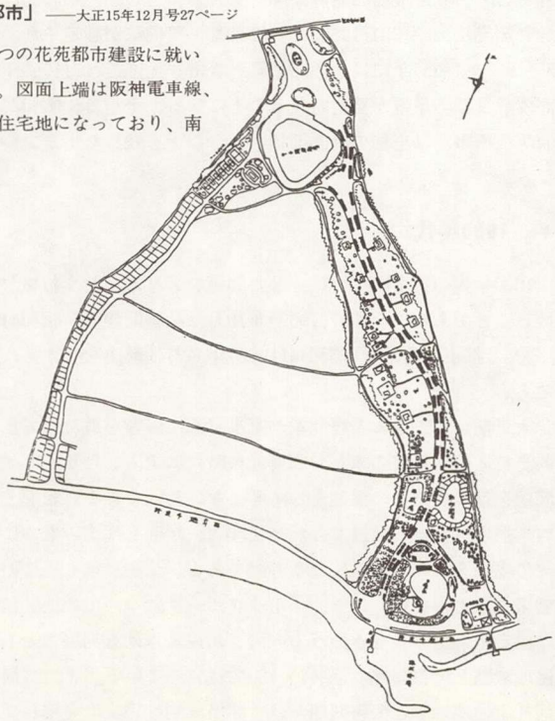
片岡安は、大正7年5、6月号「我国都市改良計画の将来」でつぎのように述べている。「我国都市の今後の採るべき改良計画は　一、築港を完備せしめて水運の利便を計り、鉄道駅を拡築して陸運の欠点を除き、且つ倉庫地帯と運輸機関の連絡を円滑にすること　一、市内交通機関の積極的企画をなすこと　一、街路系統の永遠計画を立て、可及的迅速に其実行をなすこと　一、都市建築の統一と其経済的価値を発揮すること　一、衛生設備を徹底せしめて都市住民の建康向上を保証すること　等の諸項目にして其何れの一を欠くも完備せる組織的の文明都市として発展することは出来ないのである」。そして、わが国最初の都市計画法が大正8（1919）年成立する。

法制定後には、行政担当者たちのいくつかの論評が掲げられるようになる。たとえば大屋霊城「愛なき都市計画」では、「その（都市計画の――筆者）内容を深く研究すると往々にして残忍な無慈非な寧ろ破壊的な矛盾した場面を見出すことが難くない」と述べ、行政当事者の不心得と市民の無理解を訴えている。また、本誌上でなされた伊東俊雄と田中清志の有名な「地域制論争」も「都市計画法自身がもつ矛盾の故」（前掲三輪論文）とされている。（以上、大正14年各号）

このころの関西における実際のうごきとしては、土地区画整理事業があげられる。これは都市計画法制定により可能となったもので、大正13(1924)年1月に阪南土地区画整理組合が認可されたのをかわきりに、昭和初期にかけて大阪市内各地で実施された（詳しくは玉置豊次郎「大阪の区画統制の過去と現在」（昭6・8））。また、阪急、阪神等の電鉄会社は大阪市郊外の住宅地を開発分譲した。そのために箕面桜ヶ丘で「住宅改造大博覧会」が開催されたりした（大正11年11月号参照）。さらに、このころの本誌には、港湾・道路・不水道・公園等の計画に関する論評や具体的な調査報告がかなり多く掲載されていたことをつけ加えておく。

「甲子園花苑都市」――大正15年12月号27ページ

大屋霊城「二つの花苑都市建設に就いて(上)」より。図面上端は阪神電車線、それより北は住宅地になっており、南端は海水浴場



2．昭和戦前・戦中期

大正末期のはなばなしい都市計画論議をへたあと、終戦までの約20年間をみてみよう。この期間はイギリスにおける都市農村計画法の成立や、アメリカのＴＶＡにみられるように、海外では都市計画・地域計画分野に一大転換をもたらした時期にあたっている。ここでは、日本でのうごきについて四つの特徴的な局面についてまとめてみることにする。

まず最初は、震災対策・台風対策についてである。

大正12(1923)年の9月1日に関東一円を襲った大地震は、都市計画に大きな刺激をあたえることになる。その年の10月号で片岡安は「関東大震災の被害に就いて」という一文を掲載し、「然るに何事ぞ世人の多くは未だ其法の精神を十分に理解せず、我大都市の暴されつゝある危険を救ふ唯一の途たる此等法律（都市計画法と市街地建築物法――筆者）の運用に余り多くを期待せざりしは遺憾此上もなきことである。今回の大災害は正さに其無理解に対する一大鉄槌であると見るべきではないか」と述べた。これを契機に震災対策の論説は『建築と社会』の紙面を大きくさくようになり、大正末から昭和初年にかけて数10篇にもおよんでいる。

防災についていまひとつ忘れることができないのは、大阪地方に甚大な被害をもたらした昭和9(1934)年の室戸台風であり、ここでも都市計画上の課題が指摘された。同年11月号の「関西風水害」特集のなかで片岡安「都市計画の再検討」は、「最近の都市計画の大綱から見て、殊に大阪市に於ては、大正区や港区を重要なる工業地帯と定めて居るけれども、その水位と云ふやうなことは一向計画に現れてゐない」とし、「これは都市計画法全体に亘る一大欠陥」と述べた。

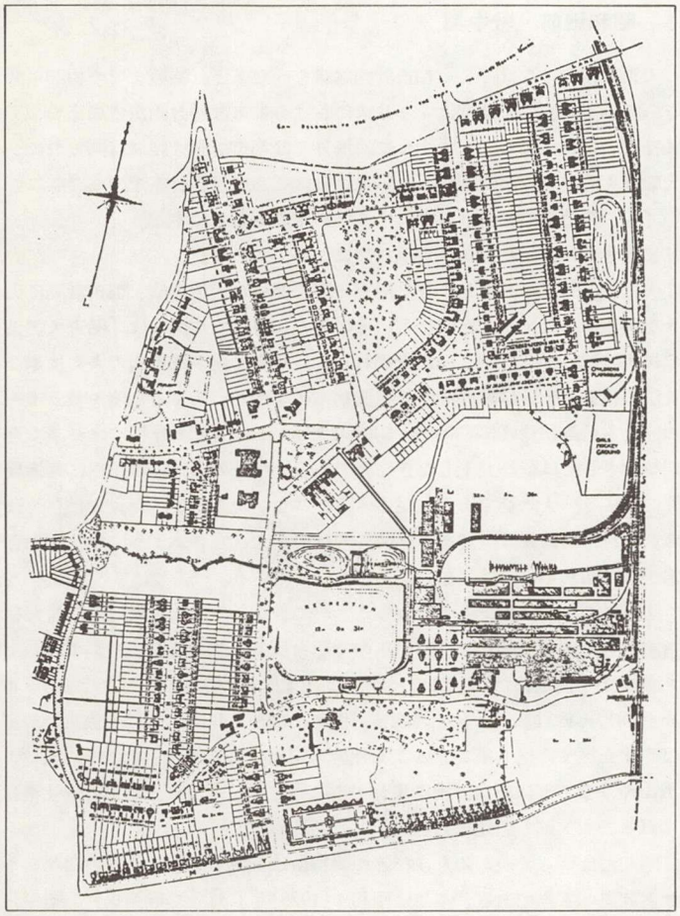
昭和にはいってからのもうひとつの特徴は美観あるいは風致の問題をとりあげている点である。本誌は昭和4(1929)年6月「都市美観」、昭和5（1930）年4月「建築と風致」、昭和15(1940)年5月「都市美」と三度の特集をくんでいる。これは日本においても都市の工場の増加、都市の周辺部への市街地の拡大が著しくなり、環境の悪化がめだってきた反映である。

片岡安は、「建築と風致」（昭5・4）のなかで、つぎのように記述している。「近代に於ける都市の発展は更に進んで其都市に存在する天然の地理的優勝の状況を破壊せざれば已まぬやうな傾向を生じて来たので建築の集団に調和を保たしめると同時に、天然の地理的環境を最も完全に利用し、その配景に一段の美観を呈せしめんとする一面の努力は即ち都市の風致保存である」。また、本日本建築協会は第一部法制委員会の成案にもとづき、当時の府知事に「美観地区並風致地区指定ノ件」について建議を提出している。これは市街地建築物法第15条の美観地区規定と都市計画法第10条の風致地区規定を空文におわらしめないという意図のもとになされたものである(昭5年4月号に掲載)。

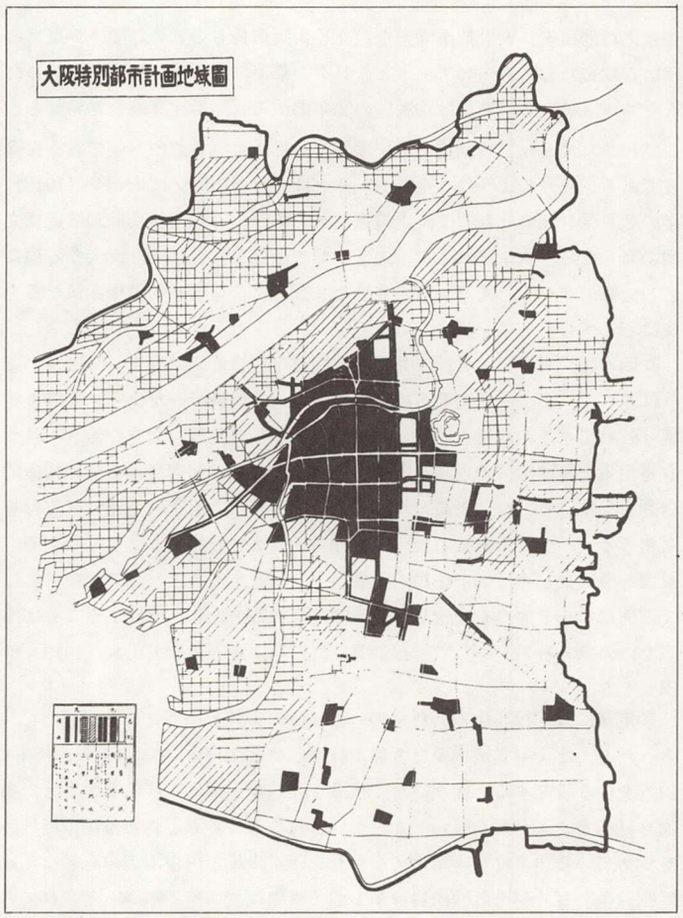
昭和11(1936)年8月、「地方計画」についての数篇の論説が本誌に登場する。イギリスやアメリカでいわれた‘regional planning’の訳語として「地方計画」ということば自体は以前から使われていたが、現実の日本への適用をめざして言われるようになったのはこのころからである。

この特集のなかで特徴的なものを引用してみよう。片岡安「都市計画と地方計画」では、「地方計画とは、即ち、住宅及工場等の地方分散及再集中を計り、其の間に適当なる農耕緑地並に交通機関を配置し、以て大都市の不健全なる過大化を抑制し、未開発地と既開発地とを問はず、一体として最も能率的にして健康的な有機的関係を得んとすることを目途とするものであって、輓近世界各国に於て競って之が研究及実施に邁進してゐるの現状である」と定義した。中澤誠一郎「都市計画より地方計画へ」では、「都市計画を以って都市の施設計画足れりとして居たことに大なる認識の不足があった為にその観点を都市外の農村を含めたる地方計画に移し、都市の人口を分散せしむる根本方策を樹てその角度よりする諸般の計画に基いて都市計画を為すの謂である。其結果之れ迄問題としてゐなかった複雑なる条件が地方計画として加はりたる為に計画が抜本塞源的たると同時に愈々都市計画の重要性を加へるに至るものと見るべきである」と主張した。

この特集のほかの論文、吉村辰夫「都市計画―地方計画―国土計画」、



紹介されたイギリスのボーンヴィル ——昭和11年8月号33ページ
亀井幸次郎「地方計画の思想的背景」より。イギリスの田園都市・田園郊外の図面はさかんに紹介された。大正12年3月号の口絵には同地の写真がのせられている。



「大阪特別都市計画地域図」 ——昭和29年9月号23ページ第5図
昭和26(1951)年12月より施行された計画図面。白は住居、黒は商業、斜線は準工、格子は工業の各地域をあらわす。

中村綱「地方計画『夜明け前』」、亀井幸次郎「地方計画の思想的背景」では、イギリス田園都市論とのかかわり等を述べている。しかし、その後戦時中にかけて、満州における計画や都市防空の問題として地方計画論がとりあげられるが、現実の法制度としては日の目をみないまま終わるのである。

戦時色が強まるにつれ、都市防空の問題は大きな関心事となり、昭和9(1934)年7月に「防空」特集がくまれ懸賞論文が発表されたのをはじめ、「都市防火」(昭17・6)等多くとりあげられるようになる。都市の建築物を堅牢不燃にし計画的に建設せよということが、さかんにさけばれた。

昭和12、3年ころから都市計画関連の論説は数すくなくなり、戦争末期には『建築と社会』の発行も中断される。昭和17(1942)年11月号の片岡安「廿五周年と都市計画」は発刊以来の都市計画を概観しており、1ページの文章ではあるが印象的である。25年前の協会創立当時をふりかえり、「当時の因循姑息な平和の空気に新鮮味を加へたこと夥しいものがあった」といい、「憾みらくはその後我々同志の活動は漸次下火となり、折角成立実施されたる2大法典の運営捗々しからず、その精神は藻の抜殻の体となり全国一斉に機械的に消極的に進行しつゝあるの嫌ひなきにあらず、嘆しきことである」とむすんでいる。

3．戦災復興期

戦後の都市計画は特別都市計画法にもとづく戦災復興都市計画にはじまり、指定をうけた115都市で土地区画整理事業等が実施された。

戦災によって大阪市は、住宅の約6割を失い、戦前のピーク時には約325万人をかぞえた人口も約110万人にまで減少してしまった。昭和21(1946)年5月の幹線道路計画にはじまり、用途地域、都市計画公園の指定、そして大阪港の修復計画、西部一帯の盛土事業等があいついで始まった。『建築と社会』では、昭和24(1949)年1月に「復興大阪」の特集があり、これらの計画が紹介された。また、この時期には、神戸・京都・岡山などの都市の戦後の計画が報告されている。

一方では、終戦後の住宅不足のなかで、西山夘三らの住宅問題についての論評などが、いくつか掲載されている。

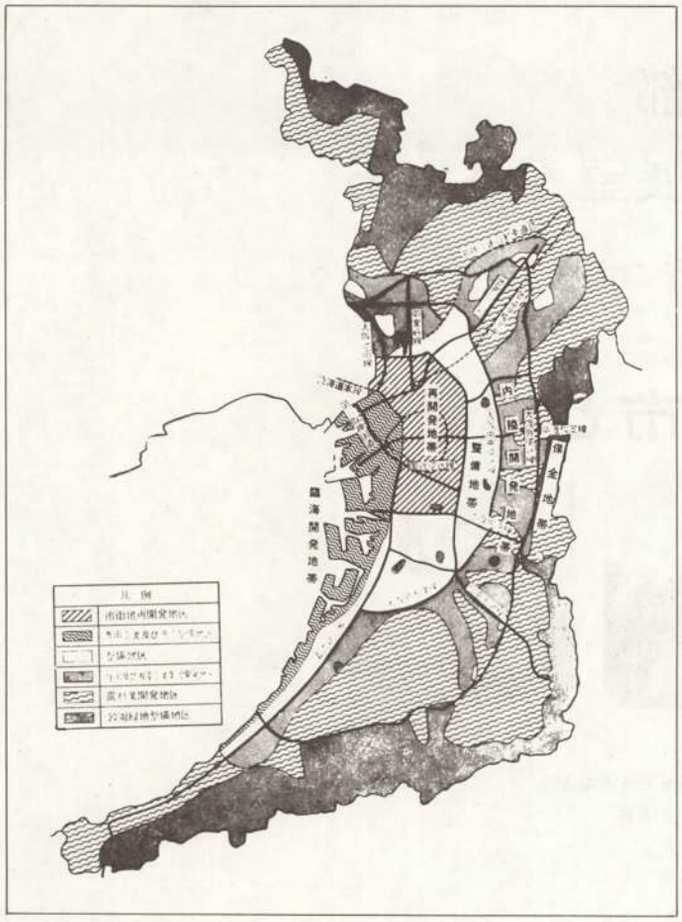
1950年代は、都市計画関連の特集・論評が比較的すくなく、「都市不燃化」(昭27・8)と「都市とコア」(昭29・9)がある程度である。

昭和34(1959)年6月号の「都市計画(大阪の場合)」特集は、すでに「戦後が終わった」ことを現しており、千里ニュータウンの基本構想が報告されるなど、高度成長の胎動が感じられる。この間、昭和25(1950)には国土総合開発法、昭和31(1956)年には首都圏整備法が制定され、また昭和28～30(1953～1955)年には全国で市町村合併が促進され、1950年代の後半には高度成長期の準備が整えられることになる。そして、昭和34(1959)年には、戦災復興事業は当初の計画面積の半分以上を残したまま、終結することになる。

4．1960年代

1960年代の特徴の第一は、公害問題をとりあつかう特集が三度なされていることである。昭和37(1962)年10月「公害問題」、昭和41(1966)年12月「公害と都市・建築」、昭和44(1969)年8月「解決をせまられる公害問題」である。

大正期から工場の煤煙問題が都市計画に影響をあたえてきたが、戦災復興を終え1950年代の末から高度成長時代に突入した日本は、ふたたび公害問題を都市計画上の課題として考えなければならない状況となった。川名吉エ門は「都市の発展に合わせて順次、制度も高度のものに積み上げられ、その成果を挙げるようになるものである。公害対策も、この前提なしには効果を求め得ない」とし、「用途グループについての地区指定と公害基準の設定との組み合せという方向に、用途地域制を発展させる」ことを「用途地域制と公害問題」(昭41・12)で提言している。また、同じ号の鬥座正信「用途地域制と公害問題」は「建築規制を完全に実施しても、よい街づ



大阪府の地帯構想図(1962年)——昭和37年11月号14ページ
大阪地方計画専門調査委員会(第一次報告)の地帯別の整備および開発構想の図。

くりは不可能であることを考え、総合的な土地利用計画の法定化と公害対策の基本方針の確立が早急に設立されることを望む」と論じた。昭和44(1969)年の特集は、「公害についての科学的認識を深める一助」とする意図で編集され、プランナーの責任等について触れられている。

第二の特徴は、宅地開発の問題がとりあげられていることである。昭和35(1960)年4月「阪神都市圏の住宅問題」、昭和37(1962)年11月「宅地開発」、昭和39(1964)年8月「宅地開発」などの特集がそれにあたる。

1960年代初頭の座談会「阪神都市圏の住宅をめぐる諸問題」では、大阪府下での住宅不足が18万戸、兵庫県下では12万戸であること、千里丘陵の住宅計画、公団・公庫・民間の住宅建設の問題点、工場と住宅の配置の問題などが語られ、当時の議論がよく表れている。これを出発点として、1960年代には住宅問題・宅地開発をめぐるさまざまな議論が展開されるが、ひとつは千里ニュータウンのような日本での新しい経験にたいする技術的課題をめぐる議論であり、もうひとつは急速な宅地開発による低質な住宅地の開発、いわゆるスプロール問題をめぐる議論であった。これらについては、上記の特集のなかで多くの識者によって論じられているところである。それと同時に、『建築と社会』には宅地開発や市街地再開発の大小さまざまな事例が紹介され貴重な資料を形成している。

昭和37(1962)年に全国総合開発計画が発表され、昭和39(1964)年に近畿圏整備法が制定されたように、国土・近畿レヴェルの開発問題の関心も高まった。「阪神高速道路と近畿の開発」(昭37・8)は、都市間高速道路と都市内交通システム、そして兵庫の大規模プロジェクトの事例をとりあげた。一方では、高度成長を象徴する昭和39(1964)年の東京オリンピック、昭和45(1970)年の大阪万国博覧会が開催され、建築関係者の注目をあびた。東京オリンピックについては昭和39年の9月号で特集され、万国博については用地買収の段階である昭和41(1966)年8月に特集がくまれた。それぞれ、会場計画の技術的課題や会場の施設を中心とする東京・大阪の都市計画プロジェクトについて触れられている。これらも1960年代のひとつの特徴といえよう。

また、昭和43(1968)年には都市生活を年間テーマとして設定して特集をくんだことも注目される。

昭和43(1968)年10月、日本建築協会ほか8団体共催の第9回関西都市住宅会議が新都市計画法をめぐる諸問題をテーマに開催され、12月号にその記録を掲載している。建設省側からの鶴井哲夫講演「新都市計画法について」は、法改定の直接の動機となった宅地審議会第六次答申の説明と新法の基本理念と内容上の特徴、佐々波秀彦講演「新らしい都市計画法の問題点」では、市街化区域・市街化調整区域の設定や広域都市計画との関係等の問題点が説明されている。

このように1960年代は終盤にはいり、この間の公害問題やスプロール問題を反映するかたちで都市計画法が全面改定され、昭和44(1969)年にはあいついで、新全国総合開発計画の発表、農業振興地域法の制定、都市再開発法の制定がなされ、新たな条件をつけ加えられるが、1960年代の種々の都市問題は依然として解決されないまま、つぎの1970年代の都市計画・地域計画の展開をまつことになる。

5．1970年代

1970年代は「激動の時代」と予測されたとおり、1973年のオイル・ショックをさかいに高度成長期は終焉をつげられる。都市計画においても1960年代にはみられなかったような動向が生まれ、『建築と社会』の特集にもその特徴がよく表れている。その特集をひろってみよう。

まず第一に指摘できる傾向は、住民参加のまちづくり論ともいうべき内容のものである。既成市街地にたいして現実の制度を積極的に活用した整備論が展開され、豊中市庄内の事例などがたびたびとりあげられている。関連の特集をあげれば、「ディベロッパー」(昭45・10)、「都市住環境へのアプローチ」(昭47・9)、「ヨーロッパのまちづくり」(昭48・12)、「既成市街地の住宅地整備の方策」(昭49・4)、「市街地整備」(昭51・6)、「ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ」(昭52・10)、「転換期の再開発」(昭54・1)、「庄内まちづくり」(昭54・9)などである。

第二の傾向は、自然環境と歴史的環境の保全についてのものである。これは言うまでもなく1960年代の高度成長の反省の現れであり、都市の森林や農地あるいは歴史的に形成された町なみを活用した都市計画をめざすものである。これらには、「都市生活とみどり」(昭46・4)、「自然とレジャ空間」(昭46・12)、「歴史的環境保全」(昭49・1)、「みどり」(昭49・9)、「都市の景観と施設」(昭50・6)があげられる。

第三に、ニュータウンをとりあつかったものがいくつかある。「転換期のニュータウン」(昭46・8)、「泉北ニュータウンのコミュニティ施設」(昭48・2)、「北摂ニュータウン」(昭49・5)、「ニュータウンの管理——千里のフォロー」(昭52・3)では、1960年代に建設されたものの見直しと、新しく建設されるものの具体的な計画内容が報告されている。

そのほかの特集には、「高層建築問題」(昭45・6)、「山陽・山陰からの報告」(昭45・12)、「都市と港湾」(昭46・7)、「冬季オリンピックと札幌」(昭47・1)、「都市交通問題」(昭47・2)、「水利用」(昭47・5)、「都市防災」(昭47・10)、「用途地域制と環境」(昭48・8)、「大阪南港ポートタウン」(昭54・2)、「農村施設の変貌」(昭54・7)などがあり、都市計画が、多様な課題に対して、より総合性を要請されてきていることがうかがわれる。

◇

以上、創刊以来の約1000篇にものぼる都市計画関連の論評を概観してみた。そのなかでは都市の種々の矛盾、その対策としてうちだされた対策や事業、そしてなによりもそれらに先行した都市計画理念が、『建築と社会』というひとつの雑誌のうえによくあらわれていることがわかった。われわれがいま眼にする実際の都市がそうした歴史のつかみかさねのうえになりたっている以上、とりわけこの分野においては「歴史に学ぶこと」の重要性があらためておもいしらされる。1980年代の幕あけにさいし、そのよい機会であると考えられる。

(京都大学工学部建築学科大学院生)

第III部
まちづくりへの展望をさぐる

座談会―第一線のプランナーに聞く

80年代の都市と建築


近藤達夫氏


富安秀雄氏


椚座正信氏

戦前の都市と都市計画をどうみるか
区画整理―その有効性と限界
住民参加の方向をさぐる
地区詳細計画実現の展望
都市計画と都市防災
大阪市の300万人構想を考える
都市と建築の法制度
都市・建築をめぐる80年代の課題


片倉健雄氏


富樫　穎氏


池端　猛氏

と　き　昭和54年10月19日(金)
ところ　日本建築協会会議室
出席者　椚座　正信(大阪府住宅供給公社)
近藤　達夫(大阪市総合計画局)
富安　秀雄(市浦都市開発建築コンサルタンツ)
編集側　片倉　健雄(近畿大学)
富樫　　穎(大阪市立大学)
池端　　猛(環境整備センター)
松井　昭光(日本建築協会)

戦前の都市と都市計画をどうみるか

——この特集の企画にあたりまして、私どもは当初、戦前の都市計画がかなり高く評価できるのではないかと考えていたのですが、中澤、玉置両先生に伺いますと、どうもはっきりとはおっしゃらなかったわけなんです。そのあたりから話をはじめていただきたいのですが……。

富安　ぼくは学者じゃありませんけれど、歴史的に調べても、だんだん都市が整ってきてるんでね、戦前のほうがよかったところもあるかもしれないけれども、総合的に戦前がよかったということは必ずしも言えないと思いますね。

椚座　ぼくもそう思います。戦前の都市計画は，それに携わった人の数からしても、なんか自然発生的な、あるいは江戸時代以前のまちづくりそのままにきているだけで……。たとえば、京都の碁盤目のまちは、その時代に、そういう条件が実に簡単に得られて、ただつくったというだけにすぎないまちなんですが、そういう条件の違いを抜きにしてかつての京都の都市計画を評価することができないのと同様に、戦前の都市計画を評価することはなかなかむずかしいだろうと思いますね。

戦前の都市は、発生条件の違いだけでなく、平たく言えば、お上の規制というか、それができ得る条件を非常に強く持ってた、法律上の権力と指導力の両面でそれを持っていたわけです。ですから、玉置先生のお話に出てくる船場・島之内の後退建築線についても、それを今の時代にやろうと思えば大変なことだと思いますね。そういう違いは実に大きいものだと思うんです。

近藤　戦前との比較だけでなく、過去10数年とか数十年前の状態との比較でも、都市の中身の状態、つまり都市活動の内容が非常に違うわけですよ。たとえば夜間人口や昼間就業人口は戦前の一時期に比べても大きく変わっていますし、あるいは自動車の登録台数や交通量も大変な違いです。そういう諸元が似たような数値を示しているなら、つまり都市の中身が同じなら、戦前と戦後のまちづくりを比べて、いいとか悪いとかの評価もできるんですが、そうでないわけですから評価はむずかしいと思うんですよ。かつてのまちの状態の方が住みやすかったかどうか、というような比較はできますがね。

富安　そうでしょうね。明治の終わりから大正の初め頃の大阪の人口密度なんてのは、グロスで 200人/ha を超えているんですよ。今のほうがはるかにグロスの人口密度が低いわけで、しかも昔はほとんど木造の平屋か２階建てで、大阪全体が大変な過密住宅地だったわけですね。

だから、明治から大正にかけて日本の都市を真剣に考えていた人たちは、まず道路を広げ、公園をつくるということが日本の都市にとっても緊急な課題だ、と考えたんだと思うんです。そのコンセンサスがあったから当時の都市計画が進んだんだと思うんですよ。逆にいえば、当時のインフラ・ストラクチャーは非常にプアーだったわけで、そういう状態を今と比べれば、今の都市の方が劣っているということはないと思うんです。

椚座　ただ、批判をするだけでなく、ほめるべき点も評価して、これは明治以前の話になるんでしょうけれども、大阪のまちというのはたくさんの川というか、運河があって、これが当時の重要な交通手段になっていて、大阪商人の物資の流通というものを可能にしていたわけですね。これが商業都市の都市計画だとすれば、こんな立派なまちづくりはなかったと思います。

ただ、戦後それが埋められ、新しい交通時代に対処するということで、たとえば横堀川が高速道路になった。それも、ぼくは一つの成り行きとしては、評価すべきだと思いますね。まあ、これは手前みそになるんですが、昭和34、５年ごろに大阪の商工会議所で中澤先生を中心にして、あそこを高速道路にして、そしてそこに物資の集積のための通過交通網をつくり、そこから櫛の歯のような形で船場の卸売地帯に枝を出すというような道路計画を提案し、その模型をつくったことがあるんです。今でも模型が商工会議所にあると思うんですが、まあ、昔のまちに対する評価として、そういうことがあったということを申し上げておきますがね。

区画整理—その有効性と限界

——先ほど後退建築線の話が出ましたが、玉置先生のお話の中では区画整理の話も出ておりまして、しかもむずかしいかどうかではなくてむしろやる気の問題だ、というような意味のことを言われているんですが……。

椚座　さっきの私の話に結びつくかと思うんですけれど、たとえば建築規則が日本ではじめて施行されたのはたしか明治25年だったと思いますが、防火建築の規則というのが大阪でできているんです。都市計画法と建築基準法の前身の市街地建築物法が大正８年につくられる以前にそれがもう大阪でできているんです。その規則はどういうものかというと、要するに防火のために壁の塗り込みを言っているんですね。

それと同じようなことが区画整理についても言えるんですね。今これほど地価が上がっていく状況の中で区画整画をやるということは、その思想が原則として受け入れることはできても、実際に住民にとってメリットが非常に減っているわけです。区画整理するよりも何もしないほうがむしろよい、何もしなくても地価が上がるわけですから。今日の状況は、区画整理をすれば地価が上がるんだという昔の考え方が通用しなくなってきていると思います。

富安　私もまったく同感ですね。友人がユーゴのベオグラードにいるんですが、国から１ヵ月以内に立ち退けという葉書が１枚きまして、１ヵ月たつとブルドーザーが出てきて、レンガ造の数階建てのところを完全に更地にしてしまうわけです。そして、そこに新しいまちをつくってるんですけど、そういうようなことは社会的な状況を抜きにして考えられないし、少なくとも日本ではそういうことができませんからね。

区画整理というのは、土地の所有権を認めて、それを変えないということを原則にして都市をつくっていくわけですね。しかし今の日本の都市というのは、そもそも土地所有とか土地利用を根本的に変えなければいけないところがたくさんありましてね。そういうものも全部区画整理でできるかというと、できないわけです。ただし、部分的に区画整理をしたほうがいいというところは今でもあると思いますね。

しかし、たとえば伝統的に区画整理が盛んな名古屋の中心部のように、できたまちがまちとしていいかというと、やたらに広い道路が通っているだけですね。もしも、広い道路があればいいというだけなら、アメリカのまちは世界で一番いいと思うんですよ。しかしだれも、アメリカの都市がよくて道が狭いヨーロッパのまちのほうがよくないということを言う人は少ないと思うんです。

だから、インフラ・ストラクチャーを整備するということは、あるところまでは非常に必要ですけど、それが今日の都市にとってすべ

てかというと、そうではないという面もあるわけで、そういう意味から言っても区画整理がいまだに万能であるとは言えないと思うんですよ。

近藤　名古屋もアメリカの都心部も、自動車で動くには非常に便利なんですが、歩いて用を足そうというときには大通りの横断ばっかりありましてね。時には歩道橋を渡ったりもしなければいかんものですから、そういう点では不便ですね、歩行者という立場で考えた住みやすい、用の足しやすい、親しみやすいまちというのとは違いますね。

椚座　今おっしゃった歩行者天国の話を区画整理と結びつけて言いますと、自動車交通を抑えなければいけないという今の時期に、そのための道路をとることによって減歩率が高くなっていくことに対する批判があるわけだから、ちょっとでも歩行者優先の道路をつくることによって全体の減歩を減らしたらどうか、幹線交通になるところだけ道路に取って、あとはあまり道路をつくらない方法もあるんじゃないか、ということを言ったことがあるんです。ところがそれは考え方としては受け入れられるんだけれども役所の基準に合わんわけですね。

近藤　細街路をあまり取る必要はないと私も思うんですけれども、しかし権利者にそれぞれ換地をして、各画地が接道するためには、スーパーブロックでポンと換地しましたよ、というわけにいきませんから。その辺がむずかしい……。

玉置先生の方から、区画整理しにくいというのは要するにやる気の問題だというお話があったそうですけれども、椚座さんのお話の中にあったように、区学整理しようとしている予定地の区域内の土地が田圃とか畑とか、あまり家の建ってない土地が大部分で、市街化の直前に区画整理をやるとなると、つまりその後、道路がついてずっと家が建ち並んでいく、あるいは商店とか工場とか倉庫とか、建築物用の敷地が道路がつくことによって整備されていくというような状態にあるときは、地主さん方もやる気を起こすと思うのです。ところが期待価格で、上がりきるところまで上がってしまったというような状態のところが多いわけですからね、地主さんたちの間にやる気がまず起こらない。土地を減らされるだけで、その減った分を補って余りあるほど地価の上昇は望めない。行政側にやる気がないというお叱りは甘受せねばいかんかもしれませんけれど、地主さん方にやる気が起こらないというこの問題はどうしようもないと思いますね。ですから、どうしようもないと言っておらずに、ほかにやるべき方法、戦略なり戦術を考えなさい、ということになるだろうと思うんですがね。

――玉置先生のおっしゃていたことをもう少し言いますと、先生は先取りをやってきたということをおっしゃるわけです。つまり、建築工事が活発に起こりつつある地域というのはつかめた、つかめたからすぐ手を打つべきだということで、自分の所管でない課と連携して区画整理を進めることにつないでいった、と言うんですね。

椚座　先取りという意味ではぼくはやっぱりシャッポを脱ぎますが、やはりその当時の行政の機構が今日ほど複雑でなく、威令が行われたということもありますね。

富安　そういうことが、今でも小さなまちではやれてるところがあるんですよ。規模が小さいのでまちの状況も読めるし、行政内部の動きもお互いに通じやすいんですね。

そういい点では、大きいところはだめだと思うんですよ(笑い)。大きいところでも、ほんとうは地区というような小さい単位で考えなきゃいけないんですね。人間の知覚できる限界というのがありますからね。だから、アメリカで小さなまちにみんなが移動しているというのは、ぼくはまさにそれだと思う。小さいところで得られる質というものは、大きいところが少々がんばったって得られないんですよ。

――その話は中澤先生がおっしゃっていた地方自治のあり方の問題につながっていきますね。本来地方の自発的な選択をするのが都市計画であって、制度というようなもので中央がコントロールするというものじゃない、というようなことを非常に強くおっしゃっているわけですが…。

椚座　昭和30年代まではまだ大阪あたりでもそういうことが可能だったと思いますよ。一職員に至るまで、自分が自治体の長だという感覚で仕事ができましたね。たとえば、ぼくは、10数年前のことになりますが、不燃化運動というのをやりましてね、国から補助金が出るからということで、一軒一軒歩いて頭を下げて、「補助金をもらってもらえませんか」という仕事をしたことがあるんです。「役人がそんなことをしてどうするか」って先輩に叱られたんだけれども、これからの行政の姿勢の一つのあり方について、いろいろ議論をして、ずいぶん苦労して少しずつやってきた。基準法が戦後昭和26年にできて防火規定をつくったが、国民がまだそこまで経済的に余裕がないから守れない。だから、それを守らせるために補助金を出す。こんなことをするのは非常にナンセンスだけれど、しかしその当時はそれでもやろうと思えばできた。しかし、今はぼくはそれすら困難だと思うんです。

近藤　耐火建築促進法というやつですね。あれは、補助金と抱き合わせて自己資金をかなりつぎ込んで建築をせないかんという義務が発生するわけですね。だから、やっぱり頭を下げなしようがなかったんじゃないかと思うんですけれど……(笑い)。

椚座　たしかにそういう面はありますね。ただ、話は発展しすぎるのかもしれませんが、まちづくりの大きな筋は、行政というか、都市計画側で立てるべきなんだろうけれど、細部の問題というのは、やはりそこに住んでる人の意見というものを一定の枠の中で取り上げて流動性を持たせて仕事をする、ということがあたりまえのようになってきてますからね。こっちでこう決めたんだから、という仕事のすすめ方はできないし、ぼくはそうあってはならないというふうに考えておりますけれどね。

住民参加の方向をさぐる

――都市計画の仕事がだんだん前へ進みにくくなっているという状況の中で、70年代の中頃から、住民参加のまちづくりという考え方が打ちだされて、たとえば大阪では庄内でそれが実践されて事業が一部実施されていますね。それを80年代の方向をさぐる糸口と見ていいのかどうか、という点についてお聞きしたいんですが。ただ、玉置先生がおっしゃるには、庄内というのはそれなりに満足して住んでる人が多いし、まちをつくっていく上で失敗したまちではあるけれども、同じ金を使うなら、予防的な都市計画を進める方へ金を回したほうがいいし、むしろ、庄内は一つの悪い見本として置いといた方がいいんじゃないだろうか、というようなお話もあったんです。

椚座　庄内の人たちが今日常の生活を満喫しているかどうかというのは、ぼくは疑問に思います。その証拠に、10万人のまちが7万人に減ってきましたからね。余裕ができれば同じ阪急沿線にどんどん逃避している、ということからすれば、やはり相当欠陥がある。市に対する税金の納入の割合が他の地区に比べて非常に低い。市のほうは、市全域から上がってきた税金から非常に多額の金を庄内に入れてるということ自体、病は相当進行していると見るべきだろうと思う。だからこそ、やっぱりテコ入れは必要だな、と思いますけどね。

近藤　人々が今満足して住んでいたとしても、所得階層によって居住条件に対するニーズに段階があるわけですから、所得がある段階にとどまっている間は一応満足しているけれど、もう少し所得が上がるとか何かチャンスをつかめばやっぱり出ていくことになるんですね。

――住民参加のまちづくりという点についてはどうですか。

近藤　住民参加というのが出てくる前の状況は、東京でオリンピックがあったり、大阪で1970年に万博があったりした高度経済成長期でして、公共投資も非常に多くなされたわけですね。建築基準法も1963年に改正されて容積制度になり、高層ビルや都市高速道路がどんどんできる、という状況でしたし、行政に対する住民の注文も、「道路の整備が遅れてるじゃないか、もっとつくれ、早くつくれ」という要望が多かったと思うんです。

それが万博を過ぎると騒音や大気汚染が問題になって「道路はもうたくさんだ」というようになったわけですね。それで最初は「住民との対話」というようなことが言われていたんですが、話し合いしてるだけではすませられなくなって、道路つくりだとか住宅建設といったまちづくりの事業をやるときには計画段階から意見をとり入れてくれ、ということになってきたわけですね。

たしかに、事業をする行政なり事業主体が実際住んでおられる方の意見を聞くのは当然せなあかんことだと思いますが、しかし、住民のニーズの中には、当然事業費を伴うニーズが含まれているわけで、それをそのまま絵にかいてみたら、財源の調達方法が全然なかったということになってしまう場合が多い。今の行政のやる事業というのは、国のいろんな補助体系にのせて、その採択基準で採択された上で、国庫補助に市の単費を抱き合わせてやるというシステムになってますので、補助体系に合わないような絵をかいてしまっても実現できないわけなんです。住民参加というのは、当事者がそういう問題との板ばさみになってしまう場合が非常に多いと思います。じゃ、どうしたらいいか、というのがむずかしいですが……。

富安　私は、住民参加ということが悪かろうはずはないと思うんですよ。住民の意思を聞きながら計画をしていくというのは、これは、もうもとに戻れない方向だと思うんです。

たとえば、ロサンゼルスでゴールズ・プランを推進しているハミルトンという人が2年ぐらい前に大阪へきたときに話を聞いたことがあるんですが、そのとき、「どうしてアメリカで住民参加が始まったんだ」という質問がありましてね。結局は、行政が都市計画をやろうと思っても住民が反対してできないんで、計画をやっていくためには住民の同意を得なければだめだ、ということから始まったのが大部分の理由じゃないか、というふうに言われたわけです。私もきっとそうだと思いますし、そういう必然性があって出てきたんだと思うんです。

もう少し言えば、住民が参加したほうが計画がよくなるから住民に参加してもらうんだ、というようなプロセスだと思うんですよ。住んでる人の意見を反映させるというのは、言う通りになるという意味じゃなくて、住民の意思ないしは住民の意向をそのまま尊重するのがいいような部分と、住民にとって利益にならない部分とが明瞭にあると思うんですよ。住民にとってすべて利益だけで損害が一切ないというかたちでは、都市の計画は進行しないと思うんです。だから住民参加というのは、それがオールマイティだということではなくて、住民の意思を入れたことによってその計画がよくなるということがはっきりしていて、その上で、一体どういう形でどういう部分に住民が参加すれば一番いいのかが問題になってくると思うんです。

それが庄内の場合はちょっときき過ぎているのじゃないかと思うんです。しかし、地方自治体なり都市計画の主体というのは、住民を大事にするのと同じように大事にされなければならないし、それが広域な調整をしたり、そこの住民にとっては必ずしも利益じゃないけれども全体にとっては明瞭に利益になるんだということを判定しなければならないし、また住民にそのことを理解してもらう必要があるわけですね。両方うまくそろっていないと、いい計画にならないと思うんですよ。今の段階は、すごく住民の言うことを聞いてみたり、いまだに以前のやり方で失敗するにきまっているようなことを強行したりしている時期でね。まあ、だんだん上手になるんじゃないでしょうか。

だけど、住民参加というのは住民も大変な犠牲を払うわけですよ、時間がかかりますんでね。だから計画がよくなったんだということにならないとまずいんですが、時間ばかりかかって、結局はじめのプランができて、両方非常に疲れて、それで計画が遅れただけだった、というんでは逆にものすごいロスだと思うんです。そういう意味で、今の住民参加というのは、非常に幼稚な段階で、手法として定着するどころか、まさにこれからそういう動きの中から養分をくみ上げて住民参加とは何かというのを考えようとしてる、まだそういう段階にあるんじゃないかと思うんです。

椚座　ぼくもロサンゼルスで再開発事業における住民参加の話を聞いたことがありますが、公聴会が延々と重ねられて、その資料が天井いっぱいまで積み重なって、数年かかってまだ合意に達しない。それで、ある地区では、戦車と機関銃で強引にやっちまったけれど、それから後はますます進まなくなってしまった。結局、住民参加で成功したのが10のうち2～3ぐらいで、だから住民参加というのは考えものだ、という話を聞いたことがあるんです。それから、再開発事業に民間資本を導入するということについてアメリカは抵抗がないんだということをうらやましく思ってたんだけれど、州によっては公共施設でなくちゃだめだという今の日本と同じような州があるんですよ、ルイジアナ州なんかそうでね。そういうところでは何をつくるかということまで住民参加で決めるから、あれはもう大変だ、という話を聞かされたことがあります。

ですから、日本が一体どこまでその後を追って住民参加の制度を発展させるか、という見方をしてたんですが、たまたまぼくは庄内の住民参加のまちづくりの計画の最初に関係することになりましてね。ですから、責任もあるわけだけれど、あのときぼくが住民との対話で訴えたことは、住民参加というよりも、都市というものや都市計画ということに住民が関心だけじゃなくて知識を持ってもらうことでしてね。行政や財政に関して対等に近いところまで勉強した上で話ができる場をつくる必要があるということです。それと、意見を言うのはいいけれど、そのかわり義務もありますよ、ということを第1回の住民懇談会のときにくどく言ったんです。

近藤　住民参加でうまくやっていけるものはいいんですが、富安さんがおっしゃったように、広域的な公共施設で、頭から嫌われるに決まっている施設もあるわけですよ。ごみ焼却場とか下水処理場とか火葬場なんてのは，どこへ持っていったって、「なるほどそれは都市に必要な施設だから、しようがおまへんな、どうぞわしの家の隣へおつくりなさい」なんて言いませんからね(笑い)，非常にむずかしいと思うんです。



地区詳細計画実現の展望

――先ほど富安さんの方から、アメリカの小都市化の動きに関連して、日本の大都市でも地区レベルで小単位でまちのあり方を考えていく必要がある、という指摘があったんですが、都市と建築をつなぐ計画といいますか、いわゆる地区詳細計画について建設省でもすでに検討しているようですし、このあたりも80年代の大きなテーマになると思うんですが……。

近藤　これまでそういう中間的なものが抜けていたという感じが非常に強いですね。従来の市街地整備の手法は区画整理にしろ何にしろ上物に触ってませんでしたからね。それに対して、地区詳細計画というのは、高さや壁面線やデザインまで規定したり、植樹を義務づけたりするやつで、パイロットプランじゃなくて行政上の拘束力のあるのを考えていこうというものなんです。まあ、そういう方向へ当然いくべきだと思いますが。

椚座　ただし、規制をすれば、その裏返しとなる助成、誘導という点が重要になるわけですね。その一例が、さっき話に出した防火規制で、それがあるかわりに耐火建築の助成という制度がある。

地区詳細計画ということに関連して言えば、大阪府の細街路の制度についても似たようなことが言えるんです。その制度というのは、細街路とそれにからむ下水道に補助するというものだったんですね、もう12年も前の話ですよ。細街路をつくるということは、今話に出ている地区詳細計画のようなものが要るじゃないか、まずその計画を市がみずからつくるということがその補助金の前提になっていたわけです。茨木市はそれを受けてああいう細街路網計画をつくってくれたわけですね。ただ府の財政が乏しくなって、この制度は53年度からなくなってしまったんですが。

――地区詳細計画の内容を考えますと、住宅の問題がかなり大きなウエートを占めることになりますね。それと土地問題もまた地区詳細計画を実際にすすめていく上で決定的なポイントになると思うんですが……。両方とも大変大きな問題ですが、中澤先生の方からは、そういう基本的な問題について若い人たちが大胆な仮説をどんどん出すべきだ、というようなことを言われているんです。

近藤　大胆な仮説ということで言わせてもらいますと、実は住宅の問題で少し考えていることがあるんですよ。

大阪市は経済の中枢地だということで、真ん中に大きな商業地域があるんですが、市全体でみますと、土地面積でも建物の延べ床面積でも、半分は住宅なんです。商業地域についてはかなり整備されてきていると思うんですが、これまでにやり残した問題と言いますか、住宅の問題がずいぶん後まわしになっている。ですから、80年代の大阪のまちづくりは、住宅をどうするかが大きな課題だと思っているわけです。

それで、住宅地の地区詳細計画なんですが、椚座さんがおっしゃったように規制するなら助成もすべきだという点でひっかかってきますのは、これは大蔵省の伝統的な考え方のようですが、「個人資産には公共用資金は投入できない」という問題があります。ですから私は、今後の都市住宅は、個人資産というよりは、利用は個人がするけれども、ストックとしては公共資産だ、そういう仮説を立てるべきだと思うんですよ。

これまでの住宅は、とてもストックとは言えない、劣悪なフローにすぎなかったと思うんです。しかし、これからの住宅は、そんな劣悪なフローじゃなくて、良質な、子孫に残す遺産になるようなストックを形成していかないかんわけですね。そういうストックを公共資金を入れてつくっていこうという提案なんですが、その場合、重要になってくるのが売買、相続の問題です。千里ニュータウンの場合も新住法の期限が切れたので売るのが自由になったとか言ってますが、公共資金を投入した社会資本である以上個人による勝手な売買、相続は禁止する必要があると思います。利用は個人だがストックとしては公共資産だ、というのはそういう意味です。

それをやりませんと、住宅は個人資産だから公共資金は投入できないという考え方を打ち破れませんし、地区詳細計画をつくって絵にあるような立派な住宅を建てようと思っても結局はできないわけですからね。「住宅金融公庫から金を借りたって返すあてがありません」と言われたらどうしようもないですからね。ですから、公共資金を投入して立派な住宅づくり、立派なまちづくりをして、あとは勝手な売買，相続を禁止する、そういう方法でどうでしょうか。

富安　いいですねえ。そうなると借家と持家の差がうんと減ると思うんです。持家といっても結局誰に所有権があるかだけの話になりますからね。

事実、全く同じように考えている国もあるんですよ。たとえばパナマなんかでは、公営住宅は全部分譲なんですね。一般の民間分譲とどこが違うかといいますと、民間分譲の場合は通常10年から20年で借金を返却するんですが、公営住宅の場合は75年で返却するんですよ。ですから公営の分譲住宅を買ったとは誰も思っていないんです。そういう国もあるわけですよ。アメリカでもいわゆるコンドミニアムという分譲が多いですが、日本と同じかたちで買っても、永住しようなんて考えないで持ち主が変わることを前提にして買っているんです。

日本の場合もそういう方向へ行くべきだと思うし、今日の状況はもはやそうせざるをえないところまで来ていると思いますね。というのは、先ほどからのお話を伺っていて、70年代に一つの大きな問題として出てきた点ですが、上物のコントロールができないということが非常にはっきりしてきているからです。たとえば60年代後半から70年代にかけて、関東で角栄建設なんてのが40～50坪の土地分譲をして、うまいことをやってみんな驚いたんですが、そんなものはもう足元にも及ばないようなものすごいミニ開発が関西で出てきた。それと、マンションがずいぶん一般化してきて、鉄筋コンクリートの建物がふえてきたんですけども、立体的な燃えないミニ開発だというだけのことで、さっぱり都市にとって良好なストックになってない。本来鉄筋コンクリートというのは、少なくとも 100年ぐらいは物理的にはもたせられるものだと思うんだけれど実際には15年ぐらいするともうそろそろ危ない。アメリカのハーレムもできたときは高級なアパートだったんですが、それがメンテナンスとパイピングなどの関係で、いまやスラムになっていますね。

だから、これからはそういう劣悪なフローをつくることをやめて、先ほど言われたように、住宅というのは社会的な財産だという考え方を導入することによって上物をコントロールし、利用者が変わるということを前提にした、相当長い間多くの人々の住居として意味を持つようなものをつくっていく必要があるんじゃないかと思います。ただし、これだけ土地が高いと、上物をどういじっても実現はしませんが……。

近藤　土地の問題についても、『大胆な仮説』ということで言いますと、問題のある考朽密集住宅地を国や公共団体が坪 100万円で買ったとして、70万円とか80万円で売ったらどうでしょうか。といいますのは、あるまとまった土地を持っている地主でしたら、坪100万円で売っても20～30万円くらいは国へ所得税を払わなければなりませんから、国がその分を放出すれば 100万円の土地を70万円か80万円で売ることができるわけですね、まあ、事務費がかかるからそ

れより少しは高くなるかもしれませんが。要するに、所得税は所得税で全部とろう、政府側の持ち出しが一切ないようにしようというような考え方をするんじゃなくて、高く買って少し安いめに土地を放出するという考え方、そうして得られた都市住宅の用地というのは公共資産なんだという理念でいったらいいと思うんですがね。

富安　名案ですな(笑い)。はじめの資金についてはどうですか。

門座　まちづくりに結びつけて税をどう還元するか、ガソリン税のような道路整備という目的税のかたちをとるか、という税制の問題ですね。

近藤　はじめの資金もそうですが、その土地の所得税がそこへ還元されるという、そういうチャンネルが今はできてないですね。だから、一般財源に全部ポンポンと入っちゃって……。そのチャンネルをつくらないかんと思いますね。

富安　たとえば、淀川リバーサイドのような特定の計画区域を取りあげて、その中の土地売買の税金はそこで使えるというような、そういう理由のつく地区が指定できればいいわけですね。そうなると、用地取得がまったく違ってしまいますね。

門座　開発負担金にしても、金をその地区にどう使うかということで、市議会で使途を明確にした議決を取る、予算書の中にあげろ、という指導をはじめましたね。今までは、何となしに取ってどこへ行ってしまったかわからん、ということになっていたんですが……。その点を民間ディベロッパーが宅地並み課税や譲渡所得税とともに問題にしてきているんですが、今の近藤さんのお話は、税金は税金としてガッポリいただいてその使途を明確にする、というようなことなので問題がかなりはっきりしてきますね。

都市計画と都市防災

門座　今、国が考えている「地区詳細計画」制度の創設については、その必要性は認めるし、また、大阪府の「細街路助成制度」が同様な趣旨のもとに、昭和43年度に発足したことから比べて、遅きに失するとは思いますが、果たして名案としてまとめられるのか、心配です。ドイツの考え方をとり入れようとしているわけだけど、ドイツと日本、背景が違いますしね。ああいう私権の制限ができるんだったら別ですが、日本の建築基準法というのは裁量の余地のない法律ですし、「こちらが計画立てたようにしなさい」というようなことが法律として規定できるかどうか。法律でできないんだったら、補助金を出して助成、誘導する以外に手はないので、規制、誘導、助成のバランスがむずかしい。しかも、建物を根こそぎ取っ払って何か新しくつくるという考え方ではなくて、住民参加の問題ともからむけれど、その地域の人たちを残しながら問題の地区をどうしたら自然につくりかえていけるか、ということが大事になってきていますね。ぼくは、そういう計画を〝界隈(かいわい)計画〟と言っているんですが、根幹となる都市計画を受ける下位都市計画として誕生してほしい。そういうものが都市と建築のつながりを考えた今後のまちづくりとして必要なんじゃないかと思っているんです。

富安　ぼくも、地区詳細計画に示されている考え方は要ると思うんですが、この通りにつくれというのはできないと思います。できる条件というのは非常に限られるんでね。だから実際には、地区のヴィジョンをつくっておいてそれを定期的に変えていくとか、何か特定のプロジェクトが出てきた段階でそれを対応させる、というようなことになっていくと思いますね。土地利用がどんどん変わるようなところでその都度、計画変更をしていたんでは大変ですから、むしろ決めない方がいい場合もあるかもしれませんね。そういう限界を乗り超える契機になるのが東海大地震じゃないかと秘かに思っているんですが(笑い)。東京で震災が起きて灰燼に帰したら、ロンドンの大火に匹敵する大変すばらしい法律が生まれるんじゃないかと思っているんですよ。

――では、地震の話が出たところで、都市防災の問題へ話題を移しましょうか。

富安　いや、東京ではほんとにまじめに考えてますよ、少なくとも5年ぐらいの間には必ず災害が起こるんだということを。あそこへ逃げるように指定されているんだけどうまく行けるんだろうかとか、年寄りは誰が連れていけばいいとか、というようなことが日常の話題になっているんですね。ところが、大阪の市民というのは、いくら市がPRしても、火事になったときにどこへ逃げようかって真剣に考えている人はまだ少ないんじゃないかと思うんです。まあ、大阪は可能性が少ないんでしょうけれどね。

門座　ぼくは、なぜ大阪は指定区域の中へ入れてもらわなかったんだ、と言うたんですよ。入れたらまたそれで動きがあるんだろうけれど、逆に、危なくないという証明をされたことになってしまったんだから、関心を持てと言ったってどうにもなりませんよ、これは。

――玉置先生のお話の中に、予測を立て、しかもある程度の準備をしておいて、たとえばそういう災害が起こったときに、人々の意識が集約される機会をつかんですかさず手を打つ、というのが出てきたんですが……。

富安　ぼくは、大阪市で仕事を手伝っているんですが、いろいろ調べさせていただくと、実際に今大地震が超きたら、東京も大阪もだめなんです。だめなら、防災対策はむしろ東京が灰燼に帰したあとのことを考えて、どういうふうにすれば再びそういう災害が起きないかを研究したらどうですか、と言ったんですが、そんなことを言っちゃだめだって言われましてね。やっぱりそういうのは言っちゃいけないらしいですな(笑い)。まず安全にすることを政府はやるべきで、壊れちゃうから、壊れた後どうするかなんてのを正式の政府機関がスタディするわけにいかないんだそうですよ。

――土地法学会あたりでは、都市計画屋というのはそういう冷たいものの見方しかしない、という話も出ているようですね。

富安　それは冷たいのとはちょっと違うと思うんですがね。東京都や大阪市の防災対策はどんどん進めるべきだと思うんですが、それができ上がるのは50～60年先ということがはっきりしてるもんですからね。すぐにでも大地震が起こることもあるでしょうし、その場合にどうするかという準備が要るんじゃないかと思うんですよ。

近藤　80年代には大地震は避けられない、という前提で防災対策を立てているんですが、ハードウェアのほうの対策はすぐにはできない。だから、家は焼けたり壊れたりしても命は助かる、というソフトウェアの面でできる限り補わなければならないわけですね。そういう状況にあるわけですから、国や公共団体の立場としては大阪や東京が灰燼に帰すという言葉は使いにくいかもしれませんが、富安さんなんかはフリーな立場ですから、どんどん啓蒙運動をしていただいた方がありがたいんですがね。

門座　私の場合は、公的な立場で住宅を供給する責務があるんだけれど、ツー・バイ・フォーを推進しろというのが建設省の指示でくるわけですが、それがぼくの悩みなんですよ。不燃構造だとか何とか言うけれども、要するに木造であることには間違いないんですね。本来防災という見地からすれば、公的機関の立場としては、あくまでもコンクリートにすればいいんですよ。しかも、木造の良さを殺

してまでわざわざ木造を建てようとするわけですから、ずいぶん悩みを感じとるんです。

大阪市の300万人構想を考える

――話をもとに戻しますが、先ほど住宅地の地区詳細計画の話が出ましたが、それに関連して、大阪市の人口政策のねらいとするところを伺いたいんですが……。

近藤　御堂筋の沿道とか堺筋沿道とか、東西南北４区の都心寄りの地区で人口が減ってきたというのは、それなりの理由があって減ってきたと思いますけれども、問題はその外周の部分、国鉄環状線の内側と外側の部分にあると思うんです。その辺はオフィスビルがどんどん建ってきたから住宅が押し出されて減ったというんではなくて、それほど商業的な繁栄がないにもかかわらず、何となく、まちが老化現象を呈して人口が他所へ移ってしまったところなんです。ですから、このあたりはもういっぺん人口を呼び戻してもいいじゃないかと思うんですが、呼び戻す条件としては、大気汚染とか自動車騒音とかの公害関係をなくして緑を増やさなければいかんというようなことが必要になりますね。そういう条件があれば、あの辺はまだ住宅でいけるんじゃないかと思います。ただし、外国のまちにあるように、１階ないし２階は小売り店舗や飲食店にして、２階あるいは３階から上を住宅にする、いわゆる下駄ばき住宅の形式を多くすべきじゃなかろうかと思っているんです。

それで、大阪市の人口の問題なんですが、昭和15年には 325万人いたわけなんですが、これは隣接６カ町村を編入する前でしたので、市域はいまより１割ぐらい狭かったはずです、かかる実績をふまえて、都心部のように土地利用が変わってしまったところは無理としましても、 300万人ぐらいは住めるんじゃないかと考えているわけです。遠距離通勤というのは明らかに時間と労力のロスですので、なるべく便利なところに職住近接をはかって、しかも適当な人口密度で住みましょう、という考え方なんです。

富安　大阪市のホンネはどこにあるんですか、人口そのものが減ってるということに危機感を持っておられるのか、あるいは横浜に抜かれて士気にかかわるとか、それとも今おっしゃったように、人口が減ってるということを通じて大阪市の周辺が荒廃しつつあるとか。さらには、人口が減るだけじゃなくて残っている人口の中で低所得者の比率が高いために都市の財政収入にも影響がでているというような現実的な問題が大きいのか、ということなんですが。多分その全部なのかもしれませんけれども、その中でもとくにどの辺が一番大きな理由になっているんですか。

近藤　小・中学校もあり、公園なんかも一生懸命整備しましたんで、まず、もったいないということですね。それとまちに活力がなくなるという心配がありますね。まあ、横浜に抜かれたというのは(笑い)、危機感という受け取り方はしてないんです。横浜は横浜で東京の住宅地になってしまって大変な目にあっているようですし。

富安　大阪というまちは今でも過密だと思っているんですが、人口が減ってくれたおかげで黙ってても平均的な質が上がる、日本の中の都市では断然いいまちになるというような、そういう発想はないんですか。

近藤　少数精鋭ですか。そういう発想はございませんね。むしろ、少ないより多いほうがいいという考え方をしてますね。

富安さんがおっしゃっていたように、やはり担税能力のあるような方に住んでいただいたほうがいい、というような質的な問題に関しては、腹の中で半分ぐらいそういう気持ちはあったとしましても、行政団体としては表に出すべきことではなくて(笑い)、都市の中には所得の高い人もいるだろうし比較的低い人もいるし中間層の方もいる、このバランスのとれたのが健全な都市であると考えているわけです。しかし、その昔、船場や帝塚山、上町台地というようなところにいた大金持ちはとうの昔に芦屋とか箕面とか豊中とかへ出て行ってしまって、今ではその傾向が中堅層にまで及んで人口が大きく減少した。これはちょっと痛いんじゃないかと思うんです。だから、大金持ちに帰ってきてもらおうというほどには思ってないんですが、少なくとも会社や役所の課長クラス、中堅層の方々にもっと住みついていただく必要があると思うわけなんです。それと、中堅層が減って具合が悪いと思うのは、たとえば大阪のフェスティバルホールで外国の一流どころがオペラか何かの催しものをやるというときに、住んでいるところが奈良県や京都府だと、「オペラの終わる時間が10時半か11時になるから、終電に間にあいそうにない、そんなら行くのをやめとこう」ということになる。その結果、高度の文化施設に対する需要が低下してしまう。そういうのは具合悪いことだと思うんですがね。やはり大阪が文化の中心であれば、そういう文化施設に比較的便利なところに大ぜい住んでいただいたほうがいいと思うんですよ。

富安　量だけじゃなくて質の問題があるんですね。

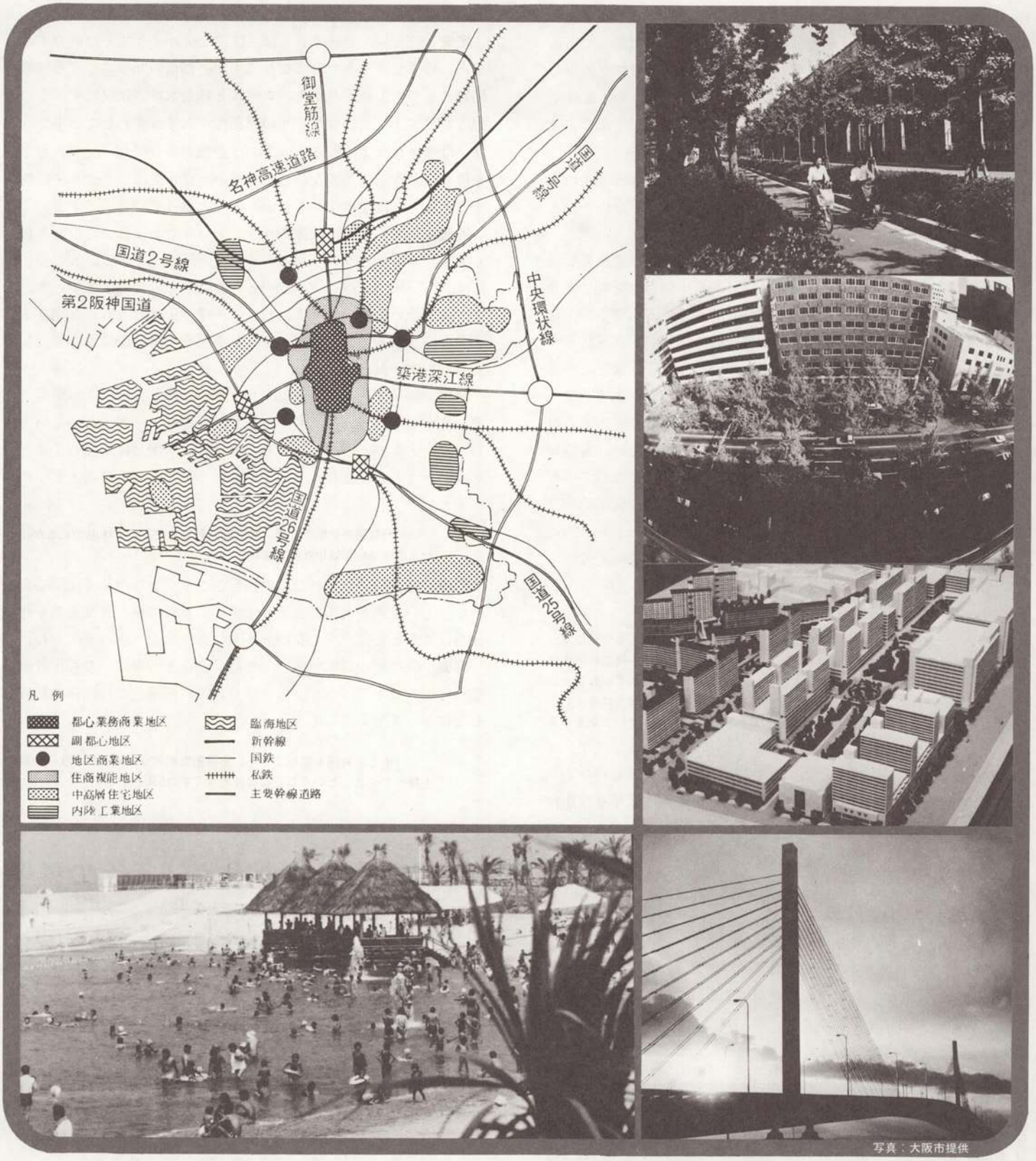
――もうちょっと税金を取れる層を呼び戻すということになりますと、現在の低所得者層を追い出して、その人たちの住んでた老朽住宅をより高級な住宅に建てかえるというようなことになりはしませんか。

枡座　ぼくは、昔からのまちに長い間つちかわれてきた人々のつながりや調和のある生活というものを壊してまで再開発をすべきだとは考えたくないんですよ。

ただ、一般に、低質粗悪な住宅で隣は何してるかまったくわからんというまちがあまりにも多くなり過ぎたし、そういうまちならば、空家が増えてまち自体が壊れていってもいいじゃないかと思うんです。そういうまちが近頃多くなりつつあり、奈良県香芝町でやっているように住宅敷地の最小限を制限して高級住宅しかつくらせないようにする、しかも従来のように一度にドカッとつくるというんではなくて徐々につくっていく、という方向がこれから求められることになると思うんですよ。

富安　ぼくも、高所得者が大阪市の居住者のかなりを占めて貧乏人が追い出されるということになるとは思いませんね。高所得者層というのはそれほどの量には絶対にならないから、むしろ、現状では高所得者向けの住宅供給を公的資金を使ってどんどんやっても一向にかまわないと思うんです。それでも全体のバランスがちょっと上に上がるぐらいのものですね。マンションを含めて、これまで大規模に供給されてきた住宅は、そのほとんどが低所得者層のためのものです。民間マンションでも市内に建っているのは、芦屋や西宮に建っているのと違って、実に安いのが多いですね。そういう意味では、高給所得者に相当偏った住宅供給をしても大阪市全体のバランスとしてはいいんじゃないか、と考えているんです。今までどちらかというと、高所得者の住宅を供給するのは罪みたいな意識があったと思うんですが、都市には高所得者も必要ですし、インテリも必要なんですね。そのバランスがくずれるというのはまずいと思いますね。

枡座　われわれの犯した過ちなんですが、同じタイプの住宅を何百戸、何千戸とつくって、同じ所得、同じ年齢、同じ好みの居住者しかいないというようなまちをつくってきていますね。そういうまちづくりというのは、ずいぶん誤っていたと思うんですよ、当時の



写真：大阪市提供

住宅不足解消のため、状況としてはわかりますけれどね。

都市と建築の法制度

―― 300万人構想の実現へむけて住宅地の地区詳細計画をたてるにしても、その前提になる全体の土地利用計画が重要になってきますね。しかし、実際には用途地域が指定されていても、上物をつくり直すときの方向づけが弱いという問題がありますね。

近藤　その通りですね。マスタープランで非常にきめ細かく絵をかいたとしても、実際に行政効果を発揮する用途地域指定ということになりますと、本質的にかなり混在を容認した制度になっていますので、住居地域の中でも商店はむろん建てられるし、小さい工場もできるわけです。そういうことで、非常に歯がゆい思いをしているわけです。

しかも、住宅と工場の混在密集の度合いは、大阪市の人口が325万人あった昭和15年当時に比べてみると、今の方がずっと高いわけです。それに、昔に比べて自動車がべらぼうに増えてますし、幹線道

路の沿道なんかはまず住宅地として無理だということになりますね。したがって、住宅用に使える土地は、昔に比べて非常に減っているわけで、その少ない土地に、日照、採光、通風という条件を確保しながらいかにコンパクトなまちをつくっていくか、そういう意味で、80年代は非常に高度な技術が要る段階に入っていくと思うんですけれどね。

富安　近藤さんがおっしゃった前半の話は、都市計画法で決められている今の制度と建築単体の間を埋めるものが要る、ということになっていきますね。

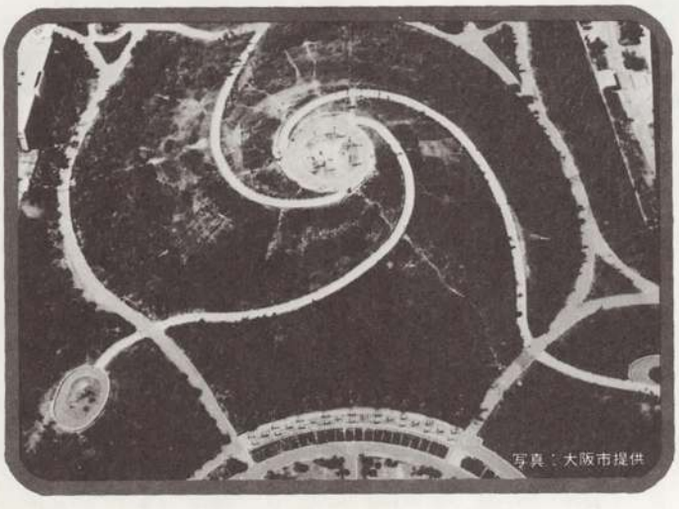
その場合、地区ごとにヴィジョンを示すということが大変重要な役割を果たすことになりますね。たとえば、東京の佃島や尼崎で調査したものをみますと、人口がどんどん減ってきているんですが、このまま推移すれば孫の代には灰色の工場地帯になってしまうだろうというヴィジョンを描いてしまうんですね。そうなると家なんか建て直す気にはならないし、どこかへ引越すことになる。まず、建てかえがストップして、つぎに空家が増えていき、やがてそのまちが壊れていくわけですね。それに対して、地区詳細計画というものがあって、今は確かに環境は悪いが、将来は公害が問題になっている道路をこういう施設群で隔離して、こっち側には快適な住宅地ができますとか、人口も今は減りかげんだけれども、アパートをこの辺に建てて人口を増やし、その地区が再び将来まちとして栄えていく、というようなオリエンテーションがあれば、そこに住んでいこうと思っている人々は非常に勇気づけられるわけですね。

——地区詳細計画を考えていく上で建築基準法の見直しも必要になってくるんじゃないかと思うんですが。今の基準法は全国一律でローカリティというものはありませんし、先ほど裁量権が認められていないという話が出ていましたが、具体的な地区詳細計画をたてる場合にそういう問題がどうしても壁になってくるんじゃないだろうか、という気もするんですが。

近藤　それは大いにあると思うんです。ローカリティというよりも大都市と中小都市というような違いですね。それは建築基準法だけじゃなく、都市計画法にもあるんですよ。今の都市計画法はどちらかというと中都市向けにできておりますので、大都市にはもう少しきめ細かな……。

椚座　確かに遅れています。ただし、地区詳細計画というのは、どちらかというと都市計画の分野に近づいたほうの問題を中心に考えるべきだと思うし、基準法には当然限界があると思う。

基準法にローカリティを持たせるということは、アメリカの、とくにニューヨークの建築規制のように実に厳しく単体の細部にわたる方向に動いていく可能性があるわけで、それを日本でやれといっても、とても日本人は辛抱しきれんだろうと思いますね。


写真：大阪市提供

富安　そういう意味で言えば、法律だけができてもだめですね。まあ、捨てゼリフみたいになりますが、都市の問題にしても建築の問題にしても、結局日本人のレベルと社会水準の反映にすぎないと思うんですよ。だから、そういう条件があまり変わらない中で、法律だけ変えればよくなるというのは幻想であってね。80年代もそう条件が変わるとは思えないし、そういう意味では、あまり法に期待するというのはできないんじゃないかと思っているんですよ。

近藤　私も、最初に法律ありき、ということにはならないと思うんです。コンセンサスを得る方が先だと思うんですよ。ところが中には、「こうやろうじゃないか」という話をもっていきますと、「法律ではどないなってってまんねん、法律で決まっとったら守りまひょ」という人もいますんで、そうなるとやっぱり法律も必要だなと思うんですけれどね。

富安　確かにそういう面もありますが、たとえば、ミニ開発の劣悪な住宅であったとしても、残念ながらそれが一番ふさわしいと言わざるをえないような人がいるんですよ。法律だけが先行すると、そういうことができなくなるというような問題はいぜんとして残りますね。

——行政側の体制として、地区詳細計画をどういう体制でやるか、という点についてはいかがですか。

椚座　基本的には、行政体の長がどこまでまちづくりに関心を持つか、という点が大事だと思いますよ。行政の長が意欲を燃やせば仕事はできるし、そうでないとまちづくりは前へ進みませんね。

富安　行政側の対応組織としては、全市を対象にした都市計画の組織ということではなく、もう少し地区に密着した行政体の対応が必要になってくるでしょうね。

——あとは実践を重ねていく、玉置先生がおっしゃったように、勇気を持ってやれ、ということになりそうですね(笑い)。

都市・建築をめぐる80年代の課題

——住宅地の再開発の話がかなり出されましたが、80年代の都市と建築を考える上で、その他にどんなことが問題になってくると思いますか。

椚座　駅前再開発シリーズの時代は終わったという言葉があるんだけれど、環状線の駅前周辺とか府下の各駅の周辺というのは、まだまだ再開発の要求をたくさん持っていますね。この再開発はいわゆる商業再開発か住宅再開発か、それぞれの商業条件なり土地利用条件なりによって違ってくると思いますが、いずれにせよ全部やっていくべきだろうと思います。

それ以外の大きなプロジェクトとしては、空港整備は別として、交通手段の整備が大きな課題になりますね。交通手段として何が適当かということを10年先、20年先を見越して考えなければならんわけですが、ぼくは、この課題は80年代の課題として絶対はずせないと思っているんです。それ以外はあんまりできる状況にないと思いますね。

近藤　私も80年代というのは相変わらず低成長時代だろうと思っているんですよ。万博関連事業のときのような大プロジェクトはまずないだろうと思う。

ただ、大きな変化が考えられるのは、70年代に住みよい環境をつくるという住民の価値観の変化みたいなものがあったわけですが、そ

ういう頭のほうの変化が80年代にもっと大きな変化としてあらわれるんじゃないかと思うんですよ。住宅の質をもっと上げようじゃないか、都市住宅は公共資産という考え方を持とうじゃないか、というようなかたちでね。

村座　人間の精神の問題で言うなら都市の文化の問題がありますね。大阪は儲けるだけで精いっぱいで、儲けた金をどう使うかということが弱い、文化が不在だと言われているんですが、昔は財界が中之島なんかに寄付をしたんだからね、そういう考え方が自然に出てくる雰囲気をつくるのがわれわれの仕事かな、という感じがしますね。何でもかんでも国の税金で、というかたちで東京詣でばかりしてるんだったら大阪は発展しないですよ。

――文化の問題に関して言えば、最近、建設費の1％を上積みしていい建築をつくろうというような動きが二、三の市で出てきていますね。これは、フランスあたりから入ってきた運動のようですが、日本でも80年代にはもっと強まるんじゃないか。大阪にルネッサンスを、という言葉もありますし、ヨーロッパのルネッサンスの内実はまちづくりそのものにあった、という玉置先生のお話にも関連すると思いますが。

村座　ルネッサンスの時代と現在を比較するのは、前にも言いましたが、前提条件の違いがあると思う。市の境界線のところに非常に大きな城壁があって、そこを出たら生命の安全は保障されないというような中世の都市構造の中で、都市をいかに長く、しかもお互いに住まいやすくするかという考え方で発想するのと、大阪の外へ出て行ったら広い野山があって、そこにニュータウンがつくれるじゃないかという考え方で発想するのと、非常に違うということです。しかし、1％という話はいいことであるに違いないんだから、どんどん広めなければならないけど、公共建築だけではあまり意味がないんで、民間建築でも1％、2％と上積みされる必要がありますね。

富安　高度成長時代はスクラップ・アンド・ビルドで、あまり値打ちのない建物をどんどん建てて、壊していった。簡単に壊せること自体大事な要素だとさえ考えられていた面があったわけですね。そういう必要が今も絶無かどうかは別として、大部分の建物はやっぱり長持ちすることが要求されていますし、長いこと都市を形成していく要素として残っていくわけですから、都市環境から見ていいものでなければいけない。そういう理解というかコンセンサスが1％という話につながっていれば、ぼくは結構な話だと思うんですよ。むろん、1％ぐらいじゃ何ともならないので、それが一つのオリエンテーションになればと思うんですがね。それは、低成長とか省エネルギーとかが言われている中で、物を大事にしなければいけないということが強調されていることと密接に関連していますね。

――最後になりましたが、80年代の都市と建築をつくっていく上で、若手がおおいにやるべき課題、若手に対する提言といったようなものがあれば一言ずつ発言していただきたいのですが……。

富安　80年代の都市と建築にかかわる問題としては、今言ったような省エネルギーの問題がありますね。日本全体の景気が低成長になっていくということが盛んに言われていたんですが、ほんとに低成長になってきてるんですね。その中で、都市と建築について理屈だけはわかっていたけどやれなかったというものが低成長になったからできる、そういうことがたくさんあるんじゃないかと思うんですよ。省エネルギーということが非常に大事な条件だということになると、今まで値打ちが認められなかったことでも誰しもやらざるを得ないというかたちでね。そういうことをしじゅう目を皿のようにして見とかなきゃいけないし、それを機を逸さずやっていかないといけないのじゃないか。80年代というのはそういうチャンスの時代だと思う。

近藤　今、富安さんがおっしゃったように、80年代はエネルギー資源がないということでひきつづき低成長の時代がつづき、大きな事業は望めないと思うんですが、発想の方はいろいろ自由にめぐらすことができるだろうと思うわけですよ。

第一には、すでに話に出ましたけれど、都市防災のことがありますね。地震の危機というのは、行政側が、「危いぞ，オオカミがくるぞ」というような宣伝をするよりも、おかみさん方の井戸端会議で「どうも地震がきそうだ、わたしらのまちはこれでいいのか」という話題が出たり、「市長選挙があるけれど、あの候補者は地震対策を考えているんだろうか」というような話題が出なければウソだと思いますね。これは、「建築と社会」というわれわれの雑誌の名のとおり、まさに建築と社会の問題ですから、われわれ自身もそういう運動を展開せないかんのじゃなかろうか、というような気がするわけです。

もう一つの危機というのは、大げさに言い過ぎかもわかりませんけれども、地方出身の大学生がUターンして郷里で就職するという傾向が非常に強く出てきたという問題です。なぜ郷里での就職を望むかというと、第一に早い時期に自分の家が持てること、第二に通勤時間が短いということがあげられています。その結果、地方に人材が定着して、落ちついたコミュニティーが形成されていくということになれば、それはそれで結構ですが。

ところで、大阪は地方なのかというとそうじゃないですね。東京と比べれば首都じゃないですから、そういう意味では地方なんですが、大都市と地方都市という考え方をしますと、地方じゃないんですね。80年代は地方の時代とか言われまして、各省庁から地方生活圏の構想がいろいろなかたちで出ておりますし、たとえば、国土庁のモデル定住圏を見ましても、40圏域、40府県でやってるわけですが、大阪なんかは入っておりませんね(笑い)。つまり、大阪というのは、地方でもないが首都でもないんです。しかも、その大阪から人材がUターンして出ていく。その傾向がこのまま続いていくと大阪はどうなるのかという意味でやっぱり危機感を持たざるをえない。だからこそ、みんなで地区詳細計画なりコミュニティー計画を考えていく必要があるんじゃないかと思いますね。むろん、今はそれを実現する法制度や手法が非常に乏しいんですけれども、そのことを含めてこういう研究をみんなでやる必要があると思います。

村座　最後になりましたので、ぼくの場合は別の角度から発言してみます。ぼくは、今の若い人たちは気の毒だと思っているんですよ。世の中はあまりにもガヤガヤと忙し過ぎて、なかなか一つのことに専念していけない状況にあるわけですね。ぼくらのときとえらい違うなという感じがしてますね。みんな、ただもう表面を精いっぱい走って、くたびれている。ほんとに気の毒だと思いますよ。だから、建築の監理者側で言えば、たとえば設計図を解読する力がなくなってきたとか、設計者側で言えば、天井に頭がつかえるような設計図を金を取って書くというような問題が起こるんですよ。なんか間違ってきてるなという感じがしますな。今のような世の中ではむずかしいのかもしれないけれど、もう少し一つ一つ専念していけるようにしないとまずいですね。

――まだ話は尽きないと思いますが、予定時間をかなりオーバーしてしまいましたので、この辺で閉じさせていただきます。長時間、ありがとうございました。

おことわり

・本座談会の記録は全体の速記録を約半分に縮少し、一部組みかえして構成したものです。編集側の質問は個々の氏名をださずにひとつにまとめて整理しました。(富樫幹事担当)

・各氏の発言内容は、その所属団体と責任的関係にあるものではない、という前提で座談をお願いしたいものです。

昭和54年度・第4回若い会員の集い

キャンパスを訪ねて
―大阪芸術大学の建築群を見る―
レポート

レポータ・中川　一

10月13日㈯の午後、近鉄喜志駅に集合したわれわれは、芸大事務局のご厚意によるスクールバスで、二班に別れ、キャンパスに向かった。

目指す芸大は緑豊かな高台にあり、バスは街並みから次第に田園地帯へと進んだ後、なだらかな坂道を登って行った。キャンパスの入口附近では、今なお芸術図書館の新築工事が進行中であった。

センターホールで集合した後、講演会場へ移り、予定よりやや遅れて2時30分から講演が始まり、その後、学内の見学を行った。

高橋先生は日頃、講義に慣れておられるためか、話し上手であり、芸大の設計および施工に際しての裏話などをおもしろく話された。

教育理念に「自由な精神」を採択している芸大においての学生は、個性の強い集合体であり、その器としてのキャンパスをいかに作るかが、大きな問題点であったとのことだが、「遊びの中で勉強すればよい」という先生の言葉で、そのイメージの一端が分かるような気がした。「1期工事のみでも完了した姿であってほしい」という気持ちが、その後の工事にも引き継がれ、密度の濃い仕事となり、その相互空間が、非常に味わいのあるものになっているのは、今に思えば「ケガの功名」だと謙遜されていたが、コンクリート打放しの表情の豊かさ、空間のおもしろさは、飽きることのない楽しさを、われわれに与えてくれた。土曜日の午後、クラブ活動や実習授業を行っている学生達が、その空間に何の躊躇もなく、溶けあっている雰囲気が、非常に印象的であった。

小さな空間を大切にするということは、短期間の設計では困難であり、長い時間が必要である。たとえばこのキャンパスを今コンペすれば、現場のさまざまな空間は出来てこないと思うとも話された。

また建物のメンテナンスは非常に良く、芸大として「箱そのものが芸術品である」という理念を学生に強く指導されている塚本学長に、先生は深く感謝されていた。「人間の手を使い物を作るプロセスを最後まで大事にしたい」「1本1本の柱に思い出が残るようにコンクリートを作っていきたい」と熱い眼差しで話される。

高橋先生と現在新築中の芸術図書館の見学を、2年後に約束して大阪芸大を後にした。

最後になりましたが高橋先生、第一工房、大成建設、並びに芸大事務局の皆様に深く感謝いたします。

（野村建設工業）

増殖する有機的空間

香西　喜八郎

秋の土曜日の午後のひととき、大阪芸術大学の見学と、設計者でありかつ建築学科長の高橋先生のお話を伺う企画に参加させていただき、感謝します。

キャンパスは、古墳時代より開いた古代文化の発祥の地である穏やかな南河内の石川の辺りの丘陵に、二上山を背にして位置している。

コンペの際のマスタープランは、アクセスから奥へ南東に延びる一本の道路軸を残して全く違った方向に十数年の期間をかけ大学の学科・学生数の変化と照応しながら絶えず軌道が修正され、手づくりの熟成された建築がゆっくり増殖していく様相を呈している。

短期間のうちにマスタープランの概念即建物へと具現したのではなく、関係者一同の情熱が込められ、おのおのの場の意味を押さえ込みながら丁寧に時間をかけ構成された人間的なスケールの多様な目的の空間が、前述の道路軸の両側に、次々と結合され、退屈しない劇的な変化が体験できる。それらの場は内外部を問わず創造活動の場、かつそれらのポテンシャルを高める場としてデザインされ、有効に機能している。この計画手法は中央大学の多摩学舎のような短期間で計画された壮大なマスタープラン方式のプロジェクトにはみられない、集落の形成に類似した街並みを形作っている。おのおのの建物がその機能を素直に表出し、種々のかたちを持ちながらも素朴なコンクリート打放し仕上げによる材料の統一と、流れるような建物群の連結のデザイン手法により、各工期の個々の建物のかたちの違いを包括して11期に渡る工事の区分を持たないような有機的な空間を構成している。やや過密な建物群がキャンパスのアメニティを高め、各分野の交流の機会を高めているようである。

建物を入れ物でなく、それ自体が教材、芸術作品として欲しいと願った建築生、それに答える能力の建築家、一貫した施工者の意志の疎通が図られ、建築を創る姿勢の原点がみられる。

このリッチな空間を日常的に体験し生活をエンジョイしている学生にとって、この環境は芸術の創造活動の源泉となる。

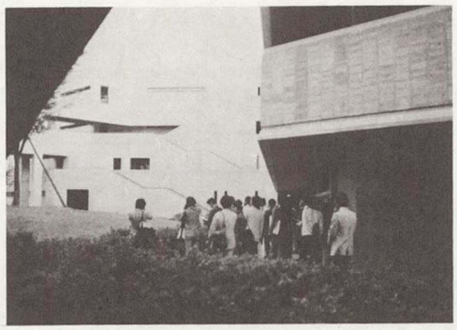
2年後の秋、アートライブラリーが完成したときに再び訪れたいと思う。

（東畑建築事務所）

手づくりの建物

植松　清志

コンクリート打放しの建築群はさすがに圧巻であった。センターホールに横づけされたバスを降りると、まず目に入るのが12・13号館。現場打ちP・Sコンクリートで、スパンが20余m。その柱間隔の大きさを目のあたりにすると、RCなのに大丈夫なのかなというケチな心配と、RCでもこれだけできるのかという感心が入り乱れる。じゃまな柱がないだけに広々としたピロティ、他の建



築群も単調になりやすい仕上げの分を豊かなデザインと、変化に富む空間で楽しませてくれる。

「大阪芸術大学」という名を初めて耳にしたのは10年前。工高の同級生が同校を受験したときである。芸大建設が今年で15年目ということだから、5年目の名前を聞いたことになる。それ以後、芸大に関する断片的な知識（建物に限らず、いろいろな学科のことを含めて）は増すばかり。最近では、今夏の長期旅行で知り会った友人が建築学科の4回生であった。その彼から具体的にキャンパスの様子を聞き、観たいものだと思っていた矢先にこの企画。「渡りに舟」とはまさにこのことだ。

実務に疎遠な学校にあって、最もよい刺激となり、勉強になるのが見学会や講演会である。そういう意味で、設計者の高橋先生のお話も興味深く拝聴させていただいた。今まで12期にわたる工事で、とくに初期では全体工事がいつ終わってもキャンパスとしての景観をそこなわないような配慮をされたという。こういう配慮から各建物に密度の高い空間が与えられ、群建築としてのキャンパスには、新な魅力ある空間が造り出されている。

長期にわたる手づくりの建物は、建築家の建物を慈しむ気持ちと、15年間変わらない現場スタッフの情熱により本当に素晴らしい建築に成長している。また今後も成長していくだろう。建築におけるチームプレイの大切さを改めて感じさせられた。

実際にキャンパスを歩いてみると、床のレベル差が軽妙であきさせない。また見えがくれする建物や、振り返ると広がる展望に、設計者の空間演出のうまさとこまやかさを感じる。加えて、密度の高い建物同士が醸し出す空間に、偶然が作り出す空間の面白さをも見た。

建設すでに15年、この南河内の自然環境に溶け込んだ素晴らしい人工環境に驚かされた貴重な半日であった。

2年後には設計に5年を費やされたという図書館が完成するそうである。そのときにもぜひみせていただきたいと思う。

最後に、高橋先生はじめ芸大の方々、ならびに今回の企画をされた建築協会青年部の方々に末筆ながらお礼申し上げます。

（大阪府立今宮工業高等学校建築科）

日　時　昭和54年10月13日㈯　集合13：30→解散17：30
講　師　高橋靹一氏（大阪芸術大学教授・第一工房主宰）
参加者　26名
スケジュール
14：15　開会のあいさつ　湯山主査
14：30→15：30　講演「芸大キャンパスの計画と設計」　高橋講師
15：35→17：30　キャンパス見学　質疑応答後解散

昭和54年度・第5回若い会員の集い

ディスカバー大阪・その5

川面からみた大阪のまち・橋

――中之島・道頓堀を船で巡る――

レポート

レポータ・石古　香

大阪にもいろいろな顔があります。その顔を訪ねて再認識するために、このディスカバーシリーズは企画され、今回で早や5回目を数えることになりました。

前回までは、足で歩いてこの顔を確認し、その中に浸って考えてきましたが、今回は趣向を変えて水の上から見る大阪のまちに焦点をあて、川面を船で巡る企画となりました。

かつて、川は交通の大動脈でした。市中でもこの川辺に沿って商店の出荷場がその入口を開き、軒を連ねていたのです。しかし、現在ではほんの一部にその名残を留めるだけですし、大川を上下していた伝馬船も、今ではわずかに土砂運搬の姿を残すのみで、無くなってしまっています。今は姿を消した川、橋が多々あり、残った川も公害などで汚染されています。このような趨勢とともに、「水の都」という言葉も昔の大阪の代名詞に転落してしまいました。

水の都、川と橋の町と言われて久しい私たちのまち「大阪」ですが、中之島界隈を見るとき、やはり川を抜きにして語ることはできないと思います。堂島川、土佐堀川に囲まれた中之島の風情、両岸に並ぶ建築群の織りなす街景観は、川という軸があってこそ生まれてきたものであり、今後も川とともに生き続けていくと思われます。

今回は都心を流れる主な川の現状を見、川を再認識するとともに、川にかける橋、川辺の建築群などの織りなす景観を川面という普段見ることのできないアングルからゆったりと概観することにより、忙しく陸上を往来していては気づかなかった面を感得したいと考えました。

◇

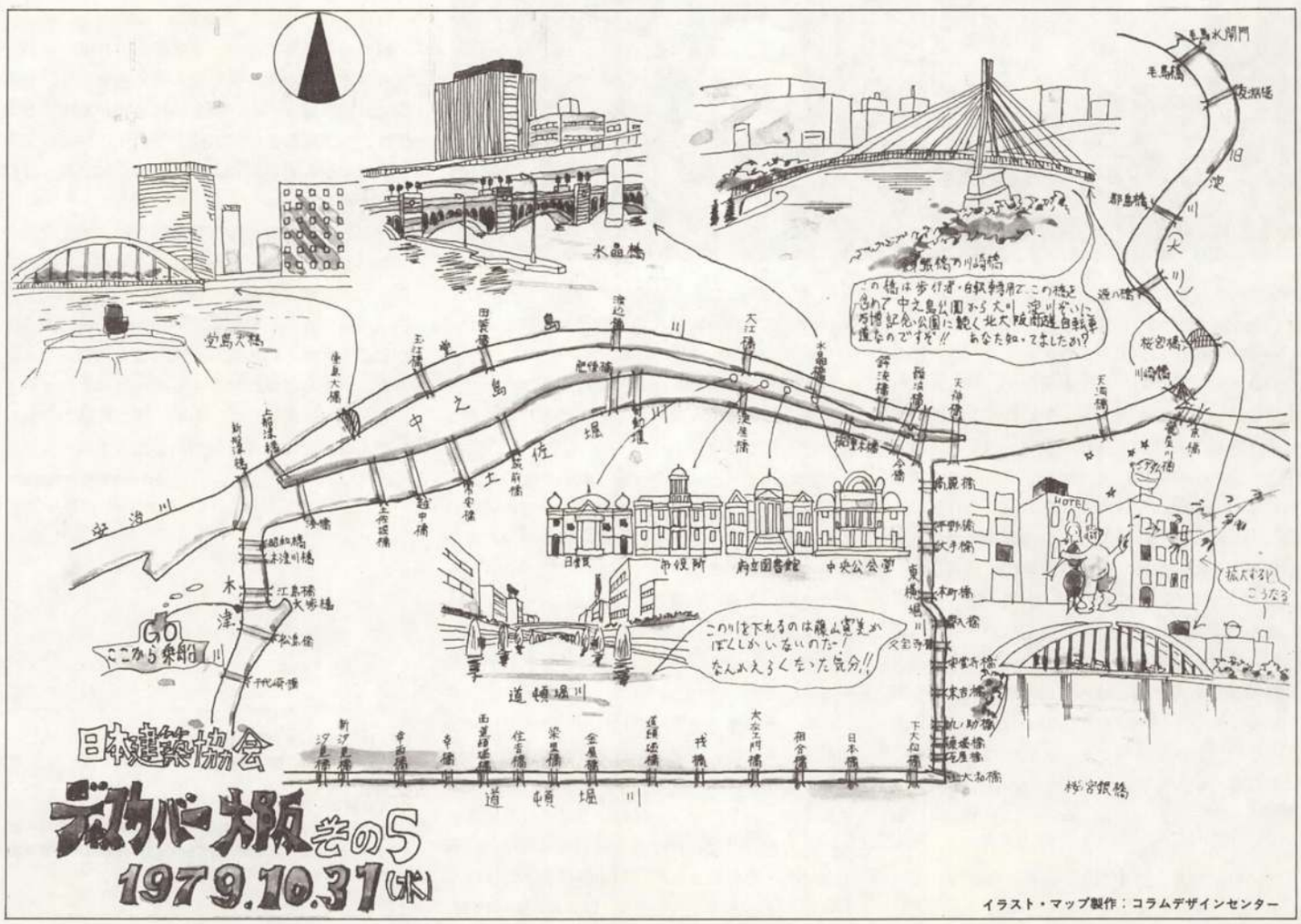
当日は10月末にもかかわらず気候温和で、天気も良く、最高の船渡御となりました。まず木津川大渉橋詰にある府治水事務所前広場に集合し、簡単な説明の後、事務所前の乗船場から乗船しました。15人乗り、10人乗り、2隻の船に分乗し、いよいよ出発です。川を船で巡るだけでも魅力たっぷりです。まして、めったに体験できないコースとなればなおさらです。私も含めて参加者全員、さあ出発とばかり心踊っていました。

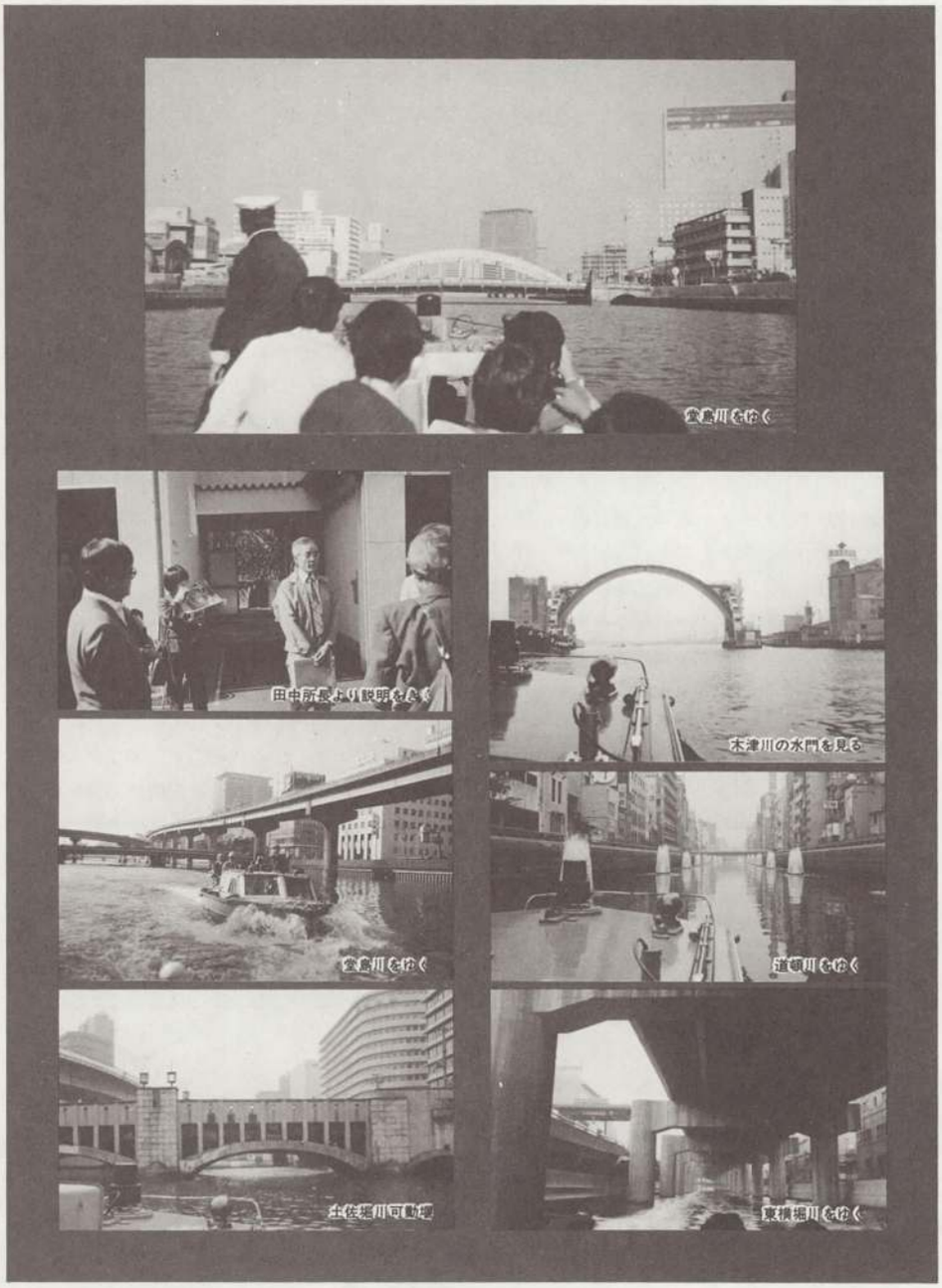
木津川を北上し、昭和橋をくぐると中之島の西端、堂島川と土佐堀川が再び一本となって安治川と変わる分岐点に出ました。北岸に中央市場を見て船は右折し、まず堂島川に入りました。

陸上から見慣れた現代ビル群が林立している両岸を眺めながら進んでいくと、前方には、堂島大橋、大江橋、水晶橋、と堂島川にかかる橋々が個性豊かに次々と迫ってきます。左右のビル群、大江橋近辺から展開する中之島の古建築群、正面の橋々、と首を巡らしているうちにまたたく間に中之島東端まで進んできました。

やがて大川へ出ると川幅はぐっと拡がり、また両岸にも緑地帯があり建物の密度がやや低くなるため、ゆったりとした景観が目に映り出しました。天満橋を過ぎ、斜張橋の現代的なスタイルの川崎橋をくぐった辺りから、左手には造幣局の緑、泉布観等の古建築が望観され、今日のコースのハイライトとも言えるみごとな景観が楽しめました。ただ、右手をみるに、桜宮のホテル街のバラエティ豊かな？建物が林立し、川を挟んで対照的な景色には唖然としたものです。船はこの辺りを過ぎると左右に並ぶ工場群の間をスピードを速め、一気に毛馬閘門まで到達しました。

大川を折り返し、再び中之島へさしかかった船は進路を、南側を流れる土佐堀川へ向けました。この界隈の橋の中で、淀屋橋は水面から一番低い位置にあり、通過を危ぶまれていましたが、正面に迫ってくると、なるほど低く、ぶつかるのではないかと思いながら、皆、首を曲げて頭を低く押さえ込んでいるうちに、コンクリートアーチの下を無事通過しました。ビル群の間をすり抜けるようにして中之島西端まで戻り、木津川を一気に水門まで進行しました。この附近は、造船所、倉庫等が多く、景観はパッとしませんが、川との実務





的結びつきは活発に続いているようでした。

巨大な木津川水門を見学し、踵を返して北上し、やがて道頓堀川へと入って行きました。この川の西部は木材問屋が並び、貯木場となっており、川の半分は木材で埋まっておりました。この間を縫うようにして東進しました。現在、道頓堀川の途中と東横堀川の北詰に水門があって、潮の干満を利用して水の流れを強め、浄化を図っており、このため水門の開門時間に限定があると聞かされておりましたが、やはり閉門時に水門に到着し、しばらく待つはめになりました。水門が開くのを待ち兼ねたようにして道頓堀の中心へと乗り入れました。これも浄化のために設置された噴水の間を昼間見るとあまり美しいとは言い難い歓楽街の裏を見ながら進行していると、橋上からは往来する人々が物珍しげに立ち止まって眺めたり、なかにはお母さんに手を引かれた子供さんが手を振ったりする光景に出会うなどするうちに東横堀川に出てきました。

この川は端から端まで高速道路の橋脚が林立しており、予想はしていましたが、やはり寒々とした陰気な川でした。北詰まで来るとUターンして船は帰路につき、出発点の木津川大渉橋詰まで戻ってきました。

約2時間の船旅でしたが、短時間の割には、大阪の多くの表情を垣間見ることのできた有意義な催しだったと思います。

企画のスタートにあたっては船の手配でさんざん苦労しました。橋が水面から近く、背の低い船でないと通れないことや、一般旅客を運ぶ船便は皆無（一部区間のボート等を除いて）であったためですが、水の都の復活のためにも、ぜひ公的、私的機関を問わず何らかの方法で、気楽に利用できる水上遊覧船といったものを設けて欲しいと思います。

この企画のスタート前でしたか、住宅公団の団地計画にあたり、毛馬から中之島への水上バスの計画が発表されていましたが、これなどぜひ実現させて欲しいものです。なお、今回の計画に多大のご協力をいただいた府西大阪治水事務所西大阪出張所の田中所長はじめご関係の皆さまには厚くお礼申し上げます。

（大成建設㈱大阪支店）

今様三十石船の復活を……

松本　敏廣

常々大阪の街は魅力にとぼしいと感じている。その理由はなんであろうか。一つの面として観光資源が少ないことではないだろうか。大阪なにわの観光資源的キャッチフレーズと言えば、御堂筋のいちょう並木と大阪城の石垣が代表と思われる。商いの街ということで都市の魅力作りに力を入れていないこととともに、近くに古い都、奈良、京都という日本を代表する観光都市がひかえており観光や遊びは奈良、京都におまかせということなのか。しかし、都市の魅力はただ働く場であるのではなく、遊びも必要ではないだろうか。

古くなにわは、水の都とよばれ、中の島、船場、島之内を中心として多くの河川と水路があり、当時の商業、文化をささえてきたものと思われるが、都市の近代化とともにいくつかの水路はとりこわされ、大部分は道路に変身してしまった。それでも他都市に比較すれば現存する都市を流れる河川は多く、やはり大阪の魅力と言えよう。

これを大阪の新しい観光資源として活用してはどうだろうか。それは大阪の二大観光資源である御堂筋と大阪城を、水路を利用して観光船を走らせることである。とくに堂島川と土佐堀川にはさまれた中之島は、明治時代からの大阪の歴史的な建築物が集中しており、阪大跡地には中之島文化センター構想もあり、大阪城公園までの都市軸を想定すれば、歴史と文化の都市軸を形成しているとも言える。

観光船の具体的なルートを想定すれば、堂島大橋（ロイヤルホテル前）から堂島川を上り、日銀、中之島図書館などの、歴史的建築物が集中する淀屋橋、中之島公園、天満橋をくぐって桜の宮公園を臨みながら寝屋川に入って、大阪城公園へと継ぐものである。

そのむかし枚方から大阪市内を結ぶ水上交通機関として三十石船という市民の水上バスがあったそうで、今様三十石船の復活を、今回の船から中之島周辺をめぐりながら思いついたわけである。

先ごろ大阪市内の遊覧バスも姿を消してしまい、一方、中之島河畔に緑の遊歩道が計画されていることからぜひ実現して、大阪の新しい魅力、新しい観光資源となれば、魅力ある都市大阪の復活に役立てばと。

（日建設計都市計画部）

日　時　昭和54年10月31日(水)
集合12：30・乗船13：00→解散16：00
参加者　23名
主な運航コース（船2せきに分乗）
大渉橋詰より乗船→堂島川→大川→毛馬閘門→大川へ戻り→土佐堀川→木津川(水門を見る)→道頓堀川→東横堀川(往復)→木津川→大渉橋詰下船、解散

●中国を訪ねてく10〉 最終回 王柏群

赤県扶桑一衣帯水

杭州から上海へ戻ったのは８月29日、私の祖国滞在もいよいよあと２日を残すのみとなりました。

ホテルから歩いてすぐ近くにある上海随一のデパート第一百貨公司や、やはりすぐ近くの友誼商店で毛筆や墨やレコードなどを買い、荷物を整理して日本へ帰る準備を始めます。

８月30日の午前10時頃、思いがけなくも上海民用建築設計院の郭博さんがホテルへ訪ねて来て下さいました。郭さんは私の恩師足立孝教授の京大時代の同期生で、北京から上海へ到着した際、旅行社の方にできればお会いしたい旨伝えて置いたのですが、この日は、先般金山石油コンビナートを案内して下さった同じ設計院の施徳明さんとお二人で見えました。

初対面の挨拶もそこそこに早速、村田治郎先生が就職のお世話をされたお話や、森田慶一先生からのお手紙をつい最近受け取られたこと、足立孝先生の学生時代のお話などを伺いました。もちろん達者な日本語で話され、お会いしたばかりなのに、まるで旧知のように話がはずみます。

郭さんのおられる上海民用建築設計院の院長をしておられる陳植先生は中国の著名な老建築家の一人で、たまたま私の叔父の親友に当たり、先般ぜひ会うようにと電話をしてくれたのですが、ちょうど北京へ出張中でした。私もそれ以後、蘇州や杭州を訪ねたりして、とうとう設計院の方へはお伺いできませんでしたが、院長の下に總工程師がおられ、さらに郭さんを含めて３名の副總工程師が補佐しておられます。設計室は第一室から第六室まで計６室に分かれ、施さんが主任工程師を勤める第五室だけでも約120名のスタッフがおられるそうですから、設計院全体は相当な大世帯です。

施さんから伺ったのですが、郭さんは現在設備部門担当の副總工程師として、意匠や構造部門との折衝、調整などのお仕事で毎日大へんご多忙だそうです。この日も、午後から空調学会の発足式があり、副会長として開会のスピーチをされるので、尽きぬお話に名残を惜しみつつ、正午前、施さんに促されて席を立たれ、ホテルの玄関でお別れしました。話がついはずみ、先般の御尊父郭沫若先生ご逝去に対するおくやみの言葉を、お別れ間際に述べる不始末でした。

日中両国の友好を心より願われ、献身的に多大のご貢献をされた故郭沫若先生は、両国の関係がまだ正常化されず、多くの困難や障碍が存在していた時期に早くも〝日本人民と中国人民はよき友である〟と教えられた故毛沢東主席、日本へも留学され、よき理解者であった故周恩来總理、その他多くの日中両国の先覚者の方々とともに、その名は永久に紀念されることでしょう。

これらの偉大な指導者の方々の並々ならぬご苦労と、日中両国人民の共通の願望、努力がさらに一つ結実し、８月12日、私は思いがけなくも祖国の首都北京で、待望の日中平和友好条約締結の報に接する幸運に恵まれたのです。そしてその喜びの情景とともに思い浮かぶのが、後日杭州の公園で眼にした〝日中不再戦〟の石碑です。

杭州で〝柳浪聞鶯公園〟と呼ばれる美しい名の公園内を散策したとき、公園の中央にその石碑が建っていました。

日中国交正常化を10年遡る1962年に、松尾吾策岐阜市長によって揮毫された碑ですが、その前に佇むと、あの悪夢のような不幸な思い出が一瞬よみがえります。しかし同時に、両国の子々孫々までの友好のために、一時期のいまわしい出来事を貴重な教訓として再び繰り返すまいと願う石碑の五文字は、感銘とともに深く私の脳裏にも刻み込まれたのです。

日中両国の悠久なる交流と友好の歴史に、新たな一章が書き加えられつつある現在、80年の不幸な歳月はまさに青天の一瞬の霹靂、2000年の流れからすれば全くひとこまに過ぎません。日本に住む華僑として、今後とも微力ながら両国の交流に寄与する決意を新たにしつつ、美しい柳浪聞鶯公園を後にしたのでした。

条約締結の感激や、民主を回復し近代化への新たな長征の一歩を踏み出した祖国の姿を目のあたりにした感慨を胸に、私の祖国感傷旅行もいよいよ終わりを告げ、８月31日、楊春明さんや郭天順さんが手を振る上海空港を背に、中国民航機は一路伊丹へ向け飛び立ちます。そして早くも２時間半後には再び日本の土を踏みました。

今までただ地図の上で眺めていた北京や上海が、全く身近に感じられます。

故郭沫若先生は、国交回復を祝って作られた〝沁春園〟の冒頭でいみじくも〝赤県扶桑一衣帯水〟と歌われました。（赤県は中国の旧称、扶桑は日本をさす）。10回にわたる私の訪中記をしめくくるに当たり、最後にその邦訳をご紹介し、両国の交流の輪が今後ますます拡がり、友好の絆がますます強められることを改めて祈念したいと思います。



杭州、
柳浪聞鶯公園にて

沁園春　　日中国交回復を祝す

赤県扶桑一衣帯水　一葦にして航る可し
昔鑑真は盲目にして　桴を東海に浮かべ
晁衡は笈を負いて　骨を盛唐に埋める
情　肺肝に比し　　形　唇歯に同じく
文化交流耿光有り
回想に値すべし　二千年の友誼
尋常に等しからず
豈戦犯の猖狂を容さんや
八十載　風雷大洋に激す
喜ぶべし霧霽れて雲開き
渠成りて水到る
秋高く気爽やか　菊茂り花香る
公報飛び伝りて　国交回復し
歓声四方に起る
今後従り　望む　言行信果にして
万邦を和睦すを

一九七二年秋北京にて作る　郭沫若

〈注〉
葦：あしの葉の船、小舟のこと
鑑真：唐代（688～763年）の高僧
日本の高僧栄叡らの招きを受け５度出航するが、厳しい自然条件や弟子役所などに阻まれいずれも失敗。753年、両眼を失明したにもかかわらず６度目の渡航で遂に九州南部に到着。有名な唐招提寺の建立を指導するなど文化交流に身を捧げ渡来10年後日本の奈良で歿す
晁衡：日本の学者、阿倍仲麻呂（701～770年）の漢名。17才で中国へ留学し、唐朝廷に仕官し古籍の校注等に従事、李白や王維らと交遊し、70才で中国の西安で歿す
笈：書物などを入れて背に負うもの
猖狂：たけりくるうこと
八十載：日中の甲午戦争（1894年）からの約80年間をさす
渠：水路のこと
言行信果：〝言必信、行必果〟、言うは必ず信（まこと）、行いは必ず果敢のこと

≪あとがき≫

日本へ戻ると早速神戸市の依頼で友好代表団の虞福京天津建築学会理事長らの通訳を勤め、各所で温かい歓迎を受けました。版画家李平凡先生との再会はすでに述べましたが、同窓の黄弘明君も阪大構二会の招きで来阪し旧友ともども旧交を暖め、つい先日は中国書画展〝栄宝齋展〟のために来阪され、唐招提寺で鑑真和上像や森本長老と感激の対面をされた范曽画伯とホテルで歓談し、また過日日経アーキテクチュア誌上で北京訪問中のI.M.ペイを案内中の建築科学院楊芸副總工程師の写真を懐かしく拝見していたところ、思いがけなくもこの原稿の執筆中に、北京でいただいた資料集成２冊に続き第三集が完成したので送って下さるという嬉しいお手紙を受け取りました。交流往来が日々進展している事実を身近に感じ、嬉しく思う昨今です。

なお末尾ながら編集の方々のご協力に厚く感謝し、原稿がしばしば遅れるなどご迷惑をおかけしたことに対し心からお詫び申し上げる次第です。

1979. 11. 18記

'80 EUROPEAN BRAND IN JAPAN

日本の伝統美が選んだ
ヨーロッパの一流ブランド
いまリセッションの予感の中で期待されるインテリア材

KURIYAMA
栗山ゴム株式会社 インテリア事業部
本　社　大阪市淀川区西中島1丁目12番4号
☎(06) 305−5611(大代)
東京支店　東京都渋谷区南平台町15番13号 帝都渋谷ビル8階
☎(03) 463−1841(代)

iboflor
アイボフロア
置敷きタイルカーペット
伝統ある美しいパターン。「フローレンス」「アテネ」「ローマ」「マドリッド」(総計19種)他、無地色。格調高いブランドです。
GERMANY

teroydécor
テロイデコール
最高級ウール壁装材
「テロイ」はクリエーターズネーム。本場英国ウールを基材としたシックで豪華な雰囲気をもつ100%ウール壁装材。自信と信頼のブランドです。
ENGLAND

Plast Cork
プラストコルク
コルク床材
ナチュラルパターンが「キャラクター」「ハーモニー」「ノーマル」「エキスパンド」とモダンな感覚。技術のブランドです。
SWEDEN

taraflex sport
タラフレックス・スポーツ
室内スポーツ床材
「タラ」はフランスの地名。モントリオールオリンピック実績17,000㎡、モスクワオリンピック採用決定20,000㎡で実証済。世界のブランドです。
FRANCE

◀「建築と社会」誌バックナンバーのおしらせ

バックナンバーがそろっております。購入ご希望の方は日本建築協会まで（電話06−231−9648）お申し込み下さい。
なお、郵送料は実費いただきます。年間購読（12冊￥7,800・送料当方負担）のお申し込みも応じます。

＊印は欠号

巻／号	昭和47年（53集）	昭和48年（54集）	昭和49年（55集）	昭和50年（56集）	昭和51年（57集）	昭和52年（58集）	昭和53年（59集）	昭和54年（60集）
1	冬季オリンピックと札幌	建築教育	歴史的環境保全	図書館	証言76−建築デザインの動向	＊デザインの動向−部分と全体	デザインの動向−新旧のコントラスト	転換期の再開発
2	600号記念号	泉北ニュータウンのコミュニティ施設	明日の建築はどうなるか	東海の新建築	建築基礎構造の問題点	兵庫県−その風土と建築・建築界	水	大阪南港ポートタウン
3	インテリアデザイン	大阪大林ビルディング	保養所作品	＊インテリア	＊医療施設	日本建築協会60周年記念号・ニュータウンの管理	医療施設−病院建築と情報システム	商業空間
4	都市交通問題	レジャーと施設	既成市街地の住宅地整備の方策	PC板を使用した工業化住宅	床工法と材料	コンクリートの品質管理と行政指導の方向	外壁塗装材料	コンクリートのひびわれ
5	水利用	大阪国際ビルディング	北摂ニュータウン計画	社会・建築・法	建築防災と法	日影規則と法	電波障害と建築	日影規制
6	量産住宅の設備	老人コミュニティ	建築生産と流通機構の変容	都市の景観と施設	市街地整備	身障者施設	組合方式による集合住宅計画	ホテル建築と情報システム
7	一般号（桂中学）	住宅−建築家のすまい	＊ビルの省エネルギー化	建築とプレストレストコンクリート	工場建築と設備	照明設備	住宅設備	農村施設の変貌
8		＊新用途地域制と環境	高層プレハブ住宅の構造設計	生活排水処理施設のあり方	鉄骨構造のジョイント	埋立地における構造問題−大阪南港と芦屋浜を例として	新しい耐震設計	建物の終局強度の検討
9	都市住環境へのアプローチ	構造と施工	＊みどり	＊人間環境としてのターミナル	＊集住体のハードとソフト	日本住宅公団と建築作品	CAD−設計とコンピュータ	庄内のまちづくり
10	諸市防災	仕上と材料	＊屋根防水工事の失敗例とその対策	騒音対策と防音材料	結露防止対策と断熱材料	ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ	一般号	80年代のインテリア
11	第19回青年技術者	第20回青年技術者	第21回青年技術者	第22回青年技術者	第23回青年技術者	建築における省エネルギー化	第25回青年技術者	第26回青年技術者
12	北陸の新建築	ヨーロッパのまちづくり	ビル防災に関する12章	集合住宅の設備	＊設備からみた建築の問題点	第24回青年技術者	ビル環境	建設業の労務事情

構造の頁

66

立体トラスの実用化の考え方・その1

力学的性質からのアプローチ

坂　壽二

はじめに

立体トラスは、三次元的に部材を組み立てて作られた骨組構造物である。この構造システムは大スパン構造や塔状構造に適しており、また工場で大量のユニットが生産されることからプレハブ化が進み、簡単かつ速く建設できる利点がある。さらに立体トラスの形の美しさや線の単純さが、建築家に大へん好まれる。このような特長や理由から立体トラスが建築構造物として注目され、今日ではこの種構造物の実現に最も難しかった部材の結合に対し優れた接合形式が開発され、また電子計算機の導入によって解析が容易に行えることから、その実用化が進んでいる。

そこで、この興味ある構造形式のひとつである立体トラスの実用化の考え方について、とくに力学的性質からのアプローチについて述べてみる。

1．トラス構造要素の形態と安定度

立体トラスは、通常同じ構造ユニットの繰り返しによって組み立てられている。そこで立体トラスを、たとえば棒状構造物や平板状構造物として用いる場合には、その構造ユニットとして棒要素、板要素を形成するトラス形態を考えねばならない。要素の空間内に線材を三次元的に配置し、要素と要素とがつながって全体の構造物が組み立てられるような構造ユニットを設計する必要がある。構造ユニットの評価規準として、その形の美しさだけでなく力学的性質や施工面なども考慮することが重要となる。なぜならば考案された構造ユニットによって設計された構造物が実際に安定な構造物として建設できるのか、また経済的に適うかどうかについて考察しなければ、構造物の実用化が成立しない。

そこでトラス構造物の力学的性質として最も重要と思われるトラス構造要素の内部的安定度の検討方法について、つぎに示す。

トラス構造要素の内部的安定度は、要素内のすべての節点に作用する外力とその要素を構成している部材の応力とのつり合い条件式よりわかる[1]。いま節点外力と部材応力との関係式は、つぎのように書くことができる。

$$\{F\}=[C]\{N\}$$

ここに、

$\{F\}$：節点外力群ベクトルで、成分の数をpとする。

$\{N\}$：部材応力群ベクトルで、成分の数をqとする。

$[C]$：節点外力と部材応力との関係を示すマトリックスで、そのランクをrとする。

この式は$\{F\}$と$\{N\}$の一次変換によって$[C]$の行と列に関する基本変形を施すことができ、つぎのような形に変形することができる。

$$\begin{Bmatrix}\{\bar{F}r\}\\ \{\bar{F}h\}\end{Bmatrix}=\begin{bmatrix}[Cr]&[0]\\ [0]&[0]\end{bmatrix}\begin{Bmatrix}\{\bar{N}r\}\\ \{\bar{N}k\}\end{Bmatrix}$$

ここに、

$[Cr]$：r次正則行列

$[0]$：零行列

この式より、一般化節点外力の$\{\bar{F}h\}$の各成分は零でなければならなく、応力が生じない運動に対応した外力系となる。よって、この数h（$=p-r$）から要素自体の剛体的運動の自由度の数を引いた値が要素の内部的不安定次数を示すことになる。たとえば立体構造要素では、剛体的運動の自由度は6となり、内部的不安定次数は$p-r-6$となる。このような検討は要素に作用する力と変位の関係式から同様な変換によって行うことができ、内部的不安定となる一般化力とその力に対応する応力なしの変形がわかる[2]。

そこで立体トラスの構造要素について考えると、上述の方法で、要素自体の内部的な不安定性について機械的に判定できる。実用化しようとする立体トラスの構造要素形態は、いろいろな面から考えると部材数の少ないものとなる。とくに施工面を考えると、節点に集まる部材を少なくし、接合部の製作や組み立てを容易にする必要がある。現実に使用されている立体トラス平板のトラス形式では、要素が内部的に不安定であるものが多い。なお、むやみに安定なトラス構造形式を考えるのは立体トラスの特長を生かしておらず、連続体構造物として設計する方が良いことになる。このような内部的不安定な構造要素から成る立体トラスは、構造物全体を安定なものにする境界条件を施工途中も含めて考えねばならなく、また境界条件によって要素の適否が決まる。

立体トラスで平板や棒状構造物を設計する場合には、通常の連続体平板や棒材の設計とは違った考慮が必要である。すなわち内部的不安定の影響なども考察に加えねばならない。そこでこのような構造物をマクロ的に連続体として見て、その内部的安定性を連続体で定義されている断面力や変形に対応させて理解することは、構造物全体と構造要素の適応性を評価するうえに有効となる。

さらに、トラス構造要素の力学的性質としての剛性や強度を評価しなければならない。しかし具体的な構造物については構造解析によって剛性や耐力が算出でき、部材の大きさや形状が定まる。よって構造要素のトラス形態を評価するには、その剛性や強度の性状を把握することが重要で、構造物全体の形から支配的になる応力および変形モードについて考察すればよく、連続体的理解はこのような評価段階で有効と思われる。

2．接合形式とその力学的影響

トラス構造要素を実際に組み立てるためには、部材と部材とを結びつける接合形式を考えねばならなく、多くの立体トラスでは特殊な接合部を設けている。この接合形式の設計によって、立体トラス構造の経済性が大きく左右される。

現在までに数多くの接合形式が開発されており、代表的なものにMero System, Nodus Jointing System, Unibat Systemなどがあり、わが国でもいろいろな接合形式が開発されている。

具体的な接合形式で組み立てられた立体トラスの力学的性質を把握しなければ、実際の構造物としての評価とはならない。ピン接合や剛接合として立体架構を解析するだけでなく、実際の接合部を含めた形で検討する必要があり、そのひとつの方法として、実験的に行うやり方がある。この場合、接合部を含めたトラス構造要素に、構造物全体から見て支配的に思われる応力モードを外力として載荷することから、その性状を調べる。とくに変形性状について把握しなければ、実際の立体トラスの挙動を説明できないだろう。このような実験結果から理論式に、考慮しなければならない項目と定数を決めて、全体の構造物を解析する。

したがってトラス形態と同様、接合形式についても評価しなければ、立体トラスを実用化することができず、接合部の美しさや単純さ、製作の簡単さ、および部材との取り付けの容易さなどの評価と部材応力の伝達しうるための耐力の保有とを考えた経済的な接合部を設計する必要がある。

あとがき

立体トラスの実用化の考え方として、力学的性質からのアプローチについて述べた。このような評価をもとに、具体的に設計されたトラス構造形態と接合形式から成る立体トラス構造物の構造解析には、いろいろな解析方法があるが、構造要素の応力と変形関係を用いて解析するマトリックス法を用いれば良い。なお、ここでは立体トラスのいろいろな解析方法や最適設計法などについての評価は行っていない。

参考文献

1) Heki, K. and Saka, T.: The Effective Strength of Double-Layer Grids in Continuum Treatment, Proc. IASS World Congress, Madrid (Spain) 1979. 9.

2) 日置，坂：立体トラス平版の解析，その2　安定度と個材応力，日本建築学会論文報告集，第158号，昭和44年4月

（さか としつぐ　大阪市立大学講師）

設備の頁

66

集合住宅における電気温水器室の排水設備

渡辺　潔

1．はじめに

集合住宅の給湯設備として、電気温水器がビルトインされるケースが、近年とみに増えている。電気温水器を設置するにあたり、建築サイドの問題点の一つとして電気温水器室の排水処理の問題がある。また(社)日本電機工業会電気温水器委員会による「電気温水器を中高層マンション等に設置するにあたってのお願い」の文書中にも床面防水と排水工事等の要望事項が出されている。

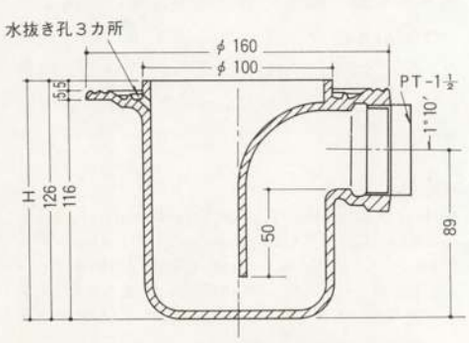
ここでは、以上の問題の解決の一手段として、電気温水器室用の床排水トラップとして改良したものを紹介し、なお、電気温水器室の排水について考えてみたいと思う。

2．電気温水器室の排水について

まず、電気温水器の排水内容および漏水の起因について述べてみると、

(1) 減圧弁、安全弁等附属品の故障による漏水およびバルブ継手類等接続部よりの漏水
(2) 電気温水器本体よりの漏水
(3) 安全弁作動時の排水
(4) 電気温水器タンク内の水抜きによる排水

以上のエレメントが考えられる。そのうち減圧弁、安全弁の水洩れの原因としては、凍結による破損、ダイヤフラムの破損、水あか、ゴミのかみ込み、パッキン不良等が多いようで、このような事故の際、どれくらいの漏れが生じるか、また、メンテナンスとして電気温水器のタンクの水抜きをする場合、排水呑み込み量は、最低どれくらい必要かにより、電気温水器室の排水設備を考慮する必要があると思う。つぎに、床面防水について考えてみると、電気温水器室は通常、約1メートル四方の室であり、なお、排水立管が貫通する場合が多いようで、そのため、防水モルタル仕上げ程度しかできないのが現状だと思われる。



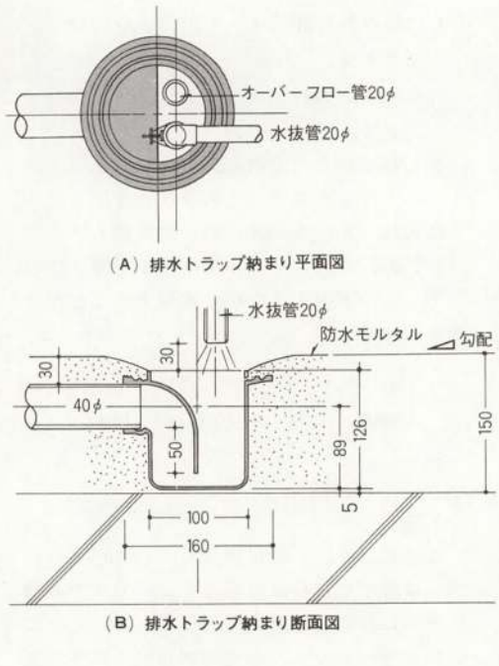
図－1　本改良T4K型排水トラップ断面図

以上の条件を解決すべく床排水トラップとして改良したのが、**図－1**に示すもので、このたび、大阪ドレネーヂ工業(株)よりT4K型として製作に当たっている。

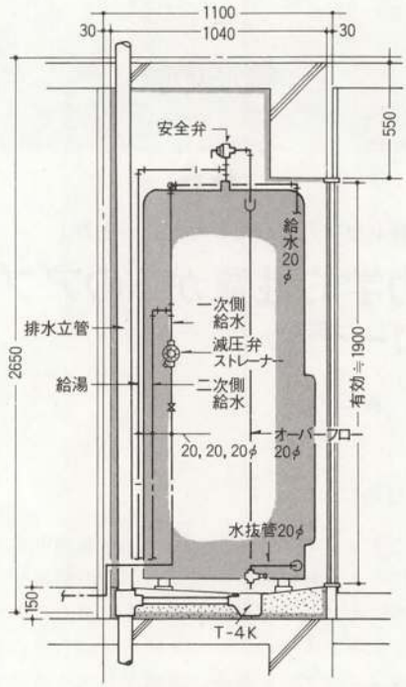
3．T4K型排水トラップの特徴

(1) 集合住宅向き横型排水トラップである。
(2) 排水トラップの納まり高さが、126ミリメートルである。
(3) 材質は、鋳鉄製で防水用つば付きである。
(4) 水封深さは、50ミリメートルを確保している。
(5) 電気温水器の排水および安全弁の排水の受口と床面排水を兼ねることができる。（**図－2**および**3**）
(6) 排水トラップ本体の排水呑み込み量は1分間当たり、30リットル以上あり、電気温水器の水抜弁による排水量(370ℓ型の給水弁を閉とし、安全弁を開にしたときの水抜弁の初排水量は、1分間当たり、25リットル以下。460ℓ型もほぼ同じ)は、十分、呑み込める。
(7) 従来の市販横型排水トラップと比べ、非常に安価である。（**表－1**）

以上の特徴を備えている。とくに電気温水器室の床仕上げ高さの納まりを考慮してトラップの高さを126ミリメートルに押さえたため、電気温水器室の床仕上げ高さは、スラブ天＋150ミリメートル以下で納まり、専用住戸内スラブ上コロガシ配管が可能である。



図－2　排水トラップ納まり詳細図



図－3　電気温水器廻り納まり参考図

表－1　排水トラップの比較表

比較項目＼型名	T4K型	T4C型	T4W型	備考
コスト（比率）	1	5	3	S．54年8月現在
トラップの納まり寸法	126mm	144mm	168mm	T4C型，T4W型は、アジャスト管の最短寸法を加味したもの
水封	50mm	50mm	50mm	
排水管接続口径	40mm	50mm	50mm	
材質	鋳鉄製	同左	同左	
排水管接続方法	テーパーネジ込横取り出し	同左	同左	

4．おわりに

先に述べたように、電気温水器室の排水処理の一手段としてT4K型排水トラップを紹介したが、実験結果により機能は十分満足されると思う次第である。ただ、T4K型は、床面排水と機器からの間接排水の両方が、できるようにしたため、排水目皿を取り外した構造なので、施工時の留意点としてモルタル流入防止を考慮して養生プレートを設ける配慮が必要である。

最後に実験ならびに改良に際してご協力をいただいた大阪ドレネーヂ工業(株)本社にお礼を申し上げます。

（わたなべ きよし　KK熊谷組大阪支店建築設計部設備課課長）

施工材料の頁

65 ねじ鉄筋

永井　義規

異形鉄筋の機械的継手法の一つの方法として、ねじ系の継手法があるが、従来これらは加工ねじ鉄筋であり、鉄筋端部をねじ切るか、部品を鉄筋端部に溶接するなどで対処していた。ドイツでは当初PC鋼棒、後に異形鉄筋として多量に使用されており、日本においてもその要望はあったが、技術が未熟であったこともあり、市場の鉄筋価格とほぼ同様の価格で市場に提供することができなかった。

しかし、技術力が向上し、従来の異形鉄筋のふしをねじ模様にしたねじ鉄筋を従来の鉄筋価格に近い価格で市場に提供できるようになり、日本でも普及してきた。

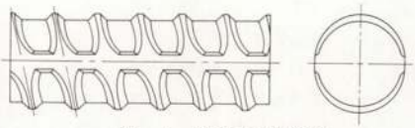
1．ねじ鉄筋(ネジコン)とその付属品の仕様

ネジコンは**図-1**のごとく鉄筋全長にわたって、ねじ状のふしを圧延により成形されており、JIS G3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」を満足する製品である。サイズはD19よりD51までで構成されており、単重、公称直径、公称断面積、公称周長は従来の異形鉄筋と同様である。

ねじ鉄筋の継手はメスねじを有する部品により継ぐ継手で、ネジコンはロックナット継手、(**図-2**)、ねじカプラー圧着継手(**図-3**)、およびコントロール継手(**図-4**)があり、それぞれ日本建築センターの評定を得ている。また、建設省の38条認定についても取得している。なおコントロール継手は組立鉄筋などのようにネジコンが固定されている場合、あるいは、継ぐネジコンの径が異る場合の継手で、

表－1　ロックナット継手、ネジカプラー圧着継手の部品形状寸法　(単位 mm)

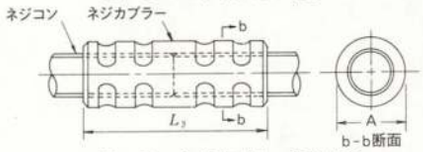
呼び名	ロックナット締付継手用				ネジカプラー圧着継手用	
	対辺距離 (B)	対角距離 (C)	長さ 六角カプラー (L_1)	長さ ロックナット (L_2)	丸カプラー外径 ϕ (A)	長さ (L_3)
D19	32	37.0	110	35	—	—
D22	36	41.6	120	40	—	—
D25	38	43.9	120	40	43	120
D29	46	53.1	135	45	50	135
D32	50	57.7	150	50	55	150
D35	54	62.4	165	52.5	60	165
D38	58	67.0	180	55	65	180
D51	80	92.4	190	60	89	190



図－1　ネジコンの形状



図－2　ロックナット継手



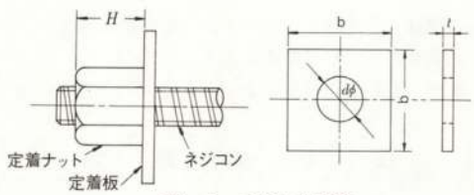
図－3　ネジカプラー圧着継手



図－4　コントロール継手

ピッチのずれを調整できるようになった継手である。

ネジコンは機械的定着も可能であり、D19～D38のサイズまで日本建築センター評定、および建設省の38条認定を取得している。この工法（ネジコン定着）はネジコンの付着定着長さ10D以上と**表－2**、**図－5**に示す定着ナットと定着板を使用することによって行う方法である。



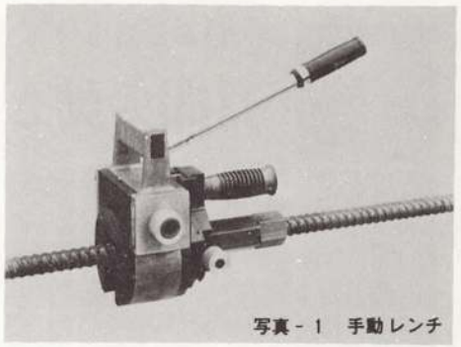
図－5　ネジコン定着

表－2　定着ナット、定着プレートの形状寸法(単位 mm)

呼び名	定着ナット高さ(H)			定着板		
	NA ナット	NB ナット	NC ナット	板幅 (b)	板厚 (t)	穴径 (d)
D19	19	35	45	55	9	25
D22	22	37.5	50	65	9	28
D25	25	40	55	75	9	32
D29	29	45	60	90	9	36
D32	32	50	65	100	10	39
D35	35	52.5	70	110	11	43
D38	38	55	75	120	12	46

2．施工機器

継手の施工には、ネジコンとカプラーのガタをとり、母材と同等の伸び性能を与えるために、ロックナットを締めつけたり、ねじカプラーを圧着する施工機器が必要となる。その施工機は細径を締めつけるトルクレンチから、太径用の手動レンチ、電動レンチまであり、それぞれは形状・寸法を異にしており、また、小型化など新機種の開発を進めているので、設計施工に当たっては、鉄筋間隔、形枠



写真－1　手動レンチ

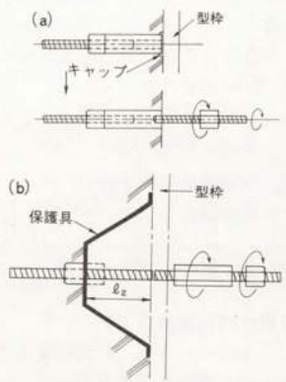
との距離などに対応して、施工機器の検討を行っておくことが望ましい。

3．ネジコンの実施例

ネジコンは、(1)仮組ができ、その状態で全強を有している、(2)ナットと定着板により、簡便に確実に定着できる、など、いくつかの優れた特長を有しているので、それらの特長をいかして多くの実施例が積まれている。

それらのいくつかの事例について示し、参考に供したい。

1．原子力発電所建家などの大規模で、厳格な配筋管理が要求される場合の継手および定着
2．地方や大規模工事で、熟練工が集められない工事
3．組立鉄筋などの継手および定着
4．増築および打継ぎ部の継手(**図-6参照**)
5．鉄塔などのアンカー筋
6．片持梁の定着
7．鉄骨に鉄筋を定着する場合(**写真-2参照**)
8．仕口部のコンクリート打設性を改良したい場合
9．太径鉄筋マットの継手
10．ロックナットetc



図－6　打継ぎ工法



写真－2　鉄骨への定着例

(ながい　よしのり
(株)神戸製鋼所鉄構エンジニアリング本部プロジェクト室担当課長)

日本建築協会

月間の動き

昭和54年11月分

理　事　会

21日　4時～5時半　於会館集会室
出席者　塚本会長、福田・足立・佐野各副会長ほか11名
議事　(1) 寄附金受領に関する件
(2) 建築8団体合同新年交礼会開催の件
(3) 事務局職員下期賞与支給の件
(4) 会勢強化に関する件
(5) 会費改正に関する件
(6) 入退会者承認の件
(7) 報告事項

会　勢　委　員　会

9日　3時～5時　於会館集会室
出席者　市川委員長ほか6名
議事　会勢拡大のための具体策検討

法　規　委　員　会

小委員会
5日　3時～5時　於会館集会室
出席者　西川副委員長ほか4名
議事　法令アンケートまとめ協議

委員会
16日　3時～5時　於会館集会室
出席者　岡本委員長ほか8名
議事　(1) 法令アンケート結果再まとめの報告とその運用について
(2) 法令特集号の企画
(3) そのほか

事　業　委　員　会

忘年懇親会特別委員会
6日　1時半～3時　於太閤園会議室
出席者　三品委員長ほか6名
議事　(1) 忘年懇親会の諸準備について
(2) そのほか

若い会員の集い小委員会
6日　6時～9時半　於会館集会室
出席者　阪倉副委員長、岩本幹事ほか7名
議事　(1) 前回の事業委員会の報告
(2) 第4回、第5回企画の実施報告
(3) 第6回の企画について
(4) 第7回～第9回の企画について
(5) そのほか

広報小委員会
7日　6時～9時　於会館集会室
出席者　西村副委員長、片岡・原見・平川各幹事ほか4名
議事　(1) 前回の事業委員会の報告
(2) 第45回展示写真実施報告
(3) 第46回以降の展示写真について
(4) 「建築計画と新耐震設計法についての研修会」実施報告
(5) そのほか

見学会小委員会
8日　5時～6時半　於会館集会室
出席者　島田副委員長、上出・南両幹事ほか3名
議事　(1) 前回の事業委員会の報告
(2) 「全米建築見本市視察団」の企画について報告
(3) 9月、10月の見学会実施報告
(4) 11月の企画について
(5) 12月以降の企画について
(6) そのほか

若い会員の集い第9回企画現地打合
13日　2時～4時　於京都朝日会館・画廊
出席者　ゲスト　新宮氏・葛谷主査ほか2名
議事　建築家以外の人に聞くの講師依頼および企画打合せ、そのほか

委員会
15日　12時半～14時　於会館集会室
出席者　三品委員長、乾・西村・阪倉各副委員長
議事　(1) 各小委員会の事業報告ならびに事業企画について
(2) 会員忘年懇親会について
(3) そのほか

若い会員の集い第7回企画分科会
16日　6時半～10時　於会館3階会議室
出席者　安原主査ほか3名
議事　新春放談のゲストの選定について、その他

住　宅　委　員　会

委員会
6日　6時～7時　於会館集会室
出席者　小西委員長ほか12名
議事　第16回よろず相談住宅展の件

編　集　委　員　会

「建築金物」特集編集幹事会
8日　1時～3時　於会館3階会議室
出席者　立野一郎氏ほか2名
議事　(1) 本文内容について
(2) 広告企画について

銀行特集編集幹事会
9日　6時～9時　於会館集会室
出席者　渡辺・宇沢・桑原各特別幹事、片倉副委員長ほか2名
議事　3月号銀行特集の企画（テーマと執筆者の選定）

委員会
12日　3時～6時　於会館集会室
出席者　前川委員長、木村・渡辺・片倉各副委員長ほか5名
議事　(1) 11月号＝第26回青年技術者特集経過報告
(2) 12月号＝建設業の労務事情特集経過報告
(3) 1月号＝80年代の都市と建築―まちづくりの歴史と展望特集経過報告
(4) 2月号＝今後の省エネルギの趨勢特集経過報告
(5) 3月号＝銀行特集の企画
(6) 4月号＝施工材料特集について
(7) 5月号特集について
(8) 6月号以降の特集企画
(9) 分科会報告
(10) 新しい表紙デザインの検討―デザイン素案をもとに―
(11) そのほか

広告企画小委員会
12日　4時～5時半　於会館集会室
出席者　前川委員長、渡辺副委員長ほか3名
議事　(1) 11月号「日本住宅公団関西支社53年度表彰作品」広告収入報告
(2) 12月号「建設業の労務事情―悪化とその打開への試み」特集広告収入報告
(3) 正月号「謹賀新年」名刺広告途中経過報告
(4) 2月号「今後の省エネルギの趨勢」特集広告企画
(5) 3月号「銀行」特集広告企画
(6) 作品作風関係報告

銀行特集編集幹事会
30日　6時～9時半　於会館集会室
出席者　野田・桑原・宇沢特別幹事、片倉副委員長ほか4名
議事　(1) 3月号銀行特集の具体化
(2) そのほか―特集関連広告企画

出　版　委　員　会

小委員会
15日　4時～6時　於会館集会室
出席者　小林委員長ほか4名
議事　(1) 建築技術選書販売状況報告
(2) 計画進行報告と協議
(3) そのほか

建　材　委　員　会

委員会
22日　4時～6時　於会館集会室
出席者　山田委員長ほか12名、三洋電機2名
議事　(1) ソーラーシステムの説明
(2) 今後のテーマ及び新建材紹介コーナー

見　学　会

茶室見学会
京の詩仙堂と芭蕉庵を訪ねる会
10日　2時～4時半
参加者　27名
講　師　帝塚山学院大学教授・工学博士　岡田孝男氏



岡田孝男氏から説明を受ける

大阪、四天王寺・昭和の夢殿（太子殿）と中心伽藍の見学

20日　2時～4時
参加者　25名
当日説明者　四天王寺復興部建築事務所
主任　宮内　晴利氏
株式会社金剛組
工事部課長　山田　一彦氏

若い会員の集い

旧下村邸（大丸ヴィラ）を訪ねる
―建築家・ヴォーリズ……その人の作品―

17日　2時～5時半
参加者　51名
講　師　大阪芸術大学講師　山形　政昭氏
ゲスト　㈱大丸・装工事業部・大阪営業部長補佐
川崎　浩氏

第25回 工高生デザインコンクール表彰式

24日　2時～3時　於会館集会室
出席者　一の会代表・藤村清一氏、嶋田審査委員長、土肥審査委員、多胡教育委員長ほか3名

多胡教育委員長の挨拶、嶋田審査委員長の審査結果の報告に続いて、入選者に対し賞状・賞牌を、多胡教育委員長より、最優秀作品に対し関西建築家懇談会一の会藤村代表より賞状と記念品をそれぞれ授与した後、現在工事中の「日本銀行大阪支店」の見学を行った。



建築クラブ朝食会

13日　8時半～10時　於大阪グランドホテル
出席者　93名

当日は、住友不動産株式会社社長安藤太郎氏より「不動産よもやま話」をテーマにお話を伺った。

建築業務基準委員会

29日　於東京建築士会会議室
出席者　15団体各委員（本会より山根委員）
議事　建築士の行う工事監理基準原案調査報告書について

11月の入会者（敬称略）

〔個人会員 4名〕
大井　市郎　　木村　伝　　田中　信重
村田　昭
〔准会員 1名〕
作本　薫

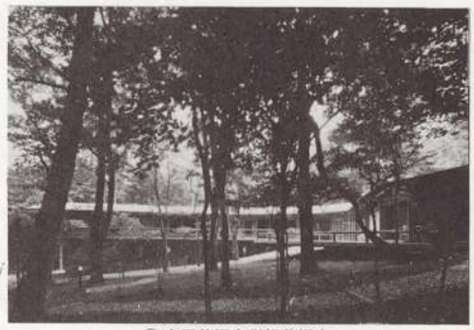
中部建築賞

昭和54年度（第11回）入賞と入選

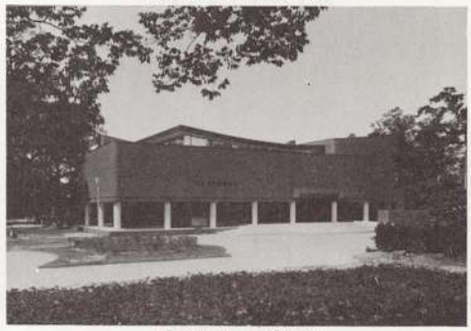
中部建築賞入賞作品8点（掲載順不同）--------

今年度の応募総数は、一般部門58点（入賞8点、入選8点）、住宅部門8点（入賞入選なし）であった。以下に入賞・入選作品を掲げる。

① 設計：高木滋生建築設計事務所　施工：西武不動産
② 設計：マサミ建築設計事務所　施工：竹中工務店
③ 設計：河合松永建築事務所　施工：鴻池組
④ 設計：岡設計　施工：熊谷組
⑤ 設計：玉田建築設計事務所　施工：カツラ工業
⑥ 設計：田中忠雄建築設計事務所　施工：淺沼組・木内建設JV
⑦ 設計：前川建築設計事務所　施工：前田建設工業
⑧ 設計：伊藤建築設計事務所　施工：大林組


① 女子美術大学軽井沢寮


② 福田整形外科医院


③ 豊橋市美術博物館


④ 三重厚生年金休暇センター


⑥ 新中町ビル


⑦ 藤枝市立図書館


⑤ 美並村基幹集落センター


⑧ 中京テレビ放送新館

中部建築賞入選作品8点

（掲載順不同）

⑨ 設計施工：竹中工務店
⑩ 設計：日建設計　施工：大成建設
⑪ 設計：建築研究所アーキヴィジョン
施工：須山建設杉浦組JV
⑫ 設計：黒野建築設計事務所
施工：淺沼組
⑬ 設計：日建設計　施工：佐藤工業
⑭ 設計：佐藤武夫設計事務所
施工：前田建設工業
⑮ 設計：日建設計　施工：駒音建設
⑯ 設計：谷口吉郎建築設計研究所
施工：大成建設


⑨ 邦和スポーツランドみなと温水プール


⑩ 四日市市立四日市病院改築


⑪ 浜松市博物館


⑫ 碧南市立中央公民館


⑬ 富山医科薬科大学附属病院


⑭ 磐田市民文化会館


⑮ 安曇川文化芸術会館


⑯ 金沢市立図書館

賀　正

1980

設計事務所有志

株式会社

A.R.I 建築事務所

代表取締役　亀井晃治

本社事務所　大阪市南区谷町7丁目12-1　新谷町第3ビル2F　TEL (06)768-1771(代)
東京事務所　東京都中央区月島4丁目13-3 秀和月島レジデンス108　TEL (03)531-3954
アトリエ　東大阪市上石切町2丁目14－35　TEL (07437)3－6137

アトリエtrefoil（トリフォイル）　一級建築士事務所　菅家克子
室内建築設計事務所　佐々木恵子

大阪市北区天満3丁目1番1号 玉置ビル4階　〒530 (06) 351－8920・6307

株式会社 **東建築設計事務所**

代表取締役　東　秀保

大阪市北区天神橋3丁目8番3号 マチスビル　電話 06（358）5598・3497

株式会社 井上達明建築事務所

代表取締役　井上達明

〒530　大阪市北区鶴野町1番3号（安田ビル）　電話　06（372）2821㈹

株式会社 **伊東建築設計事務所**

代表取締役　竹原永一郎

〒556 大阪市浪速区幸町通2－6（清光ビル）電話(562)4343～5

株式会社 伊藤建築設計事務所

取締役社長　伊藤　鑛一

本　　社　名古屋市中区錦3丁目3-6(日本経済新聞ビル)　電話〈052〉951-1110㈹
東京事務所　東京都千代田区神田美土代町7(久保ビル)　電話〈03〉294-6061㈹

株式会社 泉沢建築設計事務所

代表取締役　泉沢哲史

〒530 大阪市北区西天満4丁目12番2号(オオシマビル) TEL (06) 364-9071㈹

株式会社 入江三宅設計事務所

代表取締役　三宅　晋

東京都港区虎ノ門1丁目18番1号(第10森ビル)　電話 03 (501) 0286㈹
大阪市東区北浜4－48－3　電話 06 (201) 5305

株式会社 浦辺建築事務所

代表取締役所長　浦辺鎮太郎
取締役副所長　松村慶三

大阪市北区梅田1丁目12番39号・新阪急ビル　電話06 (341) 1727
東京事務所　電話 03(263)9758　福岡事務所　電話 092(761)2206

株式会社 久米建築事務所

取締役社長　永井賢城

本　社　東京都港区西麻布1丁目13番11号　電話03 (403)0251大代表
大阪事務所　大阪市北区堂島浜1丁目4番27号　堂島中町ビル　電話06 (344)2096代表

株式会社 小西設計

取締役社長　小西　岬

本　　社
大阪事務所　大阪市西区立売堀1丁目12番16号　電話(532)4051代表
東京事務所　東京都千代田区神田鍛治町3－3(大木ビル内)　電話(256)9301代表
広島事務所　広島市大手町2丁目7番1号(三葉ビル)　電話(46)0144

株式会社 篠田川口建築事務所
株式会社 協同設備事務所

代表取締役社長　川口喜代枝

名古屋市東区泉1丁目21番21号　TEL 962－7581(代)
TEL 971－2255(協同)



株式会社 昭和設計

建築・都市・上下水道
調査計画・設計監理

代表取締役社長　岡本行善
代表取締役副社長　林唯夫

本社事務所　大阪市西区新町1丁目5番7号 四ツ橋ビル　TEL代表 532－3421
神戸事務所　神戸市葺合区八幡通4丁目2番17号 久徳ビル　TEL078－251－0651



株式会社 創美設計

代表取締役　中原英雄

大阪市北区末広町3番21号 星和地所扇町ビル6階 TEL大阪(06)312－3587代表

株式会社 大建設計

取締役社長　千原大五郎

本　　社　東京都港区新橋1丁目10番7号(大和銀行新橋ビル)　東　京(572)4595(代)
大阪事務所　大阪市西区江戸堀1丁目12番8号　安田生命大阪ビル　大　阪(441)9351(代)
名古屋事務所　名古屋市中区栄4丁目6番15号名古屋日産生命館ビル　名古屋(261)8531(代)
九州事務所　北九州市小倉北区紺屋町9番1号　明治生命小倉ビル6階　小　倉(521)4285(代)
分　　室　室蘭

株式会社 竹内建築事務所

代表取締役　内藤一真

大阪市南区長堀橋筋2丁目35の1(日亜ビル)　電話 (211) 2706 (代)



株式会社 東海設計

代表取締役社長　小坂忠勝

本　　社　名古屋市中区栄3丁目7番1号(伊勢町ビル)　〒460 TEL052-261-2651(代表)
東京事務所　東京都中央区京橋1丁目14番4号(東信ビル)　〒104 TEL 03 -561-0815(代表)

東西建築サービス株式会社

取締役社長　布袋國雄

本　　社　大阪市東区横堀２－４８　電話 202－3626
東京事務所　東京都中央区日本橋馬喰町２-１-１　電話 663－1765
（住友銀行 浅草橋ビル6階）
出 張 所　名古屋・広 島

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役社長　東畑謙三

本　　社
大阪事務所　大阪市東区伏見町５丁目１９　電話 大阪(06)202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町２(永田町ビル)　電話 東京(03)581-1251
名古屋事務所　名古屋市中村区名駅３(堀内ビル)　電話 名古屋(052)571-8471
北九州支所　北九州市小倉北区魚町１－４－21　電話 小倉(093)541-6531
（北九州清和ビル）

株式会社 内藤建築事務所

代表取締役会長　内藤資忠
代表取締役社長　片山光生

本　社　〒606京都市左京区中大堰町１８９番地　電話075(781)4111代
事務所・出張所　青森・東京・松本・静岡・名古屋・京都・奈良・大阪
高知・福岡

株式会社 長田建築事務所

長田正雄

〒542 大阪市南区上汐町３－59　ケーエスビル　電話 768－6121

株式会社 日建設計

取締役社長　安藝元清
大阪本社代表　小菅滋夫
土木業務所代表　藤谷憲男

〒541　大阪市東区横堀２丁目３８
電話 06-203-2361(大代表)

有限会社 村野，森建築事務所

大阪市阿倍野区阿倍野筋２－３－８　電話(624)０９２６代表
研 究 室　大阪市南区心斎橋筋１－４３　電話(253)０８７５代表
東京事務所　東京都中央区日本橋茅場町２－３　電話(669)５６５１代表

株式会社 安井建築設計事務所

代表取締役社長　佐野正一

本社　大阪市東区島町2丁目7番地　電話 06(943)1371(大代)
支社　大阪・東京・名古屋・神戸・福岡

賀正

1980
建設業者有志

株式会社 あめりか屋

取締役社長　前野慶太郎

本社　〒530 大阪市北区中之島4丁目3番25号　電話　代表(444)1501番

株式会社 淺沼組

取締役社長　淺沼茂夫

本社・大阪市天王寺区東高津町8番地の1　電話 大代表(768)5222
東京本社・東京都新宿区荒木町5番地　電話 代表 (357)0261
支店・名古屋・札幌・仙台・広島・福岡

株式会社 新工務所

取締役社長　新昭一

本店・大阪市北区曽根崎2丁目8番7号 電話 代表 大阪(313)1331番
支店・東京都千代田区猿楽町2丁目1番14号 電話 代表 東京(291)3741番
支店・名古屋市中区大須4丁目1番71号(時計ビル)　電話　名古屋 (262)1725番

安藤建設株式会社大阪支店

常務取締役支店長　岡幸夫

大阪市福島区福島6丁目3番21号　電話 代表 (453) 2190
本社・東京都中央区八重洲2丁目2番7号　電話 大代表 (272) 7411
支店・名古屋・仙台・静岡・九州・広島・横浜・札幌
営業所・千葉・横浜・水戸・盛岡・新潟・神戸・京都・沼津・札幌・宇都宮・北九州・熊本

株式会社 井上組

取締役社長　井上福蔵

本社　大阪市都島区網島町6番25号　大阪(351)0530　(352)4031～4
出張所　神戸市生田区加納町3丁目2番地　電話　神戸(33)1780

株式会社 今西組

取締役社長　今西壽雄

本社　大阪市天王寺区上本町7丁目2番地ノ1　電話06(779)3361
支店　東京都新宿区内藤町1番地　電話03(354)0581
営業所　京都・神戸・西宮・奈良・埼玉

株式会社 大林組

取締役社長　大林芳郎

東京本社・東京都千代田区神田司町2丁目3番地　電話 大代表 (292) 1111番
本店・大阪市東区京橋3丁目37番地　電話 大代表 (943) 1131番
支店・札幌・仙台・横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・福岡

株式会社 奥村組

取締役社長　奥村俊夫

本社　大阪市阿倍野区松崎町1の2の3　電話 大阪(06)621－1101(大代表)
東京本社　東京都港区元赤坂1の3の10　電話 東京(03)404－8111(大代表)
支店　札幌・仙台・浦和・東京・横浜・千葉・名古屋・大阪・神戸・広島・高松・北九州・福岡

鹿島建設株式会社

取締役社長　石川六郎
取締役支店長　奥村吉朗

本社　東京都港区元赤坂1－2－7　電話 03 (404)3311(大代)
大阪支店　大阪市南区鰻谷西之町6　電話 06 (245)2311(大代)

株式会社 神崎組大阪支店

取締役支店長　江藤忠實

大阪市北区曽根崎1丁目1－36電話　大阪(341)7371(代表)
本社・姫路市北条口86－3電話　姫路(23)2021(代表)

株式會社柄谷工務店

取締役社長　柄谷順一郎

本　社　尼崎市玄番南之町4番地　電話大阪 06(411)1451(代)
営業所　大阪・西宮・神戸・高砂・豊田

株式会社 近畿建設

取締役社長　川崎敬三

本　社　大阪市西区江之子島1丁目2番2号　電話　大阪06 (448)5601代
滋賀支社　滋賀県栗太郡栗東町岡193の1　電話　07755 (2)1361～2

近鉄住宅建設株式会社

取締役社長　木梨正夫

〒542　大阪市南区谷町9丁目1番地　電話　大阪 06 (763) 2581代表

株式会社 熊谷組大阪支店

取締役会長　牧田甚一
取締役社長　熊谷太一郎
専務取締役大阪支店長　星野晴彦

本　社　東京都新宿区津久戸町17番1号　電話 (260) 2111番(大代表)
大阪支店　大阪市都島区片町2丁目10番5号　電話 (352) 1151番(大代表)

甲南建設工業株式会社

代表取締役　原精一

大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号　電話(06)308—1551大代表
尼崎市南武庫荘2丁目7番23号　電話 (06)427—9631代表
東京都千代田区神田須田町1—18(共同ビル)　電話 (03)253—4455代表
神戸市葺合区八幡通4丁目2番8号(松井ビル)　電話 (078)221—6293代表
堺市宿屋町東3丁1番19号　電話 (0722)29—0088
福岡市博多区博多駅前3丁目2番8号(住友生命ビル)　電話 (092)471—7271
名古屋市熱田区富江町111　電話 (052)681—6745

株式会社 鴻池組

取締役社長　鴻池藤一

本　社
大阪本店　大阪市東区北久宝寺町4－27　電話 大阪(244)3500(ダイヤルイン受付台)
東京本店　東京都千代田区神田駿河台2-3-11　電話 東京(296)7700(ダイヤルイン受付台)
支　店　名古屋・広島・福岡・鹿児島・松江・仙台・高松・札幌・横浜・神戸・京都・金沢

佐藤工業株式会社

取締役社長 佐藤欣治・常務取締役大阪支店長 小町谷武司

本　社・東京都中央区日本橋本町4－8　電話　東京(661)1231(大代)
大阪支店・大阪市東区北浜1－25　電話　大阪(203)7221(代表)
支　店・東京・名古屋・北陸・札幌・福岡・仙台・広島・横浜・四国

清水建設株式会社

社　長　野地紀一
副社長大阪支店長　木下正利

本　社　東京都中央区京橋2－16－1　電話03(535)4111
大阪支店　大阪市西区土佐堀1－3－37　電話06(443)5431
支　店　名古屋・広島・高松・福岡・金沢・仙台・札幌

よりよい住環境づくりをめざして

住友建設株式會社

常務取締役大阪支店長　楠本昌造

大阪支店　大阪市東区北浜5丁目22番地(新住友ビル2号館)電話 06(220)8712
本　店　東京都新宿区荒木町13番地　電話 03(353)代表5111番

株式会社 錢高組

取締役社長　錢高輝之

本社・大阪支社　大阪市西区西本町2丁目2-11　電話 大阪06(531)6431(大代表)
東京支社　東京都千代田区一番町31番地　電話 東京03(265)4611(大代表)
支店　札幌・仙台・千葉・横浜・北陸・名古屋・広島・四国・福岡
営業所　釧路・帯広・苫小牧・函館・青森・盛岡・秋田・山形・福島・水戸・宇都宮・前橋・浦和・多摩・甲府・富山・金沢・福井・長野・岐阜・静岡・津・大津・京都・神戸・和歌山・徳島・松山・高知・松江・岡山・山口・北九州・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

大成建設株式会社

取締役社長　佐古一
専務取締役大阪支店長　原田眞三

本　社　東京都新宿区西新宿1丁目25番1号 新宿センタービル　TEL東京(348)1111大代表
大阪支店　大阪市東区本町4丁目27番地　TEL大阪(262)1131大代表
支　店　東京・名古屋・福岡・札幌・仙台・広島・横浜・新潟・高松

大幸建設株式会社

取締役会長　大沢幸平
取締役社長　大沢博

本　社　大阪市西区新町1丁目4番21号　電話 06(538)0881代
本社分室　大阪市東区今橋五丁目二番地　電話 06(203)0373代
東京支店　東京都渋谷区渋谷二丁目十番七号　電話 03(407)7426代
名古屋支店　名古屋市中村区若狭町一ノ二五　電話052(581)7376代
松江営業所　松江市和多見町一七五　電話0852(21)3747代
出張所　富山・仙台・滋賀・兵庫・広島・福岡・静岡

株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹中錬一

本店　大阪市東区本町4丁目27　電話 大阪（252）1201番(大代表)
支店　北海道・東北・東京・名古屋・広島・九州
営業所　千葉・横浜・静岡・金沢・京都・神戸・岡山・高松・北九州

鉄建建設株式会社大阪支店

西日本業務担当常務取締役　児島章

常務取締役支店長　金子越郎

大阪市大淀区天神橋7丁目1－10(天六阪急ビル)　電話（358）0321(代表)
本社・東京都千代田区三崎町二丁目五番三号　電話東京（262）3411(代表)

戸田建設株式会社 大阪支店

常務取締役支店長　加納秀雄

大阪市西区西本町1丁目13—47(新信濃橋ビル)　電話06－531－6561(大代表)
本社　東京都中央区京橋1丁目7－1
支店　東京・関東・横浜・名古屋・札幌・仙台・広島・四国・九州

東海興業株式會社大阪支店

取締役副社長 大阪駐在　小松英二　　常務取締役 支店長　田中巖夫

本　社　東京都千代田区大手町1－5－4 安田火災大手町ビル　電話 東京（212）3261
大阪支店　大阪市北区茶屋町18—21 豊崎ビル　電話 大阪（373）1181
支店　東京・名古屋・仙台・札幌・福岡

人間の環境を豊かにするヒューマナイザー

東急建設株式会社

取締役社長　八木勇平
常務取締役 支店長　平田順次郎

大阪支社　大阪市北区堂山町1-5　大阪合同ビル　電話06(313)1371(代表)
本　社　東京都渋谷区渋谷1－16－14　電話03(406)5111(大代表)

飛島建設株式会社 大阪支店

取締役支店長　熊谷良訓

大阪市東区島町2丁目28番地　電話　大阪（942）2481(代表)
本社　東京都千代田区九段南2丁目3番28号　電話 東京（263）3151(大代表)
支店　札幌・仙台・東京・横浜・名古屋・北陸・四国・広島・福岡
営業所　神戸・和歌山・京都・滋賀・堺・奈良・姫路

日本建設株式会社

取締役社長　生田重政

本　社　大阪市東区安土町4－5　TEL（261）7591－8 〒541
支　店　東京・大阪・名古屋・福岡・広島・仙台・札幌・四国・沖縄

明日をささえる　**西松建設**

本　社　東京都港区虎ノ門1－20－10　電話03(502)0211

野村建設工業株式会社

取締役社長　岩本義心

本　社　大阪市東区高麗橋2丁目9番地　電話(202)4791代表
東京支店　東京都千代田区大手町2丁目1番1号　電話(241)4171代表

株式会社 **間組大阪支店**

取締役支店長　森　隆雄

大阪市東区瓦町5丁目20番1号　電話（201)2751(大代表)
本　店・東京都港区北青山2丁目5番8号　（405）1111番(大代表)
支　店・東京・大阪・名古屋・福岡・仙台・北陸・札幌・広島・高松・海外工事局

株式会社 **長谷川工務店**

取締役会長　長谷川武彦

大阪支社　大阪市東区平野町5－40　電話06(203)5611
本　社　東京都港区赤坂3丁目21番20号　電話03(586)5451

未来をひらく　**フジタ工業**

常務取締役大阪支店長　志賀修一

大阪市北区堂島2丁目1番16号　電話（345）代表7671
本社・東京都渋谷区千駄ケ谷4－6－15
支店・東京・横浜・名古屋・大阪・広島・高松・福岡・札幌・仙台
海外・リマ・カラカス・サンパウロ・キトー・ロサンゼルス・グアム・クウェート

不二建設株式会社

取締役社長　山口吾郎
取締役副社長　山口慎一郎

本社　大阪市西区西本町3丁目1番9号　〒550　電話　06 (541) 5534代表・9301代表
本社　東京都新宿区西新宿4丁目5番2号　〒160　電話　03 (377)　5171　代表
支店　名古屋市東区泉1丁目21番35号　〒461　電話 052 (971)　8481　代表
支店　福岡市博多区博多駅前2丁目1番1号　〒812　電話 092 (431)　0533　代表
出張所　札幌・仙台・静岡・大垣・四日市・京都・姫路・広島・大分

不動建設株式会社

取締役社長　庄野勝

大阪本社　大阪市東区平野町5－30　電話　06(201)1121
東京本社　東京都台東区台東1－2－1　電話　03(831)9111

株式会社 藤木工務店

取締役社長　藤木鐵三

本社・大阪本店・大阪市東区両替町1丁目13　電話　06(942) 1461(代)
支店・東京都新宿区三栄町23の4　電話　03(357) 1611(代)
倉敷市鶴形1丁目10の32　電話 0864(22) 3330(代)
高松市丸ノ内11の13　電話 0878(51) 7272(代)
京都市右京区西院寿町13　電話 075(311) 4131(代)
福岡市博多区博多駅南4丁目18の2　電話 092(441) 6585(代)
営業所・埼玉・多摩・静岡・名古屋・宇治・岡山・徳島・新居浜・熊本

真柄建設株式会社大阪支店

常務取締役支店長　佐々木孝治

大阪支店　大阪市淀川区宮原4丁目4番50号　電話 大阪(06) 393－1171(代表)
東京本社　東京都千代田区麹町5丁目1番地　電話 東京(03) 263－1211(代表)
支店・営業所　東京・名古屋・金沢・富山・福井・京都・大津・神戸・新潟・広島・福岡

前田建設工業株式会社大阪支店

取締役支店長　井戸賢二

支店　大阪市都島区東野田町2丁目4番20号　電話大阪 (353)7891(代表)
本社　東京都千代田区富士見2丁目10番地の26号　電話東京 (265)5551(代表)

株式会社 松村組

取締役社長　松村雄二

本社・大阪市北区天満2丁目1番33号　電話 大代表 大阪(353)1131
支店・東京・名古屋・札幌・仙台・広島・福岡

三井建設 株式会社 大阪支店

取締役大阪支店長　森　川　祐　二

大阪支店　大阪市北区中之島３－４－18(三井ビル２号館) ＴＥＬ　06－443－1321
本　　店　東京都千代田区岩本町３－10－１　ＴＥＬ　03－863－3111

村本建設株式会社

代表取締役　村　本　豊　嗣

本　　店　奈良県北葛城郡広陵町安部547　電話　大和高田　(55) 1151(代表)
大阪本社　大阪市天王寺区上本町9丁目49　電話　大　阪 (774) 2111(受付案内台)
東京支店　電話　東京(238)2111(受付案内台)　**名古屋支店**　電話　名古屋(241)1511(代)
福岡支店　電話　福岡 (711)9251　**三重支店**　電話　津 (26) 2949

望月建設株式会社

取締役社長　望　月　小　太　郎

本　　社　大阪市北区曽根崎新地１丁目１番23号　電話 大阪 (344) 8651(代表)

株式会社 森　組

取締役社長　森　幸　彦

本　　社　大阪市東区横堀２丁目１４番地　電話　201－2761(代)
支　　店　東京・名古屋・九州・札幌・奈良
営業所　仙台・新潟・横浜・滋賀・京都・神戸・広島・熊本・高松

株式会社 盛工務店

代表取締役社長　盛　道　雄

本　　社　大阪市北区南森町1丁目1番26号(成興ビル)　電話(364) 1581(代表)
支　　店　豊　中
営業所　神　戸　・　西　宮　・　赤　川　・　宝　塚

株式會社 米田工務店

取締役会長　米田治郎兵衛
代表取締役　米　田　良　男

本　社　〒543 大阪市天王寺区逢阪上ノ町７　ＴＥＬ 大阪(06)771-7771代表

賀　正

1980

建材・設備工事・報道印刷業者有志

クリーンエアのコンサルタント

アイエム換気工業株式会社

代表取締役　松岡晃一郎

本　　社　大阪市浪速区芦原町1183　TEL (06)561—3901代
東京営業所　東京都荒川区西日暮里6-42-8飯田ビル1F　TEL (03)894—8831

青盛建材株式会社

取締役会長　青盛繁男
取締役社長　青盛巖

広島市舟入幸町19番10号　電話 0822—92—3200
福岡・岡山・松江・下関・徳山・鹿児島

株式会社　梅彦

取締役社長　松永嘉一郎

本　　社　大阪市北区中崎西3丁目1番2号　電話 06 (371) 4036代
営 業 所　大阪市北区中崎西2丁目1番3号　電話 06 (312) 6171代
茨木工場　茨木市字清水246番地　電話0726 (43) 5185代

防煙・防火は KOMATA で…… OK!

小俣シャッター工業株式会社大阪支店

代表取締役社長　小俣茂
取締役大阪支店長　栗栖千宣

大阪支店　大阪市北区天神橋2—5—3(第5新興ビル)　電話大阪 (353) 7377代
本社工場　東京都北区東田端1－4－1　電話東京 (893) 5211代

大阪装飾株式会社

取締役社長　蜷川智造

本　社　大阪市西区京町堀1丁目13番24号　電話 06(444)1410(代)
営業所　東京都港区西新橋2－26－1　電話 03(437)2577(代)
神戸市生田区下山手通2－15(聯合ビル)　電話078(321)2009(代)

須賀工業株式会社

取締役社長　須賀　孝

本店 大阪市西区土佐堀1丁目2番30号 電話(06) 441−5171
支店 東京・大阪・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡・札幌・千葉・静岡・金沢・高松・仙台

よりよき環境へ技術で挑む

株式会社 精研

取締役会長　木内清三
取締役社長　和田正八郎

本　社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地(オートセンタービル) 電話768-5031(代)
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号(九段ビル) 電話262-3241(代)

東西アスファルト事業協同組合
西日本床工事事業協同組合

株式会社 タテバヤシ商店

代表取締役　舘林彦四郎

〒601 京都市南区西九条大国町37 電話 (075) 681−7221(代)

東亜印ルーフィング

東亜工業株式会社

本　社　〒581 大阪府八尾市南太子堂6丁目4番27号 電話0729−94−5682
営業所　東京・名古屋
工　場　大阪・東京・和歌山

東亜アス防水工事スーパーシート工法
合繊不織布・TNコート使用のメンブレン防水

建設省計振発 第55号認可

東亜アスファルト防水事業協同組合

〒581 大阪府八尾市南太子堂6丁目4番27号 電話 0729−94−5682

TOTO特約店

株式会社 ナニワ

代表取締役　吉田廣助

本　社　〒543 大阪市天王寺区烏ケ辻町61 電話771−9123(代)
営業所　〒544 大阪市生野区巽西2丁目7番24号 電話758−7280(代)
柏原配送センター　〒582 柏原市円明町217番66 電話(0729)77-7280(代)

株式会社 西原衛生工業所大阪店

代表取締役社長　伴　一　郎

大阪市大淀区中津6丁目8番4号　電話 大阪（458）3531番(代)

大阪で唯一の

株式会社 日刊建設新聞社

代表取締役　中山豊雄
代表取締役　中山敏夫

大阪本社　大阪市東区高麗橋1丁目3（東洋ビル）　電話 202−6861(代表)
役員室　大阪市東区高麗橋詰町26（ユニ高麗橋）　電話 941−6847(代表)

日刊建設産業新聞・日刊建産速報

株式会社 日刊建設産業新聞社

取締役社長 花村茂彦　専務取締役大阪支社長 山邊敏郎

大阪支社　大阪市東区淡路町1丁目14(八千代ビル)　電話06(231)8171(代)
神戸支局　神戸市葺合区八幡通4丁目2−25　電話078(291)0541〜2
京都支局　京都市上京区河原町丸太町東入俵屋町460　電話075(211)1911
本　社　東京都板橋区板橋町1丁目48−8　電話03(961)1691(代)

株式会社 日刊建設通信新社関西支社

大阪市西区京町堀1−6−23　エハラビル　電話（444）4451代表
本　社・東京都港区西新橋2−11−4　電話（502）8581代表

マルエス印▲ルーフィング▲シングル▲ビニエスタイルSP

日新工業株式会社 大阪支店

大阪支店長代理　中田勝

本社営業所　東京都足立区千住東2−23−4　☎東京(882) 2424(代)
大阪支店　大阪市東淀川区瑞光通り4−30−2　☎大阪(329) 7737〜40
出張所　名古屋・広島・福岡・札幌・山形・工場／東京・埼玉・山形

日本アスファルト防水工業 協同組合 関西支部

大阪市東淀川区瑞光通り4−30−2　日新工業株式会社大阪支店内
電話（329）7737〜40

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本　　社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町７－５－30　電話06(606)1111代
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町４－７　三宝ビル　電話0992 (26) 4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町８番５号模範店会館　電話08682(４)1771
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城　沖縄印刷団地　電話0988 (55) 6100

阪急電気工事株式会社

取締役社長　杉村正三郎

本　社　大阪市淀川区新北野1丁目4番21号　電話　代表 06 (302)0231

ビニロイド　防水　責任施工
アコシート　防水　責任施工
ACコロア35　責任施工
防熱工事設計施工
プラスオール・コーキング　製造販売

三星産業株式会社

〒550 大阪市西区京町堀１－10－17(大栄ビル)　Tel.〈443〉9721(代)
〒101 東京都千代田区神田小川町3-28(三東ビル)　Tel.〈292〉1961(代)
出張所：札幌　〈721〉6031・6307　仙台〈21〉5366(代)
名古屋〈931〉4574・3393　福岡〈78〉3361(代)

三協アルミニウム工業株式会社代理店
日立化成工業株式會社代理店
新明和工業株式會社代理店

ムツミ産業

ムツミ産業株式会社

代表取締役　傳馬正明

〒550 大阪市西区靭本町１丁目17番15号　電話 (06) 大代表 441－０３７８番
出張所：東京・広島　工場：大津・竹原

M.Y

営業品目　建築金物、装飾金物、金具金物、
其他諸金物別注設計製作、オリジナル金属製家具

株式会社 山本金属製作所

〒542 本社・本社工場　大阪市南区西賑町２５　TEL(761)０１２７代
〒570 守口工場　守口市浜町２－１　TEL(993)７１９２

四ツ橋

装美建材
金属建材

株式会社 山建建材

No.1販売部・No.2施工部

本　　社　大阪市西区四ツ橋筋四ツ橋角　電話 541－1861～8
東　　店　東大阪市金物町３番１号　電話 723－2277～8
山建ソービ　大阪市西区南堀江１(立花通)　電話 541－2152～3

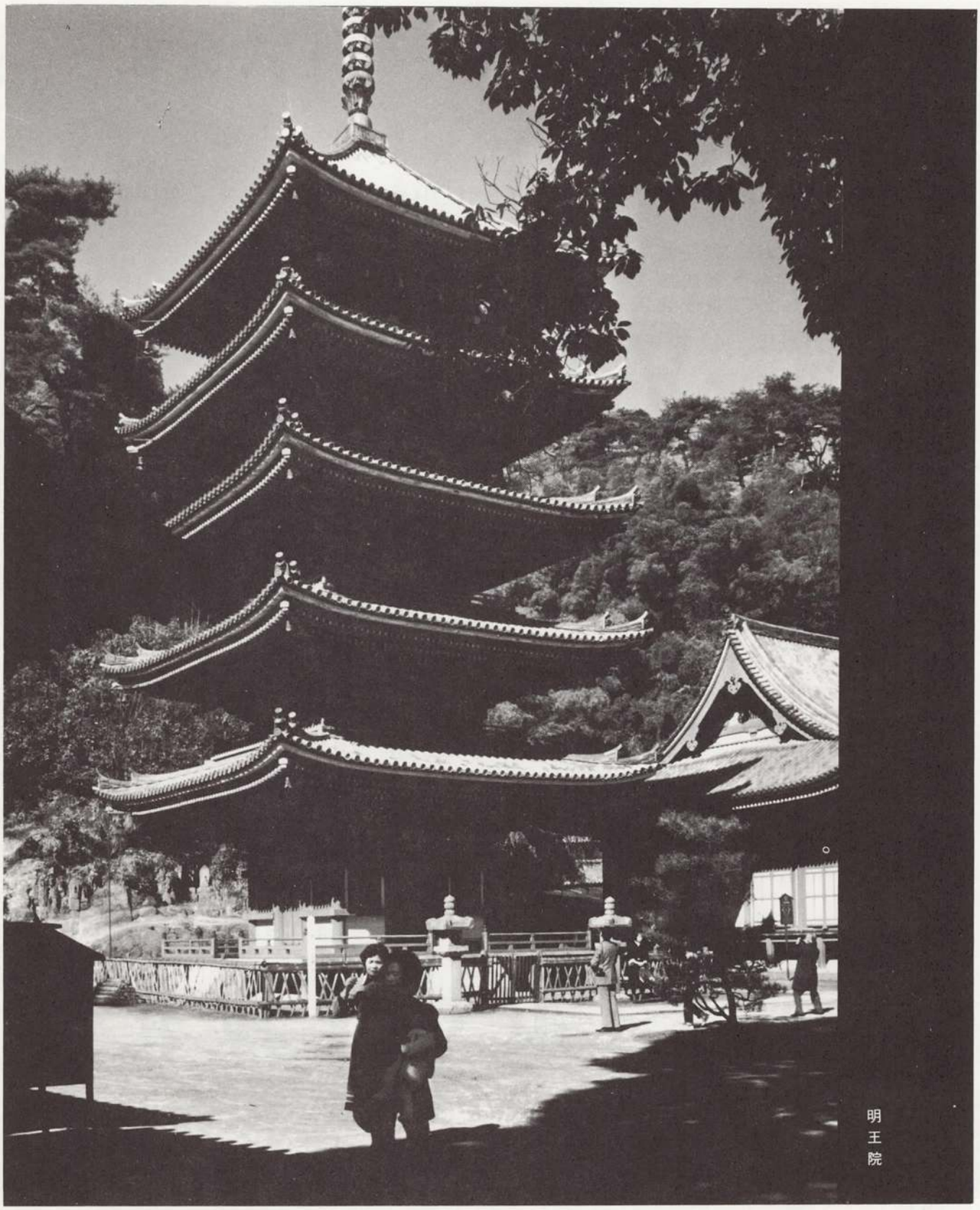
デザインされた環境づくり

UNION

株式会社ユニオン

取締役社長　立　野　一　郎

本　　社　大阪市西区南堀江2-13-22　〒550　電話　06(532)3731(代)
東京営業所　東京都墨田区石原4-3-1　〒130　電話　03(625)8131(代)
名古屋営業所　名古屋市東区車道町3-1　〒461　電話052(935)6021(代)
虎ノ門ショールーム(17森ビル1F)東京都港区虎ノ門1-26-5　〒105　電話　03(508)2558(代)



明王院

地震考

総合天井システム〈Jライン工法〉〈ALTS工法〉

耐震・耐火そして軽量化を誇る総合天井システム〝Jライン工法〟〝ALTS工法〟は当社独自の照明灯ユニットおよびアルミ製Tバーを建物のモジュールに配列し、天井仕上げ材と一体化したシステム天井です。空調、照明、防災機器、スピーカーなどの設備ゾーンとの組み合せ、さらに間仕切、ブラインドBOXなどの取り付けも可能にした多機能を誇っております。（PAT. 6件）

奥村重兵衛株式会社

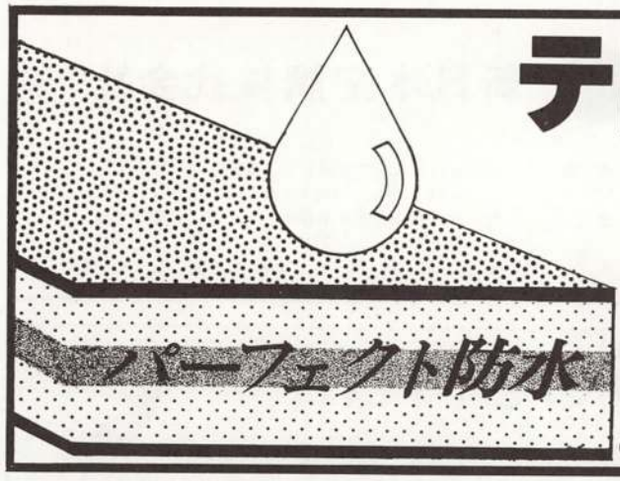
本　社　大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530 電話(06) 312－4131㈹
東　京　東京都港区新橋4丁目2番第29森ビル　〒105 電話(03) 437－3361㈹
福　岡　福岡市博多区住吉2丁目16番27号　〒812 電話(092)291－0459㈹
名古屋　名古屋市西区倹町2丁目1番6号　〒451 電話(052)522－5436㈹
仙　台　仙台市本町2丁目1番8号第1広瀬ビル　〒980 電話(0222)65－6568㈹
沖　縄　沖縄県那覇市壺川119番地　〒900 電話(0988)53－6850㈹

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市生田区北長狭通4－1　（英和ビル）
電話　神戸(331) 0881～3
支店　大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル5階)
電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市葺合区八幡通1－5（電話221 2923）



テトカッパー防水層

防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は（一層防水）施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーパータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本　社　東京都中央区銀座8－4－9　電話03 (571) 2703
大阪事務所　大阪市淀川区東三国6－1－41　電話06 (391) 1081－2
埼玉営業所　埼玉県桶川市東1－6－10　電話0487(74)2845－6
厚木出張所　神奈川県厚木市金田字宮畑259　電話0462 (21) 6092
名古屋出張所　名古屋市南区若草町33　電話052 (811) 3660
九州出張所　佐賀県諸富町　電話0952 (47) 2945

腐らない・燃えない・軽い

ケミカラーオーシマメタル

屋根材・壁　材・谷樋棟包水切りに
スタンダードメタルの　大島応用化学　東大阪市新庄（745)5121～5

空気調和・冷暖房設備
給排水・衛生設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話 (434)6171(大代)
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話 (302)2271(代)
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話 (352) 1131 (代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町1-35-8　電話 (667)3431 (大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

空調・衛生
防災・汚水処理　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区角田町2番15号 電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4944(代)
神戸市生田区下山手通六ノ一 電話 神戸341局5892

空気調和・衛生設備 設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06−363−1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03−344−1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06−363−1371
支　店　名古屋市中村区下笹島町11−2　電話052−581−8571
広島市紙屋町1丁目2番22号　電話0822−47−4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092−761−3795
出張所　仙台・横浜・福井・京都・神戸・松江・高松・沖縄

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計施工

大阪電気暖房株式会社

本　店　大阪市西区江戸堀1丁目10番17号 〒550 電話(441)8231
本　社　東京都中央区銀座2丁目2番17号 〒104 電話(535)5251
支　社　大阪・東京・名古屋
支　店　札幌・仙台・金沢・広島・福岡
営業所　新潟・天理・岡山・高松・熊本
出張所　帯広・青森・秋田・盛岡・前橋・千葉・横浜・静岡
富山・福井・豊田・京都・神戸・徳山・鹿児島・那覇
海外支店　シンガポール

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地(オートセンタービル2階)
郵便番号542　電話 大阪(06) 768−5031番
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号(九段ビル8階)
郵便番号102　電話 東京(03) 262−3241〜4番

空気調和設備
給排水・衛生水道
電気設備
厨房
環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

三機工業 株式会社大阪支店

取締役社長　各務節
大阪支店長　稲畠和治

大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪(202) 代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、北陸
出張所　横浜、高松、静岡、豊田、岡山、金沢

新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜1丁目2番6号（新大ビル）
電話 (06) 344−6031 (代)
本　社　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第二別館)
電話 (03) 279−5671 (大代)
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備　■その他管工事一切の設計・施工

斎久工業株式会社

本　社　東京都千代田区大手町2-6-2（日本ビル）
電話 03-(270)-7411(代)
大阪支社　大阪市北区中之島4-2-38　電話 06-(443)5041(代)
支　店　札幌・岡山
営業所　仙台・千葉・名古屋・金沢・高松・広島・福岡
出張所　福井・倉敷・苫小牧

cleanair
一年中 秋のすがすがしさ!

創業1901
須賀工業株式会社
大阪市西区土佐堀1丁目2番30号 TEL.06−441−5171(大代表) 〒550





商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京支店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－344－1851(大代)　大阪支店☎06－488－5851(代)
名古屋支店☎052－211－1535(代)　九州支店☎092－431－2147　営業所：札幌・仙台・横浜・京都
神戸・広島　出張所：新潟・金沢・大宮・静岡・豊田・岡山・松山・熊本・鹿児島・沖縄・バンコク

空調・衛生・防災設備　設計並施工
日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1　電話(681) 5101－5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352－3501㈹
四日市支店　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431㈹
津営業所　津市栄町2－111　電話(0592)26－3610㈹
滋賀営業所　大津市打出浜13－15　電話(0775)22－9738㈹
名古屋営業所　名古屋市中川区百船町　電話(052)363－0681㈹

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工
第一工業株式会社
大阪支店
大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号　電話　06－364－6661(代表)
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号　電話　03－211－8511(代表)

Carrier
冷暖房はCARRIERキャリア
東洋キャリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号　電話大阪 (384)1201～7

MODAIR
空気調和設備　設計施工
換気・除塵設備
東洋熱工業株式会社大阪支店
大阪市西区靭本町3－1－27　TEL(443) 8071
本　社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562) 1351
支　店　名古屋・福岡

平山工業株式会社
衛生・空気調和設備・設計・施工
大阪市西区江戸堀1-22-7　TEL(441)㈹1994・(443)㈹0331

空気調和・衛生設備　設計・施工　大阪ガス指定工事会社
ガス設備・ガス住宅設備　大阪ガス設備機器特約店
大晃設備株式会社
本　社　大阪市北区西天満5-11-12　電話 06－313－1846
ガス工事営業部　大阪市北区西天満5-11-12　電話 06－313－1846
大阪ガス工事営業所　枚方市甲斐田東町9番3号　電話0720－49－2128
設備部　大阪市北区西天満5-11-12　電話 06－313－1846
設備営業所　枚方市甲斐田東町9番3号　電話0720－49－2128

空気調和設備・給排水衛生設備・上下水道施設
環境衛生施設・公害防止施設／設計・施工
山田工業株式会社
本社及管工事事業部　大阪市西区京町堀1－6－8　電話06(443)8161(大代表)
環境装置事業部　大阪市淀川区三津屋南1－1－35　電話 06(308)1491(代表)
東京支店　東京都江東区亀戸1-8-4(由田ビル)　電話 03(683)8421(代表)
名古屋支店　名古屋市中区栄2－16－13(京極ビル)　電話052(202)0077(代表)
福岡支店　福岡市博多区博多駅東2-4-30(いわきビル)　電話092(451)3456
営業所　京都・神戸・姫路・広島・高松・松山

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備
株式会社西原衛生工業所大阪店
大阪市大淀区中津6丁目8番4号　**電話大阪(458)3531番**
支店・営業所　福岡・京都・広島・天理・川西

活字のない印刷
日本写植印刷株式会社
代表取締役　神田都義
本　社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06(606)1111代
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル　☎0992 (26) 4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町8番5号 模範店会館　☎08682 (4) 1771
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城　沖縄印刷団地　☎0988 (55) 6100

FUTABAYA DECORATORS,LTD



建築物船舶等造作工事、家具建具・室内装備工事
内外装飾織物・窓掛敷物壁紙類一式／**設計施工**
(創業大正7年)
二葉屋装備工業株式会社
取締役会長　若林繁吉
大阪府摂津市東別府3丁目7番8号
電話　大阪 (06)349－9193代表
大阪府知事建築業者許可(般－48)第12064号

電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東京・名古屋・舞鶴・京都・天理
大阪南・神戸・広島・四国・九州

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 博 三

本 社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル
TEL 大阪06（385）1361(代)
本社営業所 吹田市垂水町3－34－6
TEL 大阪06（385）1361(代)
京都営業所 京都市右京区西京極葛野町21
TEL 京都075（311）1185（代）
福岡出張所 福岡市中央区薬院1－14－8
TEL 福岡092（771）6168

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 坪 井 大

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電 話 (361) 3671 (代)
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電 話 (671) 1478 (代)
出張所 川崎・相模原・堺・福山

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

大 阪 支 社

常務取締役支社長 姉 川 正 男

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪 (202)0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
営業所・出張所 全国主要都市20ヶ所

電気・暖冷房・空調工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8（堂ビル3階）
電 話 (364) 1471 (代)
支 店 東京都港区新橋2－16（ニュー新橋ビル7階）
電 話 (504) 0231
支 店 名古屋市北区城見通2丁目20番地
電 話 (991) 5131 (代)
営業所 神戸・堺・千葉・宇都宮・熊本

電気工事設計施工

富士電業株式会社

取締役社長 田 中 実

本 社 大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話 大阪（538）1171代表
営業所 東京・名古屋・広島・福岡

総合設備工事〈設計・施行〉
電気・アンテナ・送電線・プラント・計装・空調・土木・建築

太陽工藤工事株式会社

取締役社長 小 林 四 郎

本 社 大阪市福島区福島7－22－8
TEL (06)452—1151(大代)
事業所 東京・名古屋・大阪・広島・福岡

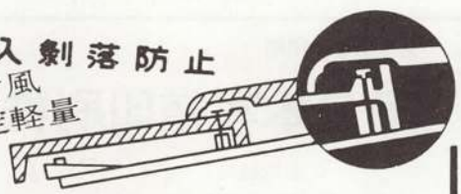
電気・計装・空調工事 設計施工

ヤマト電気エンジニアリング株式会社

取締役社長 山 本 永 造

本 社 大阪市北区西天満5丁目1番3号
TEL 06—364—3056 (代)
支 店 東京・神戸・広島・岡山
事業所 名古屋・岡山・札幌・苫小牧・浜松・滋賀
京都・高砂・三原・徳山・松山・新居浜・福岡・沖縄

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量

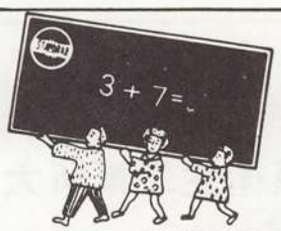


ナニワ緩勾配瓦

3寸緩勾最適軽量水止付(空葺)瓦

ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町一丁目七四二 電話641五〇六五

Standard



Board&Slate

フタバ黒板

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5 TEL 大阪06(792)5858(代)

耐酸ツボ各種
陶器、ガラス製品卸問屋
セトモノのデパート



源八橋セトモノ百貨店をご利用下さい。

株式会社 **吉田芳雄商店**

本 店 大阪市北区南森町2-1-6 電話(361)3450・(364)2345
源八橋店 大阪市北区同心2－1－31 電話(358)1790・1838

社寺数奇屋用瓦……**大仏瓦**
床・壁内外装用瓦……**大仏敷・貼瓦**
内外装用窯変美術タイル……**大仏タイル**
新発売…古代土器調高温〆タイル……**大仏古代タイル**

株式会社 **大仏**

本 社 京都市東山区今熊野大仏池田町9の9 075(541)3344(代)
東京営業所 東京都新宿区西早稲田3丁目23番8号 03（202)7801(代)
早稲田セントラルビル1F
工 場 京都清水・山城・瀬戸

奉仕感謝の店

タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

本　社　大阪市西区西本町１－13－33（靱本町バス停前）
電話　大阪 06(532)代0461　㊡ 550

SSS　石膏プラスター　（壁用・床用）
SSS　ボ　ン　ド　（ボード類直貼り接着材）
SSS　ギプセット　（土質安定用石膏）

サンエス石膏株式会社

大阪本社　〒530 大阪市北区堂島２丁目４－17
関西営業所　TEL　06（344）6526

営業品目

建設省認定の防火材料

セメント系吹付材	ソリジットスタイン	基材同等	0003号
特殊リシン吹付材	エバウォール	基材同等	0003号
アクリル系吹付材	エバーサンド	基材同等	0004号
ヒル石吹付材	エバテックス	基材同等	0004号

合同特許建材工業株式会社

本　社　大阪市東住吉区駒川町３－54　電話（06)702－7814～７
東京事業所・名古屋出張所・高松出張所・福岡出張所

株式会社 矢橋大理石商店 大阪支店

大阪市東区高麗橋２丁目９　野村ビル5階　電話 大阪(202)4905

リバコ

壁装
カーテン
カーペット

株式会社 川川商店

大阪営業所　〒531　大阪市大淀区大淀南１－１－16
TEL　06－458－1872～6
本　社　〒105　東京都港区西新橋２－６－１
TEL　03－503－5301代
東京営業所　〒150　東京都渋谷区松濤２－18－２
TEL　03－465－8611代
札幌出張所　〒064　札幌市中央区南十四条西6 行啓グランドハイツ905号
TEL　011－512－7689

華美をきらった（誕生）アダルト感覚

アースウェイブカーテン
ラグジュアリーカーペット

日本フェアトーン株式会社
〒540●大阪市東区鎗屋町1丁目34番地●ヤリヤマチビル
TEL 06(943)6481(代)

3K サンケークロス

川島株式會社

本　社　東京都中央区日本橋小伝馬町1-40 TEL(03)663-3371
大阪支店　大阪市平野区背戸口２－14－14 TEL(06)702-8102
支　店　名古屋(052)932-1381　札幌(011)741-3721
広　島(0822)93-4676

更に充実の

キボークロス15集 新発売!!

見本帳御入用の節は御一報下さい

キボークロス総発売元
株式会社 原田喜佐 大阪支店

〒564 吹田市広芝町13－31
TEL 06(386)6511(代)
本社・壁装館　〒160 東京都新宿区新宿２－８－１
TEL03(354)2641(代)

ルノン 壁装材

光建産業株式会社

本　社　〒141 東京都品川区西五反田2－34－4　TEL 03－492－7341
東京支店　〒143 東京都大田区平和島６－１－１　TEL 03－767－3411
物流ビルA棟AE5－1
大阪支店　〒538 大阪市鶴見区茨田大宮町301－1　TEL 06－913－1031

カーテン・壁装材

新たにショールームが完成！
皆さまのお越しを お待ちいたしております。

株式会社 フジエテキスタイル 大阪支店

〒541　大阪市東区平野町３－６－１
平野町センチュリービル１F
TEL　06－227－0291

別注壁紙（クロス）御相談は
シマクロスで

シマクロス株式会社

〒550 大阪市西区本田３丁目２－18
TEL.(06)581－7461～5

特殊壁装材製造販売　和室に最適

●聚楽壁紙●ホクシノン（無機質壁紙）

(株)ホクシンクロス

〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅町1222番地
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子501

発明賞に輝く各種特許235件所有

特許 鈴木シャッター

65年の歴史最高の技術最大の生産

防煙火・防災・防盗

鈴木式防煙火シャッター・リンググリル®シャッター・
ステンレスシャッター・アルミニュームシャッター・
40・ピーアップ®シャッター・汎用シャッター
その他特殊シャッターの製造
アフターサービスの完璧

鈴木シャッター販売株式会社

大阪市北区茶屋町5番2号 電話大阪(06市外局番)371代表4151～6
北陸営業所 金沢市長田町119番地 電話金沢(0762市外局番)65－5135～6
神戸営業所 神戸市長田区大橋8-4-7 電話神戸(078市外局番)611－7971
631－2021

防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

東洋シャッター

東洋シャッター株式会社

本社：大阪市東区両替町1－12 日生ビル ☎(943)6571代表

東京・横浜・盛岡・郡山・水戸・浜松・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・堺・神戸・広島・福岡他全国主要都市

月刊 建築技術

建設省建築研究所 監修

昭和55年 NO.342 2月号の内容 特価 ¥1,000

〔特集／内外装の損傷と補修 I〕

●よごれ・変色
壁や床の仕上げに生じたさまざまなよごれやしみ、カビ、変色などの除去方法、防止対策などを事例によって紹介する。

●割れ・欠け・そり・たわみ
窓ガラスやガラスブロックの割れ、張石やコンクリート、ALCなどのひび割れ・欠け・床材のそり、ドアわくのはらみその他の補修事例を紹介する。

●タイルのひび割れ・浮き・はがれ
いろいろな原因によるタイルの損傷とその補修の事例をあつめて紹介する。

●外壁からの漏水・結露
鉄筋コンクリートやALC外壁からの漏水・カーテンウオール接合部シーリング材の破断その他による漏水の補修事例、結露の事例などを紹介する。

企画・執筆者は37名。

建築経済統計図表●フォトニュース●トピックス●建築家の良識●読者コーナー●海外の話題●建材の動向 その他

直接購読ご希望の場合年間予約金 ¥9,360（送料共）

全国書店18日一斉発売！ 最寄りの書店にご注文下さい

〔特集号案内〕
●躯体生産技術の向上をめざして(No.296)…特価¥780
●建築と接合(No.299)……特価¥1,300
●住宅部品システムの普及(No.303)……特価¥1,400
●工事環境と技術対策(No.324)……特価¥1,000
●住宅の遮音(No.328)……特価¥1,000

建築技術の出版案内

同じ失敗を繰り返さないために
建築工事 失敗の実例にまなぶ 同編集部編
B5判・279頁・¥3,600(送料¥250)

現場に即した検査方法初の指導書
建築工事検査の実際 亀田泰弘監修
■上巻 B5判・453頁・¥6,000(送料¥250)
■下巻 B5判・534頁・¥7,000(送料¥250)

コンクリート技術に関する好適の実務書
実用コンクリート技術 森 茂二郎編
■上巻 B5判・360頁・¥3,200(送料¥250)
■下巻 B5判・414頁・¥3,600(送料¥250)

設計・施工に必要な接着工法の決定版
建築の接着工法 西 忠雄監修
B5判・430頁・¥3,000(送料¥280)

各種建築構造の計画・設計に役立つ
建築構造計算資料集 全8巻 中川 淳編著
1鉄筋コンクリート構造編① B5判・237頁・¥3,800(送料¥200)
2鉄筋コンクリート構造編② B5判・212頁・¥3,000(送料¥250)
3鋼構造編① B5判・225頁・¥3,200(送料¥250)
4鋼構造編② B5判・256頁・¥3,500(送料¥250)
5鉄骨鉄筋コンクリート構造編 B5判・208頁・¥3,200(送料¥200)

〒160 東京都新宿区北新宿1-8-1 中島ビル8F
有限会社 建築技術
振替口座 東京0-72417番 ☎東京(363)4211(代)

設備合理化に貢献する

SK式グリーストラップ

（ステンレス製）

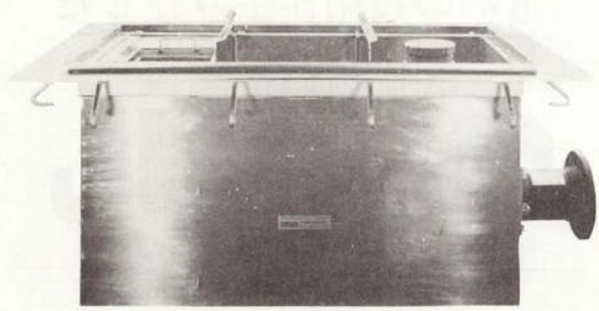


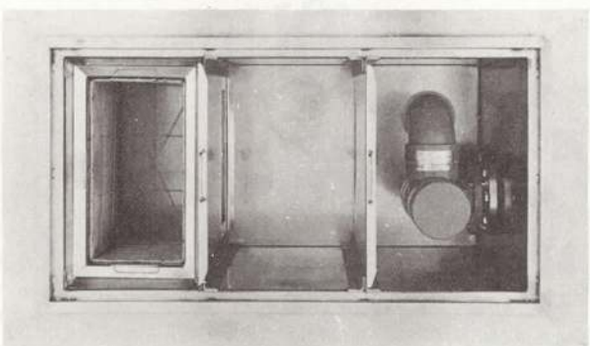
厨房の汚水に含まれているグリース分は配管設備を著しく損傷します。したがって損傷を防ぐには配管設備の手前において阻集するのが配管設備を長く使用するコツです。SK式グリーストラップはこのグリースを阻集するばかりでなくトラップ・マンホール・受カゴ・スライド板・排水管（フレキシブルジョイント）に至るまでセットになっていますので突貫工事にも充分間に合います。又、従来の鋳鉄製・鉄筋防水モルタル製のものは重量的にみても取付日数がかかり大幅な人件費が必要ですが、SK式グリーストラップは軽量で簡単に取り付けができ、据付費が大幅に低減されます。又、残渣は受カゴで取り除き、トラップ本体はスライド板により仕切ってあります。これを取り外す事により清掃が簡単にできます。特に各部品が腐食しないので大変衛生的です。又、サイズが豊富にありますからお店の大きさ、種類に合わせて無駄なく選定でき大変経済的です。

弊社は日本で初めてグリーストラップの規格化を図り既に全国的に発売致しております。

これらの製品は設計事務所・建設業社・設備業社を始め各方面から多くの引合を頂き、弊社もたゆまぬ研究を続けております。又、規格品の在庫も多く持ち皆様の需要にお答えしております。尚、規格外の製作も致しております。

SK-100S標準型





SK型：1層式(桝)／2層式／3層式／床置式／土間用

●実用新案特許　第1196331号

《おもな納入実績》

札幌全日空ホテル／札幌グランドホテル／厚別副都心商業センター／青森グランドホテル／仙台ターミナルビル／新潟新堀地下街／新東京国際空港／筑波学園都市／津田沼北口再開発／東武デパート／迎賓館／第一ホテル／三井物産大手町ビル／安田火災海上新本社ビル／野村不動産新宿ビル／新宿センタービル／池袋サンシャインシティ／西武デパート浜松／豊橋ファミリープラザ／名古屋ターミナルビル／千里レジャーセンター／吉本ダイヤビル／阪急グランドビル／大阪駅前市街地改造ビル／国鉄吹田駅前市街市再開発ビル／三宮市街地再開発ビルA棟／広島ステーションビル／鳥取一番館／高松ワシントンホテル／徳島大学／平和会館新博都ビル／西日本新聞渡辺ビル／福岡天神地下街／沖縄西武オリオンホテル／他

《営業品目》

SK式グリーストラップ／SK式ガソリントラップ／雨排水トラップ／散水栓ボックス／バルブボックス／他ステンレス製品加工全般

設　計・製　作・販　売

※カタログ・資料ご希望の方は大阪営業所へご一報下さい。

SHIMODA

製造発売元

下田機工株式会社

大阪営業所／〒532 大阪市淀川区西中島4－5－9(浅井ビル)　☎ 06 (304) 5481㈹

本　　社／〒130 東京都墨田区東駒形4－6－9(和幸ビル)

特許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

錆びない！ われない！ 燃えない！

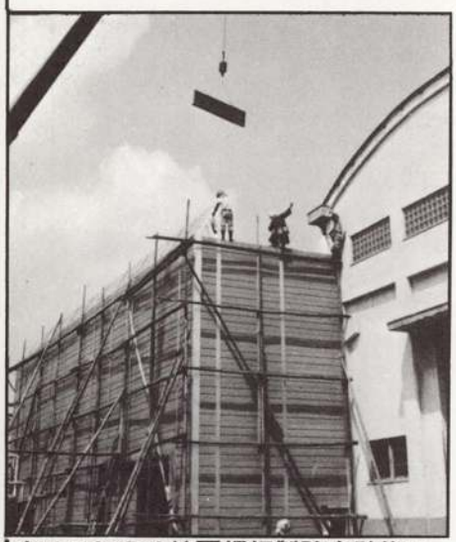
長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種
- オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
- オリエンタルスーパーメタル(SPM)
- オリエンタルメタル(OPM)
- オリエンタルスチールライト(STL)
- オリエンタルサンセラム(SS)

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ホーンタイト(防音壁)・スチールシングル・其の他

※ カタログを御請求下さい


オリエンタル被覆鋼板製防音壁施工

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り3—26　松本ビル　電話大阪(06)412—5131(代)
営業本部　〒660　尼崎市長洲稲川新田44　電話大阪(06)488—1081(代)
支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷
姫路(東洋建材工業．株)
東京本社及工場　〒335　蕨市塚越5丁目6番32号　電話 蕨(0484)42—3115(代)
支店及工場　東北

建築に新しい時代を拓く内・外壁材！

旭化成建材 ヘーベルライト®

- 年中快適
- クラックが入らない
- 耐火パネル
- 工期の短縮化


◀ヘーベルライト使用木造住宅
（大阪府高石市・G邸）

最高の技術が生みだした
新しい素材

ヘーベル

ZONOLITE

■吸音吹付化粧材
耐火・防火・断熱・結露防止

ゾノライト

プラスター(PA)
モルタル(MA)
コンクリート(EA)
モノコート(MK)

（法定防火材・建設省認定・基材同等第0003号）

(株)新興建材工業所

〒550 大阪市西区南堀江通4—32—11　☎(06)538—2951(代)
責任施工　工事部　直通☎(06)541—5755
（建設業　大阪府知事許可《般—52》第20210号）

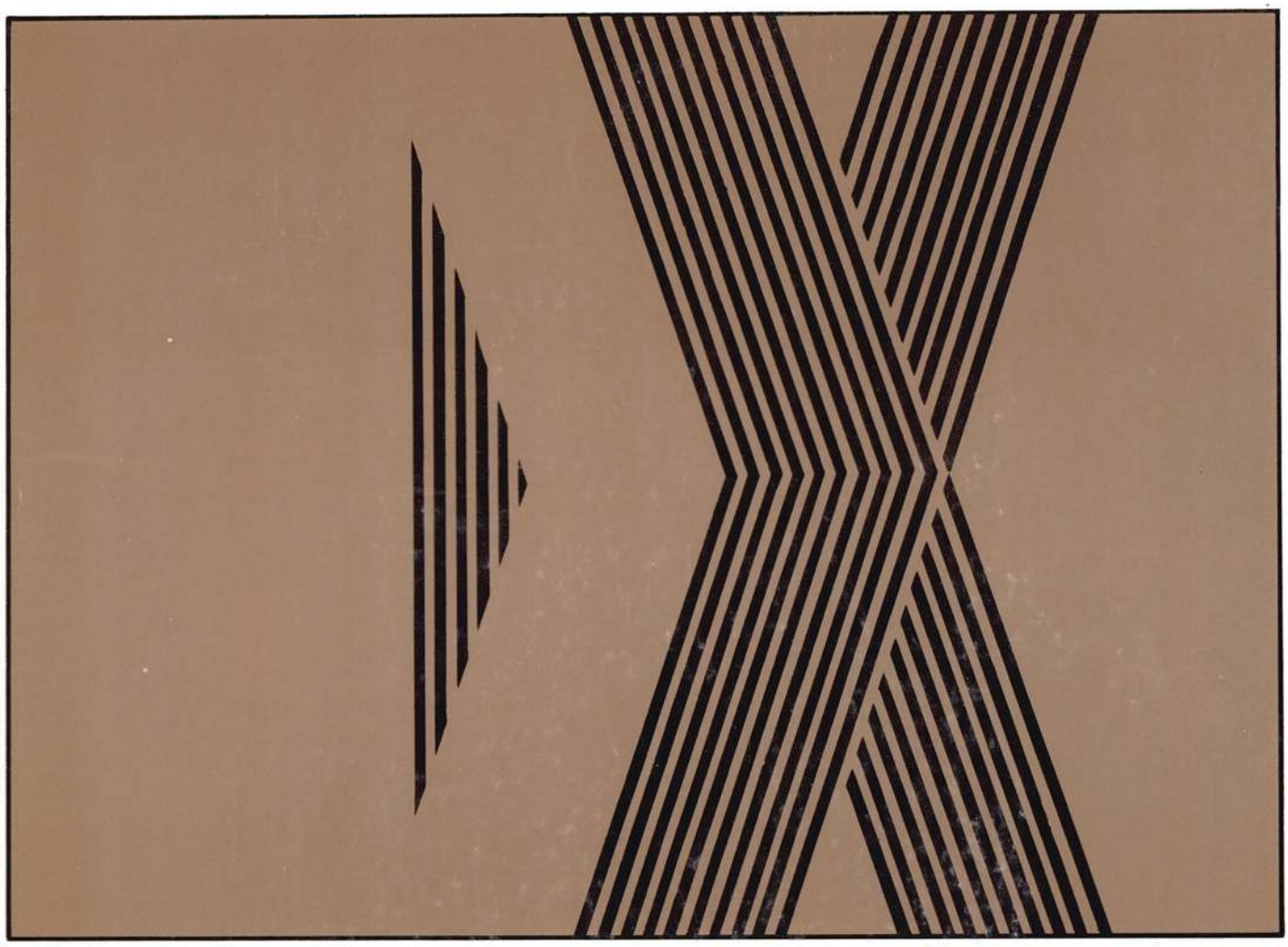
明石支店 〒673　明石市西新町2-12-14　☎078(922)0007(代)
高槻営業所 〒569　高槻市宮田町2-1-29　☎0726(96)2889
中国営業所 〒742　柳井市宮本浜(柳井総合卸センター内)
☎08202(2)5211



文化と電気を守って明日へ

関西電力

建築と社会　第61輯第1号
昭和55年1月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可



既設防水層の改修に最適!!

プレノコートDX防水工法

常温ゴムアスファルト塗膜防水

プレノコートDX防水工法とは……

- ●安全・無公害の常温工法です。
- ●合成繊維を基材とした分厚い本格的なゴムアスファルト塗膜防水工法です。
- ●硬化剤の使用により、強制造膜ができます。
- ●既設防水層の補修用に適しています。
- ●通常使用範囲内での低温脆化、高温流動がありません。

日新工業
日新工業株式会社
本社・東京営業所 ■ 東京都足立区千住東2-23-4 ☎ (882)2424(代表)
大阪支店 ■ 大阪市東淀川区瑞光通り4-30-2 ☎ 06(329)7737(代表)
営業所 ■ 九州 ☎ 092(451)1095 ■ 名古屋 ☎ 052(741)6257
■ 札幌 ☎ 011(281)6328
出張所 ■ 広島 ☎ 0822(21)1019 ■ 仙台 ☎ 0222(63)0315
工場 ■ 埼玉 ■ 山形 ■ 北海道

（表紙デザイン・楠田一夫）
定価六五〇円

雑誌　03379－1